Cisco TelePresence Management Suite

アドミニストレータ ガイド

最終更新日:2016 年 12 月

ソフトウェア バージョン 15.4

目次

はじめに 13
関連資料 13
Cisco TMS の概要 15
Web ページの機能とレイアウト 15
ポータル 18
サイトマップ 18
Cisco TMS のコンポーネント 18
インターネット インフォメーション サービス Web サーバとアプリケーション 19
tmsng SQL データベース 19
Windows サービス 20
Cisco TMS ツール アプリケーション 21
Cisco TMS の設定 22
リリース キーとオプション キーの追加 22
Cisco TMS リリース キーの取得 22
Cisco TMS アップグレード中のキーの入力 22
インストール後のリリース キーの入力 23
インストール後のオプション キーの入力 23
グループおよび権限の動作 23
グループ メンバーシップ 23
システム権限 23
最初のグループ権限の設定 24
Active Directory ルックアップの有効化 24
ユーザ アカウントとプロファイルの追加 25
言語設定 25
Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid 25
WebEx サイトとユーザ クレデンシャル 26
デフォルトの確認および設定 26
全般設定 26
ネットワーク設定 26
メール設定 28
会議設定 28
構成テンプレートの使用 28
構成テンプレートの新規作成 29
構成テンプレートの表示 29
テンプレートの編集 29
システムへのテンプレートの適用 30

既存のテンプレートからの新しい構成テンプレートの作成 30
カスタム設定とコマンド 30
ルーティング 31
ルーティングの概要 31
主要参加者 32
割り当て 33
プロトコルおよびコール制御 33
IP 34
ISDN 34
コール プロトコルの優先順位付け方法 34
Cisco TMS がルーティングに使用するインフラストラクチャとは 34
MCU 34
ゲートキーパー 37
ISDN ゲートウェイ 37
Cisco Unified Communications Manager 37
ゾーンのしくみ 38
IP ゾーンの設定 39
1 つ以上のシステムでのゾーンの設定 40
ISDN ゾーンの設定 40
例 41
市外局番のルールの作成 42
1 つ以上のシステムでのゾーンの設定 42
システム管理の概要 43
サポートされるシステム 43
Cisco TMS によってサポートされるシステムの種類 43
システム ロケーション 43
Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法 44
Cisco TMS による制御 44
Cisco TMSPE によるプロビジョニング 44
Unified CM 登録 44
管理対象外エンドポイント 45
管理モードの変更 45
インフラストラクチャ システム 45
予約 45
モニタリング 45
ソフトウェア バージョン 45
ファイアウォール/NAT の背後にあるシステム 46
予約 46
統計情報およびモニタリング 46
ソフトウェア アップグレード 46
電話帳 46
構成テンプレート 47

設定のバックアップと復元 47
システムの交換 47
Cisco TMS へのシステムの追加方法 47
自動検出 47
手動による追加 48
Unified CM 経由 48
プロビジョニング 48
事前登録 48
Cisco TMS が管理対象システムと通信する方法 48
Cisco TMS にアクセスするためにシステムが使用するアドレス 48
システムの接続性ステータス 49
カレンダー プッシュの動作 50
永続設定のしくみ 51
システムの追加と管理 52
デフォルト システム フォルダの設定 52
システムの追加 53
すべてのシステムの前提条件 53
自動検出の使用 54
IP アドレスまたは DNS 名による追加 54
プロトコルによるシステム検出の順序 55
エンドポイントの事前登録 55
ファイアウォール/NAT の背後でのエンドポイントの追加 56
Unified CM および登録されたエンドポイントの追加 57
管理対象外ブリッジの追加 59
管理対象外エンドポイントの追加 60
さまざまな通信方法でのエンドポイントのサポート 60
システムの管理 62
システムの表示および編集 62
システムの交換 63
Cisco TMS 管理対象エンドポイントのアップグレード 64
システムの消去 65
ナビゲータ 65
フォルダのアクション 66
フォルダ ツリーの移動 66
エンドポイント 67
Cisco VCS 73
Unified CM 80
Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050 83
TelePresence Conductor 87
Cisco Meeting Server（CMS） 96
MCU および TelePresence Server 103
ゲートウェイ 110

Content Server と Recording Server 113
管理対象外ブリッジ 119
管理対象外エンドポイント 123
システムの追加 125
フォルダおよびシステム権限 128
チケット サービス 129
チケットのステータス 130
ページ内システム管理 130
システムの概要 131
ダイヤル プランの管理 131
プロビジョニング 132
ユーザ 132
FindMe 139
デバイス 140
構成のバックアップ 141
バックアップの実行 141
復元の実行 141
バックアップ/復元の活動状況 142
構成テンプレート 142
構成テンプレートのメインページ 142
構成テンプレートの設定を選択 143
構成テンプレートの活動状況 145
システム アップグレード 146
Cisco TMS エンドポイント 146
プロビジョニング拡張機能で管理されるエンドポイント 146
アップグレード モード 146
アップグレードのボタン 146
ソフトウェアとリリース キーの選択 147
ソフトウェア マネージャ 148
システムのアップグレードの活動状況 148
システムの消去 149
イベント通知マネージャ 149
イベント タイプの選択 149
システム ステータスに関するレポート 150
予約 152
会議の基本 152
会議とは 152
参加者とは 152
ビデオ会議マスターとは何ですか。 152
ルーティングおよび MCU 153
MCU でのポートの使用法 153
会議レイアウト オプションの制御方法 153

外部でホストされた会議とは 153
電子メール通知 154
会議の予約 154
リモート システムでの会議の予約 156
既存の会議の表示および編集 157
会議の定例化 157
Cisco TelePresence Conductor による会議の予約および編集 158
新しい会議 159
基本設定 159
詳細設定 161
[参加者（Participants）] タブ 163
[WebEx の詳細（WebEx Details）] タブ 164
[接続設定（Connection Settings）] タブ 164
[MCU 設定（MCU Settings）] タブ 166
[TelePresence Conductor の設定（TelePresence Conductor Settings）] タブ 166
[会議情報（Conference Information）] タブ 166
[WebEx の詳細（WebEx Details）] タブ 166
[MCU 設定（MCU Settings）] 166
Cisco TelePresence Conductor の設定 174
会議の一覧 174
このページからの会議の編集 174
タイム ゾーンの表示 175
検索 175
詳細設定 175
検索結果 176
会議の表示 178
参照の一覧 178
会議と参照 178
参照の作成 179
参照の削除 179
参照のソート 179
参照の検索 179
アドホック予約 179
システムの表示 179
予約状況の確認とシステムの予約 179
他のユーザの代理で予約 180
課金コードの入力 180
参加者テンプレート 180
参加者テンプレートを使用する理由 180
参加者テンプレートの作成 181
予約への参加者テンプレートの追加 184
参加者テンプレートの設定サンプル 184
会議テンプレート 186

会議テンプレートの編集と使用 186
モニタリング 187
会議のモニタリングおよび管理 187
会議制御センター 187
グラフィカル モニタ 188
オペレータの会議 188
会議制御センター 189
アドホック会議のモニタリングの有効化 189
会議の検索および表示 189
会議のモニタリングおよび管理 190
会議イベントの表示 192
システム チケットの表示 193
サウンド アラートの制御 193
会議イベントのログ 193
グラフィカル モニタ 194
フォルダおよびシステムの表示 194
電話帳の作成と管理 196
電話帳の基本 196
電話帳ソースの役割 196
階層型の電話帳 196
デフォルトのソースおよび電話帳 196
電話帳のルーティング 196
電話帳の種類 197
社内ディレクトリ 197
グローバル ディレクトリ 197
ローカル ディレクトリ 197
すべてのシステムの電話帳の種類の設定 197
電話帳の作成 198
電話帳階層の作成 199
電話帳を生成する別の方法 199
電話帳へのアクセスの許可 199
Cisco TMS ユーザ 199
プロビジョニング ユーザ 199
システムでの電話帳の設定 200
複数のシステム上にある 1 つの電話帳 200
1 つのシステム上にある複数の電話帳 200
グローバル ディレクトリの更新頻度の設定 200
ファイルへの連絡先のエクスポート 200
電話帳の管理 201
ソース 201
アクセス制御 202
電話帳ソースの管理 202

ソース タイプおよび設定 202
Cisco Unified Communications Manager 209
連絡先の表示 210
電話帳とソースの活動状況 210
レポート 211
レポートの基本 211
データの種類 211
ログ消去設定がレポートに与える影響 211
レポートの作成 211
Excel シートへのデータのエクスポート 213
レポーティング テンプレートの使用 213
テンプレートの作成 213
テンプレート検索の表示および実行 213
テンプレートの編集と削除 214
ブリッジの使用状況 214
レポート メカニズムおよびログ 214
トラブルシューティング 215
コール詳細レコード 215
コール詳細レコードとは何か 215
エンドポイント 215
MCU 215
ゲートキーパーおよび VCS 215
ユーザ 216
TelePresence Content Server 216
ゲートウェイ 216
課金コードの統計 216
会議 216
会議統計 216
会議リソース 216
イベント 217
スケジューリング インターフェイス 217
ブリッジ メソッド 217
システム 218
チケット ログ 218
フィードバック ログ 218
接続エラー 218
システム接続 218
認証失敗 218
ブート 218
履歴 218
管理ツール 219
設定 219

全般設定 219
ネットワーク設定 222
電子メール設定 227
電子メール テンプレートの編集 228
会議設定 233
WebEx 設定 239
レポートの設定 241
プロビジョニング拡張機能の設定 242
チケット エラー レベルの管理 245
イベント通知のエラー レベルの管理 250
ユーザ管理 250
グループ 250
ユーザ 257
デフォルト グループ 259
デフォルトのシステム権限 259
ロケーション 260
ISDN ゾーン 260
IP ゾーン 261
課金コード 262
課金コードの管理 262
課金コードの活動状況 263
診断 264
TMS チケット 264
プロビジョニング拡張機能の診断 264
会議の診断 265
活動状況 266
分析拡張機能 266
TMS サーバ メンテナンス 267
サーバ時刻の不一致の特定 267
診断ファイルのダウンロード 267
空きディスク領域の表示 267
データベース ファイルとサイズの表示および管理 268
古いデータとログの消去 268
TMS 冗長性 269
TMS サービス状態 269
監査ログ 269
Cisco TMS ツール 272
設定 272
データベース接続の設定 272
ディレクトリの場所 274
セキュリティ設定 274
暗号化キー 274

TLS クライアント証明書 274
高度なセキュリティ設定 275
ユーティリティ 278
ユーザ ドメインの変更 278
電話帳の生成 278
重複キーの解決 278
診断ツール 279
SNMP 接続確認ツール 279
暗号化キーの不一致を検出するためのデータベース スキャン 279
トラブルシューティング 280
ログの使用 280
ログ ファイルのダウンロード 280
サーバ上のログの場所 280
ログの概要 280
ログ レベルの変更 284
ログの読み取り 284
Web サイトのシナリオ 285
Cisco TMS がロードされない 285
Web アプリケーションへの自動ログオンが機能しない 286
システムのシナリオ 287
新しいシステムが自動で検出されない 287
古いシステム情報およびステータス 288
開始されないスケジュールされたイベント 288
システム アップグレードが失敗する 288
チケットが引き上げられない 289
会議シナリオ 290
コールが開始されない 290
Java アプレットのシナリオ 290
ユーザ名とパスワードのプロンプトが再表示され続ける 290
アプレットがロードされない 290
アプレットのロードが遅いか、ロードが不完全である 291
Mozilla Firefox が Java プラグインをブロックする 291
モニタの高速ロード 291
メモリ不足 292
メモリの最大容量の増加 292
電話帳のシナリオ 292
電話帳（社内ディレクトリ）のエラー 292
Polycom エンドポイントが電話帳を取得しない 293
レポートのシナリオ 293
ブリッジの使用状況レポート 293
シスコ コラボレーション エンドポイント ソフトウェア、TC、および TE ソフトウェアが稼働するエンドポイントから CDR なし 294

Cisco TelePresence Server から CDR なし....295
Cisco TelePresence MCU から CDR なし.... 295
Polycom エンドポイントから CDR なし.... 295
レガシー TANDBERG システムの統計情報なし 296
原因コード.... 296
アクセシビリティ通知 300
シスコの法的情報 301
シスコの商標.... 301

概要

Cisco TelePresence Management Suite（Cisco TMS）では、1 つのプラットフォームから、テレプレゼンスを含むビデオ ネットワーク全体の管理、導入、スケジューリングを行うことができます。

Cisco TMS は、オンサイト システムとリモート ビデオ システムを可視化して集中管理することができ、組織内でテレプレゼンスを活用していただくことを目的としています。

Cisco TMS の主な対象者は次のとおりです。

- テレプレゼンス ネットワークの維持と運用に注目している管理者。
- 個々のコンポーネントとしてではなく、サービスとしてテレプレゼンス配置を使用するためのインターフェイスを必要とするテレプレゼンス ネットワークのユーザ。
- テレプレゼンス投資の用途の分析と追跡に注目しているビジネス オーナー。

ユーザ権限機能により、管理者は、特定のロールに必要な機能のみを各ユーザに示すように Cisco TMS を設定することができます。

このマニュアルについて

この管理者ガイドでは、概念情報、手順、参照情報が、主に Cisco TMS の管理者に向けて記述されています。

このガイドの内容は、Cisco TMS の使用中に Web ヘルプとしても使用できます。

状況依存ヘルプにアクセスするには、どの Cisco TMS ページからでも、右上隅にある疑問符記号をクリックします。

関連資料

最新バージョンの Cisco TMS に関するドキュメントはすべて、http://www.cisco.com/en/US/products/ps11338/tsd_products_support_series_home.html [英語] で入手できます。

拡張のマニュアルは http://www.cisco.com/en/US/products/ps11472/tsd_products_support_series_home.html にあります

表 1　Cisco TMS 管理者ガイドおよび Web ヘルプの関連ドキュメント

資料名	リンク
Cisco TelePresence Management Suite Installation and Upgrade Guide	http://cisco.com
Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide	http://cisco.com
Cisco TelePresence Conductor with Cisco TMS Deployment Guide	http://cisco.com
Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide	http://cisco.com
Cisco Unified Communications Manager のマニュアル	http://cisco.com
Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050 Printable Help	http://cisco.com
Cisco TelePresence Conductor Administrator Guide	http://cisco.com
SQL Server 2008 Database Mirroring Overview	http://msdn.microsoft.com
SQL Server 2008 Failover Clustering	http://download.microsoft.com

トレーニング（Training）

トレーニングはオンラインおよび当社のトレーニング場所で利用できます。当社が提供するすべてのトレーニングの詳細およびトレーニング オフィスの場所については、www.cisco.com/go/telepresencetraining を参照してください。

用語集

TelePresence 関連の用語集は tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/ で入手できます。

Cisco TMS の概要

この章では、Cisco TMS のコア機能について簡単に説明し、Web アプリケーションの主な要素のウォークスルーを行います。Cisco TMS のバックエンドを構成する主なコンポーネントとサービスについても、1 つ 1 つ簡単に説明します。

Web ページの機能とレイアウト 15
Cisco TMS のコンポーネント 18

Web ページの機能とレイアウト

管理者は、Cisco TMS へのフル アクセス権を持っています。権限が制限されたユーザには、すべてのメニューおよびオプションは表示されず、またはこれらに対するアクセス権がありません。

表 2　Cisco TMS のユーザ インターフェイス要素とその機能

ユーザ インターフェイス要素	画像	説明
トップレベル メニュー		Cisco TMS の機能は、トップ メニューのメイン カテゴリでグループ分けされています。サブメニューを展開するには、各メニュー項目上にマウスのカーソルを合わせます。

表 2　Cisco TMS のユーザ インターフェイスの要素とその機能（続き）

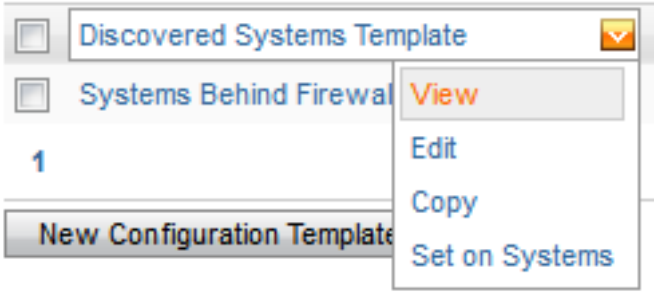
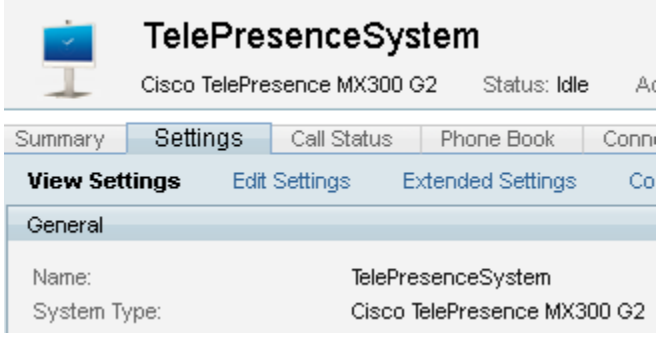
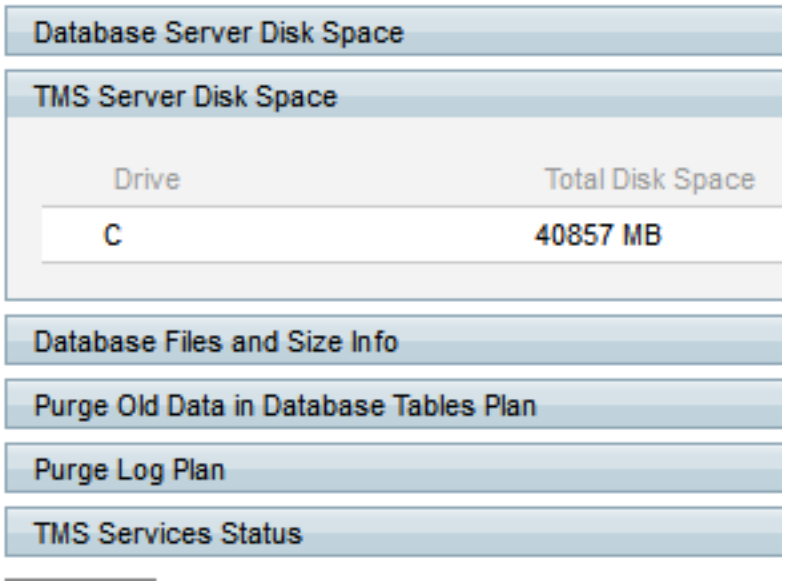
ユーザ インターフェイス要素	画像	説明
[検索（Search）] フィールド		各ページの右上にある検索ボックスを使用して、個々の TelePresence システムを検索します。次の項目に基づいて、検索できます。 ■ **システム名（System Name）** ■ **ネットワーク アドレス（Network Address）** ■ **SIP URI** ■ **H.323 ID** ■ **E.164 エイリアス（E.164 Alias）** ■ **ISDN 番号（ISDN number）** ■ **MAC アドレス（MAC Address）** ■ **ハードウェア シリアル番号（Hardware Serial Number）** 検索結果のシステム名をクリックすると、[ナビゲータ（Navigator）]（65 ページ）内でシステムの [設定の表示（View settings）] ページに移動します。
ヘルプ		ヘルプ アイコンをクリックすると、現在のページの状況依存ヘルプが表示されます。
ログアウト		鍵アイコンをクリックすると、Cisco TMS からログアウトします。
ドロップダウン メニュー		リスト内の項目にマウスのカーソルを合わせると、使用可能な場合は、オレンジのドロップダウン メニューのアイコンが表示されます。

表 2　Cisco TMS のユーザ インターフェイスの要素とその機能（続き）

ユーザ インターフェイス要素	画像	説明
一覧		関連する列のタイトルをクリックすることによって、Cisco TMS のほとんどのリストをソートし直すことができます。カラム タイトルの隣にある小さな三角形は、ソートが昇順または降順のいずれであるかを示します。一部のリストには、数百、さらには数千ものエントリがある場合があります。Cisco TMS のほとんどのリストは、すべてのエントリを 1 つのリストで表示するのではなく、複数のページに分割され、下部に [前へ（Previous）] リンクと [次へ（Next）] リンクが表示されます。
タブ		Cisco TMS の多くのページでは、上部にタブとして表示される複数のビューを使用できます。 複数レベルのタブが表示される場合があります。左のスクリーンショットには、[サマリー（Summary）]、[設定（Settings）]、[通話ステータス（Call Status）]、[接続（Connection）]、および [ログ（Logs）] など、使用可能な複数のページおよびビューがあります。アクティブなタブは濃い青色で表示され、その下に追加のビューがあります。現在のビューは、強調表示されます。
折りたたみ可能セクション		各折りたたみ可能セクションには、上に青いバーがあります。バーの右端に矢印アイコンがある場合は、青いバーをクリックすると、そのセクションが折りたたまれ、または展開されます。これによって、集中するために、または詳細を表示するために、画面の領域を選択できます。

ポータル（Portal）

ポータル ページには、ビデオ会議ネットワークのステータスの概要が示されます。

システム（Systems）

ページのこのセクションには、Cisco TMS に登録されているさまざまなタイプのシステムがリストされています。

各システム タイプは、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] ページにリンクされています。たとえば、[エンドポイント（Endpoints）] をクリックすると、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] ページが、*システム カテゴリ*別にソートされたフォルダ ビューで開き、Cisco TMS 内のすべてのエンドポイントが表示されます。

詳細については、65 ページの「ナビゲータ」を参照してください。

チケット（Tickets）

ここでは、一番上のチケットのレベルによってグループ化されたシステムのリストが含まれます。

下位レベルのチケットがあっても各システムが一度しかカウントされないことに注意してください。

チケットのレベルは [システム チケット サービス（Systems Ticketing Service）] ページにリンクされます。たとえば、[最上位のチケットレベルが致命的であるシステム（Systems with uppermost ticket level Critical）] をクリックすると、[システム チケット サービス（Systems Ticketing Service）] ページが開き、*[致命的（Critical）]* なすべてのシステムが一番上のチケット レベルとして表示されます。システムにより低いレベルのチケットがある場合、これらのチケットも表示されます。

[チケット サービスを開く（Open Ticketing Service）] リンクから、[チケット サービス（Ticketing Service）]（129 ページ）に移動します。

会議および予約

ポータル ページのこのセクションには、今日の会議および予約が表示されます。

[会議制御センターを開く（Open Conference Control Center）] リンクで、[会議制御センター（Conference Control Center）]（189 ページ）が開きます。

システムの使用状況

システムの使用状況グラフでは、1 日あたりの通話中のエンドポイントの数は青の線で、1 日あたりの予約済みエンドポイントの数は緑の線で示されます。

[会議統計の表示（Show Conference Statistics）] をクリックすると、会議（216 ページ）のレポートが表示されます。

サイトマップ

Cisco TMS では、[ポータル（Portal）] > [サイトマップ（Sitemap）]

このページでは、Cisco TMS のすべての主要ページの概要を示します。ページはサブメニューでメイン メニューのレベルからサブメニューまでのすべての項目に適用されます。

メニュー名をクリックすると、各ページの内容の概要が表示されます。

ページ名の下にある […に移動（Go to …）] リンクをクリックすると、Cisco TMS 中のその画面に移動します。

Cisco TMS のコンポーネント

Cisco TMS は、次のような一連の標準的なコンポーネントで構成されます。

- Web アプリケーションを搭載したインターネット インフォメーション サービス（IIS）サーバ
- TMS サービス
- tmsng SQL データベース
- TMS ツール アプリケーション

管理者が Cisco TMS の導入を管理し、トラブルシューティングする場合に、これらのコンポーネントの予備知識が必要になります。これらのコンポーネントについては、以下に説明します。

インターネット インフォメーション サービス Web サーバとアプリケーション

Microsoft インターネット インフォメーション サービス（IIS）は、Cisco TMS のユーザー インターフェイスおよび外部サービス インターフェイスを構成する Web コンテンツ、Web サービス、および Web アプリケーションをホストするための主要な Web サーバとして使用されています。

TMS サイトは、特定のアプリケーション プールで実行され、IIS サーバでホストされるその他のアクティビティから分離されるように設定されます。

Cisco TMS は、Microsoft .NET プラットフォームを使用して開発されます。したがって、Cisco TMS を正しく動作させるには、一部の追加 IIS コンポーネントが必要です。これらのコンポーネントは、Cisco TMS のインストール中に Windows によってインストールされます。

すべての Web 関連のファイルは、インストール中に指定した場所のサーバに保存されます。インストールは、次の仮想ディレクトリを作成します。

IIS のトラブルシューティングについては、「Web サイトのシナリオ」（285 ページ）を参照してください。

tms

これは、認証済み Web アプリケーションで、すべてのユーザ向け Web コンテンツがホストされています。
http://<server>/tms は、ユーザが Cisco TMS と対話するためのランディング ページです。

このアプリケーションに対するすべてのアクセスには認証が必要であり、ユーザは IIS を通じて認証されます。デフォルトでは、[Windows 認証（Windows Authentication）] と [基本認証（Basic Authentication）] の両方が有効になっています。

tms/public

tms/public コンポーネントは、認証なしでシステムにアクセスできる必要があるすべてのコンテンツとサービスに対する Web アプリケーションおよびディレクトリ構造です。このようなコンテンツの例には、コールのフィードバックや電話帳があります。

このコンポーネントを使用する場合、[匿名認証（Anonymous Authentication）] を有効にする必要があります。他の認証モードは、すべてディセーブルにする必要があります。

外部

external は、Web サーバ レベルで認証を使用するすべてのコンテンツおよびサービスに対する Web アプリケーションおよびディレクトリ構造です。これは、主に、サーバ統合のために外部向けの API に使用されます。

cdm および pwx

一部の管理対象システムのタイプには、ハードコーディングされた URL があります。この URL で、情報をポストし、サービスのクエリーを実行することができます。したがって、Web アプリケーションでは、ハードコーディングされた URL と一致するように、Web サイトのルート レベルで特定のパスが設定されます。

- **/cdm** は、CTS/TX システムがフィードバックやステータス更新をポストする場所です。
- **/pwx** は、Polycom デバイスがフィードバックやステータス更新をポストする場所です。

tmsagent

tmsagent Web アプリケーションはプロキシとして機能し、Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension 向けの要求を処理します。

tmsng SQL データベース

すべての運用データとシステム構成データは、デフォルトで **tmsng** という名前の SQL データベースに保存されます。システム アップグレード用のソフトウェア ファイルとサービスのログ ファイルは、このデータベースの外部に保存されます。

データベースは、Microsoft SQL Server で実行されます。SQL Server は、Cisco TMS と同じサーバに、またはリモートに配置できます。データベース サーバを見つけるためのすべての参照は、サーバ プラットフォームでの設定時に定義されるレジストリ キーを通じて行われます。

ユーザは、直接にデータベースで認証を受け、データベースと対話することはありません。データベースとのすべての対話は、アプリケーションのコンテキスト内で実行されます。

Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension を使用する場合、この拡張では、複数の個別のデータベースにその情報が保存されます。

SQL サーバの詳細な要件およびデータベース メンテナンスのベスト プラクティスについては、*Cisco TMS インストレーションおよびアップグレード ガイド*[英語] を参照してください。

クレデンシャルと権限

Cisco TMS のインストール中に、データベースを作成し、アクセスするために SQL サーバの sa アカウントが自動的に選択されます。ただし、カスタム インストールを選択することにより、異なるクレデンシャルを使用できます。Cisco TMS の実行およびアップグレードに使用するアカウントには、tmsng データベースに対する *db_owner* 権限が必要です。さらに、最初に tmsng データベースを作成するためには、**master.mdf** へのアクセス権もあるユーザが必要です。

Windows サービス

Cisco TMS は、1 台以上のサーバで常時稼働するために、一連の Windows サービスに依存しています。これらの各サービスの機能は、次のとおりです。

TMSLiveService

このバックエンド サービスは、次のことを実行します。

- スケジュール済み会議を開始および停止します。
- 進行中の会議および会議の更新されたステータスを監視します。
- 進行中の会議に対して、コマンドを実行します。

LiveService が会議のモニタリングのためのバックエンドとして機能する一方で、クライアント側のアプレットである会議制御センターは、進行中のコールを操作するためのフロントエンドとして機能します。

TMSDatabaseScannerService

このスキャナ サービスは、既存のシステムの接続ステータス、コール ステータス、システム設定をチェックします。これは、スキャンの終了後に 15 分間、一時停止します。

システムを使用できない場合、Cisco TMS は、次のスキャンまで、またはエンドポイントから別の応答を受信するまで、システムについて「No HTTP response」と表示します。

Cisco TMS は、応答時間を短縮するために、インフラストラクチャ システムに対する追加の接続ステータス チェックを 30 秒ごとに実行します。

TMSSchedulerService

このサービスは、設定した時刻に次のようなイベントを発生させます。

- システムの復元
- システム アップグレード
- Active Directory の電話帳ソースの更新

また、このサービスは、必要に応じて、会議の開始について TMSLiveService に通知します。

TMSLiveService はすべての予約された会議を追跡しますが、再起動するとこの情報は失われます。

TMSPLCMDirectoryService

このサービスは、Polycom エンドポイントに電話帳をポストします。Polycom エンドポイントは、リモート制御を介して要求されたときに、このサービスから電話帳を取得します。これは、レガシー TANDBERG エンドポイントの社内ディレクトリに似ています。

TMSServerDiagnosticsService

このサービスは、サーバ プラットフォーム自体のスケジュールされたヘルス チェックを実行します。現在のチェックには、次の対象が含まれます。

- サーバのディスク領域。使用可能な空き領域が 10% 未満の場合は、チケットが生成されます。
- データベース サイズ。データベースが最大サイズの 90% に達した場合は、チケットが生成されます。
- 他のすべてのサービスが実行されていること。いずれかのサービスが実行されていない場合は、チケットが生成されます。

TMSSnmpService

このサービスは、SNMP トラップの処理およびポーリングに使用されます。これには、以下が含まれます。

- クイック スキャナ：SNMP を使用して、オンライン管理対象システムに対して短い間隔でクエリを実行し、いずれかのシステムがネットワークで到達不能になっていないかどうかを予告なしで検出します。
- SNMP トラップ ハンドラ：Windows SNMP トラップ サービスにサブスクライブして、管理対象システムから送信された SNMP トラップを収集して処理します。
- システム検出スキャン：SNMP ブロードキャストを使用して、ネットワーク上の SNMP 対応の新しいシステムを検出します。

Cisco TMS ツール アプリケーション

TMS ツールは、Cisco TMS サーバの [開始（Start）] メニューから使用できるヘルパー アプリケーションです。このアプリケーションは、データベース接続の設定を変更するために使用されます。

詳細については、「Cisco TMS ツール」（272 ページ）を参照してください。

Cisco TMS の設定

管理者は、組織のニーズに合わせて、Cisco TMS の動作を調整する必要があります。この章では、エンドポイントのユーザ グループおよび権限、重要な設定、および構成テンプレートなど、初期設定を行う手順について説明します。

リリース キーとオプション キーの追加 22
グループおよび権限の動作 23
最初のグループ権限の設定 24
Active Directory ルックアップの有効化 24
ユーザ アカウントとプロファイルの追加 25
デフォルトの確認および設定 26
構成テンプレートの使用 28

リリース キーとオプション キーの追加

これは、Cisco TelePresence Management Suite（Cisco TMS）機能を有効にするライセンス キーをインストールする方法の説明です。

リリース キーおよびオプション キーはインストール中、インストール後、またはアップグレード時に入力できます。リリース キーを初期インストール時に入力しないと、Cisco TMS は制限されたデモ モードで動作します。

Cisco TMS リリース キーの取得

インストールまたはアップグレードするには、シリアル番号およびソフトウェア バージョンの組み合わせに固有のリリース キーが必要です。シスコに連絡してリリース キーを取得します。

Cisco.com のユーザ ID とパスワードを使用可能にします。

1. Cisco.com > [サポート（Support）] に移動します。
2. この画面の右側に Cisco Technical Assistance Center（TAC）の Service Request ツールを使用してサポート ケースを開きます。

代わりに、Cisco TAC に問い合わせることができます。

- アジア太平洋：+61 2 8446 7411（オーストラリア：1 800 805 227）
- EMEA：+32 2 704 55 55
- 米国：1 800 553 2447

Cisco TMS アップグレード中のキーの入力

Cisco TMS のメジャー バージョン間でアップグレードを完了するためには、リリース キーをインストール中に入力する必要があります。マイナー バージョン間でアップグレードする場合、既存のリリース キーが自動的に保持され、再利用されます。

新しいリリース キーの追加は、インストール中に実行できます。Cisco TMS インストール ウィザードは、リリース キーとオプション キーの入力を求めます。以前に入力したすべてのキーが表示されます。

インストール後のリリース キーの入力

リリース キーがインストール時に入力されなかった場合、サーバはトライアル モードで動作します。ポータル Web ページで**サイト管理者**権限で Cisco TMS にログインすることによりリリース キーを追加します。

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [全般設定(General Settings)] に移動します。
2. [TMS リリース キー(TMS Release Key)] というラベルのフィールドにリリース キーを入力します。
3. [保存(Save)] ボタンをクリックします。
   変更内容は、ただちに有効になります。Cisco TMS リリース キーは、これでアプリケーション ウィンドウの右下隅に表示されます。

インストール後のオプション キーの入力

ポータル Web ページで**サイト管理者**権限で Cisco TMS にログインすることにより既存の Cisco TMS インストールにオプション キーを追加します。

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [全般設定(General Settings)] > [ライセンスとオプション キー(Licenses and Option Keys)] に移動します。
2. [オプション キーの追加(Add Option Key)] ボタンをクリックします。

キーが正常に確認されると、それが表示されるオプション キーのリストに追加されます。変更内容は、ただちに有効になります。

グループおよび権限の動作

管理者は、Cisco TMS でユーザがアクセスする機能と権限について、Cisco TMS の導入を計画する必要があります。

これは、グループ メンバーシップ、グループ権限、およびシステム権限によって制御されます。Cisco TMS のすべての権限はグループ レベルで設定されます。

ユーザは、複数のグループのメンバーにすることができます。複数のグループに属するユーザには、所属するすべてのグループの全権限が与えられます。

グループ メンバーシップ

Cisco TMS グループにメンバーを追加するには、次の 3 つの方法があります。

- グループ自体を編集します。
  [グループの編集(Edit Group)] ページで[メンバーの追加(Add Members)] タブをクリックして、グループに追加するユーザを指定します。[管理ツール(Administrative Tools)] > [ユーザ管理(User Administration)] > [ユーザ(Users)] に移動してユーザを編集することにより、ユーザのグループを編集することもできます。
- ユーザのプロファイル作成時に、ユーザをグループに自動的に割り当てます。
  *デフォルトのグループ*として設定されているグループが、ログインした新しいユーザに自動的に追加されます。

  インストール後は、サイト管理者グループが *デフォルトのグループ*であることに注意してください。これにより、管理者は Cisco TMS にログインして設定することができます。この設定を変更し、承認された管理者のみがこのグループのメンバーであることを確認する手順については、「最初のグループ権限の設定(24 ページ)」を参照してください。
- Active Directory グループ。
  Cisco TMS では、Active Directory から既存のグループをインポートできます。Active Directory グループ メンバーシップは、ユーザがログインすると、Cisco TMS グループで自動的に更新されます。

Active Directory から作成されたグループは、手動で編集できないことに注意してください。

システム権限(System Permissions)

Cisco TMS の権限は、機能の権限とシステム権限の組み合わせです。

- ユーザ グループには、ユーザがアクセス権を持つ Cisco TMS の一部または機能を制御するための権限が割り当てられます。
- システム権限は、特定のシステムでユーザが実行できる操作を制御するために使用されます。デフォルトのシステム権限、特定のフォルダのシステムすべてに適用されるフォルダ権限、および個々のシステム権限があります。

デフォルトの権限は、Cisco TMS に最初に追加したときに、システムに与えられます。これは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [デフォルトのシステム権限（Default System Permissions）] で制御します。ここでは、新しく追加したシステムで、各グループが取得する権限を設定できます。

最初のグループ権限の設定

初期設定では、一連の基本的な設定を次のように設定する必要があります。

- 新規ユーザに対して管理者権限が自動的に付与されないようにします。
- 必要な基本的権限を使用して新規ユーザ用のデフォルト グループを作成します。

ユーザのアクセス制御と機能のアベイラビリティを指定するには、次の手順を実行します。

1. すべてのユーザに対して使用する新しいグループを作成するには、次の手順を実行します。
   a. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] に移動します。
   b. [新規（New）] をクリックして、新しいグループを作成します。
   c. 必要に応じて、新しいグループに名前を付けます。たとえば、「All company users」と指定します。
   d. [保存（Save）] をクリックします。
2. デフォルト グループを変更するには、次の手順を実行します。
   a. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [デフォルト グループ（Default Groups）] に移動します。
   b. [ユーザ（Users）] および新しいグループを除くすべてのチェックボックスをオフにします。
   c. [保存（Save）] をクリックします。
   これで、Cisco TMS にログインしたユーザは、新しいグループに自動的に追加され、そのグループの権限が与えられるようになります。
3. すべての Cisco TMS ユーザに必要なデフォルト権限を新しいグループに割り当てるには、次の手順を実行します。
   a. [グループの編集（Edit Group）] リストでグループ名をクリックします。
   b. [権限の設定（Set Permissions）] をクリックします。
   c. グループ メンバーに必要な各権限をオンにします。

      Cisco TMS の設定を除き、ユーザにフル アクセス権を与えるには、初めに [管理ツール（Administrative Tools）] の下の権限以外のすべての権限をオンにします。セクションのすべての権限をイネーブルにするには、セクション見出しをオンにします。
   d. [保存（Save）] をクリックします。
4. 次のように、対象ユーザだけに、サイト管理者のアクセス権が割り当てられていることを確認します。
   a. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] に移動します。
   b. [サイト管理者（Site Administrators）] グループをクリックし、[編集（Edit）] をクリックします。
   c. メンバー リストに、管理者権限が必要なユーザのみが表示されていることを確認します。その他のアカウントが表示されている場合は、そのアカウントを選択し、[削除（Remove）] をクリックします。
   d. [保存（Save）] をクリックします。
5. デフォルトのシステム権限を変更するには、次の手順を実行します。
   a. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [デフォルトのシステム権限（Default System Permissions）] に移動します。
   b. [ユーザ（Users）] グループに対するすべての権限をオフにし、新しいユーザ グループに必要な権限を割り当てます。
   c. [保存（Save）] をクリックします。

すべての設定を決定するときに、より個別の権限を指定して追加のグループを作成できます。権限はいつでも変更できます。

Active Directory ルックアップの有効化

Active Directory 参照を有効にすると、指定された間隔でユーザ情報が AD から Cisco TMS に自動的に複製されます。AD ルックアップをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [Active Directory] に移動します。
2. [Active Directory からのユーザ情報のルックアップ（Lookup User Information from Active Directory）] を [はい（Yes）] に設定します。
3. 残りのフィールドに適切な情報を入力します。

AD ルックアップを有効化しない場合、各ユーザは初めて Cisco TMS にログインするときに、姓、名、電子メール アドレスの入力を求められます。

ユーザ アカウントとプロファイルの追加

Cisco TMS Web アプリケーションにログインするには、ユーザには、サーバが信頼するように設定された Windows ユーザ名とパスワードが必要です。サーバが Active Directory ドメインのメンバである場合、デフォルトで、Active Directory ドメイン ユーザ アカウントに加えて、ローカル Windows ユーザ アカウントも有効です。

最初に Cisco TMS にサインインするユーザは、自動的に管理者になり、Cisco TMS に対するフル アクセス権が割り当てられます。

正常に Cisco TMS にログインするユーザごとに、Windows ユーザ名に基づいてユーザ プロファイルが作成されます。ユーザが Windows の資格情報によって認証されます。

Cisco TMS でユーザ プロファイルを手動で作成できますが、この操作によって、Windows ユーザ アカウントは作成されません。Cisco TMS でユーザ プロファイルを削除しても、ユーザの実際の Windows ユーザ アカウントは変更されません。

次の 4 つの個人情報フィールドは必須です。

- **Windows ユーザ名**
- **名**
- **姓**
- **電子メール アドレス**

これらが入力されていない場合、ユーザは、最初のサインインで入力を要求されます。

言語設定

各ユーザは、Cisco TMS 内で使用する独自の言語を選択できます。主要な Cisco TMS Web インターフェイスでは、次の言語がサポートされています。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- ロシア語
- 日本語
- 中国語（簡体字）
- 韓国語

Smart Scheduler およびメール テンプレートでは、さらに多くの言語を使用できます。上記以外の別の言語を選択した場合は、その言語の選択をサポートしていないページを参照すると、英語で表示されます。

Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid

WebEx 予約が機能するには、予約を実行するユーザ自身の Cisco TMS プロファイルに WebEx クレデンシャルが含まれている必要があります。これによって、正しいユーザが WebEx の会議に関連付けられ、WebEx 会議へのログインや操作が可能になります。

注：複数の WebEx サイトを Cisco TMS に追加している場合は、ユーザのクレデンシャルが、予約に使用する WebEx サイトに対して有効であることを確認してください。

その他のフィールドは必須ではありませんが、他の Cisco TMS 機能に使用されます。

WebEx サイトとユーザ クレデンシャル

テレプレゼンス会議に WebEx を追加できるようにするには、Cisco TMS で会議の所有者の [WebEx サイト（WebEx Site）]、[WebEx ユーザ名（WebEx Username）]、および [WebEx パスワード（WebEx Password）] を設定する必要があります。

各ユーザの情報は手入力または Active Directory（AD）から取得できます。この手順を簡略化するには AD を使用することを強くお勧めします。

WebEx 情報をどちらの方法で入力する場合でも、シングル サインオン（SSO）が連動して使用されます。SSO が有効になっている場合、WebEx パスワードの入力は必須ではありません。

次の点に注意してください。

- Active Directory ルックアップが有効になっている場合、ユーザのデータが再度同期されると手入力されたユーザ名は上書きされます。
- シングル サインオンが有効になっている場合、Cisco TMS に手入力されたパスワードは無視されます。

デフォルトの確認および設定

Cisco TMS のほとんどの設定は、自動的に実行されるか、またはほとんどの組織に適切なデフォルト値があります。

ニーズを確実に満たし、その他の Cisco TMS 機能の設定を容易にするために、初期設定の一環として確認および設定する必要がある重要な設定を以下に示します。

全般設定

表 3 [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] の設定

設定	説明
システム管理者/電子メール（Contact/Email）	ここに入力すると、すべての Cisco TMS のページの下部に連絡先のリンクが表示され、ユーザは簡単に、ヘルプまたは質問のために管理者に連絡できます。
監査の有効化（Enable Auditing）	この設定により監査ロギングが有効になり、システム、ユーザ、その他 Cisco TMS の重要な要素に対する変更がすべて Cisco TMS によって詳細ログに残されます。監査ログには、[管理ツール（Administrative Tools）] メニューからアクセスできます。これはデフォルトでディセーブルですが、セキュリティが重要なインストールでは、最初からこれをイネーブルにする必要が生じることがあります。この機能を使用すると、Cisco TMS データベースが非常に高速になります。
リリース キー/オプション キー（Release Key/Option Keys）	インストール中に入力しなかった場合は、ここでリリース キーとオプション キーを入力できます。トライアル バージョンからアップグレードする場合、または新しいオプションを追加する場合は、ここにライセンス情報を入力します。

ネットワーク設定（Network Settings）

表 4 [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] の設定

SNMP コミュニティ名（SNMP Community Name）	これは、Cisco TMS がシステムを検出して Cisco TMS に追加するときに使用する一般的な SNMP コミュニティ名のコンマ区切りリストです。既存のシステムでカスタマイズされた SNMP コミュニティ名を使用する場合は、このリストに必ず追加してください。
システムおよびネットワークの通知を受信する電子メール アドレス（E-mail Addresses to Receive System and Network Notifications）	Cisco TMS が未登録エンドポイントの検出、システム イベントの障害、およびその他の管理メッセージに関する通知を送信できるように、電子メール アドレスをここに入力する必要があります。複数の電子メール アドレスは、カンマで区切る必要があります。

表 4 [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] の設定（続き）

システムの自動検出モード（Automatic System Discovery Mode）	この機能はデフォルトでイネーブルになっています。これは、Cisco TMS が検出したシステムをシステム ナビゲータのフォルダに自動的に追加し、Cisco TMS と連携するようにそれぞれの管理プロパティを設定します。Cisco TMS は、「Discovered Systems Template」の基本設定を使用して、システムを設定します。すべての新しいシステムで必要なデフォルト設定を指定するには、このテンプレートを変更します。
Active Directory	これらの設定により、Cisco TMS がユーザおよびグループの設定で Active Directory を使用できるようになります。Cisco TMS サーバがドメインに属している場合は、有効な Windows ドメイン アカウントを入力して、これらの設定を有効にすることを強く推奨します。アカウントは、管理者アカウントである必要はなく、通常のユーザ アカウントで十分です。[... ユーザ情報のルックアップ（Lookup User Information…）] をイネーブルにした場合、新しいユーザ プロファイルの作成時に Cisco TMS は、できる限り多くのユーザ プロファイルのフィールドを Active Directory から自動的に読み込みます。[AD グループの許可（Allow AD Groups）] は、Active Directory のグループを Cisco TMS ユーザ グループとして使用できるようにして、Cisco TMS グループを単純化します。これにより、ユーザがどの Cisco TMS グループに属するのかが自動化されます。
SNMP の機能のあるシステムをスキャンし、アクセス不可能な状況をすばやく検出（Scan SNMP Capable Systems to Allow Quick Discovery of Inaccessibility）	この設定によって、Cisco TMS は、システムがオフラインになったかどうかをより迅速に検出できます。これは、イネーブルにすることを推奨します。
SNMP ブロードキャスト/マルチキャスト アドレス（SNMP Broadcast/ MultiCast Address(es)）	これは、Cisco TMS インストーラで設定されたネットワーク アドレスです。Cisco TMS は、これらのアドレスに SNMP クエリを送信して、新しいシステムを検出します。ネットワークが複数のネットワークにわたって構築されている場合は、Cisco TMS がシステムを自動的に検出できるように、カンマで区切ってそれぞれのブロードキャスト アドレスを追加します。手動で、および Cisco TMS に接続しているシステムを通じてシステムを追加することもできるため、すべてのネットワークがここに表示されていなくても問題ありません。 このスキャンをオフにするには、localhost アドレス 127.0.0.1 を入力します。
システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）	この設定はデフォルトでイネーブルになっており、イネーブルのままにしておく必要があります。この設定は、Cisco TMS サーバを指すようにシステムを確実かつ適切に設定するために不可欠です。 この設定は、ラボ TMS サーバでは、ディセーブルにする必要があります。これは、このサーバが、実稼働システムの管理設定を変更しないためです。
詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings）	さまざまなネットワーク設定に対応するため、Cisco TMS は Cisco TMS にアクセスできるネットワークの概念を 2 つサポートしています。 ■ 社内 LAN：これは通常、組織の内部ネットワークと同じです。 ■ パブリック インターネット/ファイアウォール外：組織のファイアウォールまたはプロキシの外部で、システムを管理する必要が生じることがあります。使用するパブリック ホスト名は、Cisco TMS サーバの IP アドレスに転送される IP に解決する必要があります。 Cisco TMS に追加された各システムには、Connectivity パラメータがあります。このパラメータでは、Cisco TMS がシステムと通信する場合に使用する必要があるネットワーク ID を指定します。 Cisco TMS は、依然として 1 つの物理的な LAN ポートおよび 1 つの IP アドレスだけに接続されていることに注意してください。Cisco TMS は、マルチホーム ネットワークをサポートしていません。
TMS サーバの IPv4/IPv6 アドレス（TMS Server IPv4/IPv6 Addresses）	これらは、インストール時に設定されますが、Cisco TMS サーバに到達するために使用される IP アドレスにする必要があります。 Cisco TMS は、デュアル スタックをサポートしています（つまり、IPv4 および IPv6 アドレスを使用して同時に通信できます）。

表 4 [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] の設定(続き)

TMS サーバの完全修飾ホスト名(TMS Server Fully Qualified Hostname)	社内ネットワークまたはローカル ネットワークから Cisco TMS サーバにアクセスするために使用される完全修飾ドメイン名です。この設定は、DNS をサポートするシステムで使用され、正しく設定する必要があります。サーバで使用可能なホスト名がない場合は、Cisco TMS に到達するために使用される IP アドレスを入力します。
TMS サーバ アドレス(完全修飾ホスト名または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (Fully Qualified Host Name or IPv4 Address))	外部ネットワークから Cisco TMS サーバにアクセスするために使用される完全修飾ドメイン名です(ローカル ホスト名とは異なる場合)。SOHO/ファイアウォールの背後のサポートなどの機能を使用するには、この設定が必要です。サーバで使用可能なホスト名がない場合は、Cisco TMS に到達するために使用される IP アドレスを入力します。
自動ソフトウェア更新(Automatic Software Update)	この機能によって、Cisco TMS は、システムで使用可能な新しいソフトウェアをセキュアなリンクで自動的にチェックし、シスコのサービス契約状況を通知することができます。シリアル番号およびハードウェア ID などのシステム識別情報を除き、個人情報は通信中に送信されません。Cisco TMS でソフトウェアのチェックを希望しない場合は、この機能をディセーブルにします。ネットワークがインターネットに到達するために Web プロキシを要求する場合は、そのプロパティをここで設定します。

メール設定

[管理ツール(Administrative Tools)] > [構成(Configuration)] > [メール設定(Mail settings)] を開きます。これらの設定は、Cisco TMS のインストール時に行われています。ただし、メール サーバで SMTP 認証が必要な場合は、ここでユーザ名とパスワードを指定します。[保存(Save)] をクリックすると、設定が検証されます。

<ip address>:<port> を使用して、SMTP サーバに異なるポートを指定することもできます。(例:10.11.12.13:1234)。

会議設定

これらの設定は、スケジュールされたコールとアクティブ コールのモニタリングに関して、Cisco TMS の動作のほとんどを制御します。

表 5 [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [会議設定(Conference Settings)] > [会議作成オプション(Conference Create Options)] の設定

デフォルトの帯域幅(Default Bandwidth)	これは、会議をスケジュールする場合に、H.323 および SIP コールに対して提案されるデフォルトの帯域幅です。
デフォルトの ISDN 帯域幅(Default ISDN Bandwidth)	これは、会議をスケジュールする場合に、ISDN コールに対して提案されるデフォルトの帯域幅です。
デフォルトでは会議をセキュアに設定します(Set Conferences as Secure by Default)	Cisco TMS は、システムの機能が暗号化をサポートしているかどうかを認識します。この設定は、会議のデフォルト動作を制御します。 デフォルトは [可能な場合(If Possible)] であり、コール内のすべてのシステムが暗号化をサポートしている場合に暗号化を有効にします。コール対象の 1 つのシステムが暗号化をサポートしていない場合、コールは暗号化されずに通信されます。 注:暗号化をサポートするエンドポイントの暗号化が [オフ(Off)] に設定されていて、このエンドポイントが暗号化されている会議に追加されている場合、このエンドポイントの暗号化は [オン(On)] に設定されます。この設定はエンドポイント自体で [オフ(Off)] に設定するまで、会議の終了後も維持されます。

設定テンプレートの使用

複数のシステムに設定の共通グループを適用することは、一般的な共管理上のニーズです。Cisco TMS の設定テンプレートを使用すると、1 回の操作で複数のシステムに適用可能な一連の設定パラメータを定義できます。

テンプレートには、システム タイプごとに異なる設定を含めることができるため、Cisco TMS では、更新される個々のシステムにとって有効な設定のみが適用されます。

デフォルト インストールの一部として、Cisco TMS は [検出済みシステム テンプレート(Discovered Systems Template)] というテンプレートを作成します。このテンプレートには、システム自動検出が有効な場合に Cisco TMS に追加されるすべてのシステムに自動的に適用される設定のグループが含まれています。システム検出の詳細については、「Cisco TMS へのシステムの追加方法(47 ページ)」を参照してください。

管理者は、複数のテンプレートを定義してから、次のように適用することを選択できます。

- システムごとに手動で適用
- システムが Cisco TMS に追加されたときに自動的に適用
- システムが起動するたびに適用
- スケジュールされた間隔で永続的に適用テンプレートの最初のアプリケーションは保存後すぐに実行されることに注意してください。それ以降のアプリケーションは設定済みスケジュールに従って実行されます。

設定テンプレートの新規作成

新しい構成テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [構成テンプレート（Configuration Templates）] に移動します。
2. [新しい構成テンプレート（New Configuration Template）] をクリックします。
3. 新しいテンプレートの識別に役立つ**名前**を入力します。
4. チェックボックスとドロップダウン メニューを使用して、テンプレートに含める設定を選択します。
   フィールドの説明については、「設定テンプレート（142 ページ）」を参照してください。
5. [詳細設定の選択（Select Advanced Settings）] タブに移動して、フィルタを追加し、またはフィルタ フィールドを空白のままにして、システムまたはシステム タイプごとに設定の完全なリストを取得することによって、特定のシステムに固有の設定を追加します。
   a. システムのタイプを選択するか、検索する設定の一部を入力します。
   b. [検索（Search）] をクリックします。
   c. 結果リストから、システム タイプに追加する設定をチェックボックスを使用して選択します。
   d. 設定を選択した設定のリストに移動するには、[>] をクリックします。
   e. [保存（Save）] をクリックします。
      [詳細設定の選択（Select Advanced Settings）] タブで選択した設定はすべて、構成テンプレートで使用される [テンプレートの設定（Template Settings）] タブでも使用できるようになります。

設定テンプレートの表示

選択したシステムに適用される設定を表示するには、構成テンプレートのアクション ドロップダウンで [表示（View）] をクリックします。

テンプレートの編集

この手順では、自動作成された [検出済みシステム テンプレート（Discovered Systems Template）] を例として使用します。

1. [システム（Systems）] > [構成テンプレート（Configuration Templates）] を開きます。
2. [Discovered Systems Template] をクリックします。

   このテンプレートの設定の [タイプ（Type）] は、デバイスのコマンド自体の設定オプションではなく、Cisco TMS 設定であるため、[その他のタイプ（Other type）] です。
3. [設定を編集（Edit Settings）] ページを表示するには、ドロップダウン アクション ボタンを使用して、[編集（Edit）] をクリックします。
   すべてのテンプレートには、初めに追加する共通の Cisco TMS 設定（[ゾーン（Zones）] や [電話帳（Phone books）] など）があります。
4. テンプレートにさらに設定を追加するには、[詳細設定の選択（Select Advanced Settings）] タブをクリックします。
   使用可能な設定をすべて表示するには、[フィルタ（Filter）] ボックスを空白のままにして、ドロップダウンで [すべてのシステム（All Systems）] を選択し、[検索（Search）] をクリックします。このビューを使用すると、Cisco TMS で使用可能なすべてのテンプレート設定を選択でき、[テンプレートの設定（Template Settings）] タブに表示されるリストに設定を追加することができます。
5. 設定のチェックボックスをオンにし、右側のリストから矢印ボタンを使用して追加または削除することによって、テンプレートの設定を追加または削除します。
6. 必要な変更を加えた後に、前の表示に戻すには、[テンプレートの設定（Template Settings）] タブをクリックします。
7. [テンプレートの設定（Template Settings）] タブで、それぞれのチェックボックスで個々の設定をイネーブルまたはディセーブルにし、各設定に使用する値を設定します。
8. 作業が完了したら、[保存（Save）] をクリックします。

システムへのテンプレートの適用

テンプレートは、1 つ以上のシステムに一度に適用できます。ただし、1 つのシステムに一度に適用できるテンプレートは 1 つだけです。

テンプレートを 1 つ以上のシステムに適用するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [構成テンプレート（Configuration Templates）] に移動します。
2. アクション ドロップダウン ボタンをクリックし、[システムに設定（Set on Systems）] を選択します。
3. クリックして、システムを選択します。Shift キーまたは Ctrl キーを押したまま、システムをクリックすることにより、複数のシステムを選択できます。リストにシステムを追加および削除するには、[< >] ボタンを使用します。
   a. [1 回（Once）] タブにシステムを追加すると、テンプレートは一度だけ適用されます。
   b. [永続（Persistent）] タブにシステムを追加すると、テンプレートに設定した [繰り返し間隔（Recurrence Interval）] に従って、テンプレートが繰り返し適用されます。
   テンプレートの最初のアプリケーションは保存後すぐに実行されることに注意してください。それ以降のアプリケーションは設定済みスケジュールに従って実行されます。
4. タスクを開始するには、[システムに設定（Set on Systems）] をクリックします。
   システムへのテンプレートの適用は、Cisco TMS サーバのバックグラウンド タスクとして実行されます。
5. [システム（Systems）] > [構成テンプレート（Configuration Templates）] > [構成テンプレートの活動状況（Configuration Template Activity Status）] ページでジョブのステータスを確認できます。「構成テンプレートの活動状況（145 ページ）」を参照してください。

既存のテンプレートからの新しい設定テンプレートの作成

1. コピー元のテンプレート上にマウスのカーソルを合わせ、ドロップダウン メニューを開き、[コピー（Copy）] を選択します。

   Cisco TMS の [テンプレートの設定（Template Settings）] ページが開きます。
2. 必要に応じて、構成テンプレートの名前および設定を変更します。
3. [保存（Save）] をクリックします。

カスタム設定とコマンド

一部のシステムでは、構成テンプレートにカスタム コマンドおよび設定を追加するオプションがあります。これらは、事前定義の設定とは動作が異なります。

構文については、システムのマニュアルを参照してください。

- 設定では、**configuration.xml** ドキュメントの XML が使用されます。
- コマンドでは、**command.xml** ドキュメントの XML が使用されます。

Cisco TelePresence エンドポイントでは、これらのファイルは、システムの Web サーバの [診断（Diagnostics）] または [XML ファイル（XML Files）] セクションで使用できます。

Cisco VCS では、1 つのコマンドまたは設定のルート タグに設定やコマンドをすべて配置することによって、複数のカスタム設定やコマンドを提供できます。

「System name test」にシステム名を変更する E20、MXP シリーズ、C シリーズ、および EX シリーズのカスタム設定例は、次のとおりです。

```
<Configuration><SystemUnit><Name>System name test</Name></SystemUnit></Configuration>
```

Polycom HDX エンドポイントに対しては、[カスタム設定（Custom Configuration）] のテンプレート設定オプションがあります。このテンプレート設定は、新しいテンプレートを編集および作成するときに使用できます。保存された設定が提供しない機能が必要な場合は、無制限のコマンドと設定を追加できます。コマンドと設定は、カンマで区切ります。

ルーティング

この章では、使用するプロトコルとネットワークが異なるシステムの間でコールをルーティングするために Cisco TMS が使用する方法と、Cisco TMS がこのような接続を最適化するためにネットワーク デバイスを選択する方法について説明します。

Cisco TMS でルーティングを設定する前に、TelePresence ネットワーク ダイヤル計画の概要と、システムが備えているプロトコルとインフラストラクチャを把握する必要があります。

ルーティングの概要 31

プロトコルおよびコール制御 33

Cisco TMS がルーティングに使用するインフラストラクチャ 34

ゾーンのしくみ 38

IP ゾーンの設定 39

ISDN ゾーンの設定 40

ルーティングの概要

予約処理中に Cisco TMS は、次の動作のいずれかが実行されると、会議の参加者の間のルートを作成しようとします。

- ユーザが [会議の保存（Save Conference）] をクリックする。
- ユーザが [接続設定（Connection Settings）] タブをクリックする。
- Cisco TelePresence Management Suite Extension Booking API（Cisco TMSBA）クライアントが会議を保存する。

会議が保存されると、会議に対応するダイヤルイン番号が、主催者、参加者、またはその両方に電子メールで配布されます。Cisco TMS によって作成されるルートは提案であり、予約中に [接続設定（Connection Settings）] タブをクリックして別の有効なルートに変更できます。Cisco TMS がすべての参加者間でルートを作成できない場合、アクションは失敗し、エラーが表示されます。この場合、管理者は、ルートを作成できるように、一部の参加者を削除するなどの変更を行うことができます。

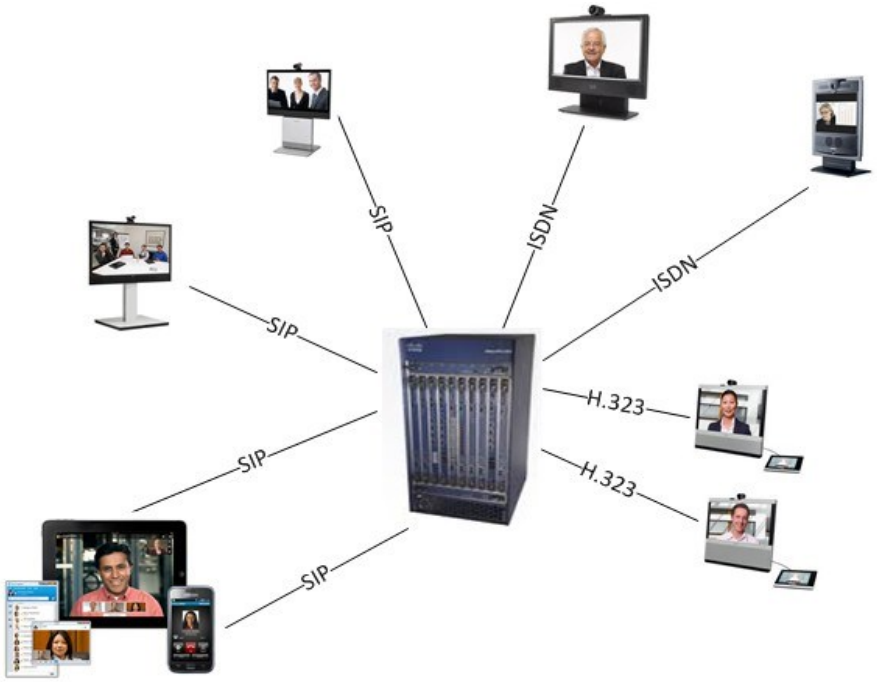
会議が編集および更新されるたびに、Cisco TMS は完全に新しいルートを作成します（この際に古いルートは考慮されません）。したがって、会議への変更がわずかであっても、新しいダイヤルイン番号が作成される場合があります。

Cisco TMS は、積極的に会議を再ルーティングしようとしません。これは、次のような意味となります。

- Cisco TMS によって今後の会議がすでにルーティングされている TelePresence Server 上で番号範囲を変更した場合でも、TelePresence Server に属するこれらの今後の会議はすべて古いダイヤル プランとみなされます。今後の会議に関するこのような問題を特定するには、[会議の診断（Conference Diagnostics）]（265 ページ）を実行します。
- SIP で SIP 対応システムの会議が予約されていても、SIP がそのシステムに対して無効になっている場合、Cisco TMS は、SIP がそのシステムではもう有効でないことを認識しますが、システムに変更が加えられない限り、予約済み会議のコール レッグのプロトコルは変更しません。

Cisco TMS は、IP と ISDN の両方をルーティングできます。システムが両方に対応している場合、Cisco TMS は IP を優先します。IP 上では、H.323 が SIP よりも優先されます。

会議は、参加者の人数に応じて複数のレッグに分割でき、各レッグで異なるプロトコルを使用できます。



この図は、複数プロトコルを使用する 8 つのレッグを含む TelePresence 会議を示しています。

Cisco TMS は、ゾーンと分散を使用し、会議に参加するシステムに応じてどの MCU を使用するかを定義します。ゾーンは、ISDN のルーティングにも使用されます。

Cisco TMSBA に依存する Cisco TMS 拡張機能を使用して予約している場合、Cisco TMS が会議のために作成したルートは編集できません。予約中にルートを編集する唯一の方法は、Cisco TMS 予約インターフェイスを使用することです。

主要参加者

ルーティングにおける Cisco TMS の最も重要な概念は主要参加者です。

主要参加者とは、会議をホストするシステムです。これは MCU か、参加者が複数の場合は、マルチサイトを備えたシステムにできます。会議がポイントツーポイントであれば、いずれかのシステムをメインにすることができます。Cisco TMS Web インターフェイスから予約している場合は、メインにする参加者をドロップダウン メニューで選択できます。

Cisco TMS は、次の条件に基づいてメインになる参加者を決定します。

- 次の場所で選択されているオプション。
  - **[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [ルーティングでの外部 MCU の使用（External MCU Usage in Routing）]**
  - **[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [ルーティングでの優先 MCU タイプ（Preferred MCU Type in Routing）]**
- 会議に、イマーシブ エンドポイント、またはイマーシブ機能のある MCU が含まれているかどうか。
- IP/ISDN ゾーン。
- システムが登録されているゲートキーパー。
- 各システムでサポートされるプロトコル。（例：ゲートウェイまたはインターワーキングが必要かどうか）。
- 暗号化。

外部の主要参加者が必要な場合、Cisco TMS は、上記の条件に基づいて使用可能な主要参加者の優先順位付きリストを処理します。Cisco TMS は、使用可能な最初の参加者を主要参加者として選択します。複数のブリッジが同じ優先順位を持つ場合、それらのうちの 1 つがランダムに選択されます。

予約時に MCU を手動で会議に追加している場合は、この MCU を含むルートが選択されます。

Cisco TMS が上記の条件を優先させる順序は、Cisco TMS のリリースによって異なる可能性があります。

スケジューリング ロギングを INFO レベルで使用すると、Cisco TMS の優先順位付きリストの処理方法を確認できます。詳細については、「ログの概要（280 ページ）」を参照してください。

次のことに注意する必要があります。

- 1 つの会議につき主要参加者は 1 人だけです。
- 主要参加者は、会議が始まった後に、[会議制御センター（Conference Control Center）] を使用して変更できます。この場合、会議は破棄され、再ルーティングと再接続が行われます。
- コール レッグの 2 つの側の 1 つが MCU の場合、MCU が常にメイン システムとなります。
- Cisco TMS は、メイン システムと通信して会議の切断およびミュート要求を送信します。
- Cisco TMS はメイン システムを監視し、[会議制御センター（Conference Control Center）] の会議情報を提供します。

デフォルトでは、スケジュールされた会議で主要参加者はすべての電話をかけますが、One Button To Push 会議では、代わりにシステムが主要参加者に電話をかけます。予約中に会議の接続設定を編集し、システムが主要参加者にダイヤルするように変更することもできます（Cisco TMS 予約インターフェイスを使用している場合）。Cisco TMSBA を使用してこれを行うことはできません。ここでは、このオプションを、カスケードされた会議用に編集することはできません。

[会議制御センター（Conference Control Center）] で進行中の会議に加えられた [全員をミュート（Mute All）] や [接続解除（Disconnect）] などの変更は主要参加者でのみ実行されます。その後、主要参加者はその他のすべての参加者でこの操作を実行します。これの唯一の例外は、各参加者で実行される [マイクをオフに設定（Set Mic Off）] と [メッセージを送信（Send Message）] です。

割り当て

スケジュール済み会議では、システムの割り当ては、[早期参加（Early Join）] を使用している場合を除いて会議の開始時に行われます。Cisco TMS は、主要参加者を割り当て、次にそれ以外のすべての参加者を割り当てます。主要参加者を割り当てることができず、MCU フェールオーバーが失敗した場合、会議自体が失敗し、それ以降の割り当ては行われません。

割り当ては、Cisco TMS がシステムに接続して次の操作を実行しようとすることを意味します。

- 主要参加者に暗号化を設定する。
- エンドポイントとブリッジにフィードバック レシーバを設定する。
- 会議を作成し、予約ページの [MCU 設定（MCU Settings）] タブまたは [TelePresence Conductor 設定（TelePresence Conductor Settings）] タブで選択された設定をブリッジに適用する。
- これから始まろうとしている会議がワンボタン機能会議または「接続なし」会議でない限り、エンドポイントが参加しているアドホック コールを切断する。

Cisco TMS は、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [スケジュール済みコールの接続試行（Connection Attempts for Scheduled Calls）] で設定された値に応じて割り当てを再試行します。

ブリッジまたはエンドポイントへの接続が失敗した場合には必ず、そのシステムの割り当が失敗します。

システムの割り当てが成功すると、Cisco TMS はその参加者にダイヤル コマンドを送信します。ダイヤリングが失敗した場合、Cisco TMS は、ユーザが意図的にコールを拒否しない限り、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [スケジュール済みコールの接続試行（Connection Attempts for Scheduled Calls）] で設定された値に応じて再試行します。

管理対象外ブリッジ

Cisco TM は管理対象外ブリッジには接続しません。そのため、管理対象外ブリッジで会議をホストする場合、その管理対象外ブリッジがまだ会議の主要参加者であるとしても、上記の情報の大部分は該当しません。詳細については、「Cisco TMS がルーティングに使用するインフラストラクチャ（34 ページ）」を参照してください。

プロトコルおよびコール制御

2 者間の相互接続でのように、IP および ISDN の両方が Cisco TMS でサポートされます。

IP

Cisco TMS は、次の 2 つのコール制御デバイスをサポートしています。

- Cisco TelePresence Video Communication Server
- Cisco Unified Communications Manager

それぞれの機能は、次のとおりです。

- Cisco VCS
  - SIP レジストラ
  - H.323 ゲートキーパー
  - Unified CM へのコールをルーティング可能
- Unified CM
  - SIP のみ
  - Cisco VCS へのコールをトランク可能

Cisco VCS の設定の詳細については、以下を参照してください。

『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』

Unified CM で Cisco VCS を設定するには、以下を参照してください。

『Cisco TelePresence Video Communication Server Cisco Unified Communications Manager Deployment Guide』

コール制御ソリューションの選択は、Cisco TMS がスケジュール済みコールをどのようにルーティングするかを指示します。たとえば、Unified CM に登録されているシステムの場合、Cisco TMS は、システムが SIP のみを使用できると想定します。

ISDN

Cisco TMS は以下をサポートしています。

- ISDN ネットワークとダイヤル プランの設定。
- 混合ネットワーク（ISDN から IP および IP から ISDN のルーティングが可能）。
- IP および ISDN の両方の機能を持つエンドポイント。
- ISDN 上の IP サイト間の接続。

コール プロトコルの優先順位付け方法

デフォルトでは、Cisco TMS は SIP よりも H.323、ISDN よりも IP を優先します。ゾーンを使用して、Cisco TMS が IP と ISDN のどちらを優先するかを指定できます。「ゾーンのしくみ（38 ページ）」を参照してください。

[管理ツール（Administrative Tools）] > [構成（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] で次の設定を行うことができます。

- [E.164 エイリアスよりも H.323 ID を優先する（Prefer H.323 ID over E.164 Alias）]：H.323 を使用しているときに H.323 ID と E.164 エイリアスのどちらを優先してダイヤルするかを選択します。
- [通話のルーティング時にフラットな H.323 ダイヤル計画を使用する（Use Flat H.323 Dialing Plan When Routing Calls）]：Cisco TMS は、すべてのシステムがすべてのシステムにダイヤルできると想定します。

Cisco TMS がスケジューリング時に各システムをルーティングするために使用するプロトコルは、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select a system）] > [設定（Setting）] > [TMS スケジューリング設定（TMS Scheduling Settings）] でシステムごとに設定します。

Cisco TMS がルーティングに使用するインフラストラクチャ

MCU

MCU（マルチポイント コントロール ユニット）はポート割り当てに応じて同時に多数の会議をホストできる会議ブリッジです。参加者がダイヤルインすることも、MCU により参加者にダイヤルアウトすることもできます。Cisco TMS は以下をサポートしています。

次のタイプの MCU。

- Cisco TelePresence Server
- Cisco TelePresence MCU シリーズ
- Cisco TelePresence MPS
- 管理対象外ブリッジ

新しいテレプレゼンス展開の場合は、最適なパフォーマンスを達成するために、TelePresence Server を使用することをお勧めします。

スケジュール済み会議で優先的に使用する MCU Cisco TMS のタイプは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [ルーティングでの優先 MCU タイプ（Preferred MCU Type in Routing）] で指定できます。

ルーティングで MCU を使用するタイミングは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [ルーティングでの外部 MCU の使用（External MCU Usage in Routing）] で指定できます。

Cisco TMS に類似の MCU が複数ある場合、MCU は会議参加者が属するゾーンと、会議のシステムの機能セットに基づいて選択されます。イマーシブ システムを含む会議は、Cisco TelePresence Server または [イマーシブ（Immersive）] として設定された管理対象外ブリッジ（使用可能な場合）を使用します。そうでない場合は、任意の MCU を Cisco TMS で選択できます。

Cisco TMS では、SIP トランキング ブリッジと H.323 ゲートキーパーまたは SIP レジストラに登録されたブリッジの両方のスケジューリングがサポートされます。

Smart Scheduler などの Cisco TMSBA に依存する内線を使用して予約する場合、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] でデフォルトの会議設定を変更することはできません。

番号の割り当て

Cisco TMS は、会議をルーティングするときに、次のように、割り当てられた範囲内のランダムな番号を会議に割り当てます。

1. Cisco TMS は、会議の前後 4 時間（会議の開始時刻の 4 時間前から会議の終了時刻の 4 時間後まで）、新しい会議と編集された会議両方で使用されない番号またはエイリアスを見つけようとします。
2. Cisco TMS は、[延長会議モード（Extend Conference Mode）] の設定に関係なく、会議の前後 4 時間をチェックします。
3. その時間内に使用されない番号またはエイリアスが見つからない場合、Cisco TMS は、2 時間、1 時間、45 分、30 分、15 分と徐々に対象時間を短くして未使用の番号またはエイリアスを探し、最終的には会議の間だけ一意になる番号またはエイリアスを使用します。

これは他の番号が使用できない場合を除き、連続的な会議が同じ番号またはエイリアスで割り当てられないようにするためであり、これによって参加者が前の会議にダイヤルするリスクがなくなります。

定期的な予約の場合、Cisco TMS は該当予約すべてに同じ番号またはエイリアスを使用します。定例会議の 1 つのインスタンスが編集されると、この 1 つの例外オカレンスで別のダイヤルイン番号を取得できます。

これは、可変エイリアス パターンが使用される場合、TelePresence Conductor の背後にあるブリッジにも適用されます。

マネージド MCU のみ

それぞれの MCU ポートに番号（最初のポートは 1 から開始するなど）、およびエイリアス（SIP URI/H.323 ID/E.164 エイリアス）が Cisco TMS により付与されます。最初の数字とステップは、[拡張設定（Extended Settings）] で MCU ごとに設定できます。定期的な予約の場合、Cisco TMS は該当予約すべてに同じポート番号を使用します。

Cisco TMS はブリッジからポート番号を読み取ります。SD 品質であるか、HD 品質であるかは認識しません。この方法で区別するには、TelePresence Conductor を使用することをお勧めします。

分散（Distribution）

管理者は、コストや帯域幅の削減、あるいは最高品質の実現のために、複数の MCU を経由するルーティングを計算するように Cisco TMS を設定できます。これは、カスケードと呼ばれます。「分散（ルーティング モード）（165 ページ）」を参照してください。

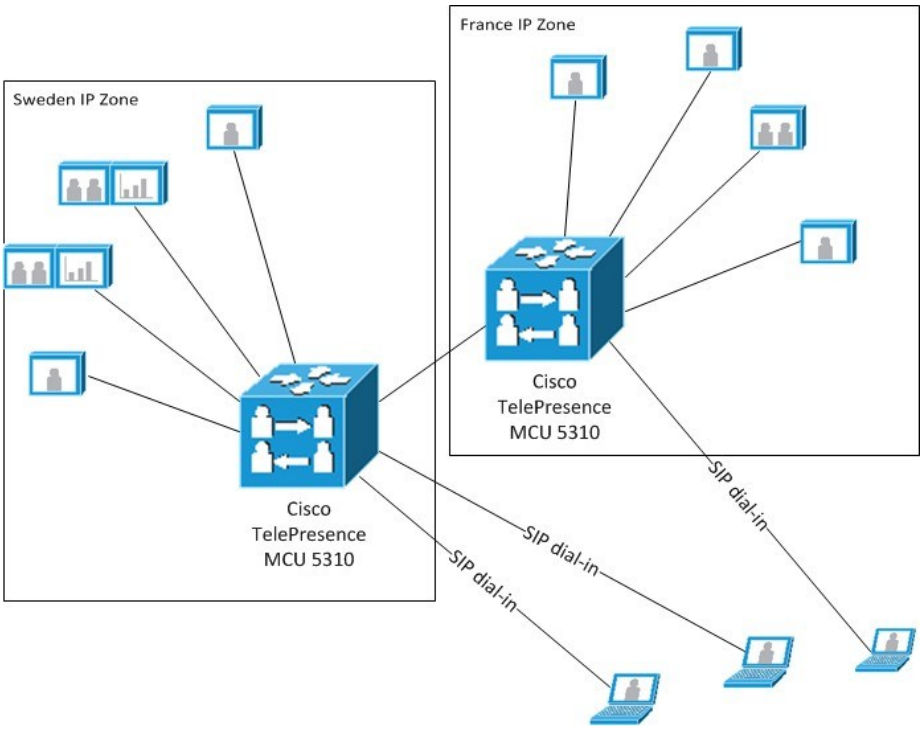
Cisco TMS が 1 つの MCU にすべての参加者を収容できない場合、予約の際にエラー メッセージでユーザに通知します。カスケーディングが自動的に実行されないからです。ユーザは、複数の MCU でコールをカスケードするために、「ベスト インプレッション」分散と「最小コスト」分散のいずれかを選択する必要があります。このため、カスケーディングは、Cisco TMS 予約インターフェイスを使用して予約する場合にのみ使用できます。Cisco TMSBA を使用してカスケードすることはできません。Cisco TMS で進行中の会議に MCU をカスケードすることはできません。

分散に関しては、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [ルーティングでの優先 MCU タイプ（Preferred MCU Type in Routing）] の設定は無視されることに注意してください。

カスケーディングを手動で設定する場合に異なるモデルの MCU をカスケードで使用することは、Cisco TMS ではサポートされていません。

分散型会議を予約すると、すべての MCU が、異なる会議ダイヤルイン番号を生成し、そのすべてが参加者への確認メールに含まれます。最初の MCU で使用可能なポートの番号に一致する参加者の番号がダイヤルインされると、次にダイヤルインする参加者はエラー メッセージを受け取り、リストの次のダイヤルイン番号をダイヤルする必要があります。

次の図は、2 つの MCU 上でカスケードされた会議を示しています。



次の点に注意してください。

- ダイヤルインには指定 IP ゾーンがありません。
- TelePresence Server は、TelePresence Conductor の背後にある場合にのみカスケードをサポートします。ローカルに管理される TelePresence Server は、カスケーディングをサポートしません。
- 外部参加者として Cisco TMS に追加されたブリッジ、部屋（現在は管理対象外エンドポイント）、電話帳エントリは、カスケードの作成時に含められません。

Cisco TelePresence Conductor

MCU の前に Cisco TelePresence Conductor を使用する場合、Cisco TMS は会議で使用する MCU を TelePresence Conductor が決定することを許可します。

管理対象外ブリッジ

Cisco TMS は、各管理対象外ブリッジ ポートに番号（1 から始まる連番）を割り当てます。ブリッジに設定されている最初のアドレスはポート番号 1 です。次のアドレスはポート番号 2 です。定期的な予約の場合、Cisco TMS は該当予約すべてに同じポート番号を使用します。

管理対象外ブリッジは常に、主要参加者を選択するときの最も優先順位が低いブリッジです。ただし、会議に 1 つ以上のマルチスクリーン参加者が含まれている場合を除きます。この場合、[イマーシブ（Immersive）] として設定された任意の管理対象外ブリッジが非イマーシブ ブリッジより優先されます。

このブリッジでは、参加者の管理対象外ブリッジへのダイヤルインをスケジュールすることしかできません。

Gatekeeper

2 つ以上のシステム間のルートを作成するときに Cisco TMS は、システムが登録されているゲートウェイが同じか、異なるかを調べます。

システムが同じゲートキーパーに登録されている場合

Cisco TMS は、各システムが相互にダイヤルできることを認識します。ゲートキーパーは Cisco TMS に登録されている必要はなく、TANDBERG Gatekeeper などのサポートされていないサードパーティまたはレガシー システムのゲートキーパーでも使用することができます。Cisco TMS は、ゲートキーパー IP アドレスの値が両方のシステムで同じであるかどうかを単に確認します。

システムが異なるゲートキーパーに登録されている場合

Cisco TMS は、2 つのシステムが相互にダイヤルできるかどうかを理解するために、ゲートキーパー間に関係があるかどうかを把握する必要があります。

ゲートキーパーが Cisco TMS に登録されている場合は、ゲートキーパーのネイバー ゾーンまたはクラスタ関係を調べ、相互にダイヤル可能かどうかを確認します。

ゲートキーパーが Cisco TMS にない場合は、ゲートキーパー間に関係がないとみなし、IP ダイヤリングを使用します。

ドメイン URL で IP ゾーンを設定している場合、Cisco TMS は相互にダイヤルするシステムにこれを使用できることを理解します。（「ゾーンのしくみ（38 ページ）」を参照してください。）

ISDN ゲートウェイ

ISDN ゲートウェイは、IP ネットワークが ISDN にコールアウトし、ISDN が IP ネットワークにコールインできるようにします。

ゲートウェイは、Cisco TMS に追加する必要はありません。そのゾーンのいずれのプレフィックス システムが ISDN にダイヤルする必要があるかを Cisco TMS が把握するように、単に IP のゾーンにゲートウェイ情報を追加するだけです。（「ゾーンのしくみ（38 ページ）」を参照してください）。

Cisco TelePresence MCU の拡張設定 DID マッピング

Cisco TMS の 1 つの Cisco TelePresence MCU の設定では、直接着信ダイヤル（DID）マッピングを実施して、スケジュール済み会議の ISDN ダイヤルインとして Cisco TMS が使用できる DID 番号のリストを作成できます。Cisco TMS は、この MCU 上の会議にすでに設定されている E.164 エイリアスと番号を照合します。これは、TCS4 ダイヤルインを使用する代わりに、予約された会議の ISDN ダイヤルイン番号を生成できることを意味します。

DID マッピングを設定しない場合は、IP ゾーンのゲートウェイのダイヤルイン ISDN 番号を設定できます。Cisco TMS は、ゲートウェイの ISDN 番号に * を加えてダイヤルインを作成し、その後に参加予定の会議のエイリアスを作成します。

Cisco Unified Communications Manager

システムが Unified CM によってプロビジョニングされ、Cisco VCS へのトランクがある場合、Cisco TMS は次のようになります。

- システムで H.323 がサポートされている場合でも、システムに対して H.323 を使用しません。
- システムに対して IP ダイヤルを使用しません。

- Unified CM と Cisco VCS 間のトランクが正しく設定されているかどうかを確認できません。Cisco TMS は、それ自体が正しく機能することと、Cisco VCS と Unified CM が相互に相手にコールをルーティングできることを想定します。
- 常に Unified CM を通過するコールの末尾に最上位レベル ドメインを付加します。Cisco VCS がこの種のダイヤル プランと番号付け方式を受け入れることを確認してください。

ゾーンのしくみ

IP ゾーンと ISDN ゾーンは、システムの接続先ネットワークを Cisco TMS に認識させるために使用する管理上定義された概念ですこの機能により、ユーザは、通話が可能であるかどうか、どの数字をプレフィックスや電話コードに追加する必要があるか、またはどのネットワーク プロトコルを使用するかについて自分で解決する必要がなくなります。

インストール時に、Cisco TMS は IP ゾーンと ISDN ゾーンをともに「デフォルト（Default）」という名前で作成します。単一の場所に収まらないネットワークを設定するには、インストール後により多くのゾーンを追加する必要があります。管理者は、自分のネットワークを表すゾーンを定義し、Cisco TMS のシステムはこれらのゾーンに関連付けられます。

- 同じ IP ゾーンのシステムは、Cisco TMS によって予約されている場合、デフォルトでは常に IP を使用して接続します。
- ある場所のシステム間で ISDN だけを使用する場合は、それらのシステムを ISDN ゾーンの一部にする必要があります。
- ISDN で接続しないシステム（ゲートウェイを介したものを除く）は、ISDN ゾーンの一部にしないでください。

Cisco TMS のゾーンにより、システムおよび MCU は、次の場合に、正しい国際ダイヤル コード、プロトコル、および通信技術を使用できるようになります。

- 国（同じ国内の市外局番）の間で ISDN を使用するとき。
- システムで IP を使用するか ISDN を使用するかを選択するとき。
- ISDN ゲートウェイ使用時に IP システムの正しいプレフィックスを挿入するとき。

ISDN ゾーン

ISDN ゾーンは、ある場所の ISDN ネットワークを定義します。場所は、すべてのシステムが同じ ISDN ダイヤル動作を共有する領域です。場所を建物ほど小さくすることもまたは都市全体や国ほど大きくすることもできますが、ゾーンに割り当てられているすべてのシステムが次の ISDN ダイヤル情報を共有する必要があります。

- [国/地域（Country/Region）]：使用するダイヤル ルールを定義します。たとえば、国際コールの場合に、011 と 00 のどちらをダイヤルするかを定義します。
- [市外局番（Area code）]：Cisco TMS が長距離通話を判断できるようにします。
- [回線プレフィックス（Line prefixes）]：プレフィックス番号を定義します。PBX から外部回線にアクセスするためにダイヤルする「9」などです。
- [内部通話用のダイヤルの桁数（Digits to dial for internal calls）]：同じ ISDN ゾーンのシステム間でコールを行うときにダイヤルする桁数。たとえば、PBX を使用していれば、2 つのローカル システム間でダイヤルする必要があるのは最後の 4 桁のみの場合があります。
- [市外局番のルール（Area Code Rules）]：市内および長距離通話に関する Cisco TMS のダイヤル動作をさらに調整するために使用します。

ネットワークを表すために必要な ISDN ゾーンの個数は、存在する異なる ISDN ダイヤル動作の数によって異なります。システムが上記プロパティに同じ設定を共有する場合は、同じ ISDN ゾーンを共有できます。

Cisco TMS のすべての ISDN 番号は「完全修飾番号」として保存されます。番号は国番号を含む完全な番号として、入力され、表示されます。たとえば、米国の電話番号は + 1 555 7094281 と表示され、ノルウェーの電話番号は +47 67125125 のように表示されます。Cisco TMS（ISDN ゾーン付き）は、管理する任意のシステムが正しくダイヤルできるように番号を変更する方法を知っているため、世界中のすべてのシステムが同じ番号を使用できます。詳細については、「ISDN ゾーンの設定（40 ページ）」を参照してください。

IP ゾーン

IP ゾーンは次の 2 つの役割を実行します。

- IP ネットワークの地域性の概念を作成する。
- ゲートウェイおよび URI ダイヤルを使用して IP ネットワークから接続するための情報を提供する。

IP ゾーンは、純粋な論理エンティティで、必ずしも、ネットワーク セグメントの物理的な境界にマッピングされません。Cisco TMS は、いずれのシステムが互いに近いまたはローカルであると見なすことができるかを決定するために IP ゾーンを使用します。これは、たとえば、MCU の選択（ローカル MCU が優先される可能性があります）に影響します。IP ゾーンは、システムの接続先ネットワークに関するゲートウェイおよびダイヤル情報も提供します。組織にサイト間の広範囲 IP 接続がなく、特定の接続時に ISDN を使用することを優先する場合には、IP ゾーンはこのための制御も提供します。詳細については、「IP ゾーンの設定（39 ページ）」を参照してください。

IP-ISDN-IP コール

これらの通話は 2 つのゲートウェイを通過し、他の通話に比べ、より低い接続成功率およびより低い品質になる場合があります。低い通話品質が原因で、IP-ISDN-IP 通話は最も低い優先順位の通話ルートになります。

ただし、ISDN 帯域幅のないシステム間では IP-ISDN-IP 通話が唯一の通話代替手段である可能性があります。

[これらの IP ゾーンに対して IP 通話より ISDN を優先（Prefer ISDN over IP calls to these IP Zones）] が定義され、どのシステムにも ISDN 帯域幅がない異なる IP ゾーンにある 2 つのシステム間でコールを発信する場合、ゾーンに対して [IP-ISDN-IP を許可（Allow IP-ISDN-IP）] を有効にして、Cisco TMS がゾーンに定義されている ISDN ゲートウェイを介してコールを接続することにより IP コールを許可できるようにする必要があります。この設定を有効にしないと、コールは Cisco TMS で許可*されません*。

前提条件

Cisco TMS で IP-ISDN-IP ルーティングを使用するには、ISDN ゲートウェイが TCS-4 デリミタとして * を使用するように設定されている必要があります。これは多くのゲートウェイでデフォルト設定ですが、一部では変更または設定が必要になることがあります。

TCS-4 ダイヤルの詳細については、ISDN ゲートウェイのマニュアルを参照してください。

IP のゾーンの設定

IP ゾーンを設定する場合は、ゲートウェイを使用するためにダイヤルするプレフィックスを指定します。ゲートウェイを直接指定する代わりにプレフィックスを指定すると、負荷分散ゲートウェイや、Cisco TMS でサポートされていないゲートウェイでも使用できる柔軟性が Cisco TMS にもたらされます。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [IP ゾーン（IP Zones）] に移動します。
2. [新規（New）] をクリックします。

3. 次の表で説明されているフィールドに入力します。

表 6 IP ゾーンの設定

セクションおよびフィールド	説明
IP ゾーン（IP Zone）	
名前（Name）	IP のゾーン名を設定します。
ゲートウェイ リソース プール（Gateway Resource Pool）	
ISDN ゾーン（ISDN Zone）	次のゲートウェイ プレフィックスがいずれの ISDN のゾーンを使用するか指定します。この設定が指定されていない場合はゲートウェイ リソース プールが正しく機能しないことに注意してください。
URI ドメイン名（URI Domain Name）	Cisco TMS は、この設定が入力された 2 つの場所の間で、URI ダイヤルを常に使用し、このページの下部で定義された IP/ISDN プリファレンスを無視します。
ゲートウェイ自動プレフィックス（Gateway Auto Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンからビデオ ISDN 番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ゲートウェイ電話接続のプレフィックス（Gateway Telephone Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンからオーディオ ISDN 番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ゲートウェイ 3G 接続のプレフィックス（Gateway 3G Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンから 3G 携帯電話番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ISDN ダイヤルイン番号（Dial-in ISDN Number）	これらの番号は、Cisco TMS が通話のルーティングを行う場合に +15551231234*99999 のような TCS-4 番号を生成するために使用します。 – PSTN から IP ゾーンへ。 – 3G ネットワークから IP ゾーンへ。 設定が保存されると、これらの番号は、両方とも認定番号として示されます。
3G 用 ISDN ダイヤルイン番号（Dial-in ISDN Number for 3G）	
IP-ISDN-IP を許可（Allow IP-ISDN-IP）	IP-ISDN-IP 通話を許可し、2 台の異なるゲートウェイで実行するにはチェックをオンにします。詳細については、「IP-ISDN-IP コール（39 ページ）」を参照してください。
これらの IP ゾーンに対して IP 通話より ISDN を優先（Prefer ISDN over IP calls to these IP Zones）	以下の IP ゾーンのリスト。 – ISDN が IP よりも優先される。 – IP が ISDN よりも優先される。 リストは、IP ゾーン間の通話をスケジュールする場合に使用されます。リスト間でゾーンを移動するには、項目を選択し、矢印ボタンをクリックします。
これらの IP ゾーンに対して ISDN より IP 通話を優先（Prefer IP calls over ISDN to these IP zones）	

1 つ以上のシステムでのゾーンの設定

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [IP ゾーン（IP Zones）] に移動します。
2. リストの IP ゾーン名にマウスのカーソルを合わせ、ドロップダウン メニューを使用して、[システムに設定（Set On Systems）] を選択します。
3. この特定の IP ゾーンに関連付けるシステムを選択します。
4. [保存（Save）] をクリックします。

ISDN ゾーンの設定

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）] に移動します。
2. [新規（New）] をクリックします。

3. 次のフィールドに入力します。

表 7 ISDN ゾーンの設定

セクションとフィールド	説明
一般	
ISDN ゾーン名（ISDN Zone Name）	ISDN ゾーンの名前。
国/地域（Country/Region）	このゾーンが位置する国。これにより Cisco TMS は正しい国番号と国際ダイヤル プレフィックスを選択できるようになります。
市外局番（Area Code）	この ISDN ゾーンが位置する市外局番。これにより Cisco TMS は正しい市外局番ルールを選択できるようになります。
回線（Line）	
外線にアクセスして市内電話をかける場合にダイヤル（To access an outside line for local calls, dial）	この ISDN ゾーンの外線を取得するために必要なプレフィックス。
外線にアクセスして長距離電話をかける場合にダイヤル（To access an outside line for long distance calls, dial）	この ISDN ゾーンの長距離電話の外線を取得するために必要なプレフィックス。
内部通話（Internal Calls）	
内部 ISDN 通話に使用するための桁数（Number of digits to use for internal ISDN calls）	ゾーンのシステム間での内部ダイヤルに使用される桁数。番号の最初の桁は、この ISDN ゾーンのシステム間でダイヤルするときに番号から削除されます。

例

ストックホルムのスウェーデンの電話番号は、次のように構成されています。

国コード（`+46`）、市外局番（`08`）、市内番号（`12345678`）

次に、ダイヤリング パターンは、次のようにする必要があります。

- ストックホルム内から：市内番号 `12345678` だけをダイヤルします。
- ヨーテボリから（国内、市外局番外）：`08 12345678` をダイヤルします。
- スウェーデン国外から：`+46 8 12345678` をダイヤルします。

8 の前の 0（市外局番）は、外国からこの番号にダイヤルする場合には除外する必要があります。したがって、これは市外局番の一部ではなく、市外局番間でダイヤルするためのプレフィックスとみなされます。

システムは、ISDN 市内番号 12345678 だけで設定し、ISDN ゾーンで正しい市外局番および国番号を設定する必要があります。ISDN のゾーンでは、市外局番は 8 だけとして保存する必要があります。これは、Cisco TMS が、スウェーデンの市外局番の間でダイヤルする場合に 8 の前に 0 を追加し、スウェーデン外からダイヤルする場合に、+46 を追加するためです。

これらのルールには、いくつかの例外がありますが、Cisco TMS は、これらの例外を実装するように設定されます。

- ノルウェーなどの一部の国では市外局番を使用しません。そのため、これらの国では、ISDN ゾーンの市外局番フィールドを空のままにする必要があります。有効な番号の例は、+47 12345678 です。
- イタリアなどの他の国々では、国外からダイヤルする場合でも、市外局番の先頭に 0 を付けます。つまり、イタリアの ISDN ゾーンでは、市外局番の先頭に 0 を付ける必要があります。有効な番号の例は +39 02 12345678 です。
- 市外局番内でダイヤルする場合と国内でダイヤルする場合には市外局番の先頭に 0 を付けるが、外国からダイヤルする場合は先頭の 0 を除外する国もあります（スイスなど）。Cisco TMS は、これを認識するように設定します。つまり、スイスの ISDN ゾーンの市外局番では、先頭に 0 がない市外局番だけを指定します。例：+ 41 33 1234567 および 033 1234567。

市外局番のルールの作成

市外局番のルールは、10 桁のダイヤルと市外局番のオーバーレイを設定するために、一般に、米国で使用される ISDN ゾーンに追加されます。市外局番のルールは、ある市外局番（その場所に設定された市外局番）から他の市外局番に ISDN 番号をダイヤルする方法を決定します。

米国の電話番号（+1（123）456-7890 など）で、市外局番はカッコ内の数字（123）であり、プレフィックスは番号 456 です（この例の場合）。

ある場所の市外局番のルールを追加または編集するには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）] に移動します。
2. 既存のゾーンをクリックして、そのゾーンを表示します。または、[新規（New）] をクリックし、上記の手順に従って、新しいゾーンの作成を開始します。
3. ISDN ゾーンの市外局番に対する既存のルールの概要を開くには、ISDN ゾーンを表示または編集するときに、[市外局番のルール（Area Code Rules）] をクリックします。
4. 既存のルールをクリックするか、[新規（New）] をクリックして新しいルールの作成を開始します。
5. 次のフィールドに値を入力します。

表 8　市外局番ルールの設定

フィールド	説明
この市外局番から以下の市外局番へダイヤルする場合（When dialing from this area code to the following area code）	このルールを適用する必要がある市外局番を指定します。たとえば、555 をダイヤルするたびにルールを適用する場合は、このフィールドに [555] と指定します。
次のプレフィックスを指定（With the following prefixes）	プレフィックスは、基本番号の最初の 3 桁です。上のフィールドの市外局番に発信されたすべてのコールにルールを適用する場合は空白のままにします。
市外局番を含む（Include Area Code）	コールに上で指定した市外局番を含むルールにする場合は、これをオンにします。米国では、10 桁ダイヤルをイネーブルにするためにチェックします。
ダイヤルの前に次をダイヤル（Before dialing, also dial）	この市外局番ルールにより作成されたダイヤル文字列の前に（上記の最初の 2 個のフィールドで指定された市外局番とプレフィックスの前に）含める文字列をここに入力します。
外部回線のためのストリップ桁（Strip digits for zone's local outside line access）	ダイヤルする番号から外部回線プレフィックス（[管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）] > [回線（Line）] セクションで設定）を削除するにはオンにします。

6. [保存（Save）] をクリックします。

市外局番のルールを使用する場合、ISDN ゾーンのプレフィックスは引き続き使用されますが、国内のダイヤル動作（1 の挿入など）は、Cisco TMS で無視されます。

1 つ以上のシステムでのゾーンの設定

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）] に移動します。
2. ゾーンにマウスのカーソルを合わせ、プルダウン矢印を使用します。[システムに設定（Set on System）] をクリックします。
3. この特定の ISDN ゾーンに関連付けるシステムを選択します。
4. [保存（Save）] をクリックします。

システム管理の概要

この章では、管理することができるさまざまなシステムの種類を示し、それらの各種管理方法と、組織のネットワークの内外にあるシステムと Cisco TMS が通信する方法について説明します。

サポートされるシステム 43
Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法 44
インフラストラクチャ システム 45
ファイアウォール/NAT の背後にあるシステム 46
Cisco TMS へのシステムの追加方法 47
Cisco TMS が管理対象システムと通信する方法 48
永続設定のしくみ 51

サポートされるシステム

Cisco TMS によってサポートされるシステムの種類

テレプレゼンス配置のすべてのシステムが Cisco TMS に追加できます。

- TelePresence エンドポイント
- Cisco VCS およびレガシー ゲートキーパー
- MCU および TelePresence Server
- Unified CM、Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050 などのマネージャ システム
- Cisco TelePresence Conductor
- ゲートウェイ
- Content Server および Recording Server

Cisco TMS または Cisco TMSPE によって直接サポートされていないエンドポイントまたはブリッジは、管理対象外エンドポイントまたは管理対象外ブリッジとして追加することができます。こうしたシステムでは、Cisco TMS はシステムの制御はできませんが、予約を可能にします。

システム ロケーション

Cisco TMS に追加されたすべてのシステムには、ネットワーク上の場所に基づいてシステム接続ステータスが提供されます。この分類によって、システムが使用できる Cisco TMS の機能が決まります。

- 組織のネットワーク上のシステムには、最も広範な管理サポートが提供されます。インフラストラクチャ システムは、組織のネットワーク上に配置する*必要があります*。これらのシステムの接続性は、[LAN で接続可能（Reachable on LAN）] と報告されます。
- パブリック ネットワーク内のエンドポイントの動作は、組織のネットワーク上のエンドポイントと同じです。このシステムの接続性は、[パブリック インターネット上で接続可能（Reachable on Public）] として表されます。
- ファイアウォール/NAT の背後にあるエンドポイントでは、予約、ソフトウェア アップグレード、電話帳、およびレポートがサポートされます。これらのシステムのシステム接続は、[ファイアウォールの背後（Behind Firewall）] として報告されます。
- Cisco TMS で到達可能でないシステムが予約でサポートされていることがあります。このようなシステムのシステム接続ステータスは [アクセス不可（Inaccessible）] です。

Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法

Cisco TMS がエンドポイントを管理する方法および使用できる機能は、追加方法によって異なります。

- エンドポイントを直接 Cisco TMS に追加すると、システムを最も広範に制御できます。
- Cisco TMSPE を使用してエンドポイントをプロビジョニングしても、エンドポイント自体は Cisco TMS に追加されません。
- すでに Unified CM に登録されているエンドポイントを Cisco TMS に追加すると、提供される管理オプションは限定されます。
- Cisco TMS によって直接サポートされていないシステムでは、通常、管理対象外エンドポイントとしてエンドポイントが追加されます。

Cisco TMSPE プロビジョニングを除くすべての管理モードで、エンドポイントは Cisco TMS で予約可能になります。

Cisco TMS による制御

他のアプリケーション管理層なしで Cisco TMS に追加されたシステムは、ほとんどのサービスを使用できます。

- Cisco TMS Web インターフェイスからシステム設定を表示および編集します。
- 設定をバックアップおよび復元します。
- システムのローカルな変更が定期的に上書きされるように永続テンプレートを使用します。
- 問題がある場合に Cisco TMS でシステムに発行されるチケットを取得します。
- ソフトウェアをアップグレードします。
- 電話帳を使用できるようにします。
- 会議制御センターを使用して会議をモニタします。
- システムの使用状況に関するレポートを取得します。
- 会議の参加者としてシステムを予約します。

Cisco TMS で制御されるシステムの追加については、「システムの追加（53 ページ）」を参照してください。

Cisco TMSPE によるプロビジョニング

次の機能は、Cisco TMSPE でプロビジョニングされているシステムで使用できます。

- ソフトウェア アップグレード
- 電話帳（Cisco TMS 制御システムとは異なる方法で機能します）
- 限定された会議制御/モニタリング
- レポート（ユーザ CDR）

これらのシステムは、会議の参加者として予約できないことに注意してください。

また、プロビジョニングされた後でもエンドポイントを Cisco TMS に追加することはできますが、これは推奨されていないことに注意してください。正規の電話帳の処理は行えず、管理設定を適用するオプションはディセーブルです。

詳細については、「プロビジョニング（132 ページ）」を参照してください。

Unified CM 登録

次の機能セットが、Cisco TMS に追加される前に Unified CM に登録されたシステムで使用できます。

- 予約
- 設定の表示
- 会議制御センター
- 電話帳
- チケット

Unified CM に登録されたシステムでは、ログが少なくなり、Cisco TMS から使用できるロギング情報も少なくなります。

システムがサポートされていることを確認する方法、および Cisco TMS にシステムを追加する方法については、「Unified CM および登録されたエンドポイントの追加（57 ページ）」を参照してください。

管理対象外エンドポイント

サポートされていないシステムを管理対象外エンドポイントとして追加すると、Cisco TMS でそのシステムを予約できるようになりますが、他の機能にはアクセスできません。

これらのシステムを追加する手順については、「システムの追加（53 ページ）」を参照してください。

管理モードの変更

Cisco VCS から Unified CM へコール制御インフラストラクチャを移行する管理者のために、Cisco TMS では、Unified CM から追加されるシステムは Cisco TMS によってすでに管理されていると解釈します。

Cisco TMS によって直接管理されているシステムを Unified CM に登録し、その後 [システムの追加（Add Systems）] > [リストから（From List）] > [Unified CM] を使用して Cisco TMS にインポートした場合、Cisco TMS は、これら 2 つのシステムが実質的に同じであると認識し、元のシステムを Unified CM 登録済みシステムで置き換えます。このため、すべての CDR と以降の会議に関するデータは保持されます。

エンドポイントの移行後は、[会議の診断（Conference Diagnostics）] を実行する必要があります。

インフラストラクチャ システム

コール制御と会議用のインフラストラクチャ システムは次でサポートされています。

- 設定の表示および編集
- レポート
- モニタリング
- 予約
- チケット

インフラストラクチャ システムを NAT/ファイアウォールの後ろに置くことはできないことに注意してください。これらは、組織のネットワーク内に含まれている必要があります。

事前登録も、インフラストラクチャ システムではサポートされません。

予約

MCU や TelePresence Server などのインフラストラクチャ システムの予約は自動的に処理されます。ユーザは、MCU をアクティブに追加する必要はありませんが、そうすることもでき、自動 MCU 選択を変更することもできます。

TelePresence Conductor や TelePresence Content Server のようなシステムの予約への追加は任意です。

予約（Reservation）

MCU またはゲートウェイが会議タイプ [予約（Reservation）] で予約されている場合、そのユニットのすべてのポートとリソースが予約され、スケジュール時間の間、そのユニットはそれ以上の予約に使用できなくなることに注意してください。

モニタリング（Monitoring）

Cisco TMS は、3 分ごとにポーリングすることによって、インフラストラクチャ システムのステータスを継続的にモニタします。Cisco TMS がシステムをポーリングする方法の詳細については、「TMSDatabaseScannerService（20 ページ）」を参照してください。

ソフトウェア バージョン

Cisco TMS インターフェイスからのインフラストラクチャ システム ソフトウェアのアップグレードはできません。

インフラストラクチャ システムのソフトウェアが以前のバージョンにダウングレードした場合、Cisco TMS が正しく設定を読み込めない可能性があります。システムを Cisco TMS から消去し、ダウングレード後に再度追加することで、この問題は解決できます。

ファイアウォール/NAT の背後にあるシステム

ファイアウォールまたは NAT の背後にあるシステムは、予約、ソフトウェア アップグレードの入手、電話帳の受信をサポートし、Cisco TMS で作成された統計情報の一部になります。

15 分ごと、および起動時に、これらのシステムはキープアライブ信号を送信し、Cisco TMS はこの信号に応答します。Cisco TMS は、こうした交換以外でシステムに接続することはできません。したがって、リモート エンドポイントのシステム ステータス情報は制限されます。

Unified CM

Unified CM 登録システムはファイアウォールまたは NAT の背後に配置してはいけないことに注意してください。

予約

いくつかの制約事項が、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントを含む会議の予約時に適用されます。

- Cisco TMS では、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントからダイヤルアウトできません。したがって、エンドポイントにダイヤルするか、エンドポイントを操作している人が会議に手動でダイヤルインする必要があります。
- [自動接続（Automatic Connect）] としてファイアウォールの背後に複数のエンドポイントがある会議を予約する場合は、その会議に、組み込み型マルチサイト サポートの MCU またはローカル エンドポイントを含める必要があります。[自動接続（Automatic Connect）] によるポイントツーポイント会議は、ファイアウォール/NAT の背後にある 2 台のシステムでは機能しませんが、エンドポイントのいずれかがローカルであれば、想定どおりに機能します。

統計情報およびモニタリング

HTTP フィードバックを Cisco TMS に送信することにより、LAN にあるシステムの場合と同様に、リモート システムの統計情報およびモニタリングが機能します。

- ステータスおよび詳細なコール情報（**status.xml** および **history.xml**）は 15 分ごとに Cisco TMS に送信されます。
- システムの設定（**configuration.xml**）に対して行われた変更もキープアライブ信号とともに 15 分ごとに送信されます。

ファイアウォールの背後にあるシステムのアドホック コールは、コールに関する情報を取得するために TMSLiveService がシステムに接続できないため表示されません。詳細については、「TMSLiveService（20 ページ）」を参照してください。

ソフトウェア アップグレード

ファイアウォール/NAT の背後のシステム用にアップグレードをスケジュール設定した場合、次のようになります。

1. Cisco TMS は、アップグレードが成功したとレポートしますが、アップグレードは保留されています。
2. Cisco TMS がシステムから次のブート イベントを受信すると、システムはアップグレードがスケジュールされたという通知を受信します。ブート イベントへの応答で、Cisco TMS はエンドポイントにソフトウェア パッケージを取得できる URL を送信します。

   この URL は、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [一般的なネットワーク設定（General Network Settings）] ペイン > [ソフトウェア パッケージをダウンロード可能な URL（URL Where Software Packages Can Be Downloaded）] で定義されます。

アップグレードの手順については、「Cisco TMS 管理対象エンドポイントのアップグレード（64 ページ）」を参照してください。

電話帳

社内電話帳はシステムが LAN 上にある場合と同様に機能します。エンドポイントは、Cisco TMS からの電話帳情報を要求し、応答が検索結果として返されます。

レガシー グローバル電話帳の形式は、リモート システムではサポートされません。

設定テンプレート

リモート システムの場合、システムを Cisco TMS に追加することで構成テンプレートを適用できます。変更された場合は、更新後 15 分以内に適用されます。

設定のバックアップと復元

設定のバックアップおよび復元イベントも、エンドポイントからのキープアライブ信号への応答としてスケジュールされ、実行されます。

リモート システムの設定バックアップのサポートには、次の制限事項があることに注意してください。

- [ナビゲータ(Navigator)] の [設定の比較(Compare Settings)] タブは使用できません。
- [バックアップ/復元の活動状況(Backup/Restore Activity Status)] リストのステータスは正確ではありません。

システムの交換

システムの置換機能は、リモート システムでは使用できません。システムの置換の詳細については、「システムのスワップ(63 ページ)」を参照してください。

Cisco TMS へのシステムの追加方法

Cisco TMS がシステムを正常に追加すると、システムが Cisco TMS と通信するために必要な管理設定は自動的に実行されます。

これは、管理対象外のブリッジと管理対象外のエンドポイント、および Cisco TMSPE でプロビジョニングされたシステム(Cisco TMS に追加されていないシステム、以下を参照)を除くすべての種類のシステムに適用されます。

IPv6 を介して Cisco TMS(.asmx アドレス)で Web サービスにアクセスしているときに、Windows サーバで**無効な** `URI` エラーを受信した場合は、.net フレームワークをバージョン 4.6 にアップグレードしてこのエラーを修正します。

自動検出

ネットワークの新しいシステムは、次の 2 通りの方法で検出されます。

- HTTP を通じたブートおよび登録イベントは、Cisco TMS によって検出されます。
- TMSSnmpService は、ネットワークで SNMP 対応システムをスキャンします。

[システムの自動検出モード(Automatic System Discovery Mode)] 設定は、検出されたシステムに対して実行される内容を制御します。

- この設定を有効にすると、スキャン中に検出されたシステムが選択したフォルダに追加されます(デフォルトでは [検出されたシステム(Discovered Systems)] に追加されます)。デフォルト設定も、適用される場合があります。
- 無効にすると、検出されたシステムは Cisco TMS で利用可能なシステムのリストに表示されますが、追加されません。[システムの追加(Add Systems)] > [一覧から(From List)] に移動することによって、これらのシステムは手動で追加できます。

Cisco TMS は、どのフォルダ内にも存在しないシステムを、削除されている(ただし消去されていない)ものと解釈します。システムの自動検出をイネーブルにしたが、検査されたシステムに対してデフォルト フォルダの設定がない場合、システムは、検出がディセーブルである場合と同様に扱われます。

また、Unified CM を Cisco TMS に追加する場合、FQDN (完全修飾ドメイン名)を常に追加します。Cisco TMS は、Unified CM がクラスタ内にある場合に、特に Unified CM と正常に通信できます。

デフォルトでは、[システム自動検出モード(Automatic System Discovery Mode)] と [ファイアウォール/NAT の背後にあるエンドポイントのシステム自動検出(Automatic System Discovery for Endpoints Behind a Firewall/NAT)] はどちらも無効になっています。

手順については、「自動検出の使用(54 ページ)」を参照してください。

手動による追加

システム自動検出が無効な場合、または追加しているシステムのタイプに対応していない場合は、IP アドレス、IP 範囲、または DNS 名を手動で入力して、Cisco TMS コントロール用のシステムを追加できます。永続構成テンプレートは、このプロセス中に適用できる場合があります。

管理対象外のブリッジと管理対象外のエンドポイントも Cisco TMS に手動で追加する必要があります。自動設定はサポートされていないシステムでは使用できないため、これらのシステムの設定は、各ユニットに対して手動で行う必要があります。

この説明については、以下を参照してください。

- IP アドレスまたは DNS 名による追加、54 ページ
- 管理対象外ブリッジの追加、59 ページ
- 管理対象外エンドポイントの追加、60 ページ

Unified CM 経由

Unified CM が Cisco TMS に追加されると、Unified CM に登録された TelePresence エンドポイントのリストが使用できるようになります。管理者はこのリストを使用して、エンドポイントを Cisco TMS に追加し、管理を制限できます。

手順については、「Unified CM および登録されたエンドポイントの追加（57 ページ）」を参照してください。

プロビジョニング

Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能（Cisco TMSPE）を使用したプロビジョニングは、多くのエンドポイントを登録し、設定する最も柔軟でスケーラブルな方法として推奨されます。

このプロビジョニング モデルではエンドポイント自体は Cisco TMS に実際に追加されません。プロビジョニングはユーザベースであり、デバイスベースではありません。このことは、エンドポイントによって受け取られる設定が、エンドポイントにサインインするユーザによって異なることも意味します。

プロビジョニングのしくみの詳細については、*Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能導入ガイド* [英語] を参照してください。

事前登録

Cisco TMS でエンドポイントを事前登録することは、プロビジョニングに対する小規模なレガシー代替手段です。最大 10 個のエンドポイントを、任意のフォルダに対して一度に事前登録できます。

事前登録では、IP アドレス、MAC アドレス、またはレガシー システムの場合はシリアル番号を使用して、オンラインになったエンドポイントをすぐに認識して、Cisco TMS 制御のシステムとして追加し、事前登録時に指定したとおりに設定できます。

インフラストラクチャ システムは、事前登録できないことに注意してください。

手順については、「エンドポイントの事前登録（55 ページ）」を参照してください。

Cisco TMS が管理対象システムと通信する方法

Cisco TMS は、管理対象エンドポイントおよびインフラストラクチャ製品と通信する際に HTTP/HTTPS を使用します。さらに、一部の旧式のエンドポイント（Cisco TelePresence System MXP シリーズなど）との通信には SNMP および FTP が使用されます。

管理対象システムも、Cisco TMS への接続を開始します。こうした接続には、電話帳のリクエスト、起動イベントと登録イベント、ファイアウォール内のシステムからのハートビートなどがあります。したがって、Cisco TMS の各管理対象システムには、Cisco TMS との接続に使用される外部マネージャ アドレスを設定する必要があります。

Cisco TMS にアクセスするためにシステムが使用するアドレス

システムが Cisco TMS にアクセスするために使用するアドレスは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] に移動して指定します。

- [社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）] で指定した IPv4、IPv6、および完全修飾ホスト名アドレスは、[システムの接続性（System Connectivity）] が [LAN で接続可能（Reachable on LAN）] に設定されているシステムで使用されます。

- [パブリック インターネット/ファイアウォール外のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Public Internet/Behind Firewall)] で指定された完全修飾ホスト名または IPv4 アドレスは、[システムの接続性(System Connectivity)] ステータスが [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)] または [ファイアウォールの背後(Behind Firewall)] に設定されているシステムによって使用されます。

システムの接続性ステータス

システムの接続性ステータスは、Cisco TMS が管理するすべてのシステムのネットワーク ロケーションを定義します。このステータスは、システムを追加するときに管理者が設定する場合や、後の段階で手動で更新される場合、または Cisco TMS によって自動的に修正される場合があります。

使用可能なステータスは次のとおりです。

- [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。
- [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。
- [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。
- [ファイアウォールの背後(Behind Firewall)]:この代替手段はファイアウォール/NAT の背後にある可能性のあるエンドポイントでのみ表示されます。システムはパブリック インターネット上に接続可能なシステムと同じパブリック ネットワーク アドレス設定を使用します。

デフォルトでは、すべてのシステムが、[LAN で接続可能(Reachable on LAN)] に設定されます。

[システムの接続性(System Connectivity)] ステータスは、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [システムを選択(Select a system)] > [接続(Connection)] タブ > [システムの接続性(System Connectivity)] に移動して設定できます。

[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] > [システムのシステム接続性の更新(Update System Connectivity for Systems)] を使用して、Cisco TMS にシステムの接続性ステータスを自動的に変更させるかどうかを選択できます。[自動(Automatic)] に設定すると、Cisco TMS はステータスを変更します。[手動(Manual)] に設定すると、Cisco TMS は現在のステータスから変更しません。

管理設定の強制

[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] 設定が [管理ツール(Administrative Tools)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] > [TMS サービス(TMS Services)] で [はい(Yes)] に設定されている場合、Cisco TMS は定期的にシステムにサーバ情報をプッシュします。

- 完全修飾ホスト名(設定されている場合)または IP アドレス(完全修飾ホスト名が設定されていない場合)は、[システムの接続性(System Connectivity)] ステータスが [LAN で接続可能(Reachable on LAN)] に設定されたシステムにプッシュされます。
- [TMS サーバ アドレス(完全修飾ホスト名または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (Fully Qualified Hostname or IPv4 Address))] 設定は、[システムの接続性(System Connectivity)] ステータスが [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)] に設定されているシステムにプッシュされます。

Cisco TMS は、[ファイアウォールの背後(Behind Firewall)] に設定されているシステムは、ファイアウォールの背後に置かれているか、ネットワーク アドレス変換(NAT)を使用するルーターであるとみなします。Cisco TMS は、たとえば、コールを起動するように指示するためにシステムに接続できません。システムを [ファイアウォールの背後(Behind Firewall)] ステータスに設定すると、Cisco TMS でのシステムに対する操作が厳しく制限されます。

Cisco TMS がシステムの接続性ステータスを変更する理由

[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] > [システムのシステム接続性の更新(Update System Connectivity for Systems)] を [自動(Automatic)] に設定すると、場合によっては、Cisco TMS がシステムから送信されるブート イベントと登録イベントに基づいて [システムの接続性(System Connectivity)] ステータスを変更します。

システムが起動イベントまたは登録イベントを送信するたびに、Cisco TMS は報告された IP アドレスを IP ヘッダーの [送信元 IP アドレス(Source IP Address)] フィールドの値と比較します。

これら 2 つの IP アドレスが同じ場合、Cisco TMS は [システムの接続性（System Connectivity）] ステータスを、システムが最初に Cisco TMS に追加されたときのままにします。

2 つの IP アドレスが異なる場合、Cisco TMS は IP ヘッダーの [送信元 IP アドレス（Source IP Address）] にあるシステムとの接続を試みます。

- このアドレスに送信された要求にシステムが応答した場合、Cisco TMS は Cisco TMS に到達するためにシステムが使用したアドレスを、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] で設定された DNS アドレスと比較します。
  - システムが使用したアドレスが内部アドレス（[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）] > [TMS サーバの完全修飾ホスト名（TMS Server Fully Qualified Hostname）] に等しい場合、システムは [LAN で接続可能（Reachable on LAN）] に設定されます。同じことが内部アドレスおよびパブリック アドレスの両方が同じ DNS 名に設定されている場合に当てはまります。
  - アドレスがパブリック アドレスだけに等しい（[パブリック インターネット/ファイアウォール外のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Public Internet/Behind Firewall）] > [TMS サーバ アドレス（完全修飾ホスト名または IPv4 アドレス）（TMS Server Address (Fully Qualified Host Name or IPv4 Address)）]）場合は、システムが [パブリック インターネット上で接続可能（Reachable on Public Internet）] に設定されます。
- IP ヘッダーの [送信元 IP アドレス（Source IP Address）] に送信された要求にシステムが応答しない場合、Cisco TMS はその [システムの接続性（System Connectivity）] ステータスを、[ファイアウォールの背後（Behind Firewall）] に設定します。

例

次に、Cisco TelePresence System Integrator C シリーズ システムから Cisco TMS に送信された登録イベントの例を示します。

```
(...)
<PostEvent>
      <Identification>
              <SystemName>example_system</SystemName>
              <MACAddress>A1:B2:C3:D4:E5:06</MACAddress>
              <IPAddress>172.16.0.20</IPAddress>
              <ProductType>TANDBERG Codec</ProductType>
              <ProductID>TANDBERG Codec</ProductID>
              <SWVersion>TC4.1.2.257695</SWVersion>
              <HWBoard>101400-5 [08]</HWBoard>
              <SerialNumber>B1AC00A00000</SerialNumber>
      </Identification>
      <Event>Register</Event>
</PostEvent>
(...)
```

上の例では、Cisco TelePresence Codec C90 はそのローカル IP アドレスを `172.16.0.20` と報告します。

- *システムは、[LAN で接続可能（Reachable on LAN）] に設定され、その IP アドレスを 172.16.0.20 と報告します。IP ヘッダーの送信元 IP アドレス*も 172.16.0.20 です。Cisco TMS は、システムを [LAN で接続可能（Reachable on LAN）] のままにします。
- システムは、[LAN で接続可能（Reachable on LAN）] に設定され、その IP アドレスを 172.16.0.20 と報告します。IP ヘッダーの*送信元 IP アドレス*は 10.0.0.50 です。Cisco TMS は 10.0.0.50 のシステムへの接続を試みます。要求がタイムアウトすると、Cisco TMS はシステムを [ファイアウォールの背後（Behind Firewall）] に変更します。
- システムは [パブリック インターネット上で接続可能（Reachable on Public Internet）] に設定され、その IP アドレスを 172.16.0.20 と報告します。IP ヘッダーの*送信元 IP アドレス*は 10.0.0.50 です。Cisco TMS は、10.0.0.50 にあるシステムとの接続を試み、10.0.0.50 にあるネットワーク デバイスはトラフィックを元のシステムに戻すことができます。元のシステムが Cisco TMS に応答したので、Cisco TMS はシステムを [パブリック インターネット上で接続可能（Reachable on Public Internet）] のままにします。

カレンダー プッシュの動作

Cisco TMS は、将来の予約の一覧を、会議カレンダー機能をサポートするエンドポイントに送信します。この予約には、テーマ、主催者、接続タイプ、開始時刻などが含まれます。

カレンダー プッシュのメカニズムは次のようになります。

- すべてのシステムを更新し、少しの間待機して、再度開始します。
- 最大 72 時間後までのエントリをプッシュします。
- 前回の実行からカレンダーに変更があるすべてのシステムにプッシュします。

この会議カレンダー情報は、モデルやソフトウェア バージョンによって異なる方法でエンドポイントに表示されます。

永続設定のしくみ

永続設定は、ネットワーク全体の Cisco TMS で制御されるエンドポイントとインフラストラクチャでの操作に不可欠な設定を管理者が定期的に適用できる機能です。

次の 4 つの永続設定があります。

- システム名（System Name）
- H.323 ID
- E.164 エイリアス（E.164 alias）
- SIP URI

これらの設定は、システムを追加するときに指定するか、[ナビゲータ（Navigator）] でシステムの [永続設定（Persistent settings）] タブを使用して後から指定できます。

永続設定は、Cisco TMS が HTTP または SNMP を通じてブート イベントを受信するたびに、システムで設定されます。

また、永続構成テンプレートを Cisco TMS 制御のエンドポイントとインフラストラクチャ システムに設定できます。テンプレートは、システムでテンプレートが設定された最初の時間に基づいて、毎日同じ時間にシステムで設定されます。詳細については、「設定テンプレートの使用（28 ページ）」を参照してください。

システムの追加と管理

この章では、TelePresence ネットワークを管理するためのコア タスク、および [システム（Systems）] メニューに含まれるすべてのページの参考情報について説明します。

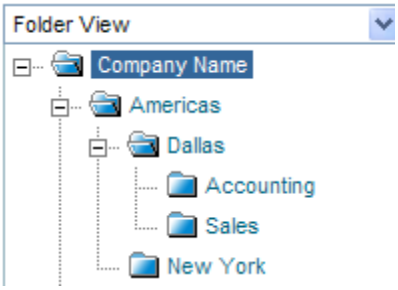
デフォルト システム フォルダの設定 52
システムの追加 53
システムの管理 62
ナビゲータ 65
チケット サービス 129
システムの概要 131
ダイヤル プランの管理 131
プロビジョニング 132
構成のバックアップ 141
構成テンプレート 142
システム アップグレード 146
システムの消去 149
イベント通知マネージャ 149
システム ステータスに関するレポート 150

デフォルト システム フォルダの設定

管理者は、ルート フォルダの下に、フォルダ ツリー構造を定義できます。フォルダは、整理のみを目的としており、システムを見つけ、システム権限を設定することを容易にします。1 つのシステムが、複数のフォルダに表示されることがあります。

同じフォルダ ツリーがすべてのユーザに対して表示され、Cisco TMS 全体で使用されます。したがって、すべてのユーザ グループに対して親しみやすく、わかりやすい方式を選択することを推奨します。

一般に使用されるモデルは、次の例のように、地域および組織のエンドポイントの構造に基づいています。



インフラストラクチャ システムは、別々のフォルダに保存される場合があります。

独自のフォルダ構造を構築するには、次の手順を実行します。

1. ツリーで [会社名（Company Name）] フォルダをクリックします。
   右側のパネルが更新され、そのフォルダの内容が表示されます。
2. 画面の右上隅で、[このフォルダを編集（Edit This Folder）] をクリックします。
3. 適切な会社名を使用して、フォルダの名前を変更します。
4. [保存（Save）] をクリックします。
5. フォルダを追加するには、次の手順を実行します。
   a. 追加先の親フォルダをクリックします。
   b. 画面の右側で [新しいフォルダ（New Folder）] をクリックします。
   c. 名前を入力し、任意で説明を入力します。
   d. [保存（Save）] をクリックします。
   e. 作成するすべてのフォルダに対して、上記の手順を繰り返します。

フォルダは、いつでも追加または削除できます。

ルート フォルダは、削除されないことがあります。

システムの追加

次の手順は、ほとんどのシステムおよびシステム タイプに適しています。

一部のシステムには特別な手順が必要です。詳細については以下を参照してください。

- ファイアウォール/NAT の背後でのエンドポイントの追加、56 ページ
- Unified CM および登録されたエンドポイントの追加、57 ページ
- 管理対象外ブリッジの追加、59 ページ
- 管理対象外エンドポイントの追加、60 ページ

これらの手順で使用されている Cisco TMS ページのそれぞれのレイアウトとオプションの詳細については、「システムの追加（125 ページ）」の参照セクションを参照してください。

すべてのシステムの前提条件

- システム管理者のユーザ名とパスワードが Cisco TMS で使用できる必要があります。ほとんどのエンドポイントでは、これはデフォルトの *admin* アカウントです。
- HTTP または HTTPS のネットワーク サービスが、システムで有効になっている必要があります。
- プロビジョニング モードを備えたエンドポイントは、*TMS* に設定されている必要があります。
- システムが SNMP ベースの自動検出に依存している場合、システムのネットワーク サービスの SNMP コミュニティ名が、Cisco TMS の SNMP コミュニティ名のリスト内の値に設定されている必要があります（[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [一般的なネットワーク設定（General Network Settings）] を参照）。

  システム検出以外の目的の SNMP は、レガシー システムでのみ使用されます。

Cisco TMS からの設定の強制

システムの追加を始める前に、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [一般的なネットワーク設定（General Network Settings）] > [TMS サービス（TMS Services）] で [システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] を有効にすることを強くお勧めします。

この推奨に従わない場合は、システムが追加された後に [ナビゲータ（Navigator）] 内のシステムの [設定（Settings）] > [設定を編集（Edit Settings）] タブに移動し、[管理設定の強制（Enforce Management Settings）] をクリックする必要があります。このオンデマンドの強制は、Cisco TMS から設定の変更やリセットの必要性が生じるたびに繰り返す必要があります。

テスト環境の 2 番目の Cisco TMS インスタンスに 1 つ以上のシステムを追加する場合は、競合を避けるために 1 つの Cisco TMS インスタンスでのみ [システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] を設定する必要があります。

自動検出の使用

自動検出機能をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] に移動します。
2. [システムの自動検出モード(Automatic System Discovery Mode)] を [オン(On)] に設定し、[検出されたシステムのデフォルト フォルダ(Default Folder for Discovered Systems)] が適切なフォルダに設定されていることを確認します。
3. [保存(Save)] をクリックします。

新しいシステムが検出され、追加されるたびに電子メールによる通知を受信する場合は、次の手順を実行します。

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] に移動します。
2. [イベント通知(Event Notification)] セクションで、[システムおよびネットワーク通知を受信するための電子メール アドレス(E-mail Addresses to Receive System and Network Notifications)] にアドレスを追加します。

これで、ネットワーク上のシステムが HTTP イベントを送信するとき、または SNMP スキャナ サービスによって検出されたときに、指定したフォルダにそのシステムが追加され、ユーザに通知されます。

これらのシステムの設定を確認するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [検出されたシステムのフォルダ名(Name of your folder for discovered systems)] に移動します。

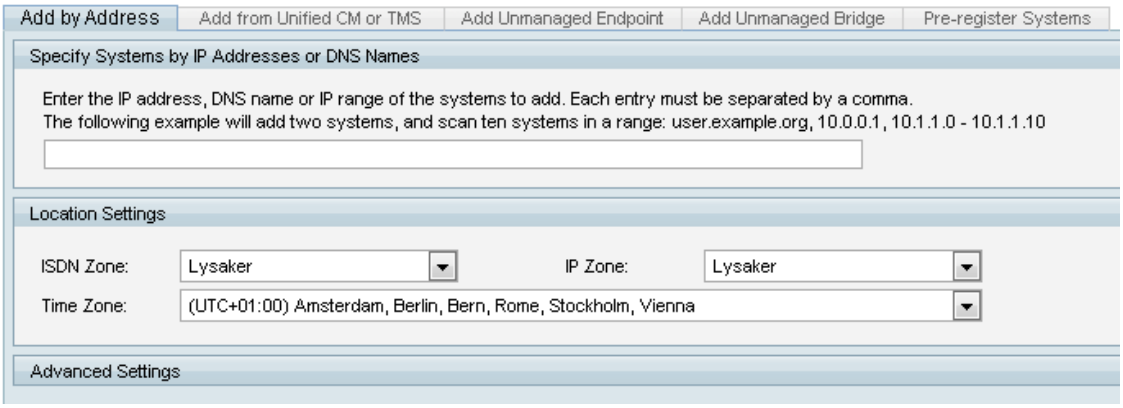
   デフォルト フォルダは、**Discovered Systems** です。
2. 必要に応じて、各システムの設定を確認し、調整します。
3. システムの [権限(Permissions)] タブで、新規ユーザ グループにシステムに対する権限が与えられることを確認します。必要に応じて、変更を加えます。
4. 必要に応じて、フォルダのリストでシステムを選択し、[移動/コピー(Move/Copy)] をクリックして、より永続的なフォルダにシステムを移動します。

IP アドレスまたは DNS 名による追加

すべてのタイプのインフラストラクチャ システムおよびエンドポイントは、次の手順に従って追加できます。ただし、Unified CM に登録されているエンドポイントは、この方法で追加してはならないことに注意してください。「Unified CM および登録されたエンドポイントの追加(57 ページ)」を参照してください。

システムを追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] に進みます。
2. [検出されたシステム(Discovered Systems)] を開き、追加する予定のシステムが、まだ Cisco TMS によって自動的に追加されていないことを確認します。
   - 該当システムが追加されている場合は、「自動検出の使用(54 ページ)」の手順に進みます。
   - 該当システムが [検出されたシステム(Discovered Systems)] フォルダにない場合は、システムを追加するフォルダを選択します。
3. [システムの追加(Add Systems)] をクリックします。



4. IP アドレス、DNS 名、IP の範囲、または IP アドレスや DNS 名のカンマ区切りリストのいずれかを入力します。
非常に大きな範囲を追加すると、システムの検出スキャン プロセスが遅くなることに注意してください。
5. ドロップダウン リストから、システムの [ISDN ゾーン（ISDN Zone）]、[IP ゾーン（IP Zone）]、および [タイム ゾーン（Time Zone）] を選択します。
6. 認証の詳細、構成テンプレート、または SNMP 検出オプションを追加するには、[詳細設定（Advanced Settings）] セクションの見出しをクリックして、展開します。
このページの設定の概要については、「システムの追加（125 ページ）」を参照してください。
7. [次へ（Next）] をクリックして、システムの追加を開始します。
Cisco TMS がそのアドレスに接続し、追加されているシステムのタイプとシステム設定を決定するときに、進捗ウィンドウが表示されます。
8. システムにアクセスするためのパスワードが必要な場合は、プロンプトが表示されるようになります。パスワードを入力し、[次へ（Next）] をクリックします。[結果（Results）] ページに、Cisco TMS が追加しようとした各システムのステータスが表示されます。Cisco TMS がシステム設定の問題を検出した場合、システムは追加されていないという内容のメッセージが [説明（Description）] 列に表示されます。
   - すぐにエラーに対処するには、[システムの編集（Edit System）] をクリックします。表示された情報を使用して必要な調整を加え、[保存（Save）] をクリックします。
   問題が解決すると、設定ページが閉じ、システムが正常に追加されたことを示すように更新された [結果（Results）] ページに戻ります。
   - エラーに後で対処するか、または完全に無視するには、[設定（Settings）] または [結果（Results）] ページで、[警告にかかわらずシステムを登録する（Add System Despite Warnings）] をクリックします。
   - TelePresence Server を追加している場合は、リモート管理モードであることを知らせるエラーが表示されますが、これを無視します。
9. [システムの追加の完了（Finish Adding Systems）] をクリックして、メイン [ナビゲータ（Navigato）] ビューに戻ります。
これで、新しいシステムは指定フォルダに配置されます。

プロトコルによるシステム検出の順序

システムを追加すると、Cisco TMS は最初に SNMP を使用してシステムへの接続を試みます。[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [SNMP コミュニティ名（SNMP Community Name）] で定義されたすべてのコミュニティ名が試みられます。Cisco TMS は、[ネットワーク設定（Network Settings）] > [SNMP タイムアウト（SNMP Timeout）] で定義された時間 SNMP による接続を試みます。

システムを追加するときに、追加のコミュニティ名を [詳細設定（Advanced Settings）] で指定できることに注意してください。

SNMP を使用してシステムに接続できない場合、Cisco TMS は次に HTTP/HTTPS を使用してシステムへの接続を試みます。

[ネットワーク設定（Network Settings）] > [Telnet/HTTP 接続タイムアウト（Telnet/HTTP Connection Timeout）] で定義された時間を経過しても応答がない場合、「システムが見つかりません（System not found）」というエラーが表示されます。

HTTP/HTTPS を使用してシステムへの接続に成功すると、Cisco TMS はシステムの systemunit.xml ファイルの取得を試みます。このファイルには、ソフトウェア バージョンが含まれており、これによってシステムが特定のシステム タイプとして判断されます。

systemunit.xml ファイルを取得できない場合、Cisco TMS は正しいシステム タイプが判明するまで、認識しているすべてのシステム タイプについて照合を試みます。正しいシステム タイプが見つけられない場合、「システムが見つかりません（System not found）」というエラーが表示されます。

エンドポイントの事前登録

エンドポイントを事前登録すると、ネットワークで使用可能になった直後に、事前定義された設定で、Cisco TMS に確実に追加されます。

次のように最大 10 のエンドポイントを同時に事前登録できます。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、システムを追加するフォルダを見つけるか、または作成します。
2. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。
3. [システムの事前登録（Pre-register Systems）] タブに移動します。
4. システムに使用するプライマリ ID を選択します（レガシー システムの MAC アドレス、IP アドレス、またはシリアル番号）。

5. 各システムに対して、プライマリ ID を追加します。

   必要に応じて、[システム名（System Name）]、[H.323 ID]、[E.164 エイリアス（E.164 Alias）]、[SIP URI]、[パスワード（Password）] を追加することも選択できます。
6. システムのロケーション設定を追加します（IP/ISDN ゾーンとタイムゾーン）。
7. 事前登録されたいずれかの設定を永続的にするか、最初にブート時に構成テンプレートを追加するかどうか、永続的テンプレートを設定するかどうかを選択します。
8. [システムの追加（Add System(s)）] をクリックします。

   [システム ステータス（System Status）] が [有効化されていません（Not Yet Activated）] に設定されて、最小限の情報を含むシステムのエントリが親フォルダに追加されます。

システムがオンラインになり、登録されたときに、ステータスとシステム情報は自動的に更新されます。[システム（Systems）] > [イベント通知マネージャ（Event Notification Manager）] の [事前登録されたシステムの有効化（Preregistered System Activated）] でイベント通知を設定することにより、これが発生したときに通知を受信できます。「イベント通知マネージャ（149 ページ）」を参照してください。

インフラストラクチャ システムの事前登録は、サポートされません。

柔軟性および拡張性の高い同様の機能では、Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能（Cisco TMSPE）を使用した大規模なプロビジョニングを推奨します。「プロビジョニング（132 ページ）」を参照してください。

ファイアウォール/NAT の背後でのエンドポイントの追加

前提条件

Cisco TMS でファイアウォール/NAT の背後にあるシステムを使用する前に、Cisco TMS サーバでパブリック DNS アドレスを設定する必要があります。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] に移動します。
2. [パブリック インターネット/ファイアウォール外のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Public Internet/Behind Firewall）] では、[TMS サーバ アドレス（TMS Server Address）] をパブリック DNS アドレスに設定します。
3. [保存（Save）] をクリックします。

ネットワーク接続中の Cisco TMS への追加

ファイアウォール/NAT の背後に配置されるシステムを Cisco TMS に追加する最も簡単な方法は、最初にシステムを組織のネットワークに接続する方法です。これにより、「システムの追加（53 ページ）」の手順に従ってシステムを追加できるようになります。

システムを追加したときに、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、システムを見つけ、[設定（Settings）] タブを開きます。
2. [システムの接続性（System Connectivity）] を [ファイアウォールの背後（Behind Firewall）] に設定します。
3. [管理設定の強制（Enforce Management Settings）] をクリックします。
   ここで、Cisco TMS は、そのシステムの管理アドレスを Cisco TMS の外部管理アドレスに設定します。

システムがリモートの場所で接続されている場合、システムはブート イベントを Cisco TMS に送信します。これ以降、システムは使用可能になります。

ファイアウォール/NAT の背後からの設定

ファイアウォール/NAT の背後にエンドポイントを追加する必要があるが、初めに組織のネットワークに接続するオプションがない場合は、自動検出を使用して追加するか、またはセキュリティを高めるために、そのエンドポイントを事前登録できます。

自動検出の有効化

この機能は、デフォルトではオフになっています。これをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] に移動します。
2. [システムの自動検出(Automatic System Discovery)] セクションで、[ファイアウォール/NAT の背後のエンドポイント用のシステムの自動検出モード(Automatic System Discovery Mode for Endpoints Behind a Firewall/NAT)] が [オン(On)] に設定されていることを確認します。
3. 検出されたシステムのデフォルト フォルダが設定されていることを確認します。
4. [保存(Save)] をクリックします。

エンドポイントの事前登録

プライマリ ID としてエンドポイントの MAC アドレスを使用して、「エンドポイントの事前登録(55 ページ)」の手順を実行します。

エンドポイントの外部管理アドレスの設定

エンドポイント自体で、Cisco TMS の外部管理アドレスを設定する必要があります。次の設定を行うには、エンドポイントのマニュアルの指示に従ってください。

- [外部マネージャ アドレス(ExternalManager Address)] を Cisco TMS サーバのアドレスに設定します。
- [外部マネージャ パス(ExternalManager Path)] を **`TMS/public/external/management/systemmanagementservice.asmx`** に設定します。

エンドポイントが、正しい外部管理アドレスを使用して、リモート ロケーションで接続されている場合:

- 自動検出されたエンドポイントは、デフォルト フォルダに追加されます。
- 事前登録されたエンドポイントは、追加システム情報を Cisco TMS のエントリに入力し、そのシステム ステータスは [接続中(Alive)] に設定されます。

Unified CM および登録されたエンドポイントの追加

Unified CM とそれに登録されているエンドポイントを Cisco TMS に追加するには、以下の手順を記載されている順番に実行します。

ダイヤル プランがさまざまな Unified CM クラスタ間でフラットである限り、複数の Cisco Unified Communications Manager がサポートされます。

Unified CM の準備

開始する前に、Cisco TMS に追加する Unified CM ノードで次のサービスをアクティブにします。

- Unified CM ノードの Cisco AXL Web サービス。
- Unified CM パブリッシャ ノードの Cisco RIS Data Collector。
- Cisco CTIManager を Unified CM クラスタ内の少なくとも 1 つのノードでアクティブにする必要がある。

サービスのアクティブ化については、『*Cisco Unified Serviceability Configuration Guide*』を参照してください。

Unified CM で次の手順を実行します。

1. *Cisco TelePresence System 向けの Cisco Unified Communication Manager 構成ガイド* [英語] で説明されている手順に従って、Cisco TMS のアプリケーション ユーザを作成します。次のことを確実に実行します。
   - 後続の Cisco TMS 初期化手順のためにクレデンシャルを保存します。
   - 使用する予定のすべての会議室を作成するアプリケーション ユーザに割り当てます。
   - このユーザ プロファイルにすべてのテレプレゼンス ユニットを割り当てます。各装置および共有電話機の MAC アドレスを、このユーザ プロファイルに追加する必要があります。アプリケーション ユーザに、CTS に関連付けられた IP 電話を追加する必要はありません。
   - Cisco TMS をセキュリティで保護するために、「Standard CTI Secure Connection」グループをアプリケーション ユーザに追加します。(この手順はオプションです)。
2. Cisco TMS に対して Unified CM でユーザ グループを作成します。

3. このユーザ グループに、次の役割を割り当てます。
   - 標準 AXL API アクセス
   - 標準 CTI 対応
   - 標準のサービスアビリティ
   - 標準 CCM 管理ユーザ
   - 標準 RealtimeAndTraceCollection
4. 上記のアプリケーション ユーザを、新しく作成したユーザ グループに追加します。

Unified CM の追加

「システムの追加（53 ページ）」の手順に従って Unified CM を追加します。

エンドポイントを追加する準備

Cisco TMS で Unified CM 登録システムをサポートするには、Cisco TMS に存在する各システム タイプの特別な ID が必要です。新しいエンドポイントの ID は、リリース サイクルが異なるために、Cisco TMS ですぐに使用できません。サポートされるシステムの最新リストは、[ナビゲータ（Navigator）] で、Unified CM 用の [拡張設定（Extended Settings）] タブで確認できます。

次のように、システムがサポートされていることを確認できます。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、追加した Unified CM を見つけます。
2. [設定（Settings）] > [拡張設定（Extended Settings）] に移動します。
3. 追加するすべてのエンドポイントが、このタブに表示されるサポート対象システム タイプのリストに含まれていることを確認します。

Unified CM に登録されたシステムの Cisco TMS でのサポートの詳細については、「Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法（43 ページ）」を参照してください。

CTS と TX エンドポイント

エンドポイントは Unified CM にすでに追加され、関連付けられている電話と同じ [電話番号（Directory Number）] で設定されている必要があります（詳細については、*Cisco TelePresence System 向けの Cisco Unified Communication Manager 構成ガイド*[英語] を参照）。

システムの準備をするには、Unified CM で次の手順を実行します。

1. 各エンドポイント：
   a. [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] に移動し、エンドポイントのデバイス名をクリックします。
   b. このエンドポイントに関連付けられた IP 電話と同じ **DN**（電話番号）を割り当てます。
   c. [デバイス情報（Device Information）] セクションの下部で、[CTI からのデバイスの制御を許可（Allow Control of Device from CTI）] を選択します。
   d. [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションの [部屋の名称（Room Name）] フィールドにダミーの電子メール アドレスを入力します。これは必須項目ですが、任意の電子メール アドレスを使用できます。
   e. [電話番号の設定（Directory Number Configuration）] の [電話番号情報（Directory Number Information）] セクションで、[CTI からのデバイスの制御を許可（Allow Control of Device from CTI）] を選択します。
   f. [SSH 管理期間（SSH AdminLife）] フィールドを [0] に設定すると、コマンドライン インターフェイス パスワードの期限切れを防ぐことができます。Cisco TMS は、このパスワードを使用してコールを設定します。
2. TelePresence デバイスに関連付けられている IP 電話デバイスごとに、[デバイス情報（Device Information）] セクションの下部にある [CTI からのデバイスの制御を許可（Allow Control of Device from CTI）] を選択します。

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア、TE、および TC ソフトウェアが稼働するエンドポイント

Unified CM の使用しているバージョン向けの構成ガイド（*http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-system-ex-series/products-maintenance-guides-list.html* [英語]）の詳細な説明に従って、コラボレーション エンドポイント ソフトウェア、TE、および TC ソフトウェアが稼働するエンドポイントが Unified CM にすでに追加されている必要があります。

エンドポイントが Cisco TMS で以前管理されていた場合は、「管理モードの変更（45 ページ）」を参照してください。

各エンドポイントに対して、Unified CM で次の手順に従います。

1. [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] に移動し、TelePresence エンドポイントに対応するデバイス名を検索します。
2. [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションの下部で、[Web アクセス（Web Access）] と [SSH アクセス（SSH Access）] が [有効（Enabled）] に設定されていることを確認します。

エンドポイントのユーザ名を変更するには、次の手順に従います。

1. エンド ポイントで、ユーザ名とパスワードを追加し、「admin」ユーザ名のパスワードを変更します。
2. [TMS Web インターフェイス（TMS web interface）] > [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [エンドポイントの検索（Find endpoint）] > [設定（Settings）] に移動します。
3. [強制的に更新（Force Refresh）] をクリックします。
4. 新しいユーザ名とパスワードを入力します。
5. [保存（Save）] をクリックします。

システムの追加

エンドポイントを追加する前に、次の手順に従って、Unified CM を Cisco TMS に追加する必要があります。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で、エンドポイントを追加するフォルダに移動します。
2. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。
3. [一覧から（From List）] タブに移動します。
4. [Unified CM] をクリックします。
5. 追加するエンドポイントを選択します。
6. [Next] をクリックします。
7. [システムの追加の完了（Finish Adding Systems）] をクリックします。

管理対象外ブリッジの追加

Cisco TMS は、サポートされていないレガシー ブリッジとサード パーティのブリッジ（Cisco TelePresence Multipoint Switch を含む）の追加をサポートしており、会議でスケジュールすることができます。

管理対象外のブリッジを Cisco TMS に追加する前に、ブリッジでスケジュールする、Cisco TMS で使用する専用の会議を作成する必要があります。これらの会議は、Cisco TelePresence Multipoint Switch ではスタティック会議と呼ばれます。これらの会議の設定方法の詳細については、ブリッジのドキュメントを参照してください。

管理対象外のブリッジを追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. ブリッジを追加するフォルダを選択し、[システムの追加（Add Systems）] をクリックします。
3. [管理対象外ブリッジの追加（Add Unmanaged Bridge）] タブをクリックします。
4. ブリッジに関する次の [基本設定（Basic Settings）] を入力します（他の設定はオプションです）。
   a. [名前（Name）]
   b. [最大 IP 帯域幅（kbps）（Max IP Bandwidth（kbps））]
   c. [ビデオ通話の最大数（Max Number of Video）]/[音声通話の最大数（Max Number of Audio Calls）]
      - [音声通話の最大数（Max Number of Audio Calls）] に 0 を入力した場合、[ビデオ通話の最大数（Max Number of Video Calls）] に設定した値が、ビデオまたは音声参加者の予約に使用できる汎用ポートの数になります。
      - [音声通話の最大数（Max Number of Audio Calls）] に 0 よりも大きい値を入力すると、ビデオ通話と音声通話はそれぞれ別個にカウントされ、交互に使用することはできません。
   d. マルチスクリーン参加者を含む会議のルーティングでブリッジを優先させる場合は、[イマーシブ（Immersive）] チェックボックスをオンにします。

5. [ブリッジ アドレス(Bridge Addresses)] を追加するには、次の手順を実行します。
   a. ブリッジ アドレスを最大 25 個まで選択します。
   b. ブリッジで H.323、SIP またはその両方のどれを許可するか指定します。
   c. ブリッジに事前に設定した会議に対して、**E.164 エイリアス**、**H.323 ID**、および **SIP URI** を指定します。これらは、前述した「スティック会議」アドレスになります。
6. 必要に応じて、[ロケーション設定(Location Settings)] を入力します。

管理対象外エンドポイントの追加

システムの種類が Cisco TMS で直接サポートされない場合、システムは管理対象外エンドポイントとして追加できます。

管理対象外エンドポイントと、Cisco TMS の他のシステムとの違いの詳細については、「Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法(44 ページ)」を参照してください。

管理対象外エンドポイントを追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] に進みます。
2. システムを追加するフォルダを選択し、[システムの追加(Add Systems)] をクリックします。
3. [管理対象外エンドポイントの追加(Add Unmanaged Endpoint)] タブをクリックします。
4. 追加する項目の名前を入力し、そのタイプを選択します。
5. [エンドポイント設定(Endpoint Settings)] と [ロケーション設定(Location Settings)] に入力します。一部のフィールドは必須です。
   - [IP ゾーン(IP Zone)]、[ISDN ゾーン(ISDN Zone)]、および [タイム ゾーン(Time Zone)] を選択します。
   - [最大 IP 帯域幅(Maximum IP Bandwidth)] を指定します。
   - [ゲートキーパー アドレス(Gatekeeper Address)] を指定します。
   - [SIP URI] を使用するには、[H.323 ID] または [E.164 エイリアス(E.164 Alias)] を設定する必要もあります。
6. [Next] をクリックします。

さまざまな通信方法でのエンドポイントのサポート

エンドポイント名	機能	通信のセキュリティモード
Cisco CTS	CTS のすべての機能は、TMS の HTTP でのみサポートされます。	[中(Medium)]
	CTS の機能はいずれも TMS ではサポートされません。	[中 - 高(Medium-High)] または [高(High)]
Cisco E20	E20 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中(Medium)]
	E20 の機能はいずれも TMS ではサポートされません。E20 は予約で使用可能ですが、自動接続、OBTP は機能しません。	[中 - 高(Medium-High)] または [高(High)]
Cisco TX9000	TX9000 のすべての機能は、HTTP でのみサポートされます。	[中(Medium)]
	TX9000 の機能はいずれも TMS ではサポートされません。	[中 - 高(Medium-High)] または [高(High)]

エンドポイント名	機能	通信のセキュリティモード
Cisco IX5000	Cisco IX5000 のすべての機能は、HTTP でのみサポートされます。	[中（Medium）]
	Cisco IX5000 の機能はいずれも TMS ではサポートされません。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
Cisco Telepresence DX 80	DX 80 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	DX 80 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence SX 80	SX 80 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	SX 80 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence C 90	C 90 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	C 90 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence SX 10	SX 10 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	SX 10 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence C 20	C 20 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	C 20 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence Mx300G2	Mx300G2 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	Mx300G2 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence Mx200G2	Mx200G2 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	Mx200G2 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence SX 20	SX 20 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	SX 20 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence C 60	C 60 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	C 60 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]

エンドポイント名	機能	通信のセキュリティモード
Cisco Telepresence EX 60	EX 60 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	EX 60 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]
Cisco Telepresence DX 70	DX 70 のすべての機能は、HTTPS でのみサポートされます。	[中 - 高（Medium-High）] または [高（High）]
	DX 70 のすべての機能は、HTTP と HTTPS の両方でサポートされます。	[中（Medium）]

システム管理

ここでは、一般的なシステム関連の管理タスクについて説明します。

- システムの表示および編集、62 ページ
- Cisco TMS 管理対象エンドポイントのアップグレード、64 ページ
- システムの交換、63 ページ
- システムの消去、65 ページ

これらのタスクは Cisco TMS に追加されたシステムだけに適用されることに注意してください。Cisco TMSPE によってプロビジョニングされたデバイスの管理については、『*Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide*』で説明しています。

システムの表示および編集

システムが Cisco TMS に追加された場合、Web インターフェイスを使用してそのシステムを管理できます。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、システムを検索します。
   デフォルトの表示は [システム サマリー（System Summary）] タブであり、ここにはチケット リストと、システムおよびシステムの重要な設定とステータスの概要が含まれます。
2. システムの詳細については、他のタブをクリックしてください。使用可能なタブは、システム タイプによって異なります。
3. システム設定の詳細ビューを表示するには、[設定（Settings）] タブをクリックします。
   - ページの下部にある [強制的に更新（Force Refresh）] ボタンを使用すると、システムから設定の更新をただちに取得することができます。

     これは、ファイアウォール/NAT の背後にあるエンドポイントでは使用できないことに注意してください。
   - システムの設定および Cisco TMS のプロパティのいずれかを編集するには、メニュー バーの [設定の編集（Edit Settings）] に移動します。
   - ほとんどのシステムは、[設定の編集（Edit Settings）] 画面で [ブート（Boot）] をクリックすることでリブートできます。

さまざまなシステム タイプで使用可能なタブと設定の詳細については、「ナビゲータ（65 ページ）」を参照してください。

接続の設定

[接続（Connection）] タブには、システムと通信するために Cisco TMS が使用するパラメータが表示されます。[設定の編集（Edit Settings）] に移動するときに Cisco TMS がシステムに到達できない場合、[接続（Connection）] タブが代わりに開きます。

システムとの再接続を試行するには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じて、接続設定を更新します。
2. [保存/試行（Save/Try）] をクリックします。

システムの交換

すべてのシステムは、最初に Cisco TMS に追加されるときに ID（**TMS システム ID**）を取得します。この ID は、予約、権限などのために、システム参照として使用されます。

盗難、ハードウェアの障害などによりシステムの交換が必要な場合、ID を保持していれば、Cisco TMS で既存の予約および権限へのリンクが維持されます。

以下はスワップ不可能です。

- リモート エンドポイント。
- ブリッジを使用するエンドポイントまたはその逆。
- コール制御デバイス。
- ゲートウェイ。
- Recording Server。

ブリッジの交換は可能ですが、これはベスト エフォート ベースであるため、注意して使用する必要があります。

交換によって将来の会議で生じる問題を確認するため、システムを交換した後に [会議の診断（Conference Diagnostics）] を実行する必要があります。

予約の拒否

Cisco TMS でシステムが故障している場合、またはスワップを待機している場合は、新しい予約の受け入れを禁止することを推奨します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、交換するシステムをクリックします。
2. [接続（Connection）] タブを開きます。
3. [予約を許可（Allow Bookings）] を [いいえ（No）] に設定します。
4. [保存/試行（Save/Try）] をクリックします。

システムの交換

システムを交換するには、次の手順に従います。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、交換するシステムをクリックします。
2. [接続（Connection）] タブをクリックします。
3. [システムの置換（Replace System）] をクリックします。
4. フォルダ ツリーでシステムを検索するか、検索フィールドに名前の一部を入力し、[フィルタ（Filter）] をクリックします。
5. [Next] をクリックします。
   概要ページが表示されます。
6. システム名、コール設定、およびすべてのシステム ログを維持するかどうかを選択します。
7. [OK] をクリックします。
8. これで、交換が完了し、古いシステムが Cisco TMS からパージされます。

同じ Cisco VCS 上のエンドポイント

同じ Cisco VCS に登録されている他のシステムの接続設定と現在のシステムの接続設定を置き換える場合は、H.323 デバイスの遅延時間がプロセスに影響を与えることに注意してください。

Cisco VCS で、この登録タイムアウトは、デフォルトで、1800 秒（30 分）に設定されています。つまり、[通話設定（H.323 ID、E.164 エイリアス、SIP URI）をシステムで保持（Keep call configuration (H.323 ID, E.164 alias and SIP URI) to system）] を選択している場合、2 つの設定が以前のシステムから新しいシステムへコピー*されない*ため、手動で設定する必要があります。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、システムをクリックします。
2. [設定（Settings）] タブを開いて、[設定の編集（Edit Settings）] サブメニューをクリックします。
3. 次の設定を変更します。

- 要求されたゲートキーパーの IP アドレス（Requested Gatekeeper IP Address）
- 要求された SIP サーバ アドレス（Requested SIP Server Address）

たとえば交換するシステムがダウンしているために、存在しない IP アドレスまたは DNS 名を入力した場合でも、現在のシステムのネットワーク アドレスが更新されることがあります。ただし、接続エラーを示すチケットが生成されます。

Cisco TMS 管理対象エンドポイントのアップグレード

10 個以上のエンドポイントのアップグレードをスケジュールした場合、Cisco TMS によってそれらのエンドポイントが複数のバッチに分割されることに注意してください。最初のバッチは必ず 9 個のエンドポイントで構成され、その後の組には、すべてのエンドポイントがアップグレードされるまで、エンドポイントが 10 個ずつ含まれます。

多数のエンドポイントのアップグレードをスケジュールすると大量のリソースが必要になる可能性があるため、この操作は通常の業務時間外に実行することをお勧めします。

始める前に

ソフトウェア パッケージを、Cisco TMS の ソフトウェア FTP ディレクトリに配置します。この場所は、[TMS ツール（TMS Tools）] > [設定（Configuration）] > [ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）]（274 ページ）で定義されており、[管理ツール（Administrative Tools）] > [全般設定（General Settings）] から確認することができます。

Cisco TMS へのソフトウェアのアップロード

1. [システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [ソフトウェア マネージャ（Software Manager）] に移動します。
2. [新しいソフトウェアをアップロード（Upload New Software）] をクリックします。
3. [参照（Browse）] をクリックし、ソフトウェア パッケージを検索します。
4. [アップロード（Upload）] をクリックします。
   パッケージが [ソフトウェア マネージャ（Software Manager）] ページのリスト内に表示されていることを確認します。

エンドポイントのアップグレード

1. [システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] に移動します。
2. フォルダ ビューを使用するか、ドロップダウンの代替リストを選択するか、または [検索（Search）] タブでシステムを検索して、アップグレードするエンドポイントを検索します。
3. システムを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。
   [ソフトウェアとリリース キーの選択（Select Software and Release Keys）] ページが開きます。
4. 以下に、情報を入力します。
   - ソフトウェアのバージョン（[ソフトウェア（Software）] フィールドのドロップダウン リストを使用します）。
   - スケジュールされたアップグレードを行う [日付（Date）] および [開始時刻（Start Time）]。
   - レガシー システムでは、ソフトウェアの [リリース キー（Release Key）] が必要になる場合があります。
5. [アップグレード（Upgrade）] をクリックします。
   - 組織のネットワーク上にあるシステムの場合、[システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [システムのアップグレードの活動状況（System Upgrade Activity Status）] から、アップグレードがスケジュールされたこと、または開始されたことを確認できます。
   - ファイアウォール/NAT の背後のシステムは、ここで起動する必要があります。Cisco TMS は、ブート イベントを受信すると、アップグレードを開始します。
     上記のアップグレードが動作するしくみの背景については、「ファイアウォール/NAT の背後にあるシステム（46 ページ）」を参照してください。

ソフトウェア バージョンが同じエンドポイントに対する同一アップグレードの適用

類似ソフトウェア バージョンのすべてのシステムで、[ソフトウェア（Software）] ドロップダウン リストで同じソフトウェア ファイルを選択するには、次の手順を実行します。

1. 1 台のシステムで [ソフトウェア（Software）] を選択します。
2. ドロップダウンの右に表示されている [すべてに適用（Apply to all）] リンクをクリックします。
   影響を受けるすべてのシステムで、同じソフトウェア ファイルが選択され、強調表示されます。

システムの消去

Cisco TMS では、システムの削除と消去を区別します。

- [削除（Delete）] 操作を使用すると、システムをフォルダから削除できます。この作業では、Cisco TMS データベースのエントリが残り、1 つまたは複数のフォルダに表示される場合があります。
- システムを [除去（Purge）] すると、そのシステムのデータベース エントリは永久に削除されます。

Navigator を使用

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動して、目的のシステムが表示されるフォルダに移動します。
2. 削除するシステムをオンにします。
3. [削除（Delete）] をクリックします。
   システムをフォルダから削除するか、データベースから完全に消去するかを確認する確認プロンプトが表示されます。
4. [消去（Purge）] をクリックします。

[システムを消去（Purge Systems）] ページの使用

1. [システム（Systems）] > [システムを消去（Purge Systems）] に移動します。
2. 削除するシステムを選択します。
3. ページの下部にある [システムを消去（Purge Systems）] をクリックします。
   選択したすべてのシステムと、参加する予定の将来のすべての会議を含むリストが表示されます。
4. 操作を確認するには、[消去（Purge）] をクリックします。

ナビゲータ

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）]

[ナビゲータ（Navigator）] は、Cisco TMS のシステム管理用のハブです。新しいシステムを追加したり、すでに追加されているシステムにアクセスして設定を表示および変更したりできます。

[ナビゲータ（Navigator）] でシステム名をクリックすると、最大 2 つのアイコンが、右上隅に表示されます。

	システムの Web インターフェイスに直接進みます。		画面に表示されたエンドポイントにインスタント メッセージを送信します。

各システム タイプで使用可能な設定の詳細については、以下を参照してください。

- エンドポイント、67 ページ
- Cisco VCS、73 ページ
- Unified CM、80 ページ
- MCU および TelePresence Server、103 ページ
- ゲートウェイ、110 ページ
- TelePresence Conductor、87 ページ
- Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050、83 ページ
- 管理対象外エンドポイント、123 ページ
- 管理対象外ブリッジ、119 ページ

次の参照セクションで、**ナビゲータ** フレームワークについて説明します。

フォルダのアクション

フォルダがツリー ビューで選択された場合、最大 6 つのボタンを使用できます。

ボタン	説明
右上隅	
このフォルダを編集（Edit This Folder）	現在のフォルダの名前を変更し、説明を追加します。このボタンは、フォルダ ビューだけに表示されます。
フォルダ権限（Folder and System Permissions）	サブフォルダを含むフォルダおよびシステムの権限を調整します。開くページの概要については、「フォルダおよびシステム権限（128 ページ）」を参照してください。
システムのリストの下	
移動/コピー（Move/Copy）	他のフォルダに、選択したシステムを移動またはコピーします。
削除（Delete）	選択したシステムをシステム ツリー構造の現在のフォルダから削除します。その後、Cisco TMS からシステムを消去するか、このフォルダから削除するだけかを決定します。詳細については、「システムの消去（149 ページ）」を参照してください。
新しいフォルダ（New Folder）	現在のフォルダに新しいサブ フォルダを追加します。
システムの追加（Add Systems）	現在のフォルダへの新しいシステムの追加を開始します。開くページの概要については、「システムの追加（125 ページ）」を参照してください。

フォルダ ツリーの移動

左上のドロップダウン メニューには、いくつかのビューのオプションがあります。[フォルダ ビュー（Folder View）] はデフォルト値で、フォルダおよびシステムを追加および削除でき、ツリー構造でビデオ会議システムを編成できます。また、グループによって、フォルダ、サブフォルダ、システムの権限を制限し、制御できます。

- [+] と [-] をクリックして、フォルダの展開および折りたたみを行います。
- フォルダをクリックすると、画面の右側にそのフォルダ内のすべてのシステムが表示されます。
- システムに関する詳細を表示するには、そのシステムをクリックします。
- 1 つのシステムを複数のフォルダに配置できます。

ナビゲータのパフォーマンスを向上させるには、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] に移動し、[ナビゲータ ツリーでシステムを表示する（Show Systems In Navigator Tree）] を [いいえ（No）] に設定します。フォルダを選択すると、システムが画面のメイン セクションに表示されたまま、フォルダだけ画面の左側に表示されます。

Navigator ページのその他のビュー

フォルダ リストの上にあるドロップダウン メニューには、デフォルト フォルダ ビューの他に次の選択肢が含まれています。

ビュー オプション	システムのグループ化
すべてのシステム（All Systems）	アルファベット順にソートされます。

ビュー オプション	システムのグループ化
システム タイプ（System Type）	システム タイプ別に。たとえば、Cisco TelePresence MX300、Cisco Unified Communications Manager、TANDBERG Codec C60 など。
システム カテゴリ（System Category）	システム カテゴリ別に。エンドポイント、ゲートウェイ、ゲートキーパー、MCU など。
Manufacturer	メーカー別。Cisco、TANDBERG、Polycom など。
タイム ゾーン	システム時間帯別に。
ISDN ゾーン（ISDN Zone）	Cisco TMS で設定されている ISDN ゾーン別に。
IP ゾーン（IP Zone）	IP ゾーン別に。これらは Cisco TMS で設定されます。
システム ステータス（System Status）	システム ステータス別に。すべての可能性があるシステム ステータスの概要については、「システム ステータスに関するレポート（150 ページ）」を参照してください。
接続状況	接続ステータス別に。例： ■ *SNMP 応答なし（No SNMP Response）* ■ *OK* ■ *間違ったユーザ名/パスワード（Wrong Username Password）* ■ *パスワードがありません（Missing Password）*
ソフトウェア バージョン（Software Version）	現在のソフトウェア バージョン別に。TC5.1.3、X7.2、CTS 1.8.0(55) など。
システム利用状況の種類（System Usage Type）	[システム利用状況の種類（System Usage Type）] 別に。 ■ 会議室システム（Meeting Room system） ■ 個人オフィス システム（Personal Office System） ■ 個人ホーム システム（Personal Home System） ■ ロール アバウト（Roll About） ■ その他（Other）
システムの検索（System Search）	システムの名前または名前の一部を検索します。

エンドポイント

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で、エンドポイントを選択

特定の各エンドポイント モデルの設定オプションおよびメンテナンスについては、エンドポイントの管理者マニュアルを参照してください。

要約

表 9 [サマリー（Summary）] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット（Tickets）	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してください。

表 9 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される(続き)

セクション	説明
サービス契約ステータス(Service Contract Status)	有効期限、最新のメジャー ソフトウェア バージョンのリリース キー、およびソフトウェア更新の有無を確認するリンクを含む、選択したシステムのサービス契約ステータスおよび更新についての概要。可能なステータス メッセージは次のとおりです。 ■ *サービス契約は有効です(Service contract is valid and ok)* ■ *サービス契約は注文済みですが、未請求です(Service contract is ordered, but not invoiced)* ■ *サービス契約の期限が切れています(Service contract is expired)* ■ *サービス契約がありません(No service contract)* ■ *ドラフト(Draft)* ■ *新しいリビジョン(New Revision)* ■ *現在のパートナーにより購入済み(Bought by current partner)* ■ *不明(Unknown)* このフィールドはすべてのシステムに適用または表示されるわけではありません。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
電話帳	システムに設定されている任意の電話帳(電話帳をサポートするエンドポイント、MCU、およびゲートウェイにのみ表示されます)。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メール アドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 10 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)** Cisco TMSPE を使用したプロビジョニングをサポートするエンドポイントには、[プロビジョニング済み(Provisioned)] というチェックボックスが表示されます。

表 10 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 Unified CM が登録したエンドポイントには、ソフトウェア バージョンだけが表示されます。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol) サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に登録されたエンドポイントの場合、[SIP モード(SIP Mode)]、[要求された SIP サーバ アドレス(Requested SIP Server Address)]、[有効な SIP サーバ アドレス(Active SIP Server Address)] のみ表示されます。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、SIP モードはブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
シスコ プロキシミティ設定(Cisco Proximity Settings)	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 8.0 以降で実行されるエンドポイントの Cisco Intelligent Proximity 設定を構成するオプションの一覧を表示します。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/ SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。
TMS スケジューリング設定(TMS Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。[WebEx 予約を許可(Allow WebEx Booking)]:ブリッジで WebEx 会議をホストできるようにします。 [IP アドレス ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。[ISDN ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [電話ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming Telephone Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [IP アドレス ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。[ISDN ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ 特定のシステムに適用される予約/ダイヤルのオプションのみ表示されます。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新（Force Refresh）] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制（Enforce Management Settings）] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス（Management IP address）] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス（Feedback Address）] として設定されます。
- [夏時間（Daylight Saving Time）]、[タイム ゾーン（Time Zone）]、および [IP アドレス（IP address）] の設定と、[電話帳設定（Phonebook Settings）] および [外部サービス（External Services）] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス（Traphost IP Address）] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] が [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます（「ネットワーク設定（223 ページ）」を参照）。

拡張設定（Extended Settings）

拡張設定は、すべてのエンドポイント タイプで使用できるわけではありませんが、通常は次の読み取り専用のリストが含まれます。

- オプション キー
- 表示パラメータ
- システム ステータス

設定の比較（Compare Settings）

このタブには、システムの現在の設定とサーバに保存されたすべてのバックアップ設定の比較リストが表示されます。すべての相違点が強調表示されます。

設定がすでにサーバに保存されている場合、次の 2 つのボタンを使用できます。

- **バックアップの作成（Make Backup）**
- **システムの復元（Restore System）**

設定がサーバにまだ保存されていない場合は、[バックアップの作成（Make Backup）] を使用できます。

このタブは、ファイアウォール/NAT の背後にあるエンドポイントと Unified CM に登録されているエンドポイントには使用できません。

永続設定（Persistent Settings）

[永続設定（Persistent Settings）] タブは、Cisco TMS で制御されているエンドポイントでのみ使用できます。ここでは、Cisco TMS でエンドポイントに対して保持する設定を入力できます。これらのいずれかの設定をエンドポイントで変更すると、Cisco TMS では設定の変更がここで指定した設定で上書きされます。

次の永続設定があります。

- [構成テンプレート（Configuration Template）]：カスタム構成テンプレートがシステムに毎日適用されます。詳細については、「設定テンプレート（142 ページ）」を参照してください。
- [システム名（System Name）]：エンドポイントの表示名。
- **E.164 エイリアス（E.164 alias）**
- **H.323 ID**
- **SIP URI**

永続的として行われた設定は、[設定を編集（Edit Settings）] タブで編集用に表示されないことに注意してください。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

コールの状態（Call Status）

システムが会議中の場合、現在の接続に関する情報が、このタブに表示されます。特定の日にスケジュールされているすべての会議も、このタブに表示されます。

このタブでは、次のことを実行できます。

- [ダイヤル（Dial）] ボタンを使用し、適切なコール プロトコルを選択して、コールを発信します。複数のシステムへの同時発信がサポートされている場合、アドレス/番号を入力する際、追加のフィールドが表示されます。
- [切断（Disconnect）] をクリックして、進行中の通話を切断します。
- [ページの更新（Refresh Page）] をクリックしてシステムから最新情報を取得します。

Telepresence（Cisco TelePresence T3 のみ）

このタブには、Cisco TelePresence T3 システムに関連付けられた TelePresence Server とコーデックがリストされます。

関連付けられたシステムが Cisco TMS に登録されている場合、それらの名前とステータスが表示されて、[詳細（Details）] リンクをクリックすると、[ナビゲータ（Navigator）] ビューに各システムの詳細が示されます。

電話帳（Phone Book）

このタブには、すべてのエンドポイントの電話帳が表示されます。電話帳の選択モードに移動するには、[サーバ電話帳（Server Phone Books）] をクリックします。

矢印ボタンを使用して、システムに電話帳を設定したり、既存の電話帳を削除したりします。

[電話帳の管理に移動（Go to Manage Phone Books）] ボタンを使用すると、[電話帳の管理（Manage Phone Books）]（201 ページ）ページが開きます。

電話帳を使用する方法については、「電話帳の作成および管理（196 ページ）」を参照してください。

接続（Connection）

表 11　[接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。

表 11 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
SNMP コミュニティ名の取得(SNMP Get Community Name)	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)* ■ *MAC アドレス(MAC Address)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [ファイアウォールの背後(Behind Firewall)]:この代替手段はファイアウォール/NAT の背後にある可能性のあるエンドポイントでのみ表示されます。システムはパブリック インターネット上に接続可能なシステムと同じパブリック ネットワーク アドレス設定を使用します。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

注:Cisco TMS を使用してエンドポイントのパスワードを変更する場合、Cisco TMS で更新するのに時間がかかります。ユーザは、新しいパスワードが Cisco TMS で有効になるまでしばらく待機する必要があります。パスワードが更新されると、ユーザは、「誤ったユーザ名またはパスワード」が表示されるシステム(System)ページに移動する必要があります。注:パスワードを変更した場合は、数分間待機後にページを更新すると、変更したパスワードが有効になり、が表示されます。ステータスは「*不明*」に変更され、その数分後に「*アイドル*」状態に変更されます。

システムの置換(Replace System)

このタブでは、まったく同じ名前、ロールおよび設定を持つ新しいシステムでシステムを置換できます。

ステップバイステップの手順については、「システムの交換(63 ページ)」を参照してください。

[現在のシステムから継承(Inherent from Current System)] を使用すると、古いシステム設定を保持または置換できます。次のオプションを使用すると、古いシステム設定を保持できます。古いシステム設定を置き換えるには、これらのオプションをオフにします。

- システム名(System Name)
- システムの通話設定(H323 ID、E164 エイリアス、SIP URI)
- ログ(フィードバック ログ、履歴、通話ログ、チケット ログ)

デフォルトでは、これらのオプションは [システムの置換(Replace System)] タブで選択されています。

このタブは、ファイアウォール/NAT の背後のエンドポイント、およびシステム接続ステータスが [アクセス不能（Inaccessible）] に設定されているシステムでは使用できません。

権限（Permissions）

[許可（Permissions）] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限（128 ページ）」および「デフォルトのシステム権限（259 ページ）」を参照してください。

ログ

表 12 [ログ（Logs）] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
フィードバック ログ（Feedback Log）	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴（History）	Cisco TMS でシステムに加えられた、すべての検出された変更内容。
通話ログ（Call Log）	選択したシステムの詳しい通話記録（CDR）（利用可能な場合）。詳細については、「コール詳細レコード（215 ページ）」を参照してください。
チケット ログ（Ticket Log）	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してください。
監査ログ（Audit Log）	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ（269 ページ）」を参照してください。

Cisco VCS

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で Cisco VCS またはレガシーのゲートキーパー/ボーダー コントローラを選択

Cisco VCS の設定オプションとメンテナンスについては、使用しているバージョンの *Cisco TelePresence Video Communication Server 管理者ガイド* [英語] を参照してください。

要約

表 13 [サマリー（Summary）] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット（Tickets）	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してください。

表 13 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される(続き)

セクション	説明
サービス契約ステータス(Service Contract Status)	有効期限、最新のメジャー ソフトウェア バージョンのリリース キー、およびソフトウェア更新の有無を確認するリンクを含む、選択したシステムのサービス契約ステータスおよび更新についての概要。可能なステータス メッセージは次のとおりです。 ■ *サービス契約は有効です(Service contract is valid and ok)* ■ *サービス契約は注文済みですが、未請求です(Service contract is ordered, but not invoiced)* ■ *サービス契約の期限が切れています(Service contract is expired)* ■ *サービス契約がありません(No service contract)* ■ *ドラフト(Draft)* ■ *新しいリビジョン(New Revision)* ■ *現在のパートナーにより購入済み(Bought by current partner)* ■ *不明(Unknown)* このフィールドはすべてのシステムに適用または表示されるわけではありません。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メールアドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 14 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**
設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。

表 14 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol)サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、[SIP モード(SIP Mode)] はブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。
ゲートキーパー設定(Gatekeeper Settings)	フィールドには [ルーティング モード(Routing Mode)]、[ゾーン モード(Zone Mode)]、および [ドメイン名(Domain Name)] があります。 これらの設定は、Cisco TMS では読み取り専用であり、[設定を編集(Edit Settings)] では使用できません。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制(Enforce Management Settings)] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス(Management IP address)] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス(Feedback Address)] として設定されます。
- [夏時間(Daylight Saving Time)]、[タイム ゾーン(Time Zone)]、および [IP アドレス(IP address)] の設定と、[電話帳設定(Phonebook Settings)] および [外部サービス(External Services)] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス(Traphost IP Address)] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] が [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます(「ネットワーク設定(223 ページ)」を参照)。

拡張設定(Extended Settings)

Cisco VCS の拡張設定では、次のことができます。

- 新しいオプション キーを追加して、すでに追加されているオプション キーを確認する。
- 表示パラメータを表示する。
- システム ステータスを表示する。

設定の比較(Compare Settings)

このタブには、システムの現在の設定とサーバに保存されたすべてのバックアップ設定の比較リストが表示されます。すべての相違点が強調表示されます。

設定がすでにサーバに保存されている場合、次の 2 つのボタンを使用できます。

- **バックアップの作成(Make Backup)**
- **システムの復元(Restore System)**

設定がサーバにまだ保存されていない場合は、[バックアップの作成(Make Backup)] を使用できます。

チケット フィルタ(Ticket Filters)

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

登録

すべてのエンドポイント、ゲートウェイ、MCU はシステムに登録されています。

表 15 [登録(Registrations)] タブのセクションとフィールド

セクションおよびフィールド	説明
登録の検索(Registration search)	
名前またはエイリアス(Name or Alias)	名前またはエイリアスに検索テキストが含まれている登録を検索します。
情報	
名前(Name)	システムの名前または SIP URI。
エイリアス(Alias)	E.164 エイリアス、H.323 ID、または SIP URI。
IP アドレス(IP Address)	登録済みシステムの IP アドレス。
タイプ(Type)	システムのタイプ。SIP UA、H.323 エンドポイント、MCU など。
ベンダーの情報(Vendor Information)	システム ベンダー。SIP 登録の場合は、ソフトウェア バージョンも。
ピア(Peer)	システムが登録されているクラスタ ピアの IP アドレス。Cisco VCS のみ。

アクティブ コール(Active Calls)

[アクティブ コール(Active Calls)] では、Cisco VCS に登録されているシステムの通話中のすべてのコールのリストが示されます。

表 16 [アクティブ コール(Active Calls)] タブのセクションとフィールド

セクションおよびフィールド	説明
通話検索(Call search)	
アドレスまたはエイリアス(Address or Alias)	送信元/宛先アドレスまたはエイリアスに検索テキストが含まれているアクティブ コールを検索します。
情報	
ソース アドレス(Source Address)	送信元システムの IP アドレス。
接続元エイリアス(Source Alias)	エイリアス。送信元システムの E.164 エイリアスなど。
[宛先アドレス(Destination Address)]	コール先システムの IP アドレス。
接続先エイリアス(Destination Alias)	エイリアス。コール先システムの E.164 エイリアスなど。
Bandwidth	コールに使用する帯域幅をキロビット/秒(kbps)単位で表した値。
コール タイプ	コールのタイプ。次のオプションがあります。 ■ *トラバーサル(Traversal)* ■ *非トラバーサル(NonTraversal)* ■ *不明(Unknown)*
時間(Duration)	[アクティブ コール(Active Calls)] タブを開いた時点での、コールの通話時間。

表 16 [アクティブ コール(Active Calls)] タブのセクションとフィールド(続き)

セクションおよびフィールド	説明
通話プロトコル(Call Protocol)	コール シグナリング プロトコルを表示します。SIP または H.323 です。
ピア(Peer)	コールがアクティブになったクラスタ ピアの IP アドレス。Cisco VCS のみ。

サービス

このタブには、システムに登録されている MCU とゲートウェイで使用されるすべてのサービス プレフィックスのリストが含まれます。

表 17 [サービス(Services)] タブの列

カラム	説明
サービスのプリフィックス(Service Prefix)	Cisco VCS にサービスとして登録されているデジタル パターン。
説明	タイプ オブ サービス(ゲートウェイまたは MCU)と、各サービスの IP アドレスおよびポート。
事前定義(Predefined)	■ [*True*]:Cisco VCS 構成によって静的に定義されます。 ■ [*False*]:Cisco VCS に登録されたシステムによって追加されます。
ゾーン外(Out Of Zone)	サービスを Cisco VCS のゾーンの外側から発信されたコールに使用できるかどうか。[True] または [False] に設定できます。

クラスタリング

このタブで、Cisco VCS クラスタを管理することができます。クラスタは、1 つのマスター Cisco VCS と 1 つ以上のピアで構成され、1 つのユニットであるかのように協調して動作します。

クラスタリングの手順については、『*Cisco TelePresence Video Communication Server Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide*』を参照してください。

クラスタ内のすべてのピアが同じソフトウェア バージョンと同じオプション キーのセットを使用し、特定の要素の設定が同じでなければなりません。これらの構成要素の変更は、マスター Cisco VCS でのみ実行する必要があり、変更はピアに自動的に複製されます。

表 18 [クラスタリング(Clustering)] タブの構成要素

セクション、カラム、ボタン	説明
クラスタ名(Cluster Name)	クラスタの名前。この設定は読み取り専用で、Cisco VCS でのみ変更できます。
クラスタの作成	クラスタは、Cisco TMS に追加する前に、Cisco VCS で設定する必要があります。
クラスタ ピア(Cluster Peers)	
名前(Name)	各 Cisco VCS クラスタ ピアの名前。
IP アドレス(IP Address)	このクラスタ ピアの IP アドレス。
ソフトウェア バージョン(Software Version)	Cisco VCS のソフトウェア バージョン。Cisco VCS クラスタ内のすべてのピア(メンバ)で、同じソフトウェア バージョンと同じオプション キーのセットが必要です。
ステータス(Status)	各クラスタ ピア(メンバ)のステータスを示します。すべての可能性があるシステム ステータスの概要については、「システム ステータスに関するレポート(150 ページ)」を参照してください。
説明	ピアに関する Cisco TMS からのコメント。

表 18 [クラスタリング（Clustering）] タブの構成要素（続き）

セクション、カラム、ボタン	説明
Cisco TMS でのクラスタの更新（Update Cluster in Cisco TMS）	Cisco TMS のクラスタ情報を Cisco VCS から読み取った現在の設定で更新します。 2 つの設定間の不一致を Cisco TMS で検出した場合にのみ必要です。このページには、見つかった不一致が表示されます。
クラスタを削除（Delete Cluster）	Cisco TMS からクラスタ全体を削除します。Cisco VCS からはクラスタ情報を削除しません。これは、VCS 自体でのみ実行できます。
更新（Refresh）	このページを更新します。

プロビジョニング

このタブの使用とプロビジョニングの設定の手順については、*Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能導入ガイド* [英語] を参照してください。

表 19 [プロビジョニング（Provisioning）] タブの設定

フィールドとボタン	説明
TMS の接続設定（TMS Connection Settings）	
サーバ アドレス（Server Address）	Cisco TMS サーバ アドレスを指定します。
暗号化（Encryption）	HTTPS 通信を使用するかどうか。
証明書の検証を有効化（Certificate Verification Enabled）	HTTPS 通信を使用する場合、証明書およびホスト名の有効性をチェックするかどうかを決定します。 これらのフィールドは、[暗号化（Encryption）] が [オフ（Off）] に設定されている場合グレー表示になります。
証明書のホスト名のチェックを有効化（Certificate Hostname Checking Enabled）	
ユーザ名（Username）	Cisco TMS でサイト管理者権限を持つユーザのクレデンシャル。
パスワード（Password）	
基本グループ（Base Group）	ベースとして使用するユーザ リポジトリのグループ。
サービス	
サービスを有効化（Enable Service）	使用可能なサービスは次のとおりです。 ■ ユーザ ■ FindMe ■ 電話帳 ■ デバイス
ポーリング間隔（Polling Interval）	ステータスをポーリングする頻度。
基本グループ（Base Group）	ベースとして使用するユーザ リポジトリのグループ。
ステータス（Status）	各サービスのステータス。
保存（Save）	設定を保存します。

表 19 [プロビジョニング（Provisioning）] タブの設定（続き）

フィールドとボタン	説明
強制的に更新（Force Refresh）	Cisco VCS UI 上の設定を Cisco TMS での設定と同じにする必要があるため、Cisco VCS のページで有効な現在の設定を送信します。
デフォルトの接続設定を設定（Set Default Connection Settings）	デフォルトの接続設定を設定します。
更新の確認（Check for Updates）	Cisco VCS で最後に変更が確認された後のデータセットの変更を Cisco VCS で検索できるようにします。
完全同期を実行（Perform full Synchronization）	グループが移動する場合やデータベースが復元される特殊な場合に使用します。この操作により、Cisco VCS と Cisco TMSPE のデータセットに不一致が生じます。

接続（Connection）

表 20 [接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得（SNMP Get Community Name）	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡（Track system on network by）	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス（IP Address）* ■ *ホスト名（Hostname）* ■ *MAC アドレス（MAC Address）*

表 20 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 21 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
フィードバック ログ(Feedback Log)	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴(History)	Cisco TMS でシステムに加えられた、すべての検出された変更内容。
通話ログ(Call Log)	選択したシステムの詳しい通話記録(CDR)(利用可能な場合)。詳細については、「コール詳細レコード(215 ページ)」を参照してください。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

Unified CM

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で Unified CM を選択

Unified CM の管理および設定オプションの詳細については、Unified CM のドキュメントを参照してください。

要約

表 22 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メールアドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

Cisco TMS では、Unified CM の設定オプションの一部を使用できます。

表 23 Unified CM の設定の表示と編集

セクション	説明
一般	システムの最も重要な設定。編集可能な Unified CM の設定は、次のとおりです。 ■ **タイム ゾーン(Time Zone)** ■ **ユーザ名(Username)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **システム管理者(System Contact)** ■ **予約済みの場合にシステム管理者にアラートを送信(Alert System Contact When Booked)** ■ **説明(Description)**
設定(Configuration)	Unified CM ソフトウェアのバージョン。

拡張設定(Extended Settings)

このタブには、このバージョンの Unified CM でサポートされているすべての Cisco TMS 互換 Telepresence エンドポイント タイプのリストが含まれます。詳細については、「エンドポイントを追加する準備(58 ページ)」を参照してください。

チケット フィルタ(Ticket Filters)

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

管理対象システム(Managed Systems)

Unified CM で管理される Telepresence システムがこのタブにリストされます。

表 24 [管理対象システム（Managed Systems）] タブの列

カラム	説明
システム名（System Name）	Cisco TMS でのシステム名。システムが Cisco TMS にない場合は、警告が表示されます。
システム タイプ（System Type）	システム タイプおよびモデル。
MAC アドレス	サーバの MAC アドレス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。

クラスタリング

このタブには、Unified CM がメンバーになっているクラスタ内のノードがすべてリストされます。緑のチェックは、プライマリ ノードを示します。[詳細の表示（Details）] リンクをクリックすると、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で対応するノードのシステムの詳細が示されます。

Cisco TMS は、Unified CM の [システム（Systems）] > [サーバ（Server）] ページで、Cisco TMS にも存在するメンバー ノードを識別することでクラスタを作成します。

したがって、[システム（Systems）] > [サーバ（Server）] ページで Unified CM に設定されている [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] が、Cisco TMS の [接続（Connection）] タブの [IP アドレス（IP Address）] および [ホスト名（Hostname）] フィールドで Unified CM に設定されている内容と同じであることが必要です。

接続（Connection）

表 25 [接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得（SNMP Get Community Name）	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡（Track system on network by）	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス（IP Address）* ■ *ホスト名（Hostname）* ■ *MAC アドレス（MAC Address）*

表 25 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 26 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

Log	説明
フィードバック ログ(Feedback Log)	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴(History)	Cisco TMS でシステムに加えられた、すべての検出された変更内容。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050 を選択

このシステムの詳細については、使用しているバージョンの「*Cisco TelePresence Supervisor MSE 8050 Printable Help*」を参照してください。

要約

表 27 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メールアドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 28 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**
設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol) サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、[SIP モード(SIP Mode)] はブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/ SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制（Enforce Management Settings）] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス（Management IP address）] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス（Feedback Address）] として設定されます。
- [夏時間（Daylight Saving Time）]、[タイム ゾーン（Time Zone）]、および [IP アドレス（IP address）] の設定と、[電話帳設定（Phonebook Settings）] および [外部サービス（External Services）] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス（Traphost IP Address）] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] が [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます（「ネットワーク設定（223 ページ）」を参照）。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

スーパーバイザ（Supervisor）

表 29　[スーパーバイザ（Supervisor）] タブの列

カラム	説明
スロット（Slot）	左から右の順に番号が付けられたシャーシの位置。
システム名（System Name）	Cisco TMS でのシステム名。システムが Cisco TMS にない場合は、警告が表示されます。
タイプ（Type）	ブレードのタイプ。
ポート アドレス（Port Address）	**ポート A ～ D** 列には、ブレードのイーサネット ポートの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが表示されます。

表 29 [スーパーバイザ(Supervisor)] タブの列(続き)

カラム	説明
ステータス	■ [ブレード OK(Blade OK)] ■ [ブレード削除(Blade removed)]:このスロットに適合するブレードはありません。 ■ [ブレードなし(Blade absent)]:このスロットにはブレードがありません。 ■ [ブレード挿入不良(Blade inserted badly)]:このブレードがシャーシにしっかりと固定されていることを確認します。 ■ [ブレードをシャットダウン中(Blade shutting down)]:ブレードはシャットダウン処理中です。 ■ [再起動試行(Attempting restart)]:スーパーバイザがブレードの再起動を試行中です。 ■ [無効なブレード ID(Invalid blade ID)]:ブレードがしっかりと押し込まれていることを確認します。 ■ [通信待機中(Waiting for communications)]:ブレードはスーパーバイザとの接続に失敗しました。 ■ [通信切断(Lost communication)]:ブレードとスーパーバイザの接続が切断されました。 ■ [温度/電圧/RTC バッテリの重大なエラー(Temperature / Voltages / RTC Battery critical)]:ブレードの [ヘルス ステータス(Health status)] ページに問題が示されています。 ■ [ブレード シャットダウン(Blade shut down)]:ブレードは現在シャットダウンされています(または再起動中です)。 ■ [再起動が必要です(Restart required)]:このブレードをシャットダウンし、再起動します。 ■ [再起動中(Restarting)]:このブレードは再起動中です。 ■ [ブレード ソフトウェア バージョンが古すぎる(Blade software version too old)]:使用可能な最新のソフトウェア リリースにこのブレードをアップグレードします。
システム詳細の表示(View System Details)	このリンクは、Cisco TMS に追加したすべてのシステムに対して表示されます。別のウィンドウにシステムの詳細を開始する場合にクリックします。

接続(Connection)

表 30 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況(Current Connection Status)	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況(Authentication Status)	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス(IP Address)	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得(SNMP Get Community Name)	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)* ■ *MAC アドレス(MAC Address)*

表 30 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 31 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

TelePresence Conductor

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で TelePresence Conductor を選択

TelePresence Conductor の設定オプションとメンテナンスについては、使用しているバージョンの *Cisco TelePresence Conductor 管理者ガイド* [英語] を参照してください。Cisco TMS と TelePresence Conductor を使用したスケジューリングについては、『*Cisco TelePresence Conductor with Cisco TMS Deployment Guide*』を参照してください。

要約

表 32 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。

表 32 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される(続き)

セクション	説明
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メール アドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 33 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**
設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol) サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、SIP モードはブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。

表 33 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

TMS スケジューリング設定(TMS Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [WebEx 予約を許可(Allow WebEx Booking)]:ブリッジで WebEx 会議をホストできるようにします。 [IP アドレス ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [電話ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming Telephone Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [IP アドレス ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ 特定のシステムに適用される予約/ダイヤルのオプションのみ表示されます。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制(Enforce Management Settings)] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス(Management IP address)] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス(Feedback Address)] として設定されます。
- [夏時間(Daylight Saving Time)]、[タイム ゾーン(Time Zone)]、および [IP アドレス(IP address)] の設定と、[電話帳設定(Phonebook Settings)] および [外部サービス(External Services)] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス(Traphost IP Address)] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] が [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます(「ネットワーク設定(223 ページ)」を参照)。

拡張設定(Extended Settings)

以下の値は TelePresence Conductor のレベルで設定され、Cisco TMS で TelePresence Conductor に対して設定されたすべてのエイリアスに適用されます。

表 34　数字 ID の設定

フィールド	説明
数字 ID ベース（Numeric ID Base）	エイリアスの変数部分を作成する際に Cisco TMS が使用する最初の数値。エイリアスの非変数部分とこの数値の組み合わせは、会議に参加する参加者によって使用されるダイヤル文字列になります。
数字 ID ステップ（Numeric ID Step）	Cisco TMS は、エイリアスが重複しないように、この数値を [数字 ID ベース（Numeric ID Base）] に追加します。会議が終了すると、エイリアスは新しい会議で使用できるようになります。
数字 ID の桁数（Numeric ID Quantity）	Cisco TMS が [数値 ID ステップ（Numeric ID Step）] の増分を使用して [数値 ID ベース（Numeric ID Base）] から 数値を増やす回数。 デフォルトは*無制限*です。

次の表は、数字 ID の値の例から Unified CM と Cisco VCS の展開に対して生成されるエイリアスの例を示しています。

表 35　数字の ID の例

フィールド	値の例
数字 ID ベース（Numeric ID Base）	`000`
数字 ID ステップ（Numeric ID Step）	`1`
数字 ID の桁数（Numeric ID Quantity）	`999`

表 36　数字 ID の値の例から生成されるエイリアスの例

	Unified CM	Cisco VCS
エイリアス パターン（Alias Pattern）	`5%`	`meet.%@example.org`
最初に生成されたエイリアス	`5000`	`meet.000@example.org`
2 番目に生成されたエイリアス	`5001`	`meet.001@example.org`
最後に生成可能なエイリアス	`5999`	`meet.999@example.org`

予約時に、以下の設定を会議ごとに変更することもできます。

表 37　TelePresence Conductor の追加の拡張設定

フィールド	説明
会議レイアウト（Conference Layout）	すべての会議のデフォルト レイアウトを設定します。会議のレイアウトの詳細については、Cisco TelePresence Conductor 管理者ガイド [英語] を参照してください。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する（Limit Ports to Number of Scheduled Participants）	すべての会議に対して、ポートを音声およびビデオのスケジュール参加者の数に制限します。この数値を超えて会議に参加することはできません。

TelePresence Conductor

このタブで、TelePresence Conductor で会議を予約する際に使用する会議エイリアス パターンの作成、変更、および表示を実行できます。エイリアスは会議に参加するために参加者がダイヤルする会議のアドレスを作成するパターンを提供します。

また、TelePresence Conductor でのサービス設定に関するリソースの使用状況を表示し、計算することもできます。

エイリアス

このページには、この TelePresence Conductor 用に Cisco TMS で設定されているすべてのエイリアスのリストが表示されます。

[新規(New)] をクリックして、新しいエイリアスを作成します。

1 つ以上のエイリアスを選択し、[削除(Delete)] をクリックしてそれらを削除します。

[エイリアス パターン(Alias Pattern)] 列には、正規表現として作成したエイリアス パターンが表示されます。これは、Cisco VCS 検索ルールおよび TelePresence Conductor エイリアスの両方で、設定のときにコピーして使用できます。

エイリアスの [名前(Name)] フィールドにカーソルを合わせて [表示/編集(View/Edit)] を選択すると、エイリアス設定が表示されます。

表 38 エイリアスの設定

名前(Name)	エイリアスに名前を指定します(たとえば、「**スケジュール会議**」など)。
エイリアスパターン(Alias Pattern)	パターンは固定値にすることも、変数(`%` で示されます)を含めることもできます。 Cisco VCS の展開では、エイリアスのパターンにドメインを含めることを強く推奨します。エイリアスの パターンは次のいずれかに一致する必要があります。 ■ Unified CM のルート パターン。 ■ Cisco VCS の TelePresence Conductor に隣接するゾーンを対象とする検索ルールのパターン文字列。 例: ■ Unified CM 展開の変数:`5%` ■ Cisco VCS 展開の変数:`meet.%@example.org` ■ 固定:`allhands@example.org`, `1234@example.org` エイリアスの可変部分は、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [TelePresence Conductor の選択(select the TelePresence Conductor)] > [拡張設定(Extended Settings)] で、TelePresence Conductor 用に設定された [数字 ID ベース(Numeric ID Base)] から Cisco TMS によって生成されることに注意してください。
プライオリティ(Priority)	エイリアスにプライオリティを指定します。最も低い数値を持つエイリアスが、最も高いプライオリティになります。Cisco TMS が会議を作成するときに、そのエイリアスが最初に使用されます。そのエイリアスがすでに使用されている場合は、次に小さい番号のエイリアスが使用される、という順序で使用されます。 優先順位は 0 ～ 65535 の間の任意の数値に設定できます。
説明(Description)	このエイリアスの説明を入力します。
マルチスクリーンを選択(Prefer for Multiscreen)	イマーシブ TelePresence システムを含む会議にエイリアスを選択した場合、Cisco TMS はこのフィールドがオンになっているエイリアスを使用します。最も高いプライオリティを持つエイリアスが最初に選択されます。 すべてのイマーシブ エイリアスが使用中の場合は、非イマーシブ エイリアスが会議に使用されます。 このフィールドがオンになっている場合、このエイリアスを使用するイマーシブ参加者は、[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [会議設定(Conference Settings)] で設定されている [デフォルトのイマーシブ帯域幅(Default Immersive Bandwidth)] を使用して接続します。 オンにする場合は、このエイリアスが使用するように設定された TelePresence Conductor 会議テンプレートの [マルチスクリーンの許可(Allow multiscreen)] が [はい(Yes)] に設定されていることを確認してください。

表 38　エイリアスの設定（続き）

予約の許可（Allow booking）	[いいえ（No）] が選択された場合、このエイリアスは Cisco TMS の予約では使用されません。 この設定は、特定のエイリアスの使用を停止する際に、将来の予約があるために削除できない場合に使用できます。この設定を使用して予約を無効にすると、最後の予約が実行された時点で、エイリアスは削除できるようになります。
WebEx での予約の許可（Allow Booking with WebEx）	[はい（Yes）] に設定すると、このエイリアスを Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid を含む予約で使用できます。
会議ごとの最大参加者（Max Participants per Conference）	この数は TelePresence Conductor から読み取られます。 このエイリアスで会議を予約した場合、この数値よりも多い参加者が選択されると、会議を保存できなくなります。 この数値は理論上の最大値です。会議に参加できる実際の人数は、関連する TelePresence Conductor の会議テンプレートが設定される方法に応じて、少なくなくなる可能性があります。 このフィールドは、TelePresence Conductor に対応するエイリアスが存在する場合にのみ、有効になります。
参加者ごとの最大画面（Max Screens per Participant）	このエイリアスの参加者ごとの画面の最大数。 このフィールドは、TelePresence Conductor に対応するエイリアスが存在する場合にのみ、有効になります。
正規表現（Regular Expression）	エイリアスの正規表現。
サービス設定（Service Preference）	このエイリアスがリンクされるサービス設定。 TelePresence Conductor に対応するエイリアスが存在しない場合、このフィールドには*何も*表示されません。

このエイリアスの将来の会議（Future Conferences for this Alias）

このセクションには、このエイリアスが予約されている現在および将来のすべての会議が表示されます。各会議の [会議の表示（View Conference）] ページへのリンクも含まれています。

現在または将来の会議で使用されているエイリアスは、削除もパターンの変更もできません。

サービス設定

このページには、この TelePresence Conductor に設定されているサービス設定が一覧表示され、それらの設定に接続されている [ブリッジ タイプ（Bridge Type）]、[容量調整（Capacity Adjustment）] および [エイリアス（Aliases）] が表示されます。

サービス設定の [名前（Name）] フィールドにカーソルを合わせて、[詳細（Details）] を選択し、[サービス設定構成（Service Preference Configuration）] と [リソース コスト計算（Resource Cost Calculator）] を表示します。

サービス設定構成（Service Preference Configuration）

容量調整（Capacity Adjustment）

TelePresence Conductor は、サービス設定の総容量を Cisco TMS にレポートします。この設定によって、この [サービス設定（Service Preferences）] で会議のスケジュールに使用できる総容量のパーセンテージを指定できます。

スケジューリング専用に予約されている会議ブリッジ プールを使用することをお勧めします。その場合、この設定は変更しないでください。一方、アドホックおよびランデブー会議がスケジュールに使用される会議ブリッジ プールを共有する場合、パーセンテージを 100 % よりも少なく設定することによって、スケジュールされない会議のために容量を確保しておきます。

100 % よりも高いパーセンテージを設定することもできます。使用する容量よりも多くの容量をユーザが予約する傾向がある（たとえば、5 個しか使用されないのに 10 個の会議用ダイヤルインを予約する）場合、[容量調整（Capacity Adjustment）] を 120 % 以上に設定できます。

リソース コスト計算（Resource Cost Calculator）

このツールを使用すると、さまざまな会議シナリオでサービス設定の総容量の何パーセントが使用されるかを計算できます。次の入力が可能です。

- **会議数（Number of Conferences）**
- **会議ごとの参加者数（Participants per Conference）**
- **[参加者ごとの画面数（Screens per Participant）]**（マルチスクリーン エイリアスの場合のみ）

サービス設定に関連付けられているエイリアスごとにこれらの値を入力できます。これらの値を入力すると、それらの会議を設定した場合に使用されるリソースが Cisco TMS によって計算されます。

これらの値を編集しても、TelePresence Conductor では何も変更されません。このツールは、使用されるシステムや参加者の数に基づいてどのくらいのリソースが使用されるかを計算するためだけのものです。

会議ブリッジ

このタブには、選択した TelePresence Conductor 上の会議ブリッジ プール内にあるブリッジのリストが表示されます。

表 39 [会議ブリッジ（Conference Bridges）] タブの列

カラム	説明
システム名（System Name）	Cisco TMS でのシステム名。システムが Cisco TMS にない場合は、警告が表示されます。
タイプ（Type）	システム タイプおよびモデル。
ネットワーク アドレス（Network Address）	システムの IP アドレスまたはホスト名。
システム詳細の表示（View System Details）	このリンクは、Cisco TMS に追加したすべてのシステムに対して表示されます。別のウィンドウにシステムの詳細を開始する場合にクリックします。

クラスタリング

このタブでは、プライマリおよびピア TelePresence Conductor を表示し、プライマリおよびピア TelePresence Conductor のステータスを表示できます。各ノードが到達可能で、Cisco TMS がそれらのノードと正常に通信できる場合、ステータスは [OK] です。通信できない場合、ステータスは [アクセス不可（Inaccessible）] です。

接続（Connection）

表 40 [接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得（SNMP Get Community Name）	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。

表 40 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)* ■ *MAC アドレス(MAC Address)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステムダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

システムの置換(Replace System)

このタブでは、まったく同じ名前、ロールおよび設定を持つ新しいシステムでシステムを置換できます。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 41 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
フィードバック ログ(Feedback Log)	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴(History)	Cisco TMS でシステムに加えられた、すべての検出された変更内容。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

TelePresence Conductor のクラスタリング

TelePresence Conductor のクラスタは、個々の TelePresence Conductor に万一（ネットワークの機能停止や停電などによる）障害が発生した場合に使用されます。それぞれの TelePresence Conductor は、クラスタ内の他の TelePresence Conductor のピアです。各ピアはすべての会議を把握します。

プライマリ TelePresence Conductor の追加と設定

TelePresence Conductor クラスタを追加して設定するには、次のタスクを実行します。

タスク 1：プライマリ TelePresence Conductor の追加

どの TelePresence Conductor がプライマリ TelePresence Conductor になるかを決定します。この例では、プライマリ TelePresence Conductor として最初の TelePresence Conductor を参照します。

注：このシステムの設定は、その他すべてのセカンダリ TelePresence Conductor がクラスタに追加されるときに共有されます。プライマリ TelePresence Conductor を追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。[アドレスによる追加（Add by Address）] タブが表示されます。
3. フィールドに適切な情報を入力します。詳細については、「システムの追加（125 ページ）」を参照してください。
4. [Next] をクリックします。
5. [システムの追加の完了（Finish Adding Systems）] をクリックします。

タスク 2：プライマリ TelePresence Conductor の設定

クラスタにセカンダリ TelePresence Conductor を追加する前に、プライマリ TelePresence Conductor を設定し、TelePresence Conductor ブリッジをプライマリ TelePresence Conductor に追加する必要があります。エイリアスと TelePresence Conductor ブリッジを設定するには、次の手順を実行します。

エイリアスの設定

1. プライマリ TelePresence Conductor を選択し、[TelePresence Conductor] タブをクリックします。
2. [新規（New）] をクリックします。
3. [TelePresence Conductor] タブで説明した手順に従って、適切な値を入力します。
4. [サマリー（Summary）] タブの下にエイリアス設定に使用できるオープン チケットがないことを確認します。

TelePresence Conductor の設定

次の手順を実行して TelePresence Conductor ブリッジを設定します。

1. プライマリ TelePresence Conductor を選択し、[会議ブリッジ（Conference Bridges）] タブをクリックします。
2. [ネットワーク アドレス（Network Address）] セクションでネットワーク アドレスをメモします。
3. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
4. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。
5. [IP アドレスまたは DNA 名でシステムを指定（Specify Systems by IP Addresses or DNS Names）] タブの下で [会議ブリッジ（Conference Bridges）] タブに表示されるネットワーク アドレスを入力します。
6. [詳細設定（Advanced Settings）] タブをクリックします。
7. ブリッジの**ユーザ名**と**パスワード**を入力します。
8. [Next] をクリックします。

タスク 3：セカンダリ TelePresence Conductor の追加

セカンダリ TelePresence Conductors を追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。[アドレスによる追加（Add by Address）] タブが表示されます。
3. フィールドに適切な情報を入力します。詳細については、「システムの追加（125 ページ）」を参照してください。
4. [Next] をクリックします。
5. [システムの追加の完了（Finish Adding Systems）] をクリックします。
6. [Next] をクリックします。

正常に Conductor クラスタ設定を完了するには、プライマリおよびセカンダリ Conductor について次の手順を実行する必要があります。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. TelePresence Conductor を選択します。
3. [Settings（設定）] タブをクリックします。
4. [強制的に更新（Force Refresh）] をクリックします。

Cisco Meeting Server（CMS）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で Cisco Meeting Server を選択

Cisco Meeting Server の設定オプションとメンテナンスについては、使用しているバージョンの Cisco Meeting Server ガイド [英語] を参照してください。

要約

表 42 [サマリー（Summary）] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット（Tickets）	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してくださ
システム ステータス（System Status）	選択した CMS システムのシステム ステータスと更新の概要。表示されるステータス メッセージは次のとおりです。 ■ *Call Bridge アップタイム* ■ *コールレッグ（アクティブ）* ■ *コールレッグ（最大アクティブ）* ■ *コールレッグ（完了）* ■ *オーディオ ビット レート（出力）* ■ *オーディオ ビット レート（入力）* ■ *ビデオ ビット レート（出力）* ■ *ビデオ ビット レート（入力）* CMS の接続ステータスが [HTTP の応答がありません（No HTTP response）] の場合、Cisco TMS はシステムのステータスを更新しないことに注意してください。この場合、前述のステータス メッセージの値は *ZERO* と表示されます。
今週のブッキング（This Week's Bookings）	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 43 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **製造者(Manufacturer)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)** ■ **システムの追跡(Track System by)** ■ **TMS システム ID(TMS System ID)** ■ **IP ゾーン(IP Zone)** ■ **タイム ゾーン(Time Zone)** ■ **ステータス(Status)** ■ **アクセス(Your Access)** ■ **システム管理者(System Contact)** ■ **予約済みの場合にシステム管理者にアラートを送信(Alert System Contact When Booked)** ■ **説明(Description)** ■ **フォルダとシステム(Folders with system)** ■ **Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)**:Web ブリッジ URI は、会議の予約確認用の電子メールと [会議(Meeting)] のランディング ページに含まれています。このオプションを使用すると、ユーザは会議をクリックしてすぐに参加することができます。[Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)] は、CMS の追加時に [Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)] の詳細を指定した場合のみ設定できます。CMS Web ブリッジ URI に設定しているのと同じ URI を入力する必要があります。ポートがデフォルト ポートの 443 とは異なる場合は、URI とともにポートを指定します。
設定(Configuration)	システムのソフトウェア バージョンを表示します。
ネットワーク設定(Network Settings)	[代替 IP(Alternate IP)]:Call Bridge クラスタ内の代替ブリッジの IP アドレスが TMS と CMS 間の通信に使用されます。Web Admin サービスと Call Bridge サービスが稼働している必要があります。CMS フェールオーバーのサポートに使用される代替 IP を選択します。[代替 IP(Alternate IP)] ドロップダウンリストには、クラスタ化された Call Bridge ノードの IP アドレスが表示されます。 [代替 IP ユーザ名(Alternate IP Username)]:選択した代替 IP のユーザ名を入力します。 [代替 IP パスワード(Alternate IP Password)]:選択した代替 IP のパスワードを入力します。

表 43 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

TMS スケジューリング設定(TMS Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:H.323 を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:H.323 を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 両方のオプションはデフォルトで有効になっていますが、Cisco TMS 15.3 から 15.4 にアップグレードする場合は手動で有効にする必要があります。 H.323 の着信および発信ダイヤルは、CMS の導入で、VCS が H.323-to-SIP インターワーキングを提供するように設定されている場合に機能します。CMS が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合は、両方のオプションを無効にします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスで表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

拡張設定(Extended Settings)

表 44 [拡張設定(Extended Settings)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
ドメイン(Domain)	ドメイン名を入力します。
数字 ID ベース(Numeric ID Base)	エイリアスの変数部分を作成する際に Cisco TMS が使用する最初の数値。エイリアスの非変数部分とこの数値の組み合わせは、会議に参加する参加者によって使用されるダイヤル文字列になります。[数字 ID ベース(Numeric ID Base)] は、0 より大きく、19 文字未満である必要があります。
数字 ID の桁数(Numeric ID Quantity)	Cisco TMS が [数字 ID ベース(Numeric ID Base)] の数値を 1 つずつ増やす回数。

チケット フィルタ(Ticket Filters)

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

クラスタリング

[クラスタリング(Clustering)] タブは、クラスタ化 CMS が追加されている場合のみ表示されます。

TMS はクラスタの管理をサポートしていません。ただし、プライマリ ノードが到達不能の場合、会議の割り当てには、TMS と CMS 間の通信に代替のクラスタ ノード IP アドレスが使用されます。

Connection

表 45 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況(Current Connection Status)	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況(Authentication Status)	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス(IP Address)	システムの IP アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 46 システムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

CMS の設定

Cisco Meeting Server は、会議をスケジュールするための管理対象ブリッジとして Cisco TMS に追加できるようになりました。スケジューリングに CMS を使用することの主な利点は次のとおりです。

- クラスタ化 Call Bridge での多数のコールを管理するための無類のキャパシティ。
- 開始直前の会議に対するシングル ポイント障害の発生しない自動フェールオーバー（代替 IP が設定されている場合）。

Cisco TMS に CMS を追加する前に、次の点に注意してください。

- CMS にクラスタ Call Bridge を設定し、Cisco TMS にプライマリ CMS を追加する必要があります。
- マスター データベースが CMS クラスタでホストされている CMS ノードをプライマリ管理対象ノードとして TMS に追加する作業は必須ではありません。Cisco TMS に追加された CMS ノードは、TMS からはプライマリ CMS として特定されます。
- CMS に追加するための**ユーザ名**と**パスワード**の入力は必須です。
- Cisco TMS は CMS バージョン 2.0 以降をサポートしています。CMS は、*IP アドレス*または*ホスト名*でのみ追跡できます。

プライマリ CMS の追加

プライマリ CMS にする CMS を決めます。

プライマリ CMS を追加するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. [システムの追加（Add Systems）] をクリックします。[アドレスによる追加（Add by Address）] タブが表示されます。
3. フィールドに適切な情報を入力します。詳細については、「システムの追加（125 ページ）」を参照してください。
4. [詳細設定（Advanced Settings）] セクションで、[ユーザ名（Username）] と [パスワード（Password）] を入力します。
5. [Next] をクリックします。
6. [システムの追加の完了（Finish Adding Systems）] をクリックします。

CMS は、その CMS に対する IPv6 アドレスが設定されている場合、その IPv6 アドレスで追加することもできます。「[IPv6 アドレス]:ポート番号」の形式でアドレスを入力して、CMS を追加します。IPv6 の場合ポート番号は必須です。

CMS Web Admin がデフォルト ポート以外の特定のポートをリッスンするように設定されている場合（多くはシングル サーバ導入の場合）、Cisco TMS に CMS を追加するためにはポート番号が必須です。デフォルト ポートは 443 です。

CMS の設定

プライマリ CMS を設定するには、次のタスクを実行します。

タスク 1：システム名の入力

CMS の初回追加時には、システム名は「*No Name*」と表示されます。システム名を入力します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [CMS を選択（Select a CMS）] > [設定（Settings）] > [設定の編集（Edit Settings）] > [全般（General）] に移動します。
2. [名前（Name）] フィールドにシステム名を入力します。
3. [Save] をクリックします。

タスク 2：ダイヤル番号の設定

ダイヤル番号を設定するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [CMS を選択(Select a CMS)] > [設定(Settings)] > [拡張設定(Extended Settings)] に移動します。
2. [ドメイン(Domain)]、[数字 ID ベース(Numeric ID Base)]、[数字 ID の桁数(Numeric ID Quantity)] の各フィールドに適切な詳細情報を入力します。
3. [保存(Save)] をクリックします。

ダイヤル番号の設定は頻繁に変更せず、必要な場合のみ変更することを推奨します。必要に応じて、ダイヤル番号の設定に変更を加える前に、次の手順を実行します。

- 変更は保守期間中にのみ行います。
- 将来の会議がスケジュールされている場合は、変更を加えた後で**診断ツール**を実行します。
- 会議の進行中は [保存(Save)] ボタンが無効になっていることに注意してください。

Cisco TMS は、CMS に Cisco TMS によって作成される callProfile および callLegProfile を 24 時間ごとにチェックします。これらのプロファイルが削除されている場合、Cisco TMS はプロファイルを再作成し、Cisco TMS によって作成された共同スペースとそれらのプロファイルを再度関連付けます。管理者は [設定の表示(View settings)] ページで [強制的に更新(Force Refresh)] を実行して、24 時間待つことなく手動でプロセスを開始できます。システム レベルのプロファイルは、Cisco TMS によって作成されたプロファイルが削除されている期間中に使用されます。

タスク 3:Web ブリッジ URI の設定

[Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)] オプションを使用すると、ユーザは会議をクリックしてすぐに参加することができます。このオプションは、CMS に **Web ブリッジ**が設定されている場合のみ設定できます。

Web ブリッジ URI を設定するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [CMS を選択(Select a CMS)] > [設定(Settings)] > [設定の編集(Edit Settings)] > [全般(General)] に移動します。
2. [Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)] フィールドに、URI を入力します。
   Web ブリッジの CMS に設定されているのと同じ URI を入力する必要があることに注意してください。ポートがデフォルトポートの 443 とは異なる場合は、URI とともにポートを指定します。
3. [保存(Save)] をクリックします。

TMS 上の CMS クラスタの Web ブリッジ URI を設定するには、次の手順を実行します。

1. すべての CMS クラスタ化ノードに対するドメイン コントローラに共通のドメイン名(oneclick@domain.com など)を設定します。
2. すべての CMS クラスタ化メンバーに対して、同じ Web ブリッジのポート番号が設定されていることを確認します。たとえば、470。
3. すべての CMS クラスタ化メンバー コンソールで、[Web ブリッジ(Web Bridge)] を設定し、URL を一度クリックします。
   例:https://oneclick@domain.com:470
4. [設定(Configuration)] > [全般(General)] > [外部アクセス(External access)] > [Web ブリッジ URI(Web Bridge URI)] の下で、CMS Web インターフェイスの共通ドメイン名を設定します。例:https://oneclick@domain.com:470
5. クラスタ化 CMS ノードの 1 つを TMS に追加する場合は、「共通ドメイン名:ポート」の形式で、TMS に Web ブリッジ URI を入力します。例:https://oneclick@domain.com:470

タスク 4:CMS の共存のサポート

Cisco TMS では、残りのユーザが既存のブリッジを使用している間に、ユーザのグループを移行して、スケジュールされた会議で CMS を使用するための**共存**機能が導入されています。**共存**ではすべてのグローバル設定が上書きされます。共存は、*EnableCMSTrial* レジストリによって制御されます。

共存を作成するには、次の手順を実行します。

1. セット ユーザに IP ゾーンを割り当てます。
2. CMS に同じ IP ゾーンを割り当てます。その IP ゾーンのユーザが会議を予約すると、すべての会議が CMS でスケジュールされます。

EnableCMSTrial レジストリ キーはデフォルトで無効になっていることに注意してください。この機能を有効にするには、*EnableCMSTrial* レジストリ キーの値を *1* に変更します。

EnableCMSTrial レジストリ キー有効または無効にするには、次のパスに移動します。

1. [スタート(Start)] メニューの [ファイル名を指定して実行(Run)] を選択して「regedit」と入力し、[OK] をクリックして Windows レジストリ エディタを開きます。
2. プラス アイコンを使用して左側のツリーを展開し、ハイブ(フォルダ)**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Tandberg\TANDBERG Management Suite** を探します。

CMSTrial レジストリが有効になると、*「CMS トライアル モードが有効になっています。詳細については、TMS のリリース ノートを参照してください。」*というメッセージが、[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [会議設定(Conference Settings)] > [詳細設定(Advanced Settings)] > [ルーティングでの優先 MCU タイプ(Preferred MCU Type in Routing)] に表示されます。

クラスタ Call Bridge の設定

CMS のクラスタ ノードが各 CMS の(ネットワーク障害や停電などによる)障害をサポートするために使用されます。

代替 IP は、クラスタ化 Call Bridge を指定して設定されている CMS から取得されます。クラスタ Call Bridge を設定するには、次の手順を実行します。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > [CMS を選択(Select a CMS)] > [設定(Settings)] > [設定の編集(Edit Settings)] に移動します。
2. [ネットワーク設定(Network Settings)] セクションの下にある [代替 IP(Alternate IP)] ドロップダウン リストから代替 IP を選択します。
3. [代替 IP ユーザ名(Alternate IP Username)] フィールドと [代替 IP パスワード(Alternate IP Password)] フィールドに代替 IP ユーザ名とパスワードを入力します。
4. [保存(Save)] をクリックします。

次の点に注意してください。

- IP アドレスを使用して CMS にクラスタ ノードが追加される場合、TMS のクラスタ ノードも IP アドレスを使用して追加されるようにしてください。このルールは IPv6 およびホスト名を介した追加にも適用されます。
- Cisco TMS での CMS フェールオーバーのサポートは、開始直前の会議を処理するための機能です。フェールオーバー機能は進行中の会議には機能しません。Cisco TMS では 1 つの代替 IP の設定のみサポートされています。マスター ノードと代替 IP の両方が停止した場合、Cisco TMS はクラスタ化 CMS に含まれる他のクラスタ化された Call Bridge を使用しません。
- フェールオーバー中、会議イベントのログには代替 CMS の代わりにプライマリ CMS が表示されます。デフォルトでは、現在のフェールオーバーの詳細については、`log-cmsfailover-liveservice` ログで確認できます。
- Cisco TMS で管理される CMS クラスタ Call Bridge ノードは 1 つだけにする必要があります。既存の Cisco TMS 管理対象 CMS をクラスタ化する必要がある場合は、最初に Cisco TMS からノードを削除します。次に、CMS にクラスタ Call Bridge を設定し、ノードの 1 つを管理対象ノードとして Cisco TMS に追加します。
- 既存の Cisco TMS 管理対象 CMS を非クラスタ化するには、まず Cisco TMS から管理対象 CMS ノードを削除してから、CMS の Call Bridge を非クラスタ化します。CMS のコンソールで **database cluster remove** および **factory-reset app** を実行して、ノードが完全に非クラスタ化されていることを確認します。
- いずれかの CMS クラスタ メンバーが Cisco TMS によって管理されている場合、クラスタの他のメンバーを管理対象ブリッジとして Cisco TMS に追加することはできません。
- 既存の TMS 管理対象のスタンドアロン CMS を TMS 管理対象のクラスタ化 CMS ノードの一部として追加するには、まず TMS から管理対象のスタンドアロンおよびクラスタ化 CMS ノードを削除してから、クラスタ化ノードを TMS に追加し直します。

CMS プロファイル

Cisco TMS は、CMS に Cisco TMS によって作成される callProfile および callLegProfile を 24 時間ごとにチェックします。これらのプロファイルが削除されている場合、Cisco TMS はプロファイルを再作成し、Cisco TMS によって作成された共同スペースとそれらのプロファイルを再度関連付けます。管理者は [設定の表示(View settings)] ページで [強制的に更新(Force Refresh)] を実行して、24 時間待つことなく手動でプロセスを開始できます。システム レベルのプロファイルは、TMS によって作成されたプロファイルが削除されている期間中に使用されます。

スケジューリング

CMS を参加者として追加して、会議をスケジュールすると、[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [詳細設定（Advanced Settings）] の [IP 帯域幅（IP Bandwidth）] フィールドは無効になります。最大帯域幅値である 6144 kbps が選択されます。CMS には会議をホストするための帯域幅の制限はありません。

次の機能は、Cisco TMS の CMS ではサポートされません。

- WebEx 対応の会議
- **会議制御センター**
  ただし、他のブリッジでスケジュールされている会議の [会議の編集（Edit Conference）] および [参加者の追加（Add Participants）] セクションで CMS を確認することはできます。
- **ISDN 帯域幅と ISDN 制限**
- ベスト インプレッション ルーティング
- 最小コスト ルーティング
- 録音

CMS を追加して、新しい会議を予約する場合、[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [詳細設定（Advanced Settings）] の下にある次のオプションのみ選択できます。

- [画像モード（Picture Mode）] の [分割表示（Continuous Presence）]
- [拡張モード（Extend Mode）] の [自動ベスト エフォート（Automatic Best Effort）]
- [セキュア（Secure）] の [可能な場合（If Possible）]

Cisco TMS では、Cisco TMS によって直接管理されていない Call Bridge ノード内で会議のダイヤルアウトを分散できるようになりました。この状況は、CMS クラスタ Call Bridge セットアップ内のいずれかの Call Bridge ノードが Cisco TMS によって管理されている場合に発生します。

デフォルトでは、CMS の発信ダイヤル プラン ルールにはグローバルな範囲が設定されていて、クラスタ設定内のすべての Call Bridge ノードに共通です。クラスタ化された Call Bridge ノード間でのロード バランスは、Call Bridge の範囲を指定して発信ダイヤル プラン ルールを作成することで実現されます。このため、その発信ダイヤル プラン ルールは 1 つの指定した Call Bridge に固有のものになります。このため、その発信ダイヤル プラン ルールは 1 つの指定した Call Bridge に固有のものになります。

Cisco TMS は内部で CMS 機能を使用して、発信ダイヤル プラン ルールに基づき、管理対象外 CMS クラスタ Call Bridge ノードからダイヤルアウトを開始します。

設定手順については、Cisco Meeting Server API リファレンス ガイド [英語] の「Creating and modifying outbound dial plan rules」セクションを参照してください。

MCU および TelePresence Server

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で MCU または TelePresence Server を選択

要約

表 47　[サマリー（Summary）] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット（Tickets）	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してください。

表 47 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される(続き)

セクション	説明
サービス契約ステータス(Service Contract Status)	有効期限、最新のメジャー ソフトウェア バージョンのリリース キー、およびソフトウェア更新の有無を確認するリンクを含む、選択したシステムのサービス契約ステータスおよび更新についての概要。可能なステータス メッセージは次のとおりです。 ■ *サービス契約は有効です(Service contract is valid and ok)* ■ *サービス契約は注文済みですが、未請求です(Service contract is ordered, but not invoiced)* ■ *サービス契約の期限が切れています(Service contract is expired)* ■ *サービス契約がありません(No service contract)* ■ *ドラフト(Draft)* ■ *新しいリビジョン(New Revision)* ■ *現在のパートナーにより購入済み(Bought by current partner)* ■ *不明(Unknown)* このフィールドはすべてのシステムに適用または表示されるわけではありません。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
電話帳	システムに設定されている任意の電話帳(電話帳をサポートするエンドポイント、MCU、およびゲートウェイにのみ表示されます)。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メール アドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 48 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**

表 48 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol) サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、SIP モードはブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/ SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。
TMS スケジューリング設定(TMS Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [WebEx 予約を許可(Allow WebEx Booking)]:ブリッジで WebEx 会議をホストできるようにします。 [IP アドレス ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [電話ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming Telephone Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [IP アドレス ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ 特定のシステムに適用される予約/ダイヤルのオプションのみ表示されます。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制(Enforce Management Settings)] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス(Management IP address)] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス(Feedback Address)] として設定されます。
- [夏時間(Daylight Saving Time)]、[タイム ゾーン(Time Zone)]、および [IP アドレス(IP address)] の設定と、[電話帳設定(Phonebook Settings)] および [外部サービス(External Services)] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス(Traphost IP Address)] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] が [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます(「ネットワーク設定(223 ページ)」を参照)。

拡張設定(Extended Settings)

これらの MCU および TelePresence Server の設定はどちらも、Cisco TMS の拡張設定でのみ実行できます。TelePresence Conductor で MCU または TelePresence Server を管理している場合、これらはシステムで直接会議ごとに変更または設定することができず、無視されます。

表 49 数字 ID の設定

フィールド	説明
数字 ID ベース(Numeric ID Base)	会議の参加者に Cisco TMS から送信されるシーケンスの最初の番号。番号は、会議をホストするブリッジにダイヤルインするときに必要な数字 ID の基本として使用されます。 数字 ID は、予約の確認用の電子メール メッセージに含まれます。
数字 ID ステップ(Numeric ID Step)	Cisco TMS は、数字 ID が重複しないように、この数値を [数字 ID ベース(Numeric ID Base)] に追加します。会議が終了すると、その ID は新しい会議で使用可能になります。
数字 ID の桁数(Numeric ID Quantity)	生成できる同時進行会議の ID の最大数。

Cisco TelePresence MCU

次の設定は、予約中に会議ごとに変更することもできます。

下の設定のすべてがすべての Cisco TelePresence MCU モデルに使用できるわけではありません。

表 50 MCU の拡張設定

設定	説明
ISDN ゲートウェイ DID マッピングの有効化(Enable ISDN Gateway DID Mapping)	DID(直接着信ダイヤル)では、ISDN サポートなしで MCU への着信 ISDN 接続が可能になります。DID の設定手順については、ゲートウェイのマニュアルを参照してください。 詳細については、「Cisco TelePresence MCU の拡張設定 DID マッピング(37 ページ)」を参照してください。
会議レイアウト(Conference Layout)	会議用の画像のレイアウトを定義します。その間で選択する複数の選択肢があります。会議のレイアウトの詳細については、MCU のマニュアルを参照してください。

表 50　MCU の拡張設定（続き）

設定	説明
カンファレンスの公開/非公開（Visibility）	自動転送および Web インターフェイスでの会議の公開/非公開を示します。次のオプションがあります。 ■ [公開（Public）]：会議が自動応答にリストされ、Web インターフェイスのすべてのユーザに表示されます。 ■ [非公開（Private）]：会議は、会議を表示するように特に設定された自動応答を除いて、どの自動応答にもリストされません。また、会議は会議の所有者と管理ユーザに対する Web インターフェイスだけにも表示されます。
デュアル ビデオ ストリーム（Dual Video Stream）	プレゼンテーションなどの追加のビデオ ストリームを有効にします。
コンテンツ モード	コンテンツ パケット ストリームを送信するモードを決定します。次のオプションがあります。 ■ [無効（Disabled）]：コンテンツは送信されません。 ■ [パススルー（Passthrough）]：コンテンツはデコードされず、単に再度まとめられ、会議の適格な各エンドポイントに送信されます。 ■ [ハイブリッド（Hybrid）]：MCU は 2 つのコンテンツ ストリームを送信します。1 つは高解像度のストリーム（パススルー）で、もう 1 つはより高いストリームをサポートできないすべてのエンドポイント用にトランスコードされ、縮小された低解像度のストリームです。 ■ [トランスコード（Transcoded）]：単一のトランスコードされたコンテンツ ストリームが送信されます。
ゲートキーパーに登録する（Register with Gatekeeper）	H.323 レジストラに会議を登録します。
会議 SIP 登録（Conference SIP registration）	SIP レジストラに会議を登録します。
チェアー制御を許可（Allow Chair Control）	フロア制御とチェアー制御は H.243 プロトコルに含まれています。次のオプションがあります。 ■ [なし（None）]：この会議ではフロア制御とチェアー制御の使用は許可されません。 ■ [フロア制御のみ（Floor Control Only）]：この会議ではフロア制御のみ許可されます。チェアー制御は許可されません。他の参加者が現在そうしていない限り、いずれの参加者も「フロアを取得」できます。 ■ [チェアー制御とフロア制御（Chair and Floor Control）]：この会議ではフロア制御とチェアー制御の両方が許可されます。いずれの参加者もフロアを取得することができ、他の参加者が現在そうしていない限り、いずれの議長参加者もチェアーを取得できます。
レイアウト制御を許可（Allow Layout Control）	DTMF 信号または遠端カメラ制御を使用して会議レイアウトを会議参加者が制御できるようにします。
自動レクチャーモード（Automatic Lecture Mode）	この機能が会議で有効になっている場合、MCU は最大音量の発言者を講演者として識別します。講演者には、定義されている場合に、通常の分割表示ビューまたはカスタム レイアウトが表示されます。他の参加者については、講演者のビューがすべてのカスタム レイアウトを上書きします。 次のオプションがあります。 ■ *無効（Disabled）* ■ *10 秒後（After 10 seconds）* ■ *30 秒後（After 30 seconds）* ■ *1 分後（After 1 minute）* ■ *ただちに（Immediately）*

表 50　MCU の拡張設定（続き）

設定	説明
ConferenceMe 用予約ポート（Ports to Reserve for ConferenceMe）	MCU の ConferenceMe 機能を使用する場合は、ポートをこのフィールドを使用して、予約できます。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する（Limit Ports to Number of Scheduled Participants）	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。
マルチキャスト ストリーミング有効（Multicast Streaming Enabled）	会議のマルチキャスト ストリーミングを許可します。
ユニキャスト ストリーミング有効（Unicast Streaming Enabled）	この会議のユニキャスト ストリーミングを許可します。

TelePresence Server

次の設定は、予約中に会議ごとに変更することもできます。

表 51　TelePresence Server の拡張設定

フィールド	説明
ゲートキーパーへの登録（Register With Gatekeeper）	会議の数値 ID をゲートキーパーに登録します（H.323 登録が TelePresence Server で有効な場合）。
会議 SIP 登録（Conference SIP Registration）	会議の数値 ID をレジストラに登録します（SIP 登録が TelePresence Server で有効になっている場合）。
デュアル ビデオ ストリーム（Dual Video Stream）	プレゼンテーションなどの追加のビデオ ストリームを有効にします。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する（Limit Ports to Number of Scheduled Participants）	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。
作成時に会議をロック（Lock Conference on Creation）	作成されるときに会議をロックします。会議が開始される前に、事前設定された参加者を追加できますが、会議が開催中でなければ参加者は誰も参加（コールイン）できません。ロックされた会議に参加者を招待するためにコールアウトすることができます。
会議のロック期間（Conference Lock Duration）	会議がロックされた状態を保つ秒数（上で有効になっている場合）。
会議にロビー画面を使用（Use Lobby Screen for Conferences）	TelePresence Server を有効にして参加者にロビー画面を表示します。 ロビー画面には、会議のタイトル、開始時刻と終了時刻（該当する場合）、および任意のメッセージが表示されます。メッセージは、会議ごとに設定されます。参加者が会議に参加する場合、または表示するビデオがない場合に、参加者にこの画面が表示されます。 TelePresence Server が Cisco TMS に追加されるときに、デフォルトで [オン（On）] に設定されます。
会議ロビー メッセージ（Conference Lobby Message）	ロビー画面に表示するテキストを入力します。参加者には、[会議にロビー画面を使用（Use Lobby Screen for conferences）] がサーバ全体で有効になっているかまたは特定の会議に有効になっている場合に、このテキストが表示されます。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

コールの状態（Call Status）

システムが会議中の場合、現在の接続に関する情報が、このタブに表示されます。特定の日にスケジュールされているすべての会議も、このタブに表示されます。

このタブでは、次のことを実行できます。

- [切断（Disconnect）] をクリックして、進行中の通話を切断します。
- [ページの更新（Refresh Page）] をクリックしてシステムから最新情報を取得します。

Connection

表 52　[接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得（SNMP Get Community Name）	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡（Track system on network by）	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス（IP Address）* ■ *ホスト名（Hostname）* ■ *MAC アドレス（MAC Address）*

表 52 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

システムの置換(Replace System)

このタブでは、まったく同じ名前、ロールおよび設定を持つ新しいシステムでシステムを置換できます。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 53 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
フィードバック ログ(Feedback Log)	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
通話ログ(Call Log)	選択したシステムの詳しい通話記録(CDR)(利用可能な場合)。詳細については、「コール詳細レコード(215 ページ)」を参照してください。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

ゲートウェイ

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で、ゲートウェイを選択

ゲートウェイの設定および固有の設定に関する詳細については、ゲートウェイ モデルおよびソフトウェア バージョンに対応するマニュアルを参照してください。

要約

表 54 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
電話帳	システムに設定されている任意の電話帳(電話帳をサポートするエンドポイント、MCU、およびゲートウェイにのみ表示されます)。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メールアドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 55 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**
設定(Configuration)	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合:[動作モード(Operation mode)]:[リモート管理(Remotely Managed)] または [ローカル管理(Locally Managed)] [リモート管理(Remotely Managed)] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol)サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、SIP モードはブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定(Monitoring/SNMP Settings)	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新（Force Refresh）] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制（Enforce Management Settings）] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス（Management IP address）] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス（Feedback Address）] として設定されます。
- [夏時間（Daylight Saving Time）]、[タイム ゾーン（Time Zone）]、および [IP アドレス（IP address）] の設定と、[電話帳設定（Phonebook Settings）] および [外部サービス（External Services）] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス（Traphost IP Address）] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] が [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます（「ネットワーク設定（223 ページ）」を参照）。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

電話帳（Phone Book）

矢印ボタンを使用して、システムに電話帳を設定したり、既存の電話帳を削除したりします。

[電話帳の管理に移動（Go to Manage Phone Books）] ボタンを使用すると、[電話帳の管理（Manage Phone Books）]（201 ページ）ページが開きます。

電話帳を使用する方法については、「電話帳の作成および管理（196 ページ）」を参照してください。

接続（Connection）

表 56　[接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況（Current Connection Status）	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況（Authentication Status）	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得（SNMP Get Community Name）	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。

表 56 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)* ■ *MAC アドレス(MAC Address)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 57 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

コンテンツサーバと録音サーバ

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で、コンテンツ サーバまたは記録サーバを選択

Cisco TelePresence Content Server の設定オプションおよびメンテナンスについては、使用しているバージョンの *Cisco TelePresence Content Server 管理者およびユーザ ガイド* [英語] を参照してください。

ゲートウェイ モードの Content Server

Content Server をゲートウェイ モードで設定すると、Cisco TMS では、選択されている録音エイリアスの番号が使用される代わりに、スケジュールされている各録音に対する一意のエイリアスが作成されます。

この個別に生成されたエイリアスは会議に固有の長いランダムな番号で、選択した録音エイリアスと同じ設定になります。Cisco TMS でこの動作が行われるのは、Content Server が会議から一時的にドロップ アウトしたり、会議が切断した場合、会議で再接続時に新しい録音ファイルが作成されるのではなく、元のファイルへの録音が続行されるからです。

Content Server が端末モードで設定されている場合は、録音エイリアス番号が使用されます。また Content Server がドロップアウトしたり、会議が切断するたびに新しいファイルが作成され、前と同じファイルは使用されません。

要約

表 58 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
サービス契約ステータス(Service Contract Status)	有効期限、最新のメジャー ソフトウェア バージョンのリリース キー、およびソフトウェア更新の有無を確認するリンクを含む、選択したシステムのサービス契約ステータスおよび更新についての概要。可能なステータス メッセージは次のとおりです。 ■ *サービス契約は有効です(Service contract is valid and ok)* ■ *サービス契約は注文済みですが、未請求です(Service contract is ordered, but not invoiced)* ■ *サービス契約の期限が切れています(Service contract is expired)* ■ *サービス契約がありません(No service contract)* ■ *ドラフト(Draft)* ■ *新しいリビジョン(New Revision)* ■ *現在のパートナーにより購入済み(Bought by current partner)* ■ *不明(Unknown)* このフィールドはすべてのシステムに適用または表示されるわけではありません。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メールアドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 59 [設定の表示（View Settings）] と [設定を編集（Edit Settings）] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前（Name）** ■ **システム タイプ（System Type）** ■ **ネットワーク アドレス（Network Address）** ■ **ロケーション（Location）** ■ **システムの接続性（System Connectivity）**
設定（Configuration）	システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および最後のバックアップと復元の時間を示します。 TelePresence Server の場合：[動作モード（Operation mode）]：[リモート管理（Remotely Managed）] または [ローカル管理（Locally Managed）] [リモート管理（Remotely Managed）] モードにある TelePresence Server は、Cisco TMS に存在する TelePresence Conductor によって管理されている場合だけサポートされます。
ネットワーク設定（Network Settings）	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP（Network Time Protocol）サーバ設定および IP 設定情報が分かります。 Unified CM に SIP でトランキングされる TelePresence Server および TelePresence MCU の場合、SIP モードはブリッジから読み取られ、ここに表示されます。
モニタリング/SNMP 設定（Monitoring/ SNMP Settings）	このセクションでトラップ ホストおよび管理 IP アドレスと SNMP コミュニティが分かります。トラップ ホストおよび管理アドレスは、システムを管理する Cisco TMS サーバの IP アドレスにする必要があります。レガシー Cisco TelePresence MXP エンドポイントはトラップの送信に管理アドレスを使用します。

表 59 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

TMS スケジューリング設定(TMS Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [WebEx 予約を許可(Allow WebEx Booking)]:ブリッジで WebEx 会議をホストできるようにします。 [IP アドレス ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [電話ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming Telephone Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [IP アドレス ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ 特定のシステムに適用される予約/ダイヤルのオプションのみ表示されます。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。 IP VCR のスケジュール設定は Cisco TMS でサポートされていないことに注意してください。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

[強制的に更新(Force Refresh)] をクリックすると、システムから表示される情報が更新されます。

Unified CM に登録されたエンドポイントでは、更新されたステータスは Unified CM から読み込まれます。ボタンはファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントに影響しません。

[管理設定の強制(Enforce Management Settings)] ボタンは、直接管理されるほとんどのシステムで使用できます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- [管理 IP アドレス(Management IP address)] が現在の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されます。Unified CM が登録したエンドポイントの場合、この IP アドレスは代わりに [フィードバック アドレス(Feedback Address)] として設定されます。
- [夏時間(Daylight Saving Time)]、[タイム ゾーン(Time Zone)]、および [IP アドレス(IP address)] の設定と、[電話帳設定(Phonebook Settings)] および [外部サービス(External Services)] のパスが更新されます。
- Cisco TelePresence MXP システムなどの SNMP を使用する Cisco TMS と通信するレガシー システムの場合、[トラップホスト IP アドレス(Traphost IP Address)] も設定されます。これは、[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] が [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] で有効になっている場合に、すべてのシステムで自動的に実行されます(「ネットワーク設定(223 ページ)」を参照)。

設定の比較（Compare Settings）

このタブには、システムの現在の設定とサーバに保存されたすべてのバックアップ設定の比較リストが表示されます。すべての相違点が強調表示されます。

設定がすでにサーバに保存されている場合、次の 2 つのボタンを使用できます。

- **バックアップの作成（Make Backup）**
- **システムの復元（Restore System）**

設定がサーバにまだ保存されていない場合は、[バックアップの作成（Make Backup）] を使用できます。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

アクティブ コール（Active Calls）

進行中のすべての録音および再生のリスト。このタブは、Cisco TelePresence IP VCR および Cisco TelePresence VCR MSE に対して表示されます。

表 60　[アクティブ コール（Active Calls）] タブのフィールド

フィールド	説明
タイプ（Type）	■ [録音（Recording）]：IP VCR は通話を録音しています。 ■ [再生（Playback）]：IP VCR は録音を再生しています。 ■ [自動応答（Auto Attendant）]：通話に自動応答メニューが表示されています。
録画名（Recording Name）	録画の名前。
参加者名（Participant Name）	コールの反対側のシステム名。
通話プロトコル（Call Protocol）	コール シグナリング プロトコルを表示します。SIP または H.323 です。
アドレス（Address）	コールの反対側のシステム アドレス。
時間（秒）（Duration (s)）	タブを開いた時点での、コールの通話時間。
通話の方向（Call Direction）	コールの方向（着信は、システムから IP VCR。発信は、IP VCR からシステム）。

コールの状態（Call Status）

このタブは、Cisco TelePresence コンテンツ サーバに対してのみ表示されます。

表 61　[コール ステータス（Call Status）] タブの列

列	説明
ポート（Port）	ポートの識別に役立つ名前。
名前（Name）	ポートが使用されると、発信者 ID が表示されます。未使用ポートは [アイドル（Idle）] と示されます。

表 61 [コール ステータス(Call Status)] タブの列(続き)

列	説明
ISDN 番号(ISDN Number)	ポートの ISDN 番号(利用できる場合)。
E.164 エイリアス(E.164 alias)	ポートの E.164 エイリアス(利用できる場合)。
ビデオ コール	ライブ ビデオ接続の数。
音声通話	ライブ音声接続の数。

接続(Connection)

表 62 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
現在の接続状況(Current Connection Status)	システムの現在のステータス。 Cisco TMS がシステムにアクセスできる場合にのみ表示されます。
認証状況(Authentication Status)	システムのユーザ名とパスワードのステータス。
IP アドレス(IP Address)	システムの IP アドレス。
MAC アドレス	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
SNMP コミュニティ名の取得(SNMP Get Community Name)	システムの SNMP 取得コミュニティ名。 SNMP コミュニティ名をサポートしているシステムでのみ表示されます。
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)* ■ *MAC アドレス(MAC Address)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。

表 62 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ(続き)

フィールド	説明
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 63 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
フィードバック ログ(Feedback Log)	スケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなど、特定のシステムに登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログ。システムで発生した過去 100 件のイベントを表示できます。
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
通話ログ(Call Log)	選択したシステムの詳しい通話記録(CDR)(利用可能な場合)。詳細については、「コール詳細レコード(215 ページ)」を参照してください。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

管理対象外ブリッジ

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で、管理対象外ブリッジを選択

サポートされていないレガシー ブリッジとサード パーティのブリッジ(Cisco TelePresence Multipoint Switch を含む)を Cisco TMS に管理対象外ブリッジとして追加して、会議でスケジュールすることができます。

システムを管理対象外ブリッジとして設定する手順については、「管理対象外ブリッジの追加(59 ページ)」を参照してください。

機能

- 管理対象外ブリッジがマルチスクリーン システムを含む会議のホスティングをサポートしている場合、その管理対象外ブリッジを**イマーシブ**として設定できます。イマーシブとして設定された管理対象外ブリッジは、会議にマルチスクリーン システムが追加された場合にルーティングで優先されます。
- Cisco TMS によって制御されているか、または Unified CM に登録されている参加者が会議に含まれている場合、管理対象外ブリッジでホストされるスケジュール済み会議の一部の制限付き監視を**会議制御センター**から行うことができます。参加者にメッセージを送信する、各参加者の基本的な詳細を表示する、参加者を会議に追加する、などの操作が可能です。
- SIP と H.323 のダイヤルイン参加者は完全にサポートされます。
- 管理対象外ブリッジを Cisco TMS に追加する前に、各管理対象外ブリッジのネットワーク統合ライセンス キーを取得する必要があります。各ブリッジに対して最大 25 個の会議アドレスを設定できます。それらの会議アドレスは、すでにブリッジ自体で作成されている必要があります。

制限事項

Cisco TMS は、管理対象外ブリッジに接続したり、その設定の読み取りや変更を行ったりすることはできません。

そのため、管理対象外ブリッジの会議を Cisco TMS から終了すると、会議は終了済みと表示されますが、エンドポイントは接続されたままになります。管理対象外ブリッジの会議は、[予約(Booking)] > [会議の一覧(List Conferences)] に表示されます。

次の機能は、Cisco TMS の管理対象外ブリッジではサポートされません。

- カスケード、アドホック コール、ISDN、コールの終了、リソースの保証
- ダイヤルアウト参加者
- CMR ハイブリッド
- Cisco TelePresence Multipoint Switch のネイティブ API サポート
- レポート
- 暗号化の保証
- 参加者テンプレート
- 会議の延長
- 会議終了通知
- スケジュールされた終了時刻における会議の自動切断

要約

表 64 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メール アドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 65 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ **名前(Name)** ■ **システム タイプ(System Type)** ■ **ネットワーク アドレス(Network Address)** ■ **ロケーション(Location)** ■ **システムの接続性(System Connectivity)**
通話設定(Call Settings)	[最大 IP 帯域幅(Maximum IP Bandwidth)]:Cisco TMS がブリッジ上のすべての同時開催会議に対して 1 回に使用する最大 IP 帯域幅。最大 IP 帯域幅の詳細については、ブリッジのドキュメントを参照してください。 [ビデオ通話の最大数(Max Number of Video Calls)]:ブリッジ上のビデオ ポートの数。これは、Cisco TMS でスケジュールが許可される同時ビデオ参加者の数です。 [音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)]:ブリッジ上の音声ポートの数。これは、Cisco TMS でスケジュールが許可される同時音声参加者の数です。 次の点に注意してください。 ■ [音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)] に *0* を入力した場合、[ビデオ通話の最大数(Max Number of Video Calls)] に設定した値が、ビデオまたは音声参加者の予約に使用できる汎用ポートの数になります。 ■ [音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)] に *0* よりも大きい値を入力すると、ビデオ通話と音声通話はそれぞれ別個にカウントされ、交互に使用することはできません。 [ブリッジ アドレスの数(Number of bridge addresses)]:Cisco TMS がブリッジ上で使用する同時開催会議 ID の数。 [イマーシブ(Immersive)]:マルチスクリーン参加者を含む会議をルーティングするときにブリッジを優先するかどうかを指定します。 [E.164 エイリアス(E.164 Alias)]/[H.323 ID]/[SIP URI]:ブリッジにすでに設定しているアドレスで、[ブリッジ アドレスの数(Number of bridge addresses)] で指定した数まで指定可能です。これらのアドレスを持つ会議は、ブリッジにすでに設定されている必要があります。ブリッジ モデルに応じて、これらの会議はスタティック会議または常設会議として表されます。詳細については、ブリッジのドキュメントを参照してください。
ネットワーク設定(Network Settings)	H.323 ゲートキーパーと SIP サーバ アドレス。これらはオプションですが、Cisco TMS で会議を最適な状態でルーティングできます。
TMS スケジュールの設定(Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

チケット フィルタ（Ticket Filters）

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。チケットの詳細については、以下を参照してください。

- チケット サービス、129 ページ
- チケット エラー レベルの管理、245 ページ

Connection

Cisco TMS は管理対象外ブリッジに接続しないため、ここで入力した値は情報目的でのみ使用されます。

表 66 [接続（Connection）] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
IP アドレス（IP Address）	システムの IP アドレス。
MAC アドレス（Address）	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
ネットワークのシステムを追跡（Track system on network by）	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス（IP Address）* ■ *ホスト名（Hostname）*
システムの接続性（System Connectivity）	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可（Inaccessible）]：システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能（Reachable on LAN）]：システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定（222 ページ）」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能（Reachable on Public Internet）]：システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス（FQDN または IPv4 アドレス）（TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address)）] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定（222 ページ）」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス（49 ページ）」を参照してください。
予約を許可（Allow Bookings）	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ（No）] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限（Permissions）

[許可（Permissions）] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限（128 ページ）」および「デフォルトのシステム権限（259 ページ）」を参照してください。

ログ

表 67 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

管理対象外エンドポイント

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] で、管理対象外エンドポイントを選択

Cisco TMS では、管理対象外エンドポイントの設定の制御およびこれらの設定へのアクセスが制限されています。

システムを管理対象外エンドポイントとして設定する手順については、「管理対象外エンドポイントの追加(60 ページ)」を参照してください。

エンドポイントの管理方法の背景については、「Cisco TMS によるエンドポイントの管理方法(44 ページ)」を参照してください。

要約

表 68 [サマリー(Summary)] タブには、システムの最も重要なデータが示される

セクション	説明
チケット(Tickets)	選択したシステムのチケットを開きます。詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
今週のブッキング(This Week's Bookings)	今後 7 日間にこのシステムでスケジュールされたすべての会議のリスト。
システム画像(System Image)	システムに関連付けるイメージを追加するか、または置き換えます。システムがスナップショットをサポートするエンドポイントの場合、それがいずれの会議室に位置するかを表示する簡単な方法になります。
システム管理者(System Contact)	[設定(Settings)] タブの [システム管理者(System Contact)] フィールドからの詳細情報(名前、電子メール アドレス、電話番号)がここに表示されます。

設定

[設定の表示(View Settings)] および [設定の編集(Edit Settings)]

メニュー オプション [設定の表示(View Settings)] および [設定を編集(Edit Settings)] は読み取り専用および編集可能ビューのそれぞれでほとんど同じ設定を表示します。ソフトウェア バージョンなど、一部の設定が、いずれのビューでも読み取り専用であることに注意してください。

表 69 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション

セクション	説明
一般	以下のようなシステムで最も重要な設定 ■ 名前(Name) ■ システム タイプ(System Type) ■ ネットワーク アドレス(Network Address) ■ ロケーション(Location)

表 69 [設定の表示(View Settings)] と [設定を編集(Edit Settings)] のセクション(続き)

ネットワーク設定(Network Settings)	このセクションでは、H.323 ゲートキーパーや SIP サーバの登録情報、NTP(Network Time Protocol)サーバ設定および IP 設定情報が分かります。
TMS スケジュールの設定(Scheduling Settings)	[予約を許可(Allow Booking)]:システムを会議に追加できるようにします。 [WebEx 予約を許可(Allow WebEx Booking)]:ブリッジで WebEx 会議をホストできるようにします。 [IP アドレス ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [電話ダイヤルの着信を許可(Allow Incoming Telephone Dialing)]:ISDN を使用して、システムへのコールのルーティングを許可します。 [IP アドレス ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing IP Address Dialing)]:H.323 直接モードを使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [H.323 ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing H.323 Dialing)]:E.164 エイリアスまたは H.323 ID を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [SIP URI ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing SIP URI Dialing)]:SIP URI を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 [ISDN ダイヤルの発信を許可(Allow Outgoing ISDN Dialing)]:ISDN を使用して、システムからのコールのルーティングを許可します。 次の点に注意してください。 ■ 特定のシステムに適用される予約/ダイヤルのオプションのみ表示されます。 ■ [予約を許可(Allow Booking)] ボックスをオフにした場合、新しい会議にのみ影響します。 ■ いずれかのダイヤル オプションを変更すると、既存の会議のルーティングに影響することがあります。 ■ システムのいずれかのダイヤル オプションを変更する場合は、[会議の診断(Conference Diagnostics)] を実行して既存の会議に問題が発生しないかどうか確認することをお勧めします。

システム設定のエラーおよび警告は、正しくない設定の周囲に赤色または黄色のボックスとして表示されます。問題に関するツールチップ メッセージおよびその対処方法を表示するにはエラー コードの上にマウス ポインタを置きます。

チケット フィルタ(Ticket Filters)

特定のタイプのチケットを非表示にする場合は、システムのチケットのフィルタを追加または削除できます。

チケットの詳細については、以下を参照してください。

■ チケット サービス、129 ページ
■ チケット エラー レベルの管理、245 ページ

接続(Connection)

Cisco TMS は管理対象外エンドポイントに接続しないため、ここで入力した値は情報目的でのみ使用されます。

表 70 [接続(Connection)] タブのシステム通信用接続パラメータ

フィールド	説明
IP アドレス(IP Address)	システムの IP アドレス。
MAC アドレス(Address)	システムの MAC アドレス。
ホストネーム	システムのホスト名。
ネットワークのシステムを追跡(Track system on network by)	システムの優先アドレスを設定します。次のオプションがあります。 ■ *IP アドレス(IP Address)* ■ *ホスト名(Hostname)*
システムの接続性(System Connectivity)	ネットワーク上のシステムの場所を定義します。 ■ [アクセス不可(Inaccessible)]:システムと Cisco TMS は互いに接続できません。通信試行は行われませんが、システムは将来の会議用に予約される場合があります。この設定は、一時的なシステム ダウンタイム時にメンテナンスなどの状況を目的として使用されることになっています。 ■ [LAN で接続可能(Reachable on LAN)]:システムは Cisco TMS と同じ LAN 上にあり、[社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] で設定された IP アドレスまたは FQDN を使用して通信を行います。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 ■ [パブリック インターネット上で接続可能(Reachable on Public Internet)]:システムは、LAN の外部に存在しますが、パブリック ネットワーク アドレスに接続可能で、[TMS サーバ アドレス(FQDN または IPv4 アドレス)(TMS Server Address (FQDN or IPv4 Address))] を使用して Cisco TMS と通信します。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。 詳細については、「システムの接続性ステータス(49 ページ)」を参照してください。
予約を許可(Allow Bookings)	システムを会議に追加できるようにします。 [いいえ(No)] を選択すると、今後システムは予約されなくなりますが、既存の会議には影響しません。

権限(Permissions)

[許可(Permissions)] タブでは、Cisco TMS ユーザ グループ用の特定のシステムの使用および管理の権限を制御します。設定できる権限レベルはフォルダに設定できるものと同じです。詳細については、「フォルダおよびシステム権限(128 ページ)」および「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を参照してください。

ログ

表 71 [ログ(Logs)] に含まれるシステムで利用可能なすべてのログ

ログ	説明
履歴(History)	Cisco TMS のシステムに対して行われたすべての検出された変更。
チケット ログ(Ticket Log)	このシステムのオープン チケットまたは閉じたチケット。チケットに関する詳細については、「チケット サービス(129 ページ)」を参照してください。
監査ログ(Audit Log)	このシステムの属性に対する変更。詳細については、「監査ログ(269 ページ)」を参照してください。

システムの追加(Add Systems)

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] の [システムの追加(Add Systems)] をクリック

システム ナビゲータで [システムの追加(Add Systems)] をクリックすると、次の 5 つのタブが表示されます。

- アドレスによる追加（Add by Address）
- Unified CM または TMS からの追加（Add from Unified CM or TMS）
- 管理対象外エンドポイントの追加（Add Unmanaged Endpoint）
- 管理対象外ブリッジの追加（Add Unmanaged Bridge）
- システムの事前登録（Pre-register Systems）

アドレスによる追加（Add by Address）

表 72 [アドレスによる追加（Add by Address）] タブのセクション

セクション	説明
IP アドレスまたは DNS 名でシステムを指定（Specify Systems by IP Addresses or DNS Names）	このフィールドには、以下を入力できます。 ■ 単一の IP アドレスまたは DNS 名 ■ IP アドレスの範囲 ■ IP アドレスとホスト アドレスのカンマ区切りのリスト 「user.example.org, 10.0.0.1, 10.1.1.0 - 10.1.1.10」と入力した場合、2 つのシステムが追加され（1 つは DNS 名で、もう 1 つは IP アドレスで）、さらに範囲内の 10 の IP アドレスがスキャンされて、これらの IP アドレスを持つシステムが追加されます。
ロケーション設定	ISDN ゾーン、IP ゾーン、時間帯を指定します。
詳細設定（Advanced Settings）	
ユーザ名パスワード（Username Password）	システムで認証が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを入力します。 Cisco TelePresence System Collaboration Endpoint Software、TC、および TE ソフトウェアを実行しているシステムでは、ユーザ名は "admin" になります。 Cisco TelePresence Content Server を追加する場合は、Windows 管理者のユーザ名とパスワードを使用します。
SNMP コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を指定します。システムを探すときに Cisco TMS によって使用されます。ここで追加した SNMP コミュニティ名は一度しか機能しません。これらは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] で恒久的に追加してください。「ネットワーク設定（222 ページ）」を参照してください。
永続テンプレート（Persistent Template）	システム上で永続的に設定される Cisco TMS の設定テンプレートを選択します。「設定テンプレートの使用（28 ページ）」を参照してください。
使用タイプ（Usage Type）	[使用タイプ（Usage Type）] では、システムの使用目的を次のいずかで指定します。 ■ 会議室（Meeting Room） ■ 個人ホーム（Personal Home） ■ 個人オフィス（Personal Office） ■ ロール アバウト（Roll About）

Unified CM または TMS からの追加（Add from Unified CM or TMS）

Unified CM に登録されているシステム、自動検出されたシステム、または他のフォルダからのシステムを追加します。

表 73 [Unified CM または TMS からの追加(Add from Unified CM or TMS)] タブのオプション

メニュー オプション	説明
Unified CM	リストから Unified CM に登録されているシステムを選択して Cisco TMS に追加します。「Unified CM および登録されたエンドポイントの追加(57 ページ)」を参照してください。
TMS	このリストは、検出されたシステムを特定のフォルダに、または既存のシステムを追加のフォルダに自動的に追加するために使用できます。すでに Cisco TMS に入力されているシステム、または自動検出されたシステムのみがこのリストに表示されます。 1 つのシステムを複数のフォルダに表示できます。[フォルダ(In Folder)] 列に、システムを含んでいるすべてのフォルダが表示されます。

管理対象外エンドポイントの追加(Add Unmanaged Endpoint)

Cisco TMS で予約可能にする会議室またはサード パーティ システムを設定します。ステップバイステップの手順については、「管理対象外エンドポイントの追加(60 ページ)」を参照してください。

セクション	説明
エンドポイント設定	エンドポイント設定を入力します。これらのフィールドは必須です。 ■ [IP ゾーン(IP Zone)]、[ISDN ゾーン(ISDN Zone)]、および [タイム ゾーン(Time Zone)] を選択します。 ■ [最大 IP 帯域幅(Maximum IP Bandwidth)] を指定します。 ■ [ゲートキーパー アドレス(Gatekeeper Address)] を指定します。 ■ [SIP URI] を使用するには、[H.323 ID] または [E.164 エイリアス(E.164 Alias)] も設定する必要があります。
ロケーション設定	ISDN ゾーン、IP ゾーン、時間帯を指定します。

管理対象外ブリッジの追加(Add Unmanaged Bridge)

Cisco TMS で予約可能にするサポート対象外のサード パーティまたはレガシーのブリッジを設定します。ステップバイステップの手順については、「管理対象外ブリッジの追加(59 ページ)」を参照してください。

セクション	説明
基本設定(Basic Settings)	ブリッジの名前を指定し、必須の設定を入力します。 [最大 IP 帯域幅(Max IP Bandwidth)]:IP の最大帯域幅を指定します。 [ビデオ通話の最大数(Max Number of Video)]/[音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)]:次の内容に注意してください。 ■ [音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)] に *0* を入力した場合、ビデオ通話の数は、ビデオまたは音声のいずれかの参加者として予約に使用可能な汎用ポートとして使用されます。 ■ [音声通話の最大数(Max Number of Audio Calls)] に *0* よりも大きい値を入力すると、ビデオ通話と音声通話はそれぞれ別個にカウントされ、交互に使用することはできません。 オプションで、ブリッジのネットワーク、SIP サーバ、およびゲートキーパーのアドレスを入力します。ブリッジがマルチスクリーン システムの会議をサポートしている場合は、[イマーシブ(Immersive)] をオンにします。
ブリッジ アドレス(Bridge Addresses)	ブリッジのアドレスの最大数(最大 25)、使用するプロトコル、会議のエイリアスまたは番号を指定します。
ロケーション設定	ISDN ゾーン、IP ゾーン、時間帯を指定します。

システムの事前登録（Pre-register Systems）

事前登録は、システムが最初にネットワークに接続されたときに、Cisco TMS がシステムを設定できるようにします。ステップバイステップの手順については、「エンドポイントの事前登録（55 ページ）」を参照してください。

セクション	説明
システム識別子を選択（Select System Identifier）	システム名および次のプライマリ ID のいずれかを指定します。 ■ [MAC アドレス（MAC Address）]：ほとんどのシステムで推奨されます。[シリアル番号（Serial Number）] の使用をサポートしていない限り、リモート システムに使用する必要があります。 ■ [IP]：ネットワーク アドレス変換（NAT）を使用するルータまたはファイアウォールの背後に配置されるシステムには使用しないでください。 ■ [シリアル番号（Serial Number）]：レガシーの TANDBERG MXP シリーズおよび Polycom HDX のエンドポイントでのみサポートされます。
ロケーション設定の入力（Enter Location Settings）	ISDN ゾーン、IP ゾーン、時間帯を指定します。
テンプレートを設定します（Set Templates）	システムがオンラインになったときにテンプレートを適用する場合は、[テンプレートの設定（Set templates）] ペインの [初期ブート テンプレート（First Boot Template）] リストから以前作成したテンプレートを選択できます。このテンプレートは、[システム（Systems）] > [設定テンプレート（Configuration Templates）] でいつでも変更できます。「設定テンプレート（142 ページ）」を参照してください。 また事前登録済みシステムのリストからの値を永続化することによって、システムの永続テンプレートをここで設定することもできます。 ■ 名前を永続的に保持（Keep Name Persistent） ■ E.164 エイリアスを永続的に保持（Keep E.164 Alias Persistent） ■ H.323 ID を永続的に保持（Keep H.323 ID Persistent） ■ SIP URI を永続的に保持（Keep SIP URI Persistent）

Unified CM

Unified CM に登録されているシステムを Cisco TMS で事前登録*しない*でください。「Unified CM および登録されたエンドポイントの追加（57 ページ）」を参照してください。

フォルダ権限（Folder and System Permissions）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] の [フォルダおよびシステム権限（Folder and System Permissions）] をクリック

[ナビゲータ（Navigator）] の [フォルダおよびシステム権限（Folder and System Permissions）] ボタンをクリックすると、アクティブなフォルダの許可設定に関する 2 つのセクションが開きます。フォルダにシステムが含まれていない場合、[フォルダ権限（Folder Permissions）] セクションだけが表示されます。

システムを追加、移動、またはコピーする場合、フォルダのレベルで指定する権限は、「デフォルトのシステム権限（259 ページ）」にあるグループのシステム権限設定とマージされます。

これらのページの権限は異なって表示されますが、次の表に示すようにマッピングします。

表 74　フォルダおよびシステム権限のマッピング

フォルダ権限	デフォルトのシステム権限
読み取り（Read）	読み取り（Read）、予約（Book）
編集（Edit）	読み取り（Read）、予約（Book）、設定の編集（Edit Settings）、通話の管理（Manage Calls）
権限の設定（Set Permissions）	—

この詳細については、「デフォルトのシステム権限（259 ページ）」を参照してください。

フォルダ権限

グループがフォルダの読み取りアクセスやその他の権限を取得するには、親フォルダで [読み取り(Read)] をオンにする必要があります。

読み取り(Read)	フォルダおよびその中身(たとえば、フォルダに追加されたシステム)を参照します。
編集(Edit)	フォルダの名前および説明を編集します。この権限が削除されたグループには、[このフォルダを編集(Edit this folder)] ボタンが非表示になります。
権限の設定(Set Permissions)	[読み取り(Read)]、[編集(Edit)]、[権限の設定(Set Permissions)] の権限を設定します。この権限が削除されたグループには、[フォルダおよびシステム権限(Folder and System Permissions)] ボタンが非表示になります。

[すべてのサブフォルダにフォルダ権限を適用(Apply folder permissions to all subfolders)] をオンにすると、すべてのサブフォルダに親フォルダの権限が継承されます。

Cisco TMS では、会議のスケジュール時に使用されたフォルダに対する予約権限を持っているユーザに、会議の編集や会議へのシステムの追加が許可されます。

システム権限(System Permissions)

システムの権限は、システムの [権限(Permissions)] タブや「デフォルトのシステム権限(259 ページ)」を使用して、各システムで個別に設定することもできます。

読み取り(Read)	[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] にシステムが表示されるようにします。[システムサマリー(System Summary)] タブおよび [設定の表示(View settings)] タブの読み取りを可能にします。 設定しない場合は、このグループに対して [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] フォルダ ビュー内でシステムは表示されません。
予約(Book)	フォルダのシステムを予約します(Cisco TMS の [アドホック予約(Ad Hoc Booking)] および [新しい会議(New Conference)] ページを使用)。
設定の編集(Edit Settings)	フォルダのシステムの [設定を編集(Edit Settings)] タブを使用します。
コールの管理	通話の開始および切断ができる [コール ステータス(Call Status)] タブを使用します。
権限の設定(Set Permissions)	フォルダのシステムの [権限(Permissions)] タブを使用します。権限がフォルダ レベルでディセーブルにされている場合、ユーザまたはグループがシステム権限の設定にアクセスできないことに注意してください。詳細については、**[権限(Permissions)] タブ**を参照してください。

[サブフォルダ内のすべてのシステムに権限を適用(Apply system permissions to all systems in subfolders)] をオンにすると、サブフォルダ内のすべてのシステムに親フォルダの権限が継承されます。

チケット サービス(Ticketing Service)

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [チケット サービス(Ticketing Service)]

[チケット サービス(Ticketing Service)] は、新しいシステムを Cisco TMS に追加するとき、および既存のシステムの設定がシステム スキャナで読み込まれたり、既存のシステムが手動で更新されたりするたびにシステムをスキャンし、設定エラーがないかをチェックします。

エラーが検出されると、Cisco TMS はチケット ID、説明および重大度を含むシステムの新しいチケットを発行します。チケットのデフォルトの重大度は、[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [チケット エラー レベルの管理(Manage Ticket Error Levels)] で設定します。「チケット エラー レベルの管理(245 ページ)」を参照してください。

左側のペインには、システム リストと、ソート モードを選択できるドロップダウンが含まれています。

- [チケットの重大度でソート(Sort by ticket severity)]: 最も重大なエラーが起きたシステムをすばやく特定して、最初に修正します。これはデフォルトのソート モードです。
- [チケットの種類でソート(Sort by ticket type)]: 同じ種類のエラーが起きたシステムをすばやく特定し、複数のシステムのエラーを同時に修正できます。

各システムにマウスを置くと、チケット タイプの説明が表示されます。

チケットのステータス

表 75　チケットのステータスの種類

ステータス	説明
オープン（Open）	エラーがまだ処理されていません（デフォルト ステータスです）。
固定	エラーは修正されています。
承認済み（Acknowledged）	ユーザがエラーを確認済みです。
無効（Invalidated）	チケットはチケット サービスによって無効にされました。これは、システムがオフラインになり、Cisco TMS が、チケットが有効かどうかを確認できなくなった場合に発生します。Cisco TMS がシステムに接続できない場合に有効なチケットは、[TMS 接続エラー（TMS connection error）] チケットだけです。

ページ内システム管理

左側のリストの項目をクリックして、[チケット サービス（Ticketing Service）] ページでエラーを直接調整できます。

- システムをクリックすると、ナビゲータに似たシステム管理ビューが開きます。
- [チケットの種類でソート（Sort by ticket type）] が選択されている場合にグループ ヘッダーをクリックすると、複数のシステムの概要が開きます。
  - チケットに関連付けられたシステム フィールドを編集できる場合は、概要に編集可能なフィールドが含まれます。
  - 編集可能でない場合には、読み取り専用の概要が表示されます。

システム管理ビューには、[設定の編集（Edit Settings）]、[チケット フィルタ（Ticket Filters）]、および [チケット ログ（Ticket Log）] の 3 個のタブがあります。

各タブの上部に、[チケット（Tickets）] セクションが表示されます。

チケット（Tickets）

ここには、ステータスによってグループ化された現在のチケットのリストが含まれます。各チケットのタイトルをクリックすると、次のアクション メニュー項目が表示されます。

表 76　チケットの操作メニューのオプション

操作	説明
このシステムのチケットタイプを無視（Ignore ticket type for this system）	このシステムでは、指定されたチケット タイプの表示を停止します。
すべてのシステムのチケットタイプを無視（Ignore ticket type for all systems）	すべてのシステムで、指定されたチケット タイプの表示を停止します。
チケットの承認（Acknowledge ticket）	オープン エラーとして指定チケットを表示することを停止します。チケットを承認すると、チケットに付けるメッセージを変更できます。
このチケットをクリア（Clear this ticket）	手動でチケットをクリアします。この処理は、ユーザ定義のチケット、*リモートの低バッテリ*など、Cisco TMS で自動的にクリアできない特定のタイプのチケットにのみ使用できます。

チケットのリストの下で、2 個のリンクを使用できます。

- [チケット（Tickets）] ペインの下部にある [カスタム チケットの追加（Add custom ticket）] リンクを使用すると、1 つのシステムと、Cisco TMS にチケットがない状況に対応するカスタム チケットを作成できます。
  リンクをクリックすると、説明および重大度を入力できるポップアップ ウィンドウが起動します。チケットには、チケット サービスを介してアクセスできます。問題を報告するこの機能を使用して、問題解決のための構造化されたルーチンを作成できます。

- [システム ナビゲータでシステムを開く(Open system in System Navigator)] を使用すると、ナビゲータでシステムに直接移動して、そのシステムでサポートされているすべての設定を変更できます。

設定の編集(Edit Settings)

このタブで編集できる設定は、チケット タイプによって異なります。

- チケットの種類が [接続エラー(Connection Error)] である場合、Cisco TMS はナビゲータの [接続(Connection)] タブを開きます。
- 他の種類のチケットの場合、Cisco TMS はナビゲータの [設定の編集(Edit Settings)] ビューを開きます。

表示される情報と設定もシステム タイプによって異なります。全体的に、使用可能なアクションと設定は、ナビゲータ(65 ページ)で使用できるものに対応します。

チケット フィルタ(Ticket Filters)

このタブで、チケットに対してフィルタを追加し、管理します。選択したシステムでチケットを非表示にするすべてのフィルタ、およびすべてのシステムを対象とするグローバル フィルタを管理できます。

チケット ログ(Ticket Log)

[チケット ログ(Ticket Log)] タブには、システムで発生したすべてのチケットのリストが含まれます。リストは、まずチケットのステータスで、次に修正日付でソートされます。

チケット タイプにマウスを置くと、チケットの説明がツールチップとして表示されます。

システム概要(System Overview)

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [システム概要(System Overview)]

このページで、テーブル ビューで表示された特定のシステムに固有のパラメータを比較できます。テーブルは、その後の処理のために Excel にエクスポートできます。

- 使用可能なすべてのシステムが左側のフォルダ ビューに一覧表示されます。
- 使用可能なすべてのパラメータが右側に一覧表示されます。

システムとパラメータの任意の組み合わせを選択して、ページの下部にある [表示(View)] をクリックします。

テーブルが生成されると、[Excel にエクスポート(Export to Excel)] が使用可能になります。

ダイヤル計画の管理(Manage Dial Plan)

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [ダイヤル計画の管理(Manage Dial Plan)]

表 77 [ダイヤル計画の管理(Manage Dial Plan)] ページに含まれる設定

設定	説明
システム名(System Name)	Cisco TMS におけるシステムの表示名です。
H.323 ID	システムへの接続に使用する英数字の H.323 ID です(該当する場合)。
E.164 エイリアス(E.164 alias)	システムへの接続に使用する数字の E.164 エイリアスです(該当する場合)。
SIP URI	システムへの接続に使用する SIP アドレスです(該当する場合)。

表 77 [ダイヤル プランの管理(Manage Dial Plan)] ページの設定(続き)

設定	説明
永久的(Persistent)	このオプションをオンにすると、これらの設定がすべて永続的に設定されます。 ■ **システム名(System Name)** ■ **H.323 ID** ■ **E.164 エイリアス(E.164 Alias)** ■ **SIP URI** ■ **永続テンプレート(Persistent Template)**
システム識別子(System Identifier)	*IP アドレス*または *MAC アドレス*によってシステムを追跡するかどうか。
永続テンプレート(Persistent Template)	使用可能な構成テンプレートのドロップダウン リスト。「構成テンプレート(142 ページ)」を参照してください。

このページの設定は、Cisco TMS の制御対象システムにのみ適用できます。

プロビジョニング

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [プロビジョニング(Provisioning)]

このメニュー セクションは、システムに Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能をインストールしてアクティブ化した場合にのみ Cisco TMS で使用できます。

ボタン、設定およびメニュー項目への参照を次に示します。Cisco TMSPE のインストール、設定、および展開については、『*Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide*』を参照してください。

Users

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [プロビジョニング(Provisioning)] > [ユーザ(Users)]

画面左側の 2 つのセクションには、[ユーザおよびグループ(Users and Groups)] と [構成テンプレート(Configuration Templates)] のアコーディオン ボタンを使用してアクセスできます。

ユーザとグループ

ユーザまたはグループを選択すると、そのユーザまたはグループの設定が [ユーザ(Users)] ウィンドウの右側のペインに表示されます。

表 78 [ユーザおよびグループ(Users and Groups)] セクションのボタン

ボタン	説明
左側のボタン	
グループの追加(Add Group)	手動で新しいユーザ グループを作成するには、表示名を入力します。
ユーザの追加(Add User)	手動で新しいユーザを作成するには、ユーザの詳細を入力します。
リロード(Reload)	Active Directory または LDAP からインポートしたグループおよびユーザのリストを更新します。
右側のボタン	
グループ名の変更...(Rename Group...)	グループの表示名を編集します。
ユーザの編集	ユーザの詳細を編集します。
削除(Delete)	グループまたはユーザを削除します。

表 78 [ユーザおよびグループ(Users and Groups)] セクションのボタン(続き)

ボタン	説明
アカウント情報を送信(Send Account Information)	アカウント情報を含む電子メール メッセージを、選択したグループのすべてのユーザまたは選択したユーザに送信します。
グループを移動(Move Group)	別のグループ フォルダにグループを移動します。
ユーザを移動(Move User)	別のグループにユーザを移動します。
詳細表示の切り替え(Toggle Details)	より多くのユーザの詳細を表示する場合にクリックします。
グループに移動(Go to Group)	選択したユーザが属しているグループを表示します。

コラボレーション会議室テンプレート

これらのテンプレートで、ユーザが Cisco TMSPE ユーザ ポータルから作成できるコラボレーション会議室の設定を事前に定義します。テンプレートはユーザ グループに適用されます。

CMR テンプレートを作成する前に、TelePresence Conductor の設定を完了する必要があります。Cisco TMSPE でのコラボレーション会議室の導入方法については、環境に応じて Unified CM または Cisco VCS 用の『*Cisco TMSPE Deployment Guide*』を参照してください。

表 79 [コラボレーション会議室テンプレート(Collaboration Meeting Room Template)] セクションのボタン

ボタン	説明
新しいテンプレート	新しいテンプレートを作成します。
TelePresence Conductor の設定	CMR テンプレートに使用する新しい TelePresence Conductor ピアを追加するか、既存の TelePresence Conductor ピアの接続設定を変更します。 テンプレートごとにクラスタから複数の TelePresence Conductor ピアに接続することはできません。 マルチパーティ ライセンスのステータスを表示するには、[TelePresence Conductor マルチパーティ ライセンス(TelePresence Conductor Multiparty Licensing)] アイコンをクリックします。 手動で同期を行うには、[TelePresence Conductor マルチパーティ ライセンス(TelePresence Conductor Multiparty Licensing)] ダイアログ内の [今すぐ同期(Synchronize Now)] をクリックします。これにより、管理者は CMR セットアップを再編成でき、夜間の同期で変更が有効になるまで待機する必要がなくなります。
CMR の再生成(Regenerate CMRs)	Cisco TMSPE の現在の CMR テンプレートに基づいて TelePresence Conductor の CMR 情報を更新、追加、および削除します。
同期ステータスのチェック(Check Sync Status)	CMR テンプレートは、次の 1 つ以上に該当する場合に TelePresence Conductor と Cisco TMSPE の間の非同期としてマークされます。 ■ テンプレートが更新されている。 ■ ユーザ情報が更新されているか、1 人以上のユーザが削除されている。 ■ CMR に何らかの変更が行われている。 ページが読み込まれると、同期ステータス チェックが自動的に実行されます。もう一度チェックするには、[同期ステータスのチェック(Check Sync Status)] をクリックします。 CMR を同期するには、[CMR の再生成(Regenerate CMRs)] をクリックします。

表 79 [コラボレーション会議室テンプレート(Collaboration Meeting Room Template)] セクションのボタン(続き)

テンプレートの検証(Verify Templates)	この検証では、次がチェックされます。 ■ 各 CMR テンプレート用に選択された TelePresence Conductor がアクティブかどうか。 ■ [サービス設定(Service Preference)] が TelePresence Conductor から使用できる内容に従って正しい内容かどうか。 ■ [最大会議品質(Maximum Conference Quality)] と [最大コンテンツ品質(Maximum Content Quality)] が設定されて、CMR と TelePresence Conductor の間で一致しているかどうか。 このチェックは自動的に実行されません。次の場合にボタンをクリックすると検証が実行されます。 ■ TelePresence Conductor で変更が行われている。 ■ Cisco TMSPE でアラームが発生している。 ■ ユーザが新しい CMR の作成に失敗したことを報告している。
会議室データのエクスポート(Export Room Data)	各ユーザの CMR 情報を含む **.csv** ファイルを生成して、Excel などで開くことができます。

新しいテンプレート

新しいテンプレートを作成する場合、使用可能なフィールドと値は TelePresence Conductor の設定に応じて変わります。

- TelePresence Conductor 設定の詳細については、*Cisco TelePresence Conductor 管理者ガイド*[英語] を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager の設定を使用した例については、*Cisco Unified Communications Manager を使用した Cisco TelePresence Conductor の導入ガイド*[英語] を参照してください。
- Cisco VCS の設定を使用した例については、*Cisco VCS を使用した Cisco TelePresence Conductor の導入ガイド*[英語] を参照してください。

表 80 コラボレーション会議室テンプレートの設定フィールド

フィールド	説明
テンプレート名(Template Name)	リストが増大しても簡単にテンプレートを選択したり管理したりできるように、各テンプレートにわかりやすい名前を割り当てます。 たとえば、ビデオの品質、地理的な場所など、テンプレートの目的が明確に伝わるようなキーワードを含めます。
TelePresence Conductor	テンプレートで使用する TelePresence Conductor をドロップダウン リストから選択します。
サービス設定(Service Preference)	すでに TelePresence Conductor で作成されているサービス設定を選択します。
マルチパーティ ライセンス モード(Multiparty License Mode)	次のオプションから、マルチパーティ ライセンスのタイプを選択します。 ■ 個人向けマルチパーティ(Personal Multiparty) ■ 共有マルチパーティ(Shared Multiparty) [マルチパーティ ライセンス モード(Multiparty License Mode)] フィールドは次の条件が満たされたときに表示されます。 ■ Conductor が [TelePresence Conductor] フィールドで選択されている。 ■ 有効なサービスが、TelePresence Server にマッピングされている [サービス設定(Service Preference)] フィールドで選択されている。 デフォルトの [マルチパーティ ライセンス モード(Multiparty License Mode)] は [個人向けマルチパーティ(Personal Multiparty)] です。

表 80　コラボレーション会議室テンプレートの設定フィールド（続き）

フィールド	説明
SIP エイリアス パターン（SIP Alias Pattern）	Cisco VCS の検索ルールに一致する英数字ダイヤリングのパターンを作成します。 ご自身の Unified CM 展開でサポートされている場合は、英数字ダイヤリングのパターンを作成します。このパターンはダイヤル プランに一致する必要があります。 次に例を示します。 `{username}@meeting.example.com` 推奨される変数は次のとおりです。 ■ {username} ■ {email} ■ {office_phone} ■ {mobile_phone} {display_name}、{first_name}、および {last_name} もサポートされていますが、同じ名前が共有されることが多いため、組織で会議室を作成するときに競合が生じる可能性が高くなります。 競合のリスクを最小限に抑え、ユーザがエイリアスを予想できるようにするために、一意の識別子を使用することを強く推奨します。 ユーザが新しい会議室を作成するときにエイリアスの競合が発生した場合、Cisco TMSPE は、数値エイリアスが有効になっている場合にのみ数値エイリアスを作成し、エイリアスを生成できない場合は会議室の作成に失敗します。
数値エイリアス パターン（Numeric Alias Pattern）	各会議室に英数字のエイリアスに加えて数値エイリアスを追加するかどうかを指定します。 コール制御デバイスのダイヤル プランに一致するパターンを選択する必要があります。 オンにすると以下の設定が表示されます。
タイプ（Type）	数値エイリアス パターンのベースとして次のどちらを使用するかを選択します。 ■ 番号の範囲（[番号を生成（Generate a Number）]） ■ 正規表現パターン（[オフィス電話（Office Phone）] または [携帯電話（Mobile Phone）]）
番号の範囲（Number Ranges）	数値エイリアスに使用する番号の範囲を 1 つ以上入力します。範囲はハイフンを使用して入力します。スペースは含めません。複数の範囲を入力する場合はカンマで区切ります。 次の点に注意してください。 ■ 範囲の両端の桁数を同じにする必要があります。たとえば、`01-99` は有効ですが、`1-99` は無効です。 ■ 範囲がテンプレート内およびテンプレート間で重なっていてもかまいません。重複する数値が生成されることはありません。 ■ 範囲内の番号はランダムに割り当てられますが、複数の範囲がある場合、範囲は順番に使用されます。 ■ 1 つの番号範囲に 100 万を超える数の番号を含めることはできません。 例：`100000-123456`、`200000-234567`
プレフィックス（Prefix）	すべての数値エイリアスの前半部分を構成する一続きの数値を入力します。

表 80　コラボレーション会議室テンプレートの設定フィールド（続き）

フィールド	説明
正規表現（RegEx）	数値エイリアスの後半部分を作成するには、ユーザのオフィス電話か携帯電話の番号を使用できます。どちらを使用する場合も、各ユーザの電話番号が Active Directory で使用可能になっている必要があります。 [正規表現（Regex）] フィールドを使用して、電話番号のどの部分を抽出するかを指定します。 電話番号の一部を使用する場合は、常に一意の番号が生成されるとは限らないことに注意してください。 競合のリスクを最小限に抑え、ユーザがエイリアスを予想できるようにするために、一意の識別子を使用することを強く推奨します。 ユーザが新しい会議室を作成するときにエイリアスの競合が発生した場合、Cisco TMSPE は、パターンが存在する場合は英数字のエイリアスを作成しますが、エイリアスを生成できない場合は Collaboration Meeting Room の作成に失敗します。 **例：** 正規表現の結果に 1 つまたは複数の一致グループが含まれている場合、すべての一致グループが連結されます。一致グループがない場合は、一致結果全体が結果になります。 次の例では、電話番号 `123.456.7890` を照合します。 ■ 正規表現が `\d{4}` の場合：この正規表現は最後の 4 桁に一致します。キャプチャ グループは含まれていません。結果は `7890` になります。 ■ 正規表現が `(\d{3})\.\d{4}` の場合、これは `456.7890` に一致しますが、`456` に一致するもう 1 つの一致グループもあります。結果は `456` になります。 ■ 正規表現が `((?<=\.\d)\d{2}(?=\.))(?:\.)(\d{4})` の場合、この正規表現は `56.7890` に一致し、一致グループは `56` および `7890` の 2 つになります。結果は `567890` になります。
会議の最高品質（Maximum Conference Quality）	使用可能なビデオ品質の範囲から、このテンプレートを割り当てた場合にユーザが使用できる最高の品質を選択します。
コンテンツ共有	このテンプレートに基づく会議室でコンテンツ（プレゼンテーション）の共有を許可するかどうかを指定します。
コンテンツの最高品質（Maximum Content Quality）	使用可能なコンテンツ（プレゼンテーション）共有品質の範囲から、ユーザが使用できる最高の品質を選択します。 [コンテンツの最高品質（Maximum Content Quality）] の設定は、MCU でホストされている CMR には適用されません。

表 80 コラボレーション会議室テンプレートの設定フィールド（続き）

フィールド	説明
ホスト PIN の最小長（Minimum Host PIN Length）	これらの設定は、このテンプレートに基づく CMR の PIN 保護の要件とオプションを制御します。 ■ まず、ホスト ロールの PIN の最小桁数を [ホスト PIN の最小長（Minimum Host PIN Length）] に入力します。この設定を 0 のままにすると、CMR 所有者が参加者に対して PIN を使用する必要がなくなります。 ■ このテンプレートに基づく CMR でゲスト ロールを許可するかどうかを選択します。 – ゲスト ロールはホスト ロールに比べて特権が制限されています。 – [ゲスト ロールを許可（Allow Guest Role）] を無効にすると、すべての参加者の特権と PIN 要件がホストと同じになります。 ■ [ゲスト ロールを許可（Allow Guest Role）] を有効にした場合は次の手順を実行します。 – [ゲスト PIN の最小長（Minimum Guest PIN Length）] にゲスト PIN の最小桁数を入力します。この設定を 0 のままにすると、CMR 所有者がゲスト ロールに対して PIN を使用する必要がなくなります。 – [ゲスト ロビー（Guest Lobby）] を有効にするかどうかを選択します。これは、少なくとも 1 人のホストが CMR に入室するまでゲストはロビーで待機しなければならないことを意味します。
ゲスト ロールを許可（Allow Guest Role）	
ゲスト PIN の最小長（Minimum Guest PIN Length）	
ゲスト ロビー（Guest Lobby）	
参加者数を制限する（Limit Number of Participants）	Collaboration Meeting Room の参加者の最大許容数を設定するかどうかを選択します。
最大参加者数（Maximum Participants）	[参加者数の制限（Limit Number of Participants）] を有効にした場合、参加者の最大許容数を設定します。 CMR で許可される参加者数の上限は Cisco TelePresence Conductor によって制御されます。詳細については、Cisco TelePresence Conductor のマニュアルを参照してください。
会議の時間を制限する（Limit Conference Duration）	CMR の会議の最長時間を設定するかどうかを選択します。 この設定を有効にすると、参加者が切断するのを忘れたために会議が継続されるのを防ぐことができます。
最長時間（分）（Maximum Minutes）	[会議時間の制限（Limit Conference Duration）] を有効にした場合、会議の最長時間を分単位で設定します。
マルチスクリーンの許可（Allow Multiscreen）	会議に参加するテレプレゼンス システムに対して複数の画面の使用を許可するかどうかを選択します。
画面の最大数（Maximum Screens）	[マルチスクリーンの許可（Allow MItiscreen）] を有効にした場合、参加者ごとに許可される画面の最大数を設定します。
カスケードを許可する（Allow Cascading）	環境内に使用可能なブリッジがある場合に、この CMR のユーザが進行中の会議をシームレスに拡張できるようにするかどうかを選択します。そのためには、カスケード用のブリッジ ポートまたは接続を 1 つ以上予約して、このテンプレートによって定義される CMR で常に使用できるようにする必要があります。
カスケードの数（Number of Cascades）	カスケードを有効にした場合に、カスケード用に予約する MCU ポートまたは TelePresence Server 接続の数を設定します。
リソースの最適化（Optimize Resources）	参加者によって使用されていない割り当て済みのリソースを会議の開始後に TelePresence Conductor が解放できるようにするかどうかを選択します。この設定はデフォルトで有効になっています。
WebEx を含む（Include WebEx）	CMR Hybrid が導入されている場合、CMR に接続されるインスタント ミーティングを作成できるようにするかどうかを選択します。 このオプションを使用するには、まず、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [Provisioning Extension の設定（Provisioning Extension Settings）] > [コラボレーション会議室（Collaboration Meeting Room）] に移動して、[WebEx 接続を許可する（Allow WebEx Connections）] を [はい（Yes）] に設定する必要があります。

表 80　コラボレーション会議室テンプレートの設定フィールド（続き）

フィールド	説明
高度なパラメータ（Advanced Parameters）	高度な会議パラメータのためのブリッジ固有の JSON オブジェクトを作成時に設定します。 JSON の例については、『Cisco TelePresence Conductor Administrator Guide』を参照してください。

ユーザ設定

表 81　[ユーザ設定（User Settings）] セクションのボタン。

ボタン	説明
編集（Edit）	パターンを編集します。
リロード（Reload）	より高いグループ レベルで設定されたパターンを更新します。

表 82　ユーザ設定のアドレス パターン

パターン	説明
ビデオ アドレス パターン（Video Address Pattern）	Video URI は、ビデオの URI を生成するために使用されます。ビデオ URI は、ユーザの FindMe のアドレスに使用され、電話帳で使用できます。 ビデオ URI の例：`{username}@example.org`
発信者 ID パターン（Caller ID Pattern）	発信者 ID は、発信者 ID を生成するために使用されます。発信者 ID は、FindMe のコールが ISDN ゲートウェイを介してルーティングされる場合に、コールバック番号として使用されます。 例：`{office_phone}`
デバイス アドレス パターン（Device Address Pattern）	デバイス アドレスは、プロビジョニングしたデバイスに設定されるデバイス アドレスを生成するために使用されます。 例：`{username}.{device.model}@example.org`
イメージ URL パターン	イメージ URL は、Cisco TMSPE および FindMe ユーザ インターフェイス、および機能をサポートするデバイスの電話帳に表示できるユーザのイメージへのポインタです。サポートされている拡張子は **jpg**、**.jpeg**、および **.png** です。 例：`http://yourimageserver/users/{username}.png`

パターンの設定の詳細については、[編集（Edit）] > [ユーザ設定（User Settings）] ポップアップ ウィンドウのヘルプ リンクをクリックしてください。

ユーザのインポート

[タイプ（Type）] フィールドを表示するには、[設定（Configure）] をクリックします。

グループおよびユーザをインポートする元のディレクトリ サーバのタイプを選択します。

- *Active Directory（AD）*
- *Kerberos 対応 Active Directory（セキュア AD）*
- *Lightweight Directory Access Protocol（LDAP）*

サーバ設定を入力します。

設定テンプレート

[テンプレートの割り当て（Assign Templates）] をクリックして、グループに割り当てるテンプレートを選択します。

プロビジョニングされたデバイス（Provisioned Devices）

ユーザがログインしたデバイスがここに表示されます。

設定テンプレート

表 83　設定テンプレートの作成と管理

ボタン	説明
左側のボタン	
スキーマの追加...（Add Schema...）	参照して、構成テンプレートのスキーマを追加します。
テンプレートの追加...（Add Template...）	テンプレート スキーマから新しい構成テンプレートを作成します。
右側のボタン	
テンプレート名の変更...（Rename	テンプレートの表示名を変更します。
テンプレートの削除（Delete Template）	テンプレートを削除します。
スキーマの削除（Delete Schema）	スキーマを削除します。
構成のコピー...（Copy Configurations...）	別のテンプレートからこのテンプレートに構成をコピーします。
構成の編集...（Edit Configurations...）	構成を追加および削除して、値を編集します。

右側のペインに表示される情報は、スキーマまたはテンプレートが選択されているかどうかによって異なります。

FindMe

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [プロビジョニング（Provisioning）] > [FindMe]

画面の左側は、アコーディオン ボタンを使用してアクセスする 3 セクションで構成されます。[アカウントとグループ（Accounts and Groups）]、[ロケーション テンプレート（Location Templates）]、[デバイス テンプレート（Device Templates）] があります。

アカウントとグループ（Accounts and Groups）

[FindMe] ウィンドウの右ペインに設定を表示するアカウントまたはグループを選択します。

表 84　[アカウントとグループ（Accounts and Groups）] セクションのボタン

ボタン	説明
グループの追加（Add	FindMe グループを作成するには、表示名を入力します。
アカウントの追加（Add Account）	FindMe のアカウントを作成するためのアカウントの詳細を追加します。
FindMe ユーザ ポータルで編集（Edit in FindMe User Portal）	新しいブラウザ ウィンドウで FindMe ユーザ ポータルを起動し、ユーザの FindMe プロファイルを直接編集します。
テンプレートの割り当て（Assign Templates）	グループにロケーション テンプレートを割り当てます。
編集（Edit）	表示名を変更します。
削除（Delete）	テンプレートを削除します。

- グループをクリックすると、割り当てられているロケーション テンプレートが表示されます。
- アカウントをクリックすると、関連付けられているロケーションおよびデバイスが表示されます。

ロケーション テンプレート（Location Templates）

[FindMe] ウィンドウの右ペインに設定を表示するロケーション テンプレートを選択します。

表 85 [ロケーション テンプレート（Location Templates）] セクションのボタン

ボタン	説明
ロケーション テンプレートの追加（Add Location Template）	表示名と呼び出し時間を入力し、ロケーション テンプレートを作成します。
デバイス テンプレートの追加（Add Device Template）	デバイス テンプレートを作成するには、表示名、デバイス タイプ、およびデバイス アドレス パターンを入力します。
テンプレートの割り当て（Assign Templates）	ロケーション テンプレートにデバイス テンプレートを割り当てます。
編集（Edit）	テンプレートの名前を変更し、呼び出し時間を変更します。

テンプレートを選択すると、[FindMe] ウィンドウの右側のペインに、そのロケーション テンプレートのデバイス テンプレートおよび割り当てられているグループ設定が表示されます。

デバイス テンプレート（Device Templates）

[FindMe] ページの右側に設定を表示するデバイス テンプレートを選択します。

表 86 [ロケーション テンプレート（Location Templates）] セクションのボタン

ボタン	説明
デバイス テンプレートの追加（Add Device Template）	デバイス テンプレートを作成するには、表示名、デバイス タイプ、およびデバイス アドレス パターンを入力します。
テンプレートの割り当て（Assign Templates）	ロケーション テンプレートにデバイス テンプレートを割り当てます。
編集（Edit）	テンプレートの名前を変更し、呼び出し時間を変更します。

テンプレートを選択すると、[FindMe] ウィンドウの右側のペインに、そのデバイス テンプレートのロケーション テンプレートが表示されます。

ロケーションおよびデバイスの再生成（Regenerate Locations and Devices）

3 つすべてのセクションで、[ロケーションおよびデバイスの再生成...（Regenerate Locations and Devices...）] ボタンを使用できます。このボタンは、設定されたロケーションおよびデバイス テンプレートに基づいて、選択されたグループ（およびサブグループ）またはテンプレートに関連付けられたロケーションおよびデバイスを生成します。ダイアログが開いたら、次のいずれかを選択します。

- [はい（Yes）]：テンプレートが適用され、ユーザが行った編集がすべて上書きされます。
- [いいえ（No）]：テンプレートは適用されますが、既存のユーザ編集は維持されます。
- [キャンセル（Cancel）]：テンプレートは適用されません。

デバイス

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [プロビジョニング（Provisioning）] > [デバイス（Devices）]

このページには、プロビジョニングされたすべてのデバイスが表示されます。

- フィルタ ドロップダウン メニューと検索フィールドを使用し、[フィルタ（Filter）] をクリックして、表示するデバイスを選択します。
- 下部のツールバーを使用して、削除するすべてのエントリを選択または選択解除します。
- [すべてをエクスポート（Export All）] をクリックして、デバイスのカンマ区切りリストをダウンロードし、サードパーティ アプリケーションでさらに処理します。

構成のバックアップ（Configuration Backup）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [構成のバックアップ（Configuration Backup）]

この機能では、ユーザが複数のシステムの全設定をバックアップすることができます。後でシステム設定を復元するためのバックアップは、1 回の操作で実行されます。

バックアップを実行

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [構成のバックアップ（Configuration Backup）] > [バックアックを実行（Perform Backup）]

このページで Cisco TMS サーバのシステム コンフィギュレーションのバックアップを作成できます。

すでにサーバにバックアップされているシステムの場合、以前のバックアップの日付がシステム名の横に表示されます。

最新のバックアップから設定を表示するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に進みます。
2. システムをクリックします。
3. [設定（Settings）] タブをクリックします。
4. [設定の比較（Compare Settings）] をクリックします。
   バックアップ以後に変更された設定が強調表示されます。[システム設定（System Setting）] 列には現在の設定が表示され、[サーバの設定（Server Setting）] 列にはバックアップの設定が表示されます。

新しいバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. システムを選択します（すべてを選択するには、最初のフォルダをダブルクリックしてください）。

   バックアップを実行するために選択されたシステムの数を右側で確認できます。
2. [バックアップの作成（Make Backup）] をクリックします。

復元の実行

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [構成のバックアップ（Configuration Backup）] > [復元の実行（Perform Restore）]

このページで、以前作成したバックアップから設定を復元できます。Cisco TMS サーバにバックアップがあるシステムだけが、このページで選択できます。

すぐに復元する

システム設定を即時に復元するには、左側のセクションでシステムを選択し、[復元（Restore）] をクリックします。

定期的な復元

繰り返し復元の設定をスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. 左側のセクションでシステムを選択します。
2. 右側の [復元イベント時間（Restore Event Time）] セクションで次の操作を行います。
   a. [復元時間（Restore time）] を設定します。
   b. [繰り返し（Recurrence）] を [1 回（Once）] または [毎日（Daily）] に設定します。
3. [復元（Restore）] をクリックします。

電子メール アラート

復元が完了するか、または失敗したときに、電子メール通知を受信することを選択できます。

[電子メール アラートの送信（Send Email Alert）] セクションで、優先する選択肢を選択します。

モニタリング（Monitoring）

復元の進行状況や状態をモニタリングするには、[システム（Systems）] > [構成のバックアップ（Configuration Backup）] > [バックアップ/復元の活動状況（Backup/Restore Activity Status）] に移動します。「バックアップ/復元の活動状況（142 ページ）」を参照してください。

バックアップ/復元の活動状況

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [構成のバックアップ（Configuration Backup）] > [バックアップ/復元の活動状況（Backup/Restore Activity Status）]

[バックアップ/復元の活動状況（Backup/Restore Activity Status）] ページの情報でスケジュール設定されたバックアップおよび復元のステータスが提供されます。進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

  下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

設定テンプレート

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [設定テンプレート（Configuration Templates）] > [設定テンプレート（Configuration Templates）]

このページで、Cisco TMS 制御システム用の構成テンプレートを作成、編集、コピー、削除できます。

構成テンプレートを使用して、1 回の操作で複数のシステムに特定の設定をダウンロードできます。これによって、異なるシステム間の設定を同じにできます。

構成テンプレートには任意のシステム カテゴリの設定を含めることができます。システムでサポートされないテンプレート設定は無視されます。

Cisco TMSPE には、他の場所で管理される独自の構成テンプレートがあることに注意してください。Cisco TMSPE でプロビジョニングされたエンドポイントの設定に関する情報については、「プロビジョニング（132 ページ）」を参照してください。

設定テンプレート メイン ページ（Configuration Templates Main Page）

このページには、使用可能なすべての構成テンプレートが表示されます。

デフォルトのインストールの一部として、Cisco TMS によって [検出済みシステムテンプレート（Discovered Systems Template）] というテンプレートが作成されています。

ドロップダウン メニューは、リストの各テンプレートにマウスを置くと使用できます

表 87　設定テンプレートのドロップダウン メニュー オプション

メニュー項目	説明
表示（View）	テンプレートの読み取り専用ビューを開きます。システムのテンプレートを編集、コピー、または設定するボタンは、このビューから使用できます。
編集（Edit）	テンプレートの編集可能なビューである [構成テンプレートの設定を選択（Select Settings for Configuration Template）] ページ（次を参照）を開きます。
コピー（Copy）	新しいテンプレートを作成するために、このテンプレートを使用します。
システムに設定（Set on Systems）	[システムに構成テンプレートを設定（Set Configuration Template on System）] ページが開き、メインフォルダ構造からシステムを選択して、1 回限りの操作または永続テンプレートとしてシステムにテンプレートを設定できます。

[新しい構成テンプレート（New Configuration Template）] ボタンで、[構成テンプレートの設定を選択（Select Settings for Configuration Template）] ページが開きます。

構成テンプレートの設定を選択

各テンプレートに説明的な名前を指定します。

3 個のタブをテンプレートの設定に使用できます。以下を参照してください。

テンプレート設定（Template Settings）

表 88　ほとんどのシステムに適用できる一般的な設定テンプレートの設定

フィールド	説明
予約を許可（Allow Bookings）	[なし（None）]：設定は指定されません。 [オン（On）]：システムを予約可能にします。 [オフ（Off）]：システムを予約で使用不可にします。
DNS ドメイン名	システムの DNS ドメイン名。
DNS Server Address	システムの DNS アドレス。
H.323 通話設定モード（H.323 Call Setup Mode）	[なし（None）]： [ゲートキーパー（Gatekeeper）]：システムではゲートキーパーを使用して H.323 コールを行います。 [直接（Direct）]：H.323 コールを行うために IP アドレスにダイヤルインする必要があります。
H.323 ゲートキーパー アドレス（H.323 Gatekeeper Address）	H.323 ゲートキーパーのアドレスを定義します。
H.323 ゲートキーパー ディスカバリモード（H.323 Gatekeeper Discovery Mode）	[なし（None）]： [手動（Manual）]：システムでは、[H.323 ゲートキーパー アドレス（H.323 Gatekeeper Address）] で指定された特定のゲートキーパーが使用されます。 [自動（Auto）]：システムでは、使用可能なゲートキーパーへの登録が自動的に実行されます。
システムの IP ゾーン（IP Zone for the system）	[なし（None）]： Cisco TMS で定義されている IP ゾーンのリスト。
システムの ISDN ゾーン（ISDN Zone for the	[なし（None）]： Cisco TMS で定義されている ISDN ゾーンのリスト。
管理アドレス（Management Address）	Cisco TMS、Cisco VCS または Unified CM のアドレスにできる、システムの外部マネージャのアドレス。どれにするかは、エンドポイントをプロビジョニングする方法によって異なります。
電話帳 1（Phone Book 1）	[なし（None）]：電話帳は選択されません。 Cisco TMS で使用可能なすべての電話帳のリストから選択できます。
電話帳 2（Phone Book 2）	
電話帳 3（Phone Book 3）	

表 88　ほとんどのシステムに適用できる一般的な設定テンプレートの設定（続き）

フィールド	説明
SIP モード（SIP Mode）	[なし（None）]：設定は指定されません。 [オン（On）]：システムで着信および発信 SIP コールが有効化されます。 [オフ（Off）]：システムからの着信および発信 SIP コールが無効化されます。
SIP プロキシの IP アドレス（SIP Proxy IP Address）	手動で設定されたシグナリングの発信プロキシ、または SIP レジストラ。
SIP サーバ検出（SIP Server Discovery）	[なし（None）]： [自動（Auto）]：[SIP プロキシ IP アドレス（SIP Proxy IP Address）] が DHCP サービスから取得されます（可能な場合）。 [手動（Manual）]：手動で設定された [SIP プロキシ IP アドレス（SIP Proxy IP Address）] が使用されます。
タイム ゾーン	[なし（None）]：タイム ゾーンは指定されません。 Cisco TMS で使用可能なすべてのタイム ゾーンのリストから選択できます。 構成を設定しているシステムに適用するタイム ゾーンを選択します。

詳細設定の選択（Select Advanced Settings）

このタブでは、[テンプレートの設定（Template Settings）] タブから一般的なテンプレートに追加するシステム固有の設定を検索できます。

- *パーソナル システム*は Cisco TelePresence TE ソフトウェアを実行するエンドポイントです。
- *グループ システム*は Cisco TelePresence TC ソフトウェアを実行するエンドポイントです。

必要な詳細設定を選択して保存した後、[テンプレートの設定（Template Settings）] タブに戻って各詳細設定を編集できます。タブのすべての設定はアルファベット順に表示されます。

表 89　[詳細設定の選択（Select Advanced Settings）] タブのフィールド

フィールド	説明
フィルタ	構成テンプレートに追加する設定の名前を入力します。 このフィールドを空白のまま残し、特定のシステム タイプを選択すると、そのシステム タイプに使用可能なすべての設定が表示されます。
すべてのシステム（All Systems）	検索を適用するシステムを選択します。 システム タイプごとに異なる設定を検索して選択し、1 個の構成テンプレートに適用できます。 [TMS コマンド（TMS Commands）]：すべてのシステムに適用できる一般設定。

フィルタが適用されている場合、画面の左側にフィルタ基準を満たすすべての使用可能な設定のリストが表示されます。右側に、テンプレート用に選択した設定が示されます。設定の追加や削除には、矢印ボタンを使用できます。

各リスト エントリには、名前付き設定と、それが有効であるシステム タイプが含まれます。

パスワードの設定

構成テンプレートを使用してシステムのパスワードを設定するための正しい設定は、[システムの種類（System Type）]：[その他の種類（Other Type）] の [パスワード（Password）] です。[システム タイプ（System Type）] が [その他のタイプ（Other Type）] の *管理パスワード*の設定は、従来のエンドポイントにのみ適用されます。

CE、TC および TE システムにパスワードを設定するには、設定テンプレートを使用します。CE ソフトウェア エンドポイントに新しいパスワードを設定するには、TC/TE システムと同じ手順に従います。

タイム ゾーンの設定

システム タイプを指定した設定テンプレートを使用してシステムのタイム ゾーンを設定した場合、タイム ゾーンはシステムそのものでは更新されますが、Cisco TMS のシステムでは更新されません。したがって、[テンプレートの設定（Template Settings）] タブで「その他のタイプ」というシステム タイプを使用してタイム ゾーンを設定することを推奨します。これにより、システムそのものと Cisco TMS のシステムのタイム ゾーンが更新されます。

永続スケジュール（Persistent Scheduling）

繰り返しの設定の時間または間隔を設定するには、このページを使用します。

すべての構成テンプレートは、デフォルトとして永続スケジュールで設定されます。構成テンプレートを 1 回だけ適用する（定期的な設定を上書きする）には、[システムに設定（Set on Systems）] をクリックして表示される [システムに構成テンプレートを設定（Set Configuration Template on System）] ページを使用します。

表 90　定期的な設定の設定

フィールド	説明
次の時刻に適用（Apply at）	構成の時刻を設定します。
繰り返し間隔（Recurrence Interval）	オプションには、[毎日（Daily）] または [毎週（Weekly）] があります。
次の曜日毎（On Each）	このフィールドは、[繰り返し間隔（Recurrence Interval）] が [毎週（Weekly）] に設定された場合だけアクティブになります。設定が発生する曜日を指定します。
システム起動時に適用（Apply on System Boot）	システム ブートするときに常に構成テンプレートを適用する場合は、これを選択します。

構成テンプレートの活動状況

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [設定テンプレート（Configuration Templates）] > [構成テンプレートの状況（Configuration Template Activity Status）]

[構成テンプレートの状況（Configuration Template Activity Status）] ページには、システムに設定されている進行中の設定テンプレートのステータスが示されます。

Cisco TMS で作成されたイベントは、[構成テンプレートの状況（Configuration Template Activity Status）] ページから削除できません。ユーザが作成したイベントのみ削除できます。

イベントを削除するには次の手順に従います。

1. 削除するイベントを選択します。
2. [削除（Delete）] をクリックします。
3. [OK] をクリックして、アクションを確認します。

永続テンプレートには 2 種類のエントリがあります。

- テンプレートがシステムに設定されたときの最初のエントリ。これらのエントリには、繰り返しは設定されていません。
- 繰り返しが毎日に設定されているテンプレートの 2 つ目のエントリ。

進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

  下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新(Refresh)] をクリックします。

システム アップグレード(System Upgrade)

Cisco TMS では、[システム(Systems)] > [システムのアップグレード(System Upgrade)]

このページでは、Cisco TMS で管理されているエンドポイントと Cisco TMSPE でプロビジョニングされているエンドポイントでソフトウェアをアップグレードできます。

ソフトウェアのアップグレードはエンドポイントでのみサポートされます。ソフトウェアのアップグレードは、管理対象外エンドポイントと Unified CM に登録されたエンドポイントではサポートされません。

Cisco TMS エンドポイント

Cisco TMS で管理されているエンドポイントの場合は、「ナビゲータ(65 ページ)」の表示オプションと同様の表示オプションのドロップダウン リストから選択できます。[検索(Search)] タブを開いて、特定のエンドポイントを検索することもできます。

プロビジョニング拡張機能で管理されるエンドポイント

Cisco TMSPE でプロビジョニングされるエンドポイントの場合、[ソフトウェア バージョンで並べ替え(Order by Software Version)]、または [すべてリスト(List All)] を選択して、ユーザに属するすべてのエンドポイントを [システム(Systems)] > [プロビジョニング(Provisioning)] > [ユーザ(Users)] ページに含めることができます。

- Cisco Jabber Video for TelePresence のアップグレード手順については、*Cisco Jabber Video for Telepresence 管理者ガイド* [英語] を参照してください。
- Cisco TMSPE でプロビジョニングされたエンドポイントのアップグレードと維持の手順については、*Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能導入ガイド* [英語] を参照してください。

アップグレード モード

[システムのアップグレード(System Upgrade)] ページの下部のドロップダウン リストからアップグレード モードを選択します。

表 91 使用可能なアップグレード モード

モード	説明
基本	Cisco TMS は、エンドポイントにすでにインストールされているソフトウェアと互換性があるソフトウェア パッケージを選択します。このモードは、ほとんどのアップグレードで機能し、暗号化されたファイルのみサポートします。
詳細設定(Advanced)	互換性のあるパッケージのリストから手動でパッケージを選択する必要があります。このモードは、暗号化されたファイルと暗号化されていないファイルの両方をサポートします。
エキスパート(Expert)	Cisco TMS サーバで使用可能なすべてのソフトウェア パッケージから選択します。このモードでは、さまざまなエンドポイントにアップロードできるソフトウェア パッケージの知識が必要です。

アップグレードのボタン

このページの下部には、次のボタンがあります。

表 92 [システムのアップグレード(System Upgrade)] ページの下部にあるボタン

ボタン	説明
次へ(Next)	[ソフトウェアとリリース キーの選択(Select Software and Release Key)] ページ(以下を参照)が表示されます。

表 92 [システムのアップグレード(System Upgrade)] ページの下部にあるボタン(続き)

ボタン	説明
自動選択(Auto Select)	(Cisco に登録されているエンドポイントの更新確認に基づいて)利用可能な新しいソフトウェア バージョンがあるエンドポイントが自動的に選択されて、これらのエンドポイントと、ソフトウェア パッケージおよびリリース キーを含むリストが表示されます。この機能は、次の場合にのみ使用できます。 [更新の自動確認(Automatically Check for Updates)] が [はい(Yes)] に設定されている場合。「ネットワーク設定(222 ページ)」を参照してください。
更新の確認(Check for Updates)	シスコのアップグレード Web サービスに登録されている従来のエンドポイントのソフトウェア更新と対応するリリース キーが自動的にダウンロードされます。ソフトウェア アップデート サービスの URL は、[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] > [サービス URL(Service URL)] で設定されます。 更新の確認は、完了するまでバックグランドで実行されます。バックグラウンド イベントの進行状況は、[活動状況(Activity Status)] ページで確認できます。このページでは、更新の確認に失敗したシステムを確認できます。更新の確認が完了すると、[システムのアップグレード(System Upgrade)] ページの [自動選択(Auto Select)] ボタンを使用して、利用できる新しいソフトウェア アップデートのあるシステムを自動的に選択できます。
アップグレード	[ソフトウェアとリリース キーの選択(Select Software and Release Keys)] ページ(下記を参照)に必要な情報を入力してから、アップグレードを開始します。 [システムのアップグレードの活動状況(System Upgrade Activity Status)] ページでソフトウェア アップグレードの進行状況を確認できます。 これを使用してソフトウェアのダウングレードを実行することもできます。 **注:**このボタンは、アップグレード用にエンドポイントが選択されている場合にのみ表示されます。

一部のボタンは、[更新の自動確認(Automatically Check for Updates)] が [いいえ(No)] に設定されている場合にのみ使用できます。「ネットワーク設定(223 ページ)」を参照してください。

表 93 アップデートの自動チェックが設定されていない場合のボタン

ボタン	説明
ログのインポート(Import Log)	すべてのシスコのソフトウェアとリリース キーのログをインポートします。[システムのアップグレード(System Upgrade)] ページは、ログのすべてのシステムと、そのシステムのソフトウェアおよびリリース キーを表示します。ログをインポートした後に、[アップグレード(Upgrade)] ボタンをクリックしてエンドポイントをアップグレードできます。
ログの生成(Generate Log)	ページからリリース キーのレポートを生成します。リストには、表示されているシステムと、各システムで選択されているソフトウェア パッケージに関する情報が含まれます。 **注:**このボタンは、アップグレード用にエンドポイントが選択されている場合にのみ表示されます。

ソフトウェアとリリース キーの選択

[ソフトウェアとリリース キーの選択(Select Software and Release Keys)] ページは、アップグレード対象として 1 つ以上のエンドポイントを選択し、[次へ(Next)] をクリックすると表示されます。

表 94 [ソフトウェアとリリース キーの選択(Select Software and Release Keys)] ページのフィールド

フィールド	説明
リリース キー(Release Key)	レガシー システムにのみ適用されます。 メジャー バージョン番号は、新しいリリース キーを必要とします。
ソフトウェア(Software)	使用可能なソフトウェア パッケージのドロップダウン リスト。
日付(Date)	スケジュールされたアップグレードの日付。
開始時刻	選択した日付のスケジュールされたアップグレードの開始時刻。

ソフトウェア マネージャ（Software Manager）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [ソフトウェア マネージャ（Software Manager）]

このページは、次のアップグレードに使用できるすべてのソフトウェア パッケージを管理するために使用します。

- シスコ制御システム
- Cisco TMSPE でプロビジョニングされたシステム

アップグレードの手順については、「Cisco TMS 管理対象エンドポイントのアップグレード（64 ページ）」を参照してください。

このソフトウェア マネージャは、次のソフトウェア パッケージには使用 *できない* ことに注意してください。

- Cisco Unified CM によって管理されるシステム。
- Cisco TMS 管理対象外エンドポイントに追加されるシステム。

有効な形式

[新規ソフトウェアのアップロード（Upload New Software）] をクリックすると、サーバまたはネットワークでソフトウェア ファイルを参照できます。ファイルのアップロードでサポートされる拡張子は **.zip**、***.pkg**、***.exe**、***.dmg**、***.gz** です。

Cisco TMS サーバにアクセスできる場合は、この Web インターフェイスを使用せずに、サーバのアップロード先ディレクトリに直接ソフトウェア パッケージをコピーできます。

ソフトウェアのアップロード先ディレクトリは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] ページの [ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）] フィールドに表示されます。ディレクトリの場所を変更するには、Cisco TMS ツール アプリケーションを使用する必要があります。「ソフトウェア ディレクトリ（274 ページ）」を参照してください。

ソフトウェア リストのフィールド

リストは、少なくとも 1 つのソフトウェア パッケージを Cisco TMS にアップロードした場合にのみ表示されます。アップロードされた各ファイルがソフトウェア リストに追加されます。

表 95　ソフトウェア リストのフィールド

フィールド	説明
ファイル名（File Name）	アップロードされたソフトウェア パッケージのファイル名。
ターゲット（Target）	ソフトウェアが有効なシステム タイプ。
バージョン（Version）	ソフトウェアのバージョン。
暗号化のサポート（Encryption Support）	[暗号化のサポート（Encryption Support）] には、アップロードされたソフトウェア パッケージが暗号化をサポートしない場合は [暗号化なし（No encryption）]、サポートする場合は [暗号化あり（With encryption）] が表示されます。

ソフトウェアの上書きと削除

- リスト上にすでにあるソフトウェア パッケージをアップロードすると、Cisco TMS では現在アップロードしているパッケージで古いパッケージが上書きされます。プロンプトは表示されません。実際の上書きは、アップロードが終了した直後に実行されます。
- ソフトウェア パッケージが不要になった場合は、リストからソフトウェア パッケージを選択し、[削除（Delete）] をクリックしてサーバから削除できます。

システムのアップグレードの活動状況

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [システムのアップグレードの活動状況（System Upgrade Activity Status）]

このページは、スケジュールされているシステム アップグレード、および進行中のシステム アップグレードのステータスを表示します。

進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

  下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

システムを消去（Purge Systems）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [システムを消去（Purge Systems）]

この機能で、今後 Cisco TMS に表示したくないシステムを Cisco TMS データベースから削除し、消去することができます。

消去されたシステムは、すべての進行中および保留中のスケジュールされた会議からも削除されることに注意が必要です。

システム リストには、Cisco TMS に追加されていないシステムが自動検出されて含められていることに注意してください。

消去するには、次の手順を実行します。

1. 削除するシステムを選択します。
2. ページの下部にある [システムを消去（Purge Systems）] をクリックします。
   選択したすべてのシステムと、参加する予定の将来のすべての会議を含むリストが表示されます。
3. 操作を確認するには、[消去（Purge）] をクリックします。

イベント通知マネージャ（Event Notification Manager）

Cisco TMS では、[システム（Systems）] > [イベント通知マネージャ（Event Notification Manager）]

イベント通知マネージャを使用してユーザをシステム イベントに登録し、システムでイベントが発生するたびに電子メールでユーザに通知されるようにできます。

ユーザのプルダウン メニューで [編集（Edit）] を選択すると、そのユーザの [イベント通知の編集（Edit Event Notification）] ページが表示されます。

すでにそのユーザが登録されているイベント通知があれば、右側のパネルに表示されます。一度に最大 1000 の通知が表示されます。

新しいイベント通知を追加するには、次の手順を実行します。

1. フォルダ、システムおよびイベント タイプを選択し、矢印ボタンを使用して右側の保存された通知のリストに移動します。
2. [適用（Apply）] をクリックします。
   これで選択したイベントが発生したときに、このユーザに電子メールで通知されます。

イベント通知を削除するには、イベントを選択し、矢印ボタンを使用してリストから削除します。一度に最大 1000 の通知を選択して削除できます。

イベントタイプの選択

表 96　通知を設定可能なイベント タイプ

イベントの種類	説明
認証失敗（Authentication Failure）	Telnet アクセスの認証失敗。
ブート	システム ブート。

表 96　通知を設定可能なイベント タイプ（続き）

イベントの種類	説明
接続されている状態	システムが接続しました。
接続エラー	システムは接続できませんでした。
切断（Disconnected）	システムが接続解除しました。
ダウンスピード（Downspeeding）	ISDN エラーまたは H.323 パケット損失（MXP シリーズ）によってコール レートがドロップされると送信されます。
暗号化状況（Encryption Status）	暗号化のオフ/DES/AES。
フロー制御（Flow Control）	H.323 パケット損失によってコール レートがドロップされると送信されます。（MXP シリーズ）。
ゲートキーパーの登録（Gatekeeper Registration）	システムがゲートキーパーに登録されたか、登録に失敗しました。
取得応答（Got Response）	システムは、応答なし状態から戻りました。
IP の競合（IP Conflict）	システムの IP アドレスが、ネットワーク上にある別のデバイスの IP アドレスと競合しています。
リンクダウン（Link Down）	ISDN リンクがダウンしています。
リンクアップ（Link Up）	ISDN リンクはアップしています。
応答なし（Lost Response）	システムは使用できません。
リモコンの電池残量低下（Low Battery on Remote Control）	システムのリモートコントロールの電池残量低下（Polycom VSX のみ）。
その他	Cisco TMS によって明示的にサポートされていないその他のイベント
事前登録設定済システムが有効（Pre-registered System Activated）	事前登録されていたシステムが検出され、アクティブになりました。
スケジューリング	システムが Cisco TMS によってスケジューリングされるか、またはスケジュールされた会議が変更または削除されます。
スケジュール エラー（Scheduling error）	スケジュール済み会議でエラーが発生しました。
システムの種類が変更されました（System type Changed）	Cisco TMS で、システムのシステム タイプの変更が登録されています。
アップグレード	システム ソフトウェアがアップグレードされました。
ユーザがヘルプを要求しました（User Assistance Requested）	ユーザがサポートを要求しました。

システム ステータスに関するレポート

表 97　[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] などで確認できるシステム ステータス

ステータス	説明
アイドル（Idle）	Cisco TMS はこのシステムと通信でき、システムに登録されているアクティブ コールはありません。
通話中（In Call）	システムは、スケジュールされたコール中、またはアドホック コール中です。
不明	Cisco TMS は、このシステムのステータスを判断できません。最近事前登録されたシステム、またはファイアウォールの背後にあるシステムはこのステータスになる可能性があります。
有効化されていません（Not Yet Activated）	Cisco TMS に追加されるのを待機している事前登録済みシステムは、この状態になります。

表 97 [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] などで確認できるシステム ステータス（続き）

ステータス	説明
ネットワークアドレスがありません（Network address missing）	IP アドレスがシステムに設定されていません。Cisco TMS は、したがって、システムの IP アドレスを追跡できません。
接続中（Alive）	Cisco TMS はシステムと通信できますが、このシステムにアクティブなコールがあるかどうかを判断できません。
SNMP の応答がありません（No SNMP response）	Cisco TMS は、SNMP を使用したこのシステムとの通信に失敗しています。この通信は、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] にあるシステムの [接続（Connection）] タブで、[SNMP コミュニティ名（SNMP Community Name）] が正しく設定されていない場合に失敗する可能性があります。[SNMP の応答がありません（No SNMP response）] は、[応答がありません（No Response）] ステータスの詳細なステータスです。
HTTP の応答がありません（No HTTP response）	Cisco TMS が、HTTP または HTTPS を使用して通信できないシステム。[HTTP の応答がありません（No HTTP response）] は、[応答がありません（No Response）] ステータスの詳細なステータスです。
Telnet の応答がありません（No Telnet response）	Cisco TMS は、Telnet プロトコルを使用したこのシステムとの通信に失敗しています。[Telnet の応答がありません（No telnet response）] は、[応答がありません（No Response）] ステータスの詳細なステータスです。
間違ったユーザ名/パスワード（Wrong username or password）	Cisco TMS でクレデンシャルが誤って設定されているため、このシステムと通信できません。システムとの通信に使用するユーザ名とパスワードを修正するには、システムの [接続（Connection）] タブを使用します。[ユーザ名またはパスワードが正しくありません（Wrong username or password）] は、[応答がありません（No Response）] ステータスの詳細なステータスです。

予約

この章では Cisco TMS 会議の概念、予約関連のタスク、[予約（Booking）] メニューのエントリについて詳しく説明します。

会議の基本 152
会議の予約 154
新しい会議 159
会議の一覧 174
参照の一覧 178
アドホック予約 179
参加者テンプレート 180
会議テンプレート 187

会議の基本

会議とは

会議とは、二つ以上の参加者間の通話です。会議には次のものがあります。

- ポイントツーポイント会議
- マルチサイトをサポートする参加者によってホストされる会議
- MCU によってホストされる会議
- 外部で（Cisco TMS の外部にいる参加者によって）ホストされる会議。「外部でホストされた会議とは（153 ページ）」を参照してください。

参加者とは

Cisco TMS では、参加者は、複数のプロトコル（会議でサポートされるプロトコルに応じます）のいずれか 1 つで、会議中にダイヤルインまたはダイヤルアウトできる、任意のシステムです。サポートされるプロトコルは、会議がどのようにホストされるか、また、どのインフラストラクチャ機器が設置されているかによって異なります。

表 98　プロトコルと参加者の例

SIP	H.323	ISDN
Cisco Jabber Video for TelePresence	Cisco TelePresence System Codec C シリーズ	オーディオ ダイヤルイン（電話）
Cisco IP Video Phone E20	Cisco TelePresence System MXP シリーズ	ISDN 対応ビデオ システム

ビデオ会議マスターとは

ビデオ会議マスターは会議を推進する参加者です。この参加者は、手動接続として会議が設定されている場合に会議を開始するように求められ、終了予定の期限になる前に会議を延長するように求められます（この設定が [管理ツール（Administrative Tools）] > [構成（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] で設定されている場合）。すべてのシステムがこの機能をサポートしているわけではありません。

ルーティングおよび MCU

Cisco TMS は自動的にルーティングを行います。会議を予約する際にネットワーク プロトコルまたは MCU を指定する必要はありません。

予約中の会議単位で Cisco TMS が選択するデフォルトを変更できます。

予約が MCU を必要としている場合に MCU が使用できない場合、エラーが表示されます。

MCU でのポートの使用法

各コール レッグでは 1 個のポートが使用されますが、さらに追加のポートが、次の理由で使用されます。

- ストリーミング（マルチキャスト/ユニキャスト）：マルチキャスト、ユニキャスト、またはその両方を有効にすると、ストリーミングで 1 ポートが使用されます。
- ConferenceMe：通常は、会議ごとに 1 ポート。これは、予約中に [MCU 設定（MCU Settings）] タブで設定できます。
- Duovideo/プレゼンテーション：Cisco TelePresence MCU には、4 つのコンテンツ モード オプションがあります。これらのうち、[ハイブリッド（Hybrid）] と [トランスコード済み（Transcoded）] がポートを使用し、他のオプションは使用しません。
- カスケード：1 個のポートがカスケードの各レッグに使用されます。

会議レイアウト オプションの制御方法

表 99　さまざまな会議ブリッジ タイプと選択肢に対するレイアウト制御

MCU	レイアウト
Cisco TelePresence MCU	[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > Cisco TelePresence MCU を選択 > [設定（Settings）] タブ > [拡張設定（Extended Settings）] > [会議レイアウト（Conference Layout）] の設定を使用します。 これらの設定は、予約時に会議単位で変更できます（[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [参加者の追加（Add Participants）] > [MCU 設定（MCU Settings）] タブ > [会議レイアウト（Conference Layout）]）。
Cisco TelePresence Server	Cisco TMS レイアウトの設定はいずれも使用されません。レイアウトは、通話に存在するイマーシブ システムに対応して、TelePresence Server 自体で決定されます。
Cisco TelePresence Conductor	Cisco TMS レイアウトの設定はいずれも使用されません。TelePresence Conductor 自体のエイリアス テンプレートで定義されたレイアウトの設定を使用します。
Cisco TelePresence MPS	[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [会議作成オプション（Conference Create Options）] > [デフォルト画像モード（Default Picture Mode）] の設定を使用します。 これらの設定は、予約時に会議単位で変更できます（[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [詳細設定（Advanced Settings）] > [画像モード（Picture Mode）]）。

外部でホストされた会議とは

外部ホスト会議とは、Cisco TMS の外部で作成された会議です。たとえば、会議をホストしている別の会社からダイヤルイン ビデオ アドレスが提供された場合に、Cisco TMS で外部ホスト会議を予約して組織のエンドポイントをスケジュールすると、それらのエンドポイントを [ワンボタン機能（One Button To Push）]（または必要であれば [自動接続（Automatic Connect）]）として会議にダイヤルインさせることができます。

会議を外部ホスト会議にすると、使用できる予約機能と監視機能が制限されます。これは、会議ホストが Cisco TMS によって制御されないためです。

外部ホスト会議では使用できない Cisco TMS の予約機能と参加者を以下に示します。

- WebEx
- MCU
- 暗号化の保証（[セキュア（Secure）] を [はい（Yes）] に設定できません）
- 録音参加者
- SIP 以外のダイヤルイン参加者
- ダイヤルアウト参加者

[画像モード（Picture Mode）] や [拡張モード（Extend Mode）] の設定も外部ホスト会議には影響しません。

会議制御センターで外部ホスト会議を監視する際にも、同様に機能が制限されます。CCC では、参加者を追加したり、Cisco TMS 参加者の終了時刻を変更したりすることができます。終了時刻になると、これらの参加者は切断されず、Cisco TMS では、外部ホスト会議が終了済みとしてリストされます。Cisco TMS は、外部ホスト会議自体を延長できません。

Cisco TMS は、次の会議の種類に基づいて、進行中の延長された外部ホスト会議を切断します。

- [OBTP]：Cisco TMS は、OBTP をエンドポイントに送信します。進行中の会議の参加者がそれを受け入れると、進行中の会議が切断されます。既存の会議の重要性に基づいて、参加者は拒否することもできます。
- [自動接続（Automatic Connect）]：Cisco TMS によってスケジュール設定された新しい会議が自動的に接続され、既存の会議は切断されます。
- [手動接続（Manual Connect）]：マスター エンドポイントのユーザは、新しい会議に接続するためには [OK] をクリックする必要があります。

電子メールの通知

会議の予約にかかわるユーザは、会議が予約、更新、または削除されたときに、予約情報とエラー通知の電子メール メッセージを受け取ります。これには、次の事項が含まれます。

- 会議作成者：会議を予約するユーザ。
- 会議所有者。
- 会議を更新したことがあるその他のユーザ。

一連の定例会議を編集すると、会議の予約にかかわっていて、定例会議またはいずれかのインスタンスを編集したことがあるすべてのユーザに送信される電子メールが生成されます。

一連の定例会議のインスタンスを編集すると、定例会議またはそのインスタンスを編集したことがあるすべてのユーザに送信される電子メールが生成されます。

会議の予約

Cisco TMS で会議をスケジュールするには、複数の方法があります。[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] では、予約の際に会議の詳細設定オプションが表示されます。このページは、次の手順で使用されます。[予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] > [新しい会議（New Conference）] は [予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] ページにもリンクされています。

他の予約のオプション：

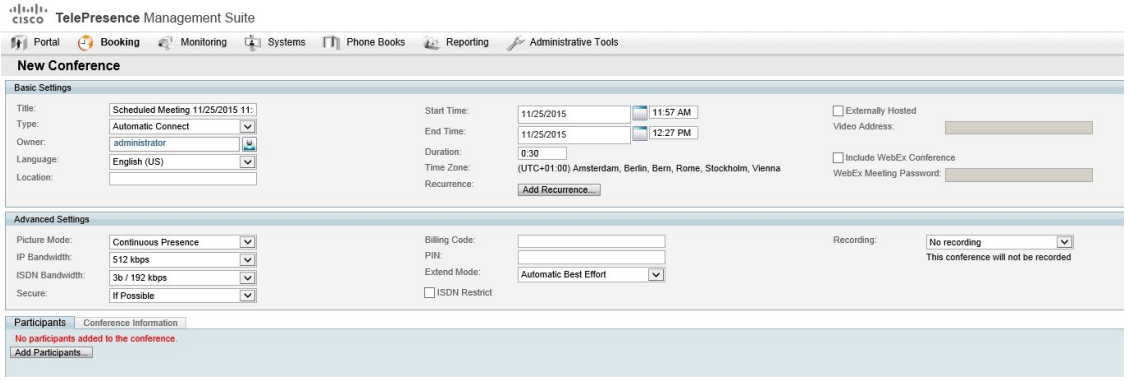
- Smart Scheduler は、一般視聴者向けの軽量スケジューラです。詳細については、『Cisco TMSPE Deployment Guide』を参照してください。
- [予約（Booking）] > [アドホック予約（Ad Hoc Booking）] では、[予約のみ（Reservation Only）] または [通話の自動接続（Automatic Call Launch）] の会議として、表示されるシステムに対してスケジュール済み会議を予約できます。
- [モニタリング（Monitoring）] > [会議制御センター（Conference Control Center）] > [新しい会議（New Conference）] ボタンをクリックすると、[新しい会議（New Conference）] ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、会議を作成し、会議の作成後に参加者を追加することができます。

Cisco TMS によって管理されていないシステムを会議に追加するには、2 つの方法があります。

1. [予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [参加者の追加（Add Participant）] ボタン > [外部（External）] タブ。このオプションは、プロビジョニングされたデバイスのように、Cisco TMS から直接予約できないシステムを対象としています。インフラストラクチャ システムを外部参加者として追加しないでください。
2. 参加者テンプレートを作成し（[予約（Booking）] > [参加者テンプレート（Participant Template）]）、予約時にこのテンプレートを参加者を表すものとして追加します。このオプションは当初は MPS 用でしたが、管理されていないシステムまたは参加者の Cisco TMS への追加や、通常の予約が可能な参加者のより複雑でさまざまな設定を定義するために使用できるようになりました。

[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] から会議を予約するには、次の手順を実行します。

1. 次の基本設定を入力します。



   a. 会議のタイトルを編集します。これは、管理者とユーザがすべての Cisco TMS インターフェイスと電子メール通知で会議を識別するために役立ちます。
   b. 開始時刻、通話時間または終了時刻を設定します。
   c. 週次または日次の会議など、一連の関連する会議を作成するには、[定例会議の設定（Recurrence Settings）] をクリックします。
   d. Cisco TMS の外部で作成された会議用ビデオ アドレスがすでにある場合は、[外部ホスト（Externally Hosted）] をオンにします。この場合、予約およびモニタリングの利用可能なオプションが制限されます。
   e. テレプレゼンス会議に WebEx の会議と参加者を追加するには、[WebEx 会議を含める（Include WebEx Conference）] をオンにします。WebEx の参加者が会議へのアクセスに使用する必要がある **WebEx 会議パスワード** を作成します。
2. 必要に応じて [詳細設定（Advanced Settings）] セクションのフィールドを変更します。このセクションには、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > **[会議設定（Conference Settings）]（233 ページ）**で設定した値が事前に読み込まれています。
3. オプションで、[会議情報（Conference Information）] に会議に関する注釈を追加します。

4. [参加者（Participants）] タブで [参加者の追加（Add Participants）] をクリックすると、[参加者の追加（Add Participants）] ポップアップ ウィンドウが表示されます（インターネット ブラウザでポップアップ ウィンドウを許可していることを確認してください）。
   - タイプごとに参加者をリストするには、タブをクリックします。前にスケジューリングを使用したことがある場合、デフォルトのタブは、最近使用したシステムにすばやくアクセスできる [前回の使用（Last Used）] になります。
   - 参加者の予約状況は、既存のスケジュール済み会議とアドホック会議に基づいて表示されます。カラーの縦線は、スケジュール済み会議に対する現在の要求時間を表しています。
   - システムまたはスケジュール済み会議の詳細については、プランナー ビューでシステムまたはブロック上にマウスのカーソルを合わせます。
   - 参加者のチェックボックスをオンにし、[>] ボタンをクリックして、会議に参加者を追加します。Cisco TMS で自動的に処理されるため、MCU の追加はオプションです。
   - Cisco TMS によって管理されていないシステムを追加するには、[外部（External）] タブを使用します。
     - ダイヤルアウト参加者の場合は参加者の連絡先情報を入力します。Cisco TMS は、スケジュールされた時間に参加者を会議に自動的に接続します。
     - ダイヤルイン参加者の場合は、Cisco TMS が必要とされるキャパシティを確保し、参加者に転送する正確なダイヤルイン情報が提供されます。
5. すべての参加者を追加したら、[OK] をクリックします。
   会議ページに戻ります。このページの参加者セクションには、選択した参加者といくつかの追加タブが表示されます。これらの追加タブでは、会議のルーティングの変更、特定の MCU の設定、または TelePresence Conductor 会議設定など、詳細なスケジュール タスクを実行できます。
6. オプションで、[ビデオ会議マスター（Video Conference Master）] ドロップダウン リストを使用して、会議を駆動するシステムを決定します。「ビデオ会議マスターとは（152 ページ）」を参照してください。
7. [会議の保存と有効化（Save Conference）] をクリックします。
   会議を保存すると、Cisco TMS は、ルーティングを計算して、選択した参加者を接続する最適な方法を決定します。
   - Cisco TMS が要求を完了できる場合は、会議の詳細を示す [確認（Confirmation）] ページが表示されます。このページには、各参加者の接続がどのようにスケジュールされているか、および必要に応じて、参加者がダイヤルする必要がある正確なダイヤル文字列を示すリストが含まれます。
     また、ユーザは、Outlook（または互換）カレンダーに保存できる ICS 添付ファイル付きの確認電子メールを受信します。
   - Cisco TMS が予約要求を完了できない場合は、[新しい会議（New Conference）] ページに戻ります。エラー メッセージには、会議を保存できなかった理由が示されます。
     会議の設定を編集して、問題を解決し、会議を再度保存することを試みます。

注意：Cisco TMS を使用して、MCU でホストされる会議をスケジュールする場合は、Cisco TMS を使用して会議を管理する必要があります。MCU で、この会議に直接変更を加えないでください。これには、レイアウトの変更と、会議間での参加者の移動が含まれます。

リモート システムでの会議の予約

いくつかの制約事項が、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントを含む会議の予約時に適用されます。

- Cisco TMS では、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントからダイヤルアウトできません。したがって、エンドポイントにダイヤルするか、エンドポイントを操作している人が会議に手動でダイヤルインする必要があります。
- [自動接続（Automatic Connect）] としてファイアウォールの背後に複数のエンドポイントがある会議を予約する場合は、その会議に、組み込み型マルチサイト サポートの MCU またはローカル エンドポイントを含める必要があります。
  [自動接続（Automatic Connect）] によるポイントツーポイント会議は、ファイアウォール/NAT の背後にある 2 台のシステムでは機能しませんが、エンドポイントのいずれかがローカルであれば、想定どおりに機能します。

既存の会議の表示および編集

会議を表示または編集するには、次の手順を実行します。

1. [予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] を開きます。
2. オプションを使用して、会議を検索します。
3. 会議を表示するには、会議のタイトルをクリックするか、会議のタイトルにマウスのカーソルを合わせたときに表示されるドロップダウン メニューを開き、[表示（View）] を選択します。
   [新しい会議（New Conference）] ページに類似するページが表示されます。
4. この会議に対して保存されている情報を表示するには、ウィンドウの下部のタブをクリックします。
   会議がこれ以降にスケジュールされている場合、[編集（Edit）] ボタンをクリックし、新しい会議を作成するときと同じオプションを使用して、その会議を変更できます。会議が更新され、新しい確認用の電子メール メッセージが配信されます。

会議の定例化

1. [予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] で、[定例会議の追加...（Add Recurrence...）] をクリックします。
2. [開始時刻（Start Time）] と各会議インスタンスの期間を選択します。
3. [反復パターン（Recurrence Pattern）] を設定します。
4. [反復の範囲（Range of Recurrence）] を選択します。
5. [OK] をクリックして会議に反復を適用し、ダイアログを終了します。
   会議の予約ページに戻ります。反復のパターンと範囲が表示されるようになっています。

定例会議から単独の会議に変更するには、[反復の削除（Remove Recurrence）] をクリックします。この操作により、会議の開始および終了日時が [新しい会議（New Conference）] ダイアログの設定に戻ります。

既存の会議の [繰り返し（recurrence）] ダイアログにアクセスするには、次の操作を実行します。

1. [予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] に移動します。
2. プルダウン メニューから [編集（Edit）] を選択し、プロンプトが表示されたら *一連の会議を編集*します。
3. [定例会議の編集...（Edit Recurrence...）] をクリックします。

例外の追加

1. 定例会議の個々の会議の日付を変更するには、[例外...（Exceptions...）] をクリックします。
   各会議が濃い青色で表示されます。
2. [定例会議の例外（Recurrence Exceptions）] カレンダーで会議を選択します。
   選択した会議を移動できる日付の範囲が強調表示されます。
3. 強調表示された日付のいずれかをクリックすると、会議がその日付に移動されます。
   例外が明るい青色で表示されます。

   過去の会議または定例会議の次の会議を移動することはできません。

すべての会議を元の反復パターンに戻すには、[例外のリセット（Reset Exceptions）] をクリックします。

定例会議の設定では、次の点に注意してください。

- 定例会議の最大回数は 100 回です。
- 定例会議は、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] の [予約ウィンドウ（Booking Window）] で定義した日数の範囲内で開催する必要があります。
- CMR Hybrid を定例会議に追加すると、利用可能な反復パターンが制限されます。
- 一連の定例会議の 1 つのインスタンスに WebEx を追加することはできません。
- 一連の定例会議の 1 つのインスタンスを編集する場合、会議の所有者を変更することはできません。これは、インスタンスのタイム ゾーンを変更できないことを意味します。

Cisco TelePresence Conductor による会議の予約および編集

会議の予約

1. [予約(Booking)] > [新しい会議(New Conference)] を使用して、Cisco TMS に通常どおりに会議を予約します。TelePresence Conductor が [会議設定(Conference Settings)] で優先 MCU として設定されている場合は、TelePresence Conductor を手動で会議に追加する必要はありません。

   Cisco TMS に複数の TelePresence Conductor がある場合は、IP ゾーンが大半のエンドポイントと一致するものが自動的に選択されます。

2. 会議に参加者を追加したら、[接続設定(Connection Settings)] タブをクリックして [TelePresence Conductor 設定(TelePresence Conductor Settings)] タブを表示し、必要に応じてフィールドに入力してください。

   表 100 エイリアスの設定

フィールド	説明
エイリアス(Alias)	会議のダイヤルイン アドレスとして使用するエイリアスを選択します。 ドロップダウンで表示されるエイリアスは、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > TelePresence Conductor を選択 > [TelePresence Conductor] タブ > [エイリアス(Aliases)] で設定されたものです。詳細については、「TelePresence Conductor(90 ページ)」を参照してください。
変数(Variable)	エイリアスが固定でない場合は、会議に該当する部分が含まれる可変部分を変更できます。 [変数(Variable)] フィールドに入力すると、入力した内容が反映されるようにプレビューに変更が表示されます。変数には英数字を使用することができます。変数の例として、会議をホストしている人の名前があります。 [変数(Variable)] フィールドには、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] での TelePresence Conductor の [拡張設定(Extended Settings)] で設定された利用可能な最初の数字の ID が、Cisco TMS によってすでに入力されています。変数を変更しない場合、[プレビュー(Preview)] フィールドに表示できる自動生成されたアドレスが会議に使用されます。 選択した変数エイリアスがその時点で使用可能かどうかを確認するには、[アドレスが使用可能かを確認(Check Address Availability)] をクリックします。 変数を変更した後、Cisco TMS によって生成された変数に戻すには、[アドレスの再生成(Regenerate Address)] をクリックします。
アドレスプレビュー(Address Preview)	参加者が会議にダイヤルするために使用するアドレスのプレビュー。変数を変更すると、このフィールドに表示されるアドレスの青い部分が変更されます。
説明(Description)	このフィールドには、以下の場所でエイリアスに対して追加された説明が含まれます。 [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > TelePresence Conductor を選択 > [エイリアス(Aliases)] タブ > [エイリアスの編集(Edit Aliases)] このフィールドは、選択したエイリアスの説明がない場合は表示されません。
会議レイアウト(Conference Layout)	会議のレイアウトを設定します。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する(Limit Ports to Number of Scheduled Participants)	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。

3. 選択したエイリアスが使用可能であることを確認するには、[アドレスが使用可能かを確認(Check Address Availability)] をクリックします。
4. [会議の保存と有効化(Save Conference)] をクリックします。

次のスケジューリング オプションは Cisco TMS の TelePresence Conductor ではサポートされていないことに注意してください。

- メディア ポートの予約：これは、MCU 上では有効にしないでください。
- Cisco TMS 会議テンプレート
- 参加者テンプレート
- 分散
- TelePresence Conductor 会議タイプの講義。会議の種類 [ミーティング（Meeting）] を使用する会議テンプレートのみがサポートされます。

注：TelePresence Conductor で会議のスケジュールを設定する場合、IP ダイヤルは使用できません。

会議の編集

[予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] を使用して、Cisco TMS で会議を編集します。

また、[TelePresence Conductor の設定（TelePresence Conductor Settings）] タブから会議のアドレスを変更できます。

注：Cisco TMS では、会議の予約後最初にルートを計算する際に、エイリアスを自動的に選択します。参加者のリストに加える以降の変更は、エイリアスの選択に影響しません。

新しい会議

Cisco TMS では、[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）]

[新しい会議（New Conference）] ページは、[基本設定（Basic Settings）] セクション（159 ページ）、[詳細設定（Advanced Settings）] セクション（161 ページ）、および下部のタブ領域で構成されています。

基本設定（Basic Settings）

表 101　新しい会議を予約する際の基本設定

フィールド	説明
タイトル（Title）	会議のタイトルおよび日時。タイトルを自分で入力するか、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] の [デフォルトの会議タイトル（Default Conference Title）] フィールドからコピーされたデフォルトのタイトル、日時を残すことができます。

表 101　新しい会議を予約する際の基本設定（続き）

フィールド	説明
タイプ（Type）	会議がどのように接続するかを指定します。 ■ [自動接続（Automatic Connect）]：Cisco TMS は、指定された日時にすべての参加者を自動的に接続します。 ■ [ワンボタン機能（One Button to Push）]：会議のダイヤルイン情報がワンボタン機能をサポートするエンドポイントに自動的に表示されます。ダイヤルイン番号などの会議情報が記載された電子メールが会議の所有者に送信され、会議の参加者に転送されます。 [One Button to Push] は、Cisco TMS でサポートされているシステムでサポートされることに注意してください。 ■ [手動接続（Manual Connect）]：ビデオ会議マスターとしてリストされているシステムが、指定した日時に通話を開始するように要求されます。通話はビデオ会議マスターが通話を開始する際に自動的に接続されます。 ■ [接続なし（No Connect）]：このオプションはシステムの予約とコール ルートの生成を行いますが、会議には接続しません。このオプションが選択された場合の接続の代替方法は次のとおりです。 – **会議制御センター**で参加者が [接続（Connect）] をクリックすると、会議を開始できます。 – 会議の参加者が 2 名だけの場合、1 名がもう一方の参加者に通話できます。 – 会議が MCU で予約されている場合、すべての参加者がダイヤルインする必要があります。 ■ [予約（Reservation）]：このオプションはシステムを予約しますが、接続を開始したり、通話ルートを生成したりしません。予約に 1 つ以上の MCU が含まれている場合、MCU のすべてのポートが会議用に予約されます。
オーナー（owner）	会議のデフォルトの所有者は、ログインしているユーザです。ユーザがメンバーのグループに対して [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] で [代表予約（Book on behalf of）] の権限が設定されている場合、そのユーザは他のユーザの代わりに会議を予約できます。代わりに予約したユーザが会議のオーナーになります。会議のオーナーに関する情報は、[会議制御センター（Conference Control Center）] ページおよび [会議の一覧（List Conferences）] ページで使用されます。会議のオーナーは、予約済みの会議に関する電子メールによって予約の確認を受け取ります。電子メールには、会議の開始時刻、終了時刻、参加者および通話のルートに関する情報が含まれます。
言語（Language）	すべての会議の電子メール、ビデオ内会議終了通知に対する言語を指定します。
参照先	会議の物理的な場所の文字による説明。
開始時刻（Start Time）	会議の開始日と時刻を設定します。
終了時間（End Time）	会議の終了日と時刻を設定します。 Cisco TMS は、実際の終了時刻の 9 秒前に会議を終了します。Cisco TMS によるクリーンアップとリソースの解放にいくらか時間がかかるためです。
時間（Duration）	会議の期間を設定します。
定例会議の追加（Add Recurrence）	会議を定例化します。詳細については、「会議の定例化（157 ページ）」を参照してください。
外部ホスト（Externally Hosted）	Cisco TMS の外部で作成された会議に対する Cisco TMS のエンドポイントのスケジュールを設定するために、外部でホストされた会議を予約することができます。その場合、以下の [ビデオ アドレス（Video Address）] フィールドで、アドレスの正確なビデオ アドレスを指定する必要があります。 外部でホストされた会議を予約する場合、WebEx や保証された暗号化などの一部の機能がサポートされないことに注意してください。詳細については、「外部でホストされた会議とは（153 ページ）」を参照してください。

表 101　新しい会議を予約する際の基本設定（続き）

フィールド	説明
ビデオ アドレス（Video Address）	このフィールドは、[外部ホスト（Externally Hosted）] がオンになっている場合にのみ使用できます。また、正確な SIP ビデオ アドレスを指定する必要があります。会議に参加するエンドポイントは、このアドレスにダイヤルする必要があります。SIP ビデオ アドレスはフォーマットが異なる場合があるほか、外部でホストされた会議のホストは決して Cisco TMS では制御されないため、このフィールドは検証されません。
WebEx 会議を含める（Include WebEx Conference）	TelePresence 会議に、WebEx 会議および参加者を追加します。
WebEx 会議パスワード（WebEx Meeting Password）	WebEx のデフォルトのパスワードは、6 文字以上の数字のパスワードです。ただし、WebEx の管理者は、次の条件を組み合わせてパスワードの要件を設定することができます。 ■ 大文字と小文字の両方を含む ■ パスワードの最小文字数 ■ 数字の最小数 ■ アルファベットの最小数 ■ 特殊文字の最小数 ■ 動的 Web ページのテキストを会議パスワードとして許可しない ■ Cisco、password、WebEx などの単語に関連するリストに含まれる会議パスワードを許可しない

詳細設定（Advanced Settings）

表 102　新しい会議を予約する際の詳細設定

フィールド	説明
画像モード（Picture mode）	■ [音声切り替え（Voice Switched）]：通話中の参加者のみが表示されます。別の参加者が通話を開始すると、画像がその参加者に切り替わります。 ■ [分割表示（Continuous Presence）]：分割された画面にすべての参加者が均等に表示されます。 ■ [拡張分割表示（Enhanced Continuous Presence）]：通話中の参加者が最大表示され、その他の参加者はメイン画像の周囲に表示されます。
IP 帯域幅（IP Bandwidth）	[IP 帯域幅（IP Bandwidth）] は、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [会議作成オプション（Conference Create Options）] セクションの [デフォルトの帯域幅（Default Bandwidth）] フィールドであらかじめ設定されています。 この帯域幅は、スケジュールされた会議でデフォルトとして使用されますが予約中に変更できます。 [IP 帯域幅（IP Bandwidth）] よりも低い値を上限としているシステムは、システムの最大帯域幅を使用して接続します。 IP 帯域幅の範囲は 64kbps から 6144kbps です。 コール制御インフラストラクチャによって設定された帯域幅の制限はこの設定を上書きします。 注：これは、CTS システムおよび TX システムには適用されません。CTS システムまたは TX システムが Cisco TMS からのコールで使用する帯域幅は指定できません。

表 102　新しい会議を予約する際の詳細設定（続き）

フィールド	説明
ISDN 帯域幅（ISDN Bandwidth）	[ISDN 帯域幅（ISDN Bandwidth）] は、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [会議作成オプション（Conference Create Options）] セクションの [デフォルトの ISDN 帯域幅（Default ISDN Bandwidth）] フィールドであらかじめ設定されています。 この帯域幅は、スケジュールされた会議でデフォルトで使用されますが、予約中に変更できます。 [ISDN 帯域幅（ISDN Bandwidth）] よりも低い値を上限としているシステムは、システムの最大帯域幅を使用して接続します。 最初の数値は、B チャネルの番号を示します。2 番めの数値は帯域幅（kbps 単位）です。範囲は 64kbps から 4096kbps です。
セキュア（Secure）	[セキュア（Secure）] が [はい（Yes）] に設定されていて、会議が TelePresence Conductor またはブリッジでホストされている場合、エンドポイントが暗号化をサポートしているかどうかにかかわらず、会議におけるエンドポイントをスケジュール設定できます。これは、TelePresence Conductor またはブリッジにおいて暗号化が必要に応じて設定されるためです。 ポイントツーポイント会議またはマルチサイト会議では、[セキュア（Secure）] が [はい（Yes）] に設定されていると、Cisco TMS でのみ会議を予約できます（すべてのコール レッグがセキュアな場合）。予約では、エンドポイントがセキュア シグナリングをサポートしているかどうかのチェックも行われます。 **注：**暗号化をサポートするエンドポイントの暗号化が [オフ（Off）] に設定されていて、このエンドポイントが暗号化されている会議に追加されている場合、このエンドポイントの暗号化は [オン（On）] に設定されます。この設定はエンドポイント自体で [オフ（Off）] に設定するまで、会議の終了後も維持されます。
課金コード（Billing Code）	課金コードは、Cisco TelePresence MXP システムのみでサポートされます。 スケジュール済みの会議に適用する課金コードを指定します。課金コードの適用方法は、「会議設定（233 ページ）」の [スケジュールされた通話の課金コード（Billing Code for Scheduled Calls）] および [課金コードの選択ポップアップを有効にする（Enable Billing Code Selection Popup）] の設定によって異なります。 ■ [なし（No）]：予約時に入力された課金コードは適用されません。 ■ [オプション（Optional）]：予約時に課金コードを入力できます。 ■ [必須（Required）]：[管理ツール（Administrative Tools）] > [課金コード（Billing Codes）] > [課金コードの管理（Manage Billing Codes）] の一覧に一致する課金コードを予約時に入力する必要があります。「課金コードの管理（262 ページ）」を参照してください。 [課金コードの選択ポップアップを有効にする（Enable Billing Code Selection Popup）] が [はい（Yes）] に設定されている場合は、有効な課金コードのリストに予約ページから直接アクセスできます。 設定に関係なく、「；」と「=」は課金コードには使用できません。
PIN	数字の PIN を追加すると、招待されていない参加者は会議に参加できなくなります。PIN は、予約後に主催者に送信し、ダイヤル イン参加者に転送する必要がある会議情報の電子メール メッセージに含まれます。 会議が開始された後に PIN を変更することはできません。その場合、参加者が会議に参加できなくなる場合があります。

表 102　新しい会議を予約する際の詳細設定（続き）

フィールド	説明
拡張モード（Extend Mode）	■ [なし（None）]：会議が自動的に延長されないようにします。 ■ [エンドポイント プロンプト（Endpoint Prompt）]：会議終了時刻の 5 分前と 1 分前に、設定不可の会議延長メッセージをビデオ会議マスターに表示します。 ■ [自動ベスト エフォート（Automatic Best Effort）]：スケジュール済み会議の 15 分ずつの自動延長を最大 16 回まで有効にします。最初の自動延長の場合のみ、会議はその会議に接続している参加者の数に関係なく延長されます。後続の延長は、2 人以上の参加者が会議に接続している場合のみ行われます。会議の延長は、[延長時のリソース可用性チェック（Resource Availability Check on Extension）] が [無視（Ignore）] に設定されている場合を除き、次の 15 分以内にいずれの参加者にも競合する会議が存在しない場合のみ行われます。
ISDN 制限（Restrict）	オンにすると、会議は ISDN 制限（56kbps）を使用します。制限される通話は 56 kbps ネットワークへの通話です。
録音（Recording）	会議の録音元にする Cisco TelePresence Content Server から録音エイリアスを選択するには、ドロップダウン メニューを使用します。 Cisco TMS に登録されている各 Content Server の下に、すべてのユーザに表示されるデフォルトのシステム録音エイリアスと、ログイン中のユーザが所有する個人用録音エイリアスのリストが表示されます。 Content Server 上の録音エイリアスを適切に指定すると、正しい録音エイリアスを検索して使用することができます。 **注**：このオプションは、Content Server が利用可能な場合にのみ表示されます。

[参加者（Participants）] タブ

[参加者の追加（Add Participants）] により [参加者の追加（Add Participants）] ウィンドウが起動します。このウィンドウで、会議への参加者の追加、および予約状況の確認を行います。

[参加者の追加（Add Participants）] ウィンドウ

Cisco TMS では、[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）]

各ページの参加者を検索するには、表示されている場合、クエリ セクションを使用してください。

表 103　[参加者の追加（Add Participants）] ウィンドウのタブ

タブ	説明
前回の使用（Last Used）	前回の予約のためにログインしたユーザによって選定された最後の 10 名の参加者のリスト。
エンドポイント	Cisco TMS に登録されているエンドポイントを参加者としてここに追加できます。
ユーザ	ここに記載されているユーザは、[システム（Systems）] > [プロビジョニング（Provisioning）] > [ユーザ（Users）] で Cisco TelePresence Management Provisioning Extension に追加またはインポートされました。 このリストから追加された参加者は、自動的に会議に接続されませんが、接続方法の詳細が記載された電子メールを受信します。電子メールは、会議が保存されると自動的に生成されます。 このタブのページ サイズは 1000 までに制限されます。
MCU	Cisco TMS に登録されている MCU（Cisco TelePresence Conductor と Cisco TelePresence Server を含む）がこのタブに表示されます。

表 103 [参加者の追加(Add Participants)] ウィンドウのタブ(続き)

タブ	説明
電話帳	電話帳の参加者がここで追加できます。名前の検索やドロップダウン リストからの電話帳の選択を行う場合、[クエリ(Query)] フィールドを使用できます。このタブのページ サイズは 1000 までに制限されます。 [検索のみ(Search Only)] のソースしか含まれていない電話帳は、このウィンドウに表示されません。
外部(External)	ダイヤルイン参加者とダイヤルアウト参加者を追加し、プロトコル タイプ、音声/ビデオのタイプと参加者数を指定するためにこのタブを使用します。各参加者の名前を指定できます。 外部参加者を 1 人だけ追加して会議をスケジュールする場合、Cisco TMS ではその会議を保存できません。 注:インフラストラクチャ システムはここに追加できません。
テンプレート	参加者のテンプレートは管理者によって使用されることが想定されているので、管理者による使用が可能なグループ権限が付与されているユーザにのみ [参加者テンプレート(Participant Templates)] タブが表示されます。このタブから新しい参加者テンプレートを作成することができます。詳細については、「参加者テンプレート(180 ページ)」を参照してください。
機器	Cisco TMS に登録された機器を追加します。

表 104 [参加者の追加(Add Participants)] ウィンドウのチェックボックスとボタン

チェックボックス/ボタン	説明
詳細(リンク)(Details (link))	選択したシステムのシステム詳細ウィンドウが開きます。
デフォルト予約タブ(Default Booking Tab)	現在位置しているタブを、[参加者の追加(Add Participants)] ウィンドウを開くたびに表示されるデフォルトにするには、このボックスをオンにします。
予約状況を表示(Show Availability)	■ オンにすると、システムの空き時間/ビジー情報が表示されます。 ■ オフにすると、システム情報が表示されます。
常にマイ プライマリ システムを追加(Always Add My Primary System)	各会議にプライマリ システムを自動的に追加します。
マイ プライマリ システムを追加(Add My Primary System)	この会議にプライマリ システムを追加します。このボタンは、ユーザがプライマリ システムを定義していなければ選択できません。

参加者が追加された場合、より多くのボタンとリンクが表示されます。

ビデオ会議マスターは会議を推進する参加者です。この参加者は、手動接続として会議が設定されている場合に会議を開始するように求められ、終了予定の期限になる前に会議を延長するように求められます(この設定が [管理ツール(Administrative Tools)] > [構成(Configuration)] > [会議設定(Conference Settings)] で設定されている場合)。すべてのシステムがこの機能をサポートしているわけではありません。

[WebEx の詳細(WebEx Details)] タブ

このタブには、Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid が会議に追加されているかどうかが表示されます。会議が保存されるまで、詳細は表示されません。

[接続設定(Connection Settings)] タブ

このタブは、参加者が会議に追加されてから表示されます。通話の設定方法が含まれています。参加者に応じて、次のような設定を表示または変更することができます。

- 通話の方向。
- プロトコル。
- ダイヤル文字列。

各参加者の右側にある [設定(Settings)] リンクをクリックすることによって、参加者ごとに次のような追加設定を行うことができます。

- 帯域幅
- ブリッジでホストされている会議の場合:
  - 個々の参加者に対して、音声およびビデオを接続時にミュートにできます。
  - ダイヤルアウト参加者に対して、[DTMF トーン(DTMF Tones)] を設定できます。
- [ダイヤル文字列(Dial String)] フィールドを編集すると、その参加者がダイヤルするダイヤル文字列が変更されますが、リモート エンドでは何も変更されません(たとえば、ブリッジに割り当てられたポート)。

メインを選択

主要参加者とは、会議をホストするシステムです。これは MCU か、参加者が複数の場合は、マルチサイトを備えたシステムにできます。会議がポイントツーポイントであれば、いずれかのシステムをメインにすることができます。Cisco TMS Web インターフェイスから予約している場合は、メインにする参加者をドロップダウン メニューで選択できます。

詳細については、「主要参加者(32 ページ)」を参照してください。

ルーティング

通話の方向は、会議のタイプとエンドポイントのタイプの両方によって異なります。One Button to Push 会議では、通話の方向は常にエンドポイントからです。

カスケードされた MCU 通話と録音通話は常に Cisco TMS によってスケジュールされ、開始されます。詳細については、「プロトコルおよびコール制御(33 ページ)」を参照してください。

分散(ルーティング モード)

表 105　分散タイプ

タイプ	説明
分散なし(No distribution)	1 つの MCU だけが会議で使用されます。
最小費用ルート選択(Least Cost Routing)	Cisco TMS は、複数の MCU を使用してすべてのプロトコルの通話コストと帯域幅の一方または両方を削減しようとします。Cisco TMS は、ゾーンを使って可能な限り、システムでローカル MCU が使用されるようにします。詳細については、「ゾーンのしくみ(38 ページ)」を参照してください。 たとえば、Cisco TMS に、スウェーデンの 1 つの MCU とフランスの 1 つの MCU へのアクセス権があり、スウェーデンに 3 人の参加者がいて、フランスに 3 人の参加者がいる場合、[最小コスト ルーティング(Least Cost Routing)] モードではスウェーデンの MCU を使用してスウェーデンの参加者に通話し、フランスの MCU を使用してフランスの参加者に通話して、2 つの MCU を 1 つの接続でまとめます。
ベスト インプレッション(Best Impression)	大規模な会議では、単一の MCU にすべての参加者に通話するだけの十分なリソースがない場合、[ベスト インプレッション(Best Impression)] ルーティングはすべての参加者を接続するために、複数の MCU を使用します。[ベスト インプレッション(Best Impression)] では、次のように MCU を接続します。利用可能なビデオ ポートが最も多い MCU を特定して参加者を接続し、次に、利用可能なビデオ ポートが 2 番目に多い MCU を特定して参加者を接続します。

システムの予約状況(System availability)

タブの一部は、デフォルト ビューにシステムの空き/ビジー情報を含みます。

選択の時点ですでに会議に予約されている参加者には赤のマークが付いています。[応答なし(No Response)] のステータスの参加者にも赤のマークが付きます。各参加者のツールチップに、詳細情報が表示されます。

次の予約状況が表示されます。

- エンドポイント
- 単一使用の参加者のテンプレート

参加者の追加と削除

参加者を追加するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 参加者を選択し、[>] ボタンをクリックします。
- 参加者をダブルクリックします。
- 追加する参加者をすべて選択し、[OK] をクリックします。

参加者を削除するには、参加者を選択し、[<] ボタンをクリックします。

[MCU 設定（MCU Settings）] タブ

MCU または TelePresence Server が会議をホストしている場合は、このタブが表示されます。詳細については、「MCU 設定（166 ページ）」を参照してください。

[TelePresence Conductor の設定（TelePresence Conductor Settings）] タブ

このタブは、TelePresence Conductor が会議をホストしている場合に表示されます。詳細については、「Cisco TelePresence Conductor の設定（174 ページ）」を参照してください。

[会議情報（Conference Information）] タブ

表 106　[会議情報（Conference Information）] タブのフィールド

フィールド	説明
電子メール送信先（Send Email To）	電子メールによって予約の確認を受け取るユーザを指定します。電子メール アドレスは、セミコロン、カンマまたはスペースで区切ることができます。
電子メール メッセージ（Email Message）	このフィールドには、会議の議題などの会議固有のデータを含めることができます。情報は、予約の確認用電子メールに含まれます。
会議に関する注意事項（Conference Notes）	会議制御センターで表示できるが、予約の確認用の電子メールで表示できない補足をここに追加できます。
参照名（Reference Name）	参照は会議に追加することが可能です。参照には、会議費用を請求するために、カスタマーに関する情報が含まれることがあります。[新しい参照（New Reference）] をクリックして参照を追加し、次の必要な情報を入力します。 1. [参照名（Reference Name）]：参照の名前。（必須フィールド）。 2. [参照コード（Reference Code）]：参照用のコード。（カスタマー番号など） 3. [コメント（Comment）]：参照用のコメントのフィールド。 4. [連絡先情報（Contact Information）]：連絡先を電話番号とともにここに入力します。 詳細については、「参照の一覧（178 ページ）」を参照してください。

[WebEx の詳細（WebEx Details）] タブ

このタブには、クリックするとホストまたは参加者として会議にアクセスするリンクなどを含む、WebEx 会議の詳細が含まれます。

MCU 設定

MCU が会議に予約されている場合、[MCU 設定（MCU Settings）] タブは、予約のページに表示されます。

Cisco TelePresence MCU

下の設定のすべてがすべての Cisco TelePresence MCU モデルに使用できるわけではありません。

表 107　MCU の拡張設定

設定	説明
ISDN ゲートウェイ DID マッピングの有効化（Enable ISDN Gateway DID Mapping）	DID（直接着信ダイヤル）では、ISDN サポートなしで MCU への着信 ISDN 接続が可能になります。DID の設定手順については、ゲートウェイのマニュアルを参照してください。 詳細については、「Cisco TelePresence MCU の拡張設定 DID マッピング（37 ページ）」を参照してください。
会議レイアウト（Conference Layout）	会議用の画像のレイアウトを定義します。その間で選択する複数の選択肢があります。会議のレイアウトの詳細については、MCU のマニュアルを参照してください。
カンファレンスの公開/非公開（Visibility）	自動転送および Web インターフェイスでの会議の公開/非公開を示します。次のオプションがあります。 ■ [公開（Public）]：会議が自動応答にリストされ、Web インターフェイスのすべてのユーザに表示されます。 ■ [非公開（Private）]：会議は、会議を表示するように特に設定された自動応答を除いて、どの自動応答にもリストされません。また、会議は会議の所有者と管理ユーザに対する Web インターフェイスだけにも表示されます。
デュアル ビデオ ストリーム（Dual Video Stream）	プレゼンテーションなどの追加のビデオ ストリームを有効にします。
コンテンツ モード	コンテンツ パケット ストリームを送信するモードを決定します。次のオプションがあります。 ■ [無効（Disabled）]：コンテンツは送信されません。 ■ [パススルー（Passthrough）]：コンテンツはデコードされず、単に再度まとめられ、会議の適格な各エンドポイントに送信されます。 ■ [ハイブリッド（Hybrid）]：MCU は 2 つのコンテンツ ストリームを送信します。1 つは高解像度のストリーム（パススルー）で、もう 1 つはより高いストリームをサポートできないすべてのエンドポイント用にトランスコードされ、縮小された低解像度のストリームです。 ■ [トランスコード（Transcoded）]：単一のトランスコードされたコンテンツ ストリームが送信されます。
ゲートキーパーに登録する（Register with Gatekeeper）	H.323 レジストラに会議を登録します。
会議 SIP 登録（Conference SIP registration）	SIP レジストラに会議を登録します。
チェアー制御を許可（Allow Chair Control）	フロア制御とチェアー制御は H.243 プロトコルに含まれています。次のオプションがあります。 ■ [なし（None）]：この会議ではフロア制御とチェアー制御の使用は許可されません。 ■ [フロア制御のみ（Floor Control Only）]：この会議ではフロア制御のみ許可されます。チェアー制御は許可されません。他の参加者が現在そうしていない限り、いずれの参加者も「フロアを取得」できます。 ■ [チェアー制御とフロア制御（Chair and Floor Control）]：この会議ではフロア制御とチェアー制御の両方が許可されます。いずれの参加者もフロアを取得することができ、他の参加者が現在そうしていない限り、いずれの議長参加者もチェアーを取得できます。
レイアウト制御を許可（Allow Layout Control）	DTMF 信号または遠端カメラ制御を使用して会議レイアウトを会議参加者が制御できるようにします。

表 107　MCU の拡張設定（続き）

設定	説明
自動レクチャーモード（Automatic Lecture Mode）	この機能が会議で有効になっている場合、MCU は最大音量の発言者を講演者として識別します。講演者には、定義されている場合に、通常の分割表示ビューまたはカスタム レイアウトが表示されます。他の参加者については、講演者のビューがすべてのカスタム レイアウトを上書きします。 次のオプションがあります。 ■ *無効（Disabled）* ■ *10 秒後（After 10 seconds）* ■ *30 秒後（After 30 seconds）* ■ *1 分後（After 1 minute）* ■ *ただちに（Immediately）*
ConferenceMe 用予約ポート（Ports to Reserve for ConferenceMe）	MCU の ConferenceMe 機能を使用する場合は、ポートをこのフィールドを使用して、予約できます。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する（Limit Ports to Number of Scheduled Participants）	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。
マルチキャスト ストリーミング有効（Multicast Streaming Enabled）	会議のマルチキャスト ストリーミングを許可します。
ユニキャスト ストリーミング有効（Unicast Streaming Enabled）	この会議のユニキャスト ストリーミングを許可します。

Cisco TelePresence Server

表 108　TelePresence Server の拡張設定

フィールド	説明
ゲートキーパーへの登録（Register With Gatekeeper）	会議の数値 ID をゲートキーパーに登録します（H.323 登録が TelePresence Server で有効になっている場合）。
会議 SIP 登録（Conference SIP Registration）	会議の数値 ID をレジストラに登録します（SIP 登録が TelePresence Server で有効になっている場合）。
デュアル ビデオ ストリーム（Dual Video Stream）	プレゼンテーションなどの追加のビデオ ストリームを有効にします。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する（Limit Ports to Number of Scheduled Participants）	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。
作成時に会議をロック（Lock Conference on Creation）	作成されるときに会議をロックします。会議が開始される前に、事前設定された参加者を追加できますが、会議が開催中でなければ参加者は誰も参加（コールイン）できません。ロックされた会議に参加者を招待するためにコールアウトすることができます。

表 108　TelePresence Server の拡張設定（続き）

フィールド	説明
会議のロック期間（Conference Lock Duration）	会議がロックされた状態を保つ秒数（上で有効になっている場合）。
会議にロビー画面を使用（Use Lobby Screen for Conferences）	TelePresence Server を有効にして参加者にロビー画面を表示します。 ロビー画面には、会議のタイトル、開始時刻と終了時刻（該当する場合）、および任意のメッセージが表示されます。メッセージは、会議ごとに設定されます。参加者が会議に参加する場合、または表示するビデオがない場合に、参加者にこの画面が表示されます。 TelePresence Server が Cisco TMS に追加されるときに、デフォルトで [オン（On）] に設定されます。
会議ロビー メッセージ（Conference Lobby Message）	ロビー画面に表示するテキストを入力します。参加者には、[会議にロビー画面を使用（Use Lobby Screen for conferences）] がサーバ全体で有効になっているかまたは特定の会議に有効になっている場合に、このテキストが表示されます。

Cisco TelePresence MPS の設定

会議レイアウト（Conference Layout）	[自動（Auto）]：[自動（Auto）] に設定されている場合、会議に実際に参加する総人数に応じて、会議の最適なレイアウトが自動的に選択されます。[音声切り替え（Voice Switched）]：全画面での音声切り替えにより、会議の参加者数に関係なく、他のすべての参加者に全画面で現在の発言者が示されます。現在の発言者は、前回の発言者を確認できます。[カスタム選択（Custom Selection）]：会議固有の会議のレイアウトを選択します。別の選択肢が右側に示されます。[CP 自動（CP Auto）]：[CP 自動（CP Auto）] に設定されていると、会議のサイト数により、レイアウトは動的に変わります。[CP 自動（CP Auto）] は VS- > CP4- > CP9- > CP16 で開始されます。
初期画像および音声（初期メッセージを表示）（Welcome picture and Sound (Show Welcome Message)）	これを選択すると、初期画面および音声メッセージが会議の新しい参加者単位に表示されます。
G.728 を許可（Allow G.728）	MPS は、低いコール レートでも高品質の音声をサポートします。低いコール レートでは、MPS は G.722.1 を優先します。[G.728 を許可（Allow G.728）] が選択されている場合、高品質の音声をサポートしていないビデオ参加者は、低品質の音声 G.728 を代わりに受信します。低いコール レートで高品質な音声を確保するには、[G.728 を許可（Allow G.728）] の選択を解除します。これで、G.722.1 をサポートできないビデオ参加者は、G.722 を代わりに受信します。 ■ [オン（On）]：MPS は、低いコール レートでも高品質の音声をサポートします。低いコール レートでは、MPS は G.722.1 を優先します。G.722.1 をサポートしていないビデオ参加者は、この機能がイネーブルになっていても低品質の音声 G.728 を代わりに受信します。 ■ [オフ（Off）]：低いコール レートで高品質の音声を確保します。G.722.1 をサポートできないビデオ参加者は、G.722 を代わりに受信します。
NetworkID	ネットワーク モジュール内のポートまたはインターフェイス番号を識別するために使用します。1 ～ 32 の範囲で値を入力します。 ■ 使用する IP ネットワークを指定します。1 と 2 だけが有効な値です（オプション）。 ■ 使用する V.35 ポートを指定します（必須）。
ビデオ カスタム フォーマット（カスタム フォーマット）（Video Custom Format (Custom Formats)）	■ [オン（On）]：SIF 解像度や VGA 解像度などのカスタム フォーマットをサポートします。別のフォーマットに拡大縮小されるのではなく、実際の解像度を維持できるようにします。これは NTSC 解像度や VGA 解像度のユーザ固有の利点で、画像が PAL 規格に適合するように拡大縮小されないようにします。 ■ [オフ（Off）]：カスタム フォーマットに対するサポートが不要な場合は [オフ（Off）] に設定します。

エントリ音/退出音（Entry/Exit Tones）	これを選択すると、参加者が会議に参加または会議から退出するたびにトーン信号が聞こえます。
フロアの全画面表示（Floor To FullScreen）	この機能は分割表示 5+1 および 7+1 レイアウトのみに適用されます。これを選択すると、フロアを要求する参加者は、現在の発言者に関係なく、そのほかのすべてのビデオ参加者に対して全画面に表示されます。会議の管理者がサイトに [フロアの割り当て（Assign Floor）] を行っても同じ結果が生じます。この選択を解除すると、フロアを要求する参加者は、5+1 または 7+1 レイアウトよりも大きい 4 分割画面に表示されます。
電話インジケータ（Telephone Indication）	■ [オン（On）]：電話（音声のみ）で会議に接続している参加者がいる場合に電話インジケータが表示されます。電話による参加者が通話していると、インジケータに示されます。 ■ [オフ（Off）]：電話インジケータを無効にします。
参加者 ID のタイムアウト（Participant Identifier Timeout）	[自動（auto）] に設定されている場合、参加者 ID が表示される秒数（1 秒～30 秒）を設定します。ID は、イベントが変わる画像単位で再表示されます。
ネットワーク エラーの処理（Network Error Handling）	■ [なし（None）]：エラーの処理を無効にします。 ■ [IPLR]：1 つ以上のサイトでネットワーク エラーが発生した場合に使用します。 ■ [FURBlock]（クイック更新要求ブロック）：1 つ以上のサイトでネットワーク エラーが発生した場合に使用します。
FUR フィルタ間隔（FUR Filter Interval）	クイック更新要求間の秒数（画像を更新するクイック更新要求間の最小時間など）を示します。
遠端電話エコーの抑制（Far End Telephone Echo Suppression）	アナログ電話回線、スピーカー フォンと電話ヘッドセットはすべてエコーの原因となる可能性があります。遠端電話エコー抑制機能により、エコーの一部または全部の発生を抑えることができます。 ■ [オフ（Off）]：遠端電話エコー抑制機能を無効にするには、[オフ（Off）] に設定します。 ■ [通常（Normal）]：弱いエコーを取り除くには [通常（Normal）] に設定します。 ■ [高（High）]：強いエコーを取り除くには [高（High）] に設定します。
帯域幅管理（Bandwidth management）	■ [手動（Manual）]：ビデオ レートのレポートに基づいて、低レート エンコーダに対するサイトの自動規制を無効にします。 ■ [自動（Auto）]：ビデオ レートのレポートに基づいて、低レート エンコーダに対するサイトの自動規制を有効にします。
ダイヤルアウト時のパスワード（Password Out）	■ [オン（On）]：パスワードによって保護されている会議からダイヤルアウトする際に、[パスワード問い合わせ（Password Enquiry）] 画面とサウンドによって参加者にパスワードの入力を求めます。この設定は、会議からダイヤルアウトする際にも、権限を付与されている参加者だけが会議に参加できることを確認するために使用できます。 ■ [オフ（Off）]：ダイヤルアウト時のパスワード入力を不要にします。
デュアル ビデオ ストリーム（Dual Video Stream）	MCU は、DuoVideo^{TF}、H.239 および BFCP をサポートします。 ■ [オン（On）]：この会議でデュアル ビデオ ストリーム プロトコルを有効にするには、[オン（On）] に設定します。DuoVideo^{TF} と H.239 または BFCP が同じ会議でサポートされます。 ■ [オフ（Off）]：[オフ（Off）] に設定すると、この会議ではデュアル ビデオ ストリームはサポートされません。

カスケード モード（Cascading Mode）	複数の会議を結合します。 ■ [自動（Auto）]：どの会議が「マスター」で、どの会議が「スレーブ」かを自動的に決定します。「マスター」会議にはビデオ レイアウトの制御権があります。[自動（Auto）] モードのままにしておくと、他の会議にダイヤルインした会議が「マスター」になります。 ■ [マスター（Master）]：この会議が会議全体のビデオ レイアウトを制御する会議の場合は、[マスター（Master）] に設定します。1 つの会議に複数の「マスター」を設定することは推奨しません。 ■ [スレーブ（Slave）]：別の会議に「マスター」が手動で割り当てられている場合は、[スレーブ（Slave）] に設定します。スレーブは、全画面での音声切り替えモードになります。
会議セルフビュー（Conference Selfview）	■ [オン（On）]：会議セルフビューを有効にするには、[オン（On）] に設定します。会議に複数の参加者がいる場合、ユーザは自分が画像にどのように表示されるかを確認できます。 ■ [オフ（Off）]：会議セルフビューを無効にするには、[オフ（Off）] に設定します。
音声調節（AGC）（AudioLeveling (AGC)）	送信レベルに関係なく、すべての参加者が他のすべての参加者から同じ音声レベルを受信することを確認します。AGC は Automatic Gain Control を意味します。ほとんどの会議では、参加者は、さまざまなレベルで通話します。この結果、一部の参加者で通話が聞き取りにくいことがあります。音声調節により、参加者の声が「小さい」または「遠い」場合は自動的にマイクのレベルが上がり、参加者の声が「大きい」場合はマイクのレベルが下がることでこの問題が解決します。 1. [オン（On）]：[オン（On）] に設定されている場合、MCU は、強い信号を減衰し、弱い信号を増幅することによって、音声信号のレベルを固定値で維持します。非常に弱い信号、つまりノイズのみの場合は増幅されません。 2. [オフ（Off）]：音声調節（AGC）を無効にするには、[オフ（Off）] に設定します。
レガシー レベル（Legacy Level）	古いビデオ会議エンドポイントを MCU に接続する場合、古い機器では最新の機能を処理できないため問題が発生することがあります。選択すると、一部の機能は MCU から送信されません。詳細については、ソフトウェア リリースのマニュアルを参照してください。
最小帯域幅しきい値（Minimum Bandwidth Threshold）	参加者が最小帯域幅しきい値よりも低い帯域幅でコールした場合、参加者は音声のみ（ライブ ビデオなし）と、帯域幅が低すぎるというメッセージを受信します。10 秒後に参加者が低レートのビデオを受信します。最小帯域幅しきい値は、会議中に変更できます。システムにより、定義された最小帯域幅しきい値未満のコールは低レートのエンコーダに移動します。 注：参加者が低レート エンコーダに移動されると、最小帯域幅しきい値が下げられても、元に戻らなくなります。
発言者インジケータ（Speaker Indication）	■ [オン（On）]：現在発信中の参加者を示す発信者インジケータ（色付きの線）をサブ画像の周りに表示する場合は、[オン（On）] に設定します。 ■ [オフ（Off）]：色付きの線の表示を無効にする場合は、[オフ（Off）] に設定します。
チェアー制御（Chair Control）	■ [オン（On）]：会議に接続している参加者から開始された H.243 および BFCP のチェアー制御機能が会議でサポートされます。 ■ [オフ（Off）]：チェアー制御を無効にします。
IPLR ローバスト モード（IPLR Robust Mode）	■ [IPLR]（Intelligent Packet Loss Recovery）：1 つ以上のサイトでネットワーク エラーが発生した場合。 ■ [自動（Auto）]：[自動（Auto）] に設定されている場合、IPLR ローバスト モードが必要に応じて各エンコーダでオンになります。 ■ [オン（On）]：[オン（On）] に設定されている場合、IPLR ローバスト モードがすべてのエンコーダでオンになります。

音声切り替えのタイムアウト（Voice Switch Timeout）	発言者インジケータが示され、他のエンドポイントに対して発言者として表示されるために、参加者が発言する必要がある秒数を 1 秒～10 秒で定義します。長いタイムアウトは、ノイズの多い環境や参加者の多い会議に適している場合があります。
最適な音声切り替え（Optimal Voice Switch）	■ [オン（On）]：音声切り替えモードに最適なビデオ フォーマットを有効にします（そのフォーマットが接続済みのエンドポイントで許可されている場合）。アイコンとテキストは使用できません。 ■ [オフ（Off）]：音声切り替え時に通常のトランスコードを使用します。 注：最適な音声切り替えは IP でのみ使用できます。
Web スナップショット（Web Snapshots）	Web スナップショットは、Web インターフェイスの右上隅に示され、参加者およびデュアル ビデオ ストリームからのビデオのスナップショットを示します。スナップショットはリフレッシュ レート（スナップショットの上部に配置）に従って更新されます。 1. [オン（On）]：会議のスナップショットとデュアル ビデオ ストリームのスナップショットは MCU から参加者に送信されたビデオを示します。 2. [オフ（Off）]：Web スナップショットがディセーブルになっていることを示す画像の通知が表示されます。
暗号化モード（Encryption Mode）	■ [自動（Auto）]：会議に接続している参加者ごとに使用できる最高レベルの暗号化を使用する場合は、[自動（Auto）] に設定します。これは、同じ会議で DES による暗号化接続および AES による暗号化接続を混在させることができることを意味します。 ■ [AES 128]：AES 128 ビット暗号化機能を使用できる参加者のみを許可します。この機能を持たない参加者は会議に参加できません。 ■ [DES]：DES 56 ビット暗号化機能を使用できる参加者のみを許可します。この機能を持たない参加者は会議に参加できません。
セカンダリ レート（Secondary Rate）	■ [オン（On）]：会議が、低レートのビデオだけでなく、必要に応じて 2 つの発信帯域幅もサポートするようにします。 ■ [オフ（Off）]：セカンダリ レートを無効にします。
CP オートスイッチング（CPAutoswitching）	[CP オートスイッチング（CP Autoswitching）] を使用すると、発言のないサイトと最もアクティブでないサイトを画像中でスワップすることができます。これで、参加者が通話しなくても、会議のすべての参加者を確認することが可能になります。
ビデオ形式（ビデオ最適化モード）（Video Format (Video Optimization Mode)）	分割表示（CP）モードのビデオ形式を定義します。 ■ [自動（Auto）]：（ベスト インプレッション TF）分割表示モードでは、コール レートが 256 kbps 未満で、4:3 のアスペクト比を送信する場合、MPS は [モーション（Motion）]（CIF）を選択します。16:9 のアスペクト比を送信する際に、コール レートが 512 kbps 未満の場合、MPS は [モーション（Motion）]（w288p）を選択します。256 kbps 以上のコール レートでは、4:3 のアスペクト比を送信する際に、MPS は [鮮明度（Sharpness）]（4CIF）を選択します。16:9 のアスペクト比を送信する際に、コール レートが 512 kbps 以上の場合、MPS は [鮮明度（Sharpness）]（w576p）を選択します。 ■ [モーション（Motion）]：モーションを優先し、CIF 解像度で最大 30 個の fps を表示し、最大の共通フォーマットを送信するには、[モーション（Motion）] に設定します（4:3 のアスペクト比の送信時には H.264 CIF、16:9 のアスペクト比の送信時には H.263+ w288p が望ましい）。 ■ [鮮明度（Sharpness）]：明確で鮮明な画像を優先し、最大の共通フォーマットを送信するには、[鮮明度（Sharpness）] に設定します（4:3 のアスペクト比の送信時には H.263+ 4CIF、16:9 のアスペクト比の送信時には H.263+ w576p が望ましい）。全画面での音声切り替え会議のレイアウトでは、共通する最も大きな形式として、MCU は H.264 CIF を優先します。
着信コールを許可する（Allow Incoming Calls）	これを選択した場合、着信コールに自動的に応答します。オフにした場合、すべての着信コールは拒否されます。

電話ノイズ抑制（電話フィルタ）（Telephone Noise Suppression (Telephone Filter)）	■ [オン（On）]：携帯電話を会議に追加した場合に通常発生するノイズと、電話による参加者が発言していないときに通常聞こえる背景雑音を減衰します。 ■ [オフ（Off）]：電話ノイズ抑制を無効にします。
コール リストからの参加者のタイムアウト（Timeout Participants from Call List）	■ [オン（On）]：[オン（On）] に設定されている場合、会議から接続解除されたすべての参加者が 2 分以内にコール リストから消去されます。 ■ [オフ（Off）]：コール リストからの参加者のタイムアウトを無効にするには、[オフ（Off）] に設定します。
参加者 ID（Participant Identifier）	■ [自動（Auto）]：参加者 ID のタイムアウト（Participant Identifier Timeout）で設定した秒数の間、参加者のシステム名を表示します。 ■ [オン（On）]：各参加者のシステム名を会議中に画像で表示できます。 ■ [オフ（Off）]：システム名を表示しない場合は、[オフ（Off）] に設定します。
講義モード	■ [オン（On）]：他の参加者に対し講演者が全画面表示されるようにするには、[オン（On）] に設定します。講演者とは、フロアに割り当てられた参加者です。講演者は、全画面表示またはサポートされているサブ画像表示のいずれか 1 つで、すべての参加者のスキャンを確認します。他のサイトのスキャンをイネーブルにするには CP 自動切り替えを設定する必要があります。 ■ [オフ（Off）]：講師（フロアに割り当てられた参加者）が全画面表示されないようにするには、[オフ（Off）] に設定します。
FUR ブロックサイト（FUR Block Sites）	■ [FURBlock]（クイック更新要求ブロック）：1 つ以上のサイトでネットワーク エラーが発生した場合に使用します。 ■ [自動（Auto）]：送信過多のサイトの FUR がブロックされます。 ■ [オン（On）]：すべてのサイトの FUR がブロックされます。
保護（Protect）	■ [オン（On）]：定義済みの保護された番号だけがこの会議に参加できます。[保護された番号（Protected Numbers）] フィールドが表示されます。番号は [MCU 会議の概要（MCU Conference Overview）] のダイヤルイン設定で設定できます。 ■ [オフ（Off）]：保護モードが無効になります。
エンコーダ選択ポリシー（Encoder Selection Policy）	■ [最適なビット レート（Best Bit Rate）]：ビット レートに基づくサイトのビデオ品質の優先順位付けを MPS で行います。システムは、低いビデオ レートの参加者を、セカンダリ エンコーダが使用可能な場合に移動します。サイトが移動されていない場合、システムは低いビデオ規格のサイトを移動します。 ■ [最適なビデオ規格（Best Video Standard）]：ビデオ規格に基づくサイトの優先順位付けを MPS で行います。システムは、低いビデオ規格の参加者を、セカンダリ エンコーダが使用可能な場合に移動します。サイトが移動されていない場合、システムは低いビデオ レートのサイトを移動します。 ■ [最適な解像度（Best Resolution）]：解像度に基づくサイトのビデオ品質の優先順位付けを MPS で行います。システムは、低い解像度の参加者を、セカンダリ エンコーダが使用可能な場合に移動します。サイトが移動されていない場合、システムは低いビデオ レートのサイトを移動します。

Cisco TelePresence Conductor の設定

Cisco TMS では、[予約(Booking)] > [新しい会議(New Conference)]

表 109 エイリアスの設定

フィールド	説明
エイリアス(Alias)	会議のダイヤルイン アドレスとして使用するエイリアスを選択します。 ドロップダウンで表示されるエイリアスは、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > TelePresence Conductor を選択 > [TelePresence Conductor] タブ > [エイリアス(Aliases)] で設定されたものです。詳細については、「TelePresence Conductor(90 ページ)」を参照してください。
変数(Variable)	エイリアスが固定でない場合は、会議に該当する部分が含まれる可変部分を変更できます。 [変数(Variable)] フィールドに入力すると、入力した内容が反映されるようにプレビューに変更が表示されます。変数には英数字を使用することができます。変数の例として、会議をホストしている人の名前があります。 [変数(Variable)] フィールドには、[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] での TelePresence Conductor の [拡張設定(Extended Settings)] で設定された利用可能な最初の数字の ID が、Cisco TMS によってすでに入力されています。変数を変更しない場合、[プレビュー(Preview)] フィールドに表示できる自動生成されたアドレスが会議に使用されます。 選択した変数エイリアスがその時点で使用可能かどうかを確認するには、[アドレスが使用可能かを確認(Check Address Availability)] をクリックします。 変数を変更した後、Cisco TMS によって生成された変数に戻すには、[アドレスの再生成(Regenerate Address)] をクリックします。
アドレス プレビュー(Address Preview)	参加者が会議にダイヤルするために使用するアドレスのプレビュー。変数を変更すると、このフィールドに表示されるアドレスの青い部分が変更されます。
説明(Description)	このフィールドには、以下の場所でエイリアスに対して追加された説明が含まれます。 [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] > TelePresence Conductor を選択 > [エイリアス(Aliases)] タブ > [エイリアスの編集(Edit Aliases)] このフィールドは、選択したエイリアスの説明がない場合は表示されません。
会議レイアウト(Conference Layout)	会議のレイアウトを設定します。
ポートをスケジュール参加者の数に制限する(Limit Ports to Number of Scheduled Participants)	スケジュールされている音声とビデオの参加者の数に、ポート数を制限します。追加の参加者は会議に参加できなくなります。

会議の一覧

Cisco TMS では、[予約(Booking)] > [会議の一覧(List Conferences)]

[会議の一覧(List Conferences)] ページには、検索条件に基づいて会議の一覧が表示されます。このページにアクセスしたときに表示するデフォルトの検索を保存することができます。

このページからの会議の編集

このページから会議を編集したりオプションの一部を表示したりするには、ログイン ユーザは、[管理ツール(Administrative Tools)] > [ユーザ管理(User Administration)] > [グループ(Groups)] で次の権限が設定されているグループのメンバーである必要があります。

表 110　会議の編集に必要なグループ予約権限

予約フィールド	権限（Permissions）
会議の一覧 - すべて（List Conferences - All）	*[読み取り（Read）]、[更新（Update）]*
会議の一覧 - 自分（List Conferences - Mine）	*[読み取り（Read）]、[更新（Update）]*
その他（Misc）	*[予約（Booking）]、[新しい会議ページ（New Conference Page）]*

タイム ゾーンの表示

会議は現在ログインしているユーザのタイム ゾーンで一覧表示されます。会議の表示または編集では、会議が予約されたときのタイム ゾーンが表示されます。

スケジュールされた会議のタイム ゾーンは、Cisco TMS では変更できないことに注意してください。

検索（Search）

表 111　会議の検索フィールド

フィールド	説明
検索（Find）	このフリーテキスト フィールドでは以下を検索し、入力された文字を含んでいるすべての会議を返します。 ■ 会議 ID ■ 会議タイトル ■ 電子メール アドレス ■ 電子メール メッセージ ■ 会議のメモ このフィールドに ID（整数のみ）を入力した場合、検索では会議 ID のみをチェックします。この ID 検索では、[検索（Search）] セクションおよび [詳細設定（Advanced）] セクションに設定された日付やその他のすべての値を無視します。
ステータス	検索する会議のステータスを選択します。 [会議要求（Conference Request）] を検索すると、ログイン ユーザによる承認または却下を待っている会議の一覧が表示されます。
開始日（Start Date）	この日以降に行われる会議を検索します。
終了日（End Date）	この日までに行われる会議を検索します。
すべてのユーザ（All users）/ユーザ（User）	すべてのユーザまたは特定のユーザが所有する会議を検索します。他のユーザの代理で予約した会議も含まれます。

詳細設定（Advanced）

表 112　会議の高度な検索フィールド

フィールド	説明
タイプ（Type）	検索する会議のタイプを 1 つ以上選択します。

表 112　会議の高度な検索フィールド（続き）

フィルタ	記録された会議または問題のある会議をフィルタリングします。 Cisco TMS で、*問題のある*会議とは、リソースの競合またはルーティングの問題が発生している外部クライアントによって予約された会議です。 問題のある会議では、予約要求のプロパティはすべて保持されますが、ルーティングが設定されたり、テレプレゼンス リソースが消費されたりすることはありません。すべての問題が解決されるまで、Cisco TMS は問題のある会議を開始したり、エンドポイントに送信したりしません。 ■ ルーティングの問題の場合は、予約に含まれるすべてのエンドポイントがスケジュールされた時間に [ビジー（Busy）] に設定されます。これにより、管理者またはユーザが問題を解決する間、予約が維持されます。 ■ エンドポイントの予約が競合するまれなケースでは、問題のある予約に対してエンドポイントは [ビジー（Busy）] に設定されません。 問題のある会議は、主催者または管理者が解決できます。 ■ 問題のある会議として保存された会議を予約したユーザに電子メールで通知が送られます。ほとんどの問題は、ユーザがそれぞれのクライアントからの要求を変更してスケジュールし直すことによって解決できます。 ■ 管理者が問題のある会議を見つけて解決するには、Cisco TMS で、[管理ツール（Administrative Tools）] > [診断（Diagnostics）] > [会議の診断（Conference Diagnostics）] または [予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] に移動します。 問題のある会議の原因が、設定エラーまたはルーティング リソースの恒常的な不足にある場合は、管理者が問題を解決する必要があります。 定例会議をスケジュールする際に、特定の回にのみリソースの競合またはルーティングの問題がある場合、Cisco TMS は問題のある回のみを問題のある会議として保存します。その他の回は影響を受けません。
フィルタ システム（Filter Systems）	このボタンをクリックすると、ポップアップ ウィンドウに [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] フォルダ リストが表示されます。フィルタするシステムを選択して [保存（Save）] をクリックすると、これらのシステムを含むすべての会議のリストが表示されます。
デフォルトとして保存（Save as Default）	このページが起動されたときにデフォルトでこれらの結果が表示されるように、このフィルタと設定を保存します。新しい検索が保存されるまで、この検索がデフォルトとして残ります。 保存される設定は次のとおりです。 ■ 現在との相対的な日付の範囲。たとえば、日付の範囲が今日の 2 日前に始まり 3 日後に終わる 5 日間の場合、次の週のある日に同じ検索を読み込むと、検索は来週のその日の 2 日前からその日の 3 日後の範囲になります。 ■ ユーザの選択。これは [すべてのユーザ（All Users）] またはログイン ユーザが選択されている場合にのみ保存されます。他のユーザを検索している場合にはこの設定は保存されません。 ■ タイプ（Type） ■ フィルタ（Filter） ■ システム（Systems）

検索結果

検索結果の会議タイトルの上にマウスのカーソルを合わせます。会議のステータスおよびログイン ユーザの権限設定に応じて（「このページからの会議の編集（174 ページ）」を参照）、以下のオプションを含むドロップダウン メニューが表示されます。

表 113　会議のドロップダウン メニューのオプション

メニュー オプション	説明
表示（View）	「会議の表示（178 ページ）」を参照して会議を表示します。
編集（Edit）	選択した会議の [会議の編集（Edit Conference）] ページを開きます。
会議の詳細（Meeting Details）	進行中または近日中の会議の [会議情報（Meeting Information）] ページを開きます。 [会議情報（Meeting Information）] ページに複数のビデオ アドレスが表示される場合、最初のビデオ アドレスのみがアクセス可能です。
終了（End）	進行中の会議を終了します。
コピー（Copy）	新しい予約を作成するために会議をコピーします。
承認	他のユーザによって予約され、承認待ちになっている会議を承認します。 このオプションを表示するには、ユーザが、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] で設定された [会議承認（Approve Meeting）] 権限を持つグループのメンバーである必要があります。
却下	他のユーザによって予約され、承認待ちになっている会議を承認拒否します。これは、会議が開始されないことを意味します。 このオプションを表示するには、ユーザが、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] で設定された [会議拒否（Reject Meeting）] 権限を持つグループのメンバーである必要があります。
テンプレートとして作成（Create as Template）	将来の使用に備えて、この会議から会議テンプレートを作成します。「会議テンプレート（186 ページ）」を参照してください。

表 114　[会議の一覧（List Conferences）] ページのボタン

ボタン	説明
削除（Delete）	選択した会議を削除します。進行中の会議は削除できないことに注意してください。進行中の会議を削除しようとすると会議は終了します。
ログのエクスポート（Export Log）	会議のリストを **.xls** ファイルとしてエクスポートします。リストされているすべての会議が含まれます。エクスポートする会議を明示的に選択することはできません。
詳細ログのエクスポート（Export Details Log）	[ログのエクスポート（Export Log）] と同様ですが、次の 2 つの追加フィールドが含まれます。 ■ 参加者（Participants） ■ ログ（Logs）
新しい会議	クリックすると [新しい会議（New Conference）]（159 ページ）ページにリダイレクトされます。

表 115　会議のステータス アイコン

アイコン	会議の説明
	アクティブであり、すべての参加者が接続されている
	アクティブだが、参加者は誰も接続されていない
	アクティブだが、一部の参加者のみが接続されている

表 115　会議のステータス アイコン（続き）

アイコン	会議の説明
	完了（Finished）
	保留中（Pending）
	却下
	要求済み、承認待ち
	削除（Deleted）

表 116　予約のステータス アイコン

アイコン	予約の説明
	アクティブ（Active）
	完了（Finished）
	保留中（Pending）
	却下
	要求済み、承認待ち

会議の表示

Cisco TMS では、[予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] > 会議ビューを選択

[会議の一覧（List Conferences）] で会議の上にカーソルを合わせ、この特定の会議に関する設定、参加者、会議情報やログを参照するビューを選択します。

このページから予約の表示や編集を行うためには、ユーザは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）]（「グループ（250 ページ）」を参照）で設定された、自分の会議を表示する権限を保持している必要があります。

このページで利用可能なフィールド、設定、タブの大部分の説明については、「新しい会議（159 ページ）」を参照してください。

イベント ログ

[イベント ログ（Event Log）] タブは、会議の編集または表示を行っているときに会議ページの下部のタブ領域に表示されます。詳細については、「会議のイベント ログ（193 ページ）」を参照してください。

参照の一覧（List References）

Cisco TMS では、[予約（Booking）] > [参照の一覧（List References）]

参照は 1 つ以上の会議に関連付けることができる情報です。参照には、参照名、参照コード、コメント、および連絡先情報があります。これは、会議が特定のコード、名前、その他の情報に関連付けられる必要があるときにいつでも使用できます。

このページは、Cisco TMS で作成され、保存されたすべての参照を表示します。

会議と参照

会議は、[新しい会議（New Conference）] ページで参照を予約する際に、[会議情報（Conference Information）] タブで会議を選択することにより、参照に関連付けることができます。1 つの会議には 1 個の参照しか関連付けることができません。参照は、予約済みの会議への接続なしで作成できます。

参照の作成

新しい参照を作成するには:

1. [新規(New)] をクリックします。
2. 必要な情報を入力します。
3. [OK] をクリックします。

参照の削除

参照を削除するには:

1. 削除する参照の横にあるチェックボックスを選択します。
2. [削除(Delete)] をクリックします。

参照のソート

参照リストのソートを変更するには、リストの上部にある [参照コード(Reference Code)] または [参照名(Reference Name)] をクリックします。デフォルトでは、コードによって昇順でソートされます。

参照の検索

[クエリの参照検索(Query Search References)] フィールドに入力して [検索(Search)] をクリックします。[参照コード(Reference Code)] または [参照名(Reference Name)] フィールド内の語と一致または検索条件を含むすべての参照が表示されます。

アドホック予約

Cisco TMS では、[予約(Booking)] > [アドホック予約(Ad Hoc Booking)]

[アドホック予約(Ad Hoc Booking)] ページでは、現在使用可能なシステムの選択によってコールを迅速に起動することができます。このページでは、将来の会議をスケジュールすることもできます。

可用性情報は Cisco TMS で予約されていない会議では表示されません。

システムの表示

[フォルダにフィルタを適用(Filter on Folders)] をクリックして Cisco TMS 内のすべてのフォルダとシステムを表示し、各フォルダの横にあるチェックボックスを選択して、このページに表示するシステムを選択することができます。

注:このページに MCU と TelePresence Server を表示するには、[管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [会議設定(Conference Settings)] に移動し、[アドホック予約のネットワーク製品を表示(Show Network Products in Ad Hoc Booking)] を [はい(Yes)] に設定します。

このページに表示するシステム情報の量を定義するには:

1. [フィールドを選択(Select Fields)] をクリックして [フィールドを選択(Select Fields)] ポップアップ ウィンドウを起動します。
2. 表示するパラメータを選択します。
3. [保存(Save)] をクリックします。

予約状況の確認とシステムの予約

Cisco TMS から自動コールまたは予約システムを設定するには、次の手順を実行します。

1. [開始日(Start Date)]、[終了日(End Date)]、[開始時刻(Start Time)] および [終了時刻(End Time)] を指定します。これらのフィールドをデフォルトとして残しておくと、コールがただちに起動します。
2. 指定された期間中の予約状況を確認するには [検索(Search)] をクリックします。
3. 使用するシステムの横にあるチェックボックスを選択します。

4. 次のいずれかを実行します。
   a. [自動コールの開始(Automatic Call Launch)] をクリックして、指定した開始時間に会議を開始します。
   b. [予約のみ(Reservation Only)] をクリックして、同じ期間にシステムを予約します。
5. ご自分の予約は緑で表示され、他のユーザによる予約は赤で表示されます。

他のユーザの代理で予約

デフォルトでは、予約は、ログインしているユーザのユーザ アカウントで行われます。

予約を行うか、または自動化されたコールを他のユーザに代わって起動するには:

1. [予約者(Book For)] フィールドで、名前の横にユーザ セレクタ アイコンをクリックします。
2. リストから他の人物を選択します。

次の手順でもユーザを検索できます。

1. [名前でユーザをフィルタ(Filter users by name)] フィールドにユーザの名前を入力します。
2. [検索(Search)] をクリックします。
3. 検索結果で、代わりに予約する相手の名前をクリックします。

課金コードの入力

予約中の会議に課金コードを適用するには、[課金コード(Billing Code)] フィールドに課金コードを入力します。

検索では、このフィールドが使用されません。

参加者テンプレート

Cisco TMS では、[予約(Booking)] > [参加者テンプレート(Participant Templates)]

参加者テンプレートは接続設定を保存するセットです。特定の接続設定を使用する単一の参加者または参加者のタイプを表すために作成できます。

TelePresence Conductor と CMS は、**参加者テンプレート**ではサポートされていない点に注意してください。

参加者テンプレートを使用する理由

参加者テンプレートの主な使用方法には次のものがあります。

- ダイヤル設定がカスタマイズされている参加者をテンプレートとして保存し、予約のたびに手動で設定することなく簡単に再利用できるようにします。
- Cisco TMS の予約ページでは使用できない特殊なパラメータを設定します。

  この例には、特定のネットワーク インターフェイスを介してのみ接続可能なシリアル接続されたブリッジ ポートやブリッジ参加者が含まれます。

  参加者テンプレートは他の参加者と同様に、一度作成すると会議に追加できます。

参加者テンプレートは Cisco TMS で直接予約する場合にのみ使用でき、Smart Scheduler、Cisco TMSXE、または Cisco TelePresence Management Suite Extension Booking API を使用するその他のアプリケーションでは使用できないことに注意してください。

カスタマイズされた参加者

参加者が会議に追加されると、Cisco TMS は、会議設定および Cisco TMS が使用可能な参加者に関する情報に基づき、参加者を呼び出す最適な方法を計算します。

会議を予約する主催者が別の情報を追加する必要がある場合、またはダイヤル方向や参加者へのダイヤル番号のようなデフォルトの通話設定を上書きする必要がある場合、次のように設定できます。

- [接続設定（Connection Settings）] タブを使用して会議単位または参加者単位で設定を変更できます。
- 参加者テンプレートを作成することで、一度設定した内容を必要なときにいつでも再利用できます。

テンプレートは Cisco TMS によって制御されるエンドポイントまたは外部参加者を表すことができます。カスタマイズされた参加者に対して参加者テンプレートを使用する方法の例については、「参加者テンプレートの設定サンプル（185 ページ）」の例 1 ～ 3 を参照してください。

特別な参加者使用方法

次のような場合は、参加者タイプやシナリオを予約するときに、Cisco TMS の予約ページで編集できない追加パラメータが必要になることがあります。

- 参加者が固有のダイヤルイン番号を使用する場合。
- 直接接続された専用回線のエンドポイントを予約する場合。
- レガシーの Cisco TelePresence MPS ブリッジのダイナミック ダイヤルイン番号機能を使用する場合。

このような特別な使用方法はすべてのデバイス タイプではサポートされず、多くは Cisco TelePresence MPS シリーズのブリッジ固有の機能であることに注意してください。

参加者テンプレートを使用して参加者の特別な使用を定義する方法の例については、「参加者テンプレートの設定サンプル（184 ページ）」の例 4 ～ 5 を参照してください。

参加者テンプレートの作成

選択によって使用可能な設定は変化すること、表示されているすべての設定がすべてのシステムに適用されるとは限らないことに注意してください。

1. [予約(Booking)]> [参加者テンプレート(Participant Templates)] に移動し、[新規(New)] をクリックします。
2. 次の表の説明に従って [ダイヤル設定(Dial Settings)] を指定します。

表 117 参加者テンプレートのダイヤル設定

フィールド	説明
名前 (Name)	テンプレート名を指定します。予約で使われるときにはこの名前がテンプレートを表します。
再利用可能 (Reusable)	デフォルトでは、この設定はディセーブルになっています。この場合、Cisco TMS は、参加者を他のシステムとして処理し、このテンプレートがダブル ブッキングしないように予約時にスケジューリング可能かどうかのチェックを実行します。 この設定を有効にすると、テンプレートに対するスケジューリング可能チェックが無効になります。これによって、同じ会議や重複している会議でも、同じテンプレートを複数回使用できるようになります。たとえば、特定のブリッジの使用を必要とする外部ダイヤルイン参加者のクラスを定義するためにテンプレートを使用する場合に、この設定を有効にします。
プロトコル (Protocol)	この参加者に対して使用する通話プロトコルを指定します。 – [ISDN – H320]:ISDN 経由で到達可能な H.320 システム – [IP – H323]:IP 経由で到達可能な H.323 システム – [IP – SIP]:IP 経由で到達可能な SIP 参加者 – [V.35]:MPS ブリッジ上の V.35 シリアル インターフェイス経由で接続される参加者 – [G.703]:MPS ブリッジ上の専用回線インターフェイス経由で接続される参加者 – [IP]:IP アドレスを使用して、Cisco TelePresence MCU ブリッジに直接ダイヤルインする参加者 – [ISDN – H221]:ボンディングをサポートしておらず両方の ISDN 番号を指定する必要がある ISDN によって到達可能なシステムシステムが H.221 ダイヤリングをサポートしている必要があります。
タイプ (Type)	– [音声(Audio)]:音声のみ。電話を指定。 – [ビデオ(Video)]:音声とビデオの両方。
通話制限 (Call Restrict)	この通話に ISDN 制限(Nx56kbs)レートを使用するかどうかを指定します。
エンドポイント (Endpoint)	Cisco TMS によって制御されるエンドポイントをこのテンプレートに関連付けます。このテンプレートが予約されるときに、このエンドポイントはテンプレートのパラメータを伴って予約されます。 エンドポイントが指定されていないときは、予約された参加者は外部参加者として扱われます。
方向 (Direction)	– [ダイヤル アウト(Dial Out)]:主要参加者は、指定された接続設定とコマンドを使用して会議開始時刻に参加者にダイヤルアウトします。主要参加者は MCU、TelePresence Server、またはマルチサイト機能を持つエンドポイントです。「主要参加者(32 ページ)」を参照してください。 – [ダイヤル イン(Dial In)]:主要参加者はテンプレートの設定を使用して、スケジュールされた時間にシステムが会議にダイヤルインするためのリソースを予約します。
帯域幅 (Bandwidth)	参加者に割り当てる帯域幅です。固定にするか、[会議の帯域幅(Conference Bandwidth)] に設定して会議の全体設定に従うようにします。
番号 (Number)	参加者のためにダイヤルする番号またはエイリアスです。 このフィールドは Cisco TMS の通常のルーティング ロジックに渡されます。つまり、ISDN 番号は完全修飾形式にする必要があります。Cisco TMS がこの番号をそのまま使用するように強制するには、番号を角カッコで囲みます。

表 117　参加者テンプレートのダイヤル設定（続き）

フィールド	説明
内線番号（Extension Number）	必要な場合は、ダイヤルする番号に追加する内線番号を TCS-4 文字列などで指定します。
第 2 の番号（Second Number）	プロトコルが [ISDN - H.221] に、方向が [ダイヤル アウト（Dial Out）] に設定されているときに使用します。ダイヤルする 2 番目の ISDN 番号を入力します。 このフィールドは Cisco TMS の通常のルーティング ロジックに渡されます。つまり、ISDN 番号は完全修飾形式にする必要があります。Cisco TMS がこの番号をそのまま使用するように強制するには、番号を角カッコで囲みます。
DTMF トーン（DTMF Tones）	必要に応じて通話が接続された後に送信する DTMF 番号の文字列を入力します。
MCU	設定した場合、この参加者が予約されたときに、選択したブリッジが会議に加わります。 [未選択（Not Selected）] のままにした場合、Cisco TMS のデフォルトのルーティング ロジックを使用して主要参加者が選択されます。 参加者に対して V.35、G.703、固有の ISDN ネットワーク、MPS 固有のダイヤルイン方法などの、特定のブリッジを必要とする機能を使用する場合、このフィールドを設定する必要があることに注意してください。
MCU 番号	選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS の場合にのみ使用できます。 このテンプレートが予約されたときに MCU のどの既存のミーティング エイリアスを使用するかを指定します。 このフィールドを空欄のままにした場合、Cisco TMS のデフォルトのルーティング ロジックを使用して会議エイリアスが決定されます。
MCU インターフェイス（MCU Interface）	選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS の場合にのみ使用できます。 システムへの接続に使用する MCU インターフェイスを指定します。プロトコルは V.35、G.703、ISDN、または IP - H.323 のいずれかにできます。
ダイヤル イン方式（Dial In Method）	参加者に割り当てられるダイヤルイン番号の割り当て方法を指定します。 – [会議番号（Conference Number）]：テンプレートは共通の会議番号を使用し、ダイヤルする一意の番号は取得しません。選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS でない場合は、このオプションのみが有効になります。 – [会議ごとの参加者番号（Participant Number per Conference）]：選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS の場合にのみ使用できます。参加者は会議用の一意のダイヤルイン番号を持ちます。この番号はテンプレートがスケジュールされるたびに変わる可能性があります。 – [固定の参加者番号（Participant Number Fixed）]：選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS の場合にのみ使用できます。参加者には会議用の一意のダイヤルイン番号が割り当てられます。この番号はテンプレートがスケジュールされるたびに使用されます。

表 117　参加者テンプレートのダイヤル設定（続き）

フィールド	説明
発信者 ID	選択したブリッジが Cisco TelePresence MPS の場合にのみ使用できます。 通話を受ける際にブリッジによって確認される発信参加者の番号を入力します。 このフィールドを有効にするには、会議の [保護（Protect）] を [オン（On）] に設定する必要があります。これにより発信者 ID が事前定義されたリストに一致する参加者のみが参加を許可されるようになります。 [保護（Protect）] 設定は次のように設定できます。 – MPS インターフェイスの設定（[概要（Overview）] > [MCU] > [会議の作成（Create Conference）]）。 – MPS が追加された後の Cisco TMS の会議の [MCU 設定（MCU Settings）] タブ – [ナビゲータ（Navigator）] のシステムに対する MCU のデフォルトの設定
ISDN ゾーン（ISDN Zone）	テンプレートの ISDN および IP のゾーンを設定します。テンプレート内でエンドポイントが指定されている場合にはこれらのフィールドは適用されません。詳細については、「ロケーション（260 ページ）」を参照してください。
IP ゾーン（IP Zone）	

3. 必要な場合は [識別（Identification）] タブに移動してテンプレートの説明を入力し、それを参照に関連付けます。詳細については「参照の一覧（178 ページ）」を参照してください。

予約への参加者テンプレートの追加

予約を作成または変更するときは、次を実行します。

1. [参加者の追加（Add Participants）] をクリックします。
2. [テンプレート（Templates）] タブをクリックします。
3. 追加する 1 つ以上の参加者テンプレートを選択します。
4. [OK] をクリックします。

ダイヤルイン参加者を含む予約では、必要なダイヤルイン情報がすべての参加者に確実に配布されるようにしてください。

参加者テンプレートの設定サンプル

例 1：サードパーティのオーディオ ブリッジ

スケジュールされた通話の一環として、サードパーティの電話オーディオ ブリッジに頻繁に通話する必要があります。接続するときには設定された DTMF 文字列をダイヤルする必要があります。

テンプレート ソリューション：

- [プロトコル（Protocol）]：[ISDN – H320]
- [タイプ（Type）]：[音声（Audio）]
- [方向（Direction）]：ダイヤルアウト
- [番号（Number）]：ブリッジの電話番号
- [DTMF]：接続時にダイヤルするすべての番号

このテンプレートがスケジュールされるたびに、番号と DTMF フィールドがすでに入力されている会議に対して、外部 ISDN ダイヤル アウトが追加されます。

例 2：特殊なネットワーク アクセス

CEO のオフィス システムへの通話を頻繁に設定する必要があります。その通話に必要な特殊ネットワーク アクセスを特定のブリッジしか保持していないため、通話にはその特定のブリッジを使用する必要があります。

テンプレート ソリューション：

- [エンドポイント（Endpoint）]：CEO のオフィス システムに設定
- 通話プロトコルを指定
- [MCU]：必要とされる特定のブリッジ

このテンプレートがスケジュールされるたびに、CEO のシステムと選択したブリッジが会議に追加され、会議でそのブリッジが強制的に使用されます。

例 3：コストを下げるための帯域幅の削減

会議のデフォルトの帯域幅は 1024kbps ですが、シンガポール オフィスへの通話時コストを低く保つために、このオフィスを毎月のマネージャ ミーティングにスケジュールするときは、参加者の帯域幅を 1 人あたり 384kbs にします。

テンプレート ソリューション：

- 必要なプロトコルと通話方向を指定
- [帯域幅（Bandwidth）]：384 kbps
- [エンドポイント（Endpoint）]：シンガポールのオフィス システムに設定

このテンプレートがスケジュールされるたびに、シンガポールのシステムが予約に追加され、この参加者の帯域幅のみが 384kbps に設定されます。

例 4：特定の ISDN インターフェイスへの接続

ISDN インターフェイスがパブリックとプライベートの両方の ISDN ネットワークに接続されている Cisco TelePresence MPS ブリッジがあり、MPS に接続された特定のプライベート ISDN ネットワーク経由でのみ接続可能なダイヤルアウト参加者を定義する必要があります。

テンプレート ソリューション

- [MCU]：特定の MPS ブリッジを設定
- プライベート ネットワークがブリッジに接続されている ISDN ポートを指定

このテンプレートがスケジュールされるたびに MPS が通話に追加され、MPS に提供されるダイヤル文字列は、選択したインターフェイスを使用するために、Cisco TMS によって変更されます。

例 5：V.35 経由で直接接続されたエンドポイント

ミーティングにスケジュールしたい V.35 ネットワーク インターフェイス経由で直接接続されたエンドポイントをもつ Cisco TelePresence MPS ブリッジがあります。

テンプレート ソリューション：

- [プロトコル（Protocol）]：[V.35]
- 参加者が接続されている MCU およびインターフェイスの選択
- 直接接続されたエンドポイントごとに 1 つのテンプレートを作成

このようなテンプレートがスケジュールされるだびに、指定した MPS ブリッジが会議用のブリッジとして追加され、参加者はブリッジ上の指定された V.35 インターフェイスで接続され、表示されます。

会議テンプレート

Cisco TMS では、[予約（Booking）] > [会議テンプレート（Conference Templates）]

同じ設定と参加者を使用して会議を定期的に作成する場合、会議テンプレートにこれらの設定を入力し、最初から入力を開始する代わりにこのテンプレートを使用すると、時間を節約することができます。

新しいテンプレートを作成するには:

1. [新規（New）] をクリックします。
2. 会議の基本設定と詳細設定を入力します。
3. 参加者を追加します。
4. [テンプレートの保存（Save Template）] をクリックします。

TelePresence Conductor と CMS は、**会議テンプレート**ではサポートされていない点に注意してください。

会議テンプレートの編集と使用

1. 使用するテンプレートの名前にマウスのカーソルを合わせて、ドロップダウン メニューから [会議として使用（Use as Conference）] を選択します。
   会議テンプレートの設定が自動的に入力された [新しい会議（New Conference）] ページが表示されます。
2. 必要な変更を加え、会議の開始時刻および終了時刻を指定します。
3. [保存（Save）] をクリックします。

モニタリング（Monitoring）

この章では、Cisco TMS での会議のモニタおよび編集に使用する [会議制御センター（Conference Control Center）] について説明します。また、ビデオ ネットワークの視覚的解釈を提供する [グラフィカル モニター（Graphical Monitor）] についても説明します。これらのメニュー項目に関連するタスクおよび参考情報についても記載されています。

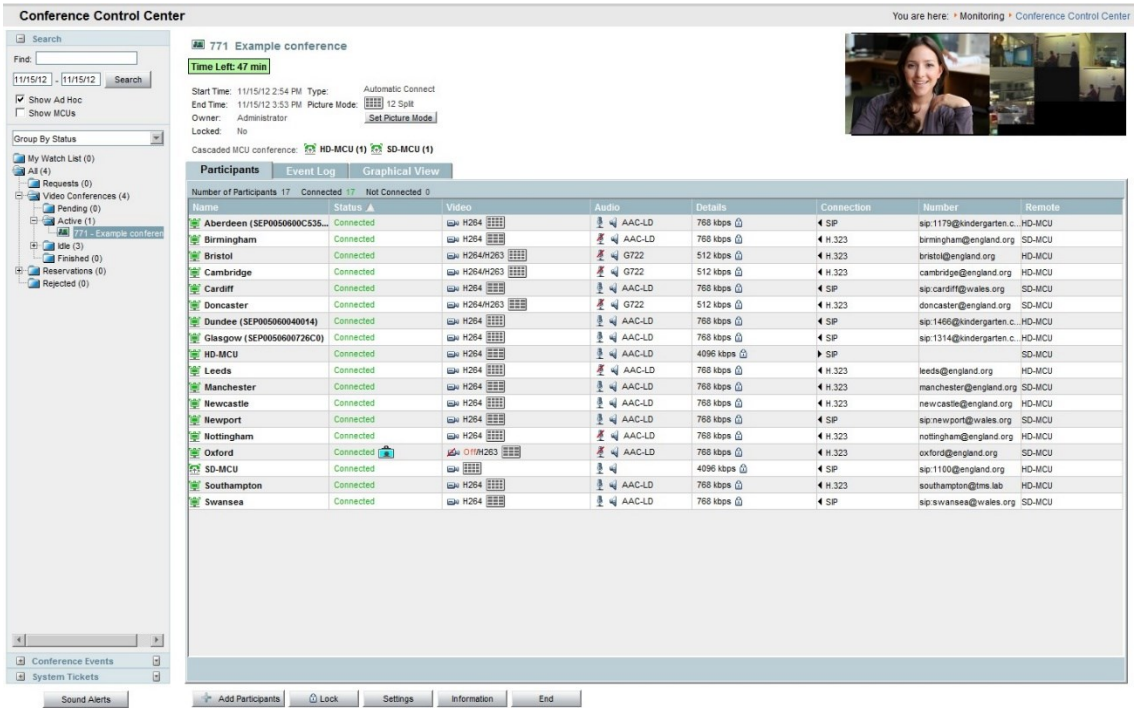
モニタリング ツールには、Java Runtime Environment が各クライアント コンピュータにインストールされている必要があります。Java をインストールまたはアップグレードするには、www.java.com を参照してください。

会議のモニタリングおよび管理 188
オペレータの会議 189
会議制御センター 190
グラフィカル モニタ 195

会議のモニタリングおよび管理

会議制御センター

会議制御センター（CCC）はダッシュボードのようなインターフェイスで、ネットワーク上で実行中の会議のステータスをモニタし、必要に応じて、会議システムを制御および操作することができます。



ここでは、オペレータの会議も作成できます（会議オペレータが、参加している会議の外部にある会議の個々の参加者と協力できるアドホック会議）。

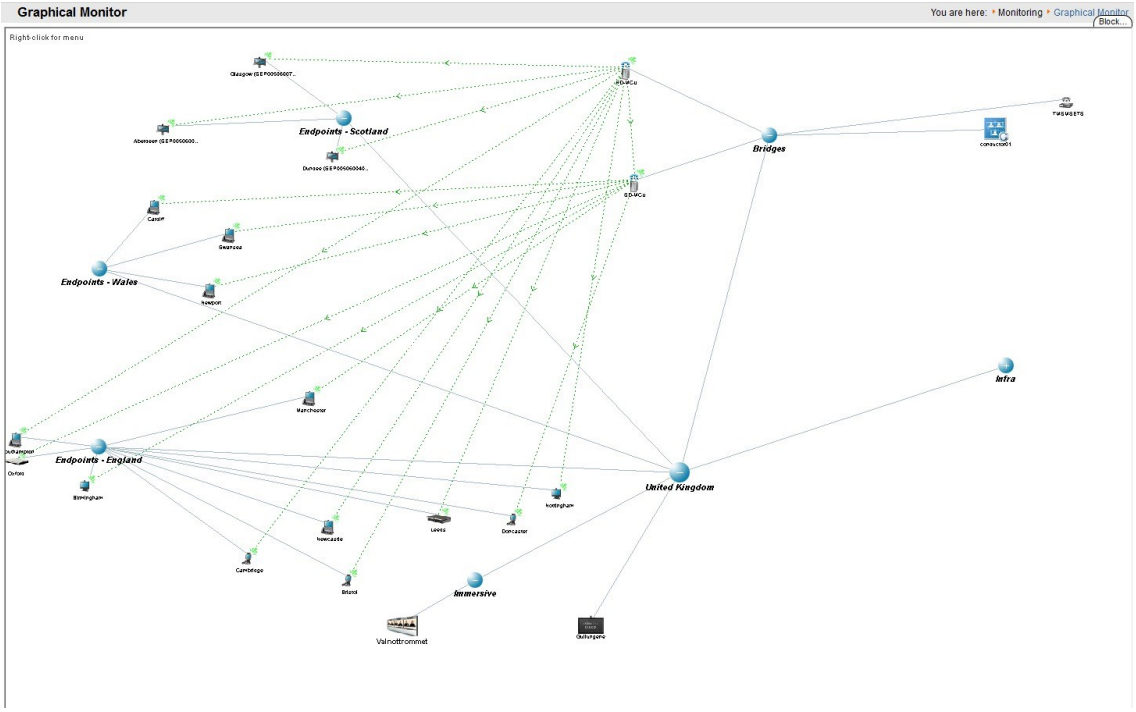
つまり、サイトに問題が発生した場合、または質問が生じた場合、オペレータは、新しい会議を開始し、この特殊な会議に自分自身と問題のあるサイトを追加できます。この会議が終了した後に、オペレータは最初にスケジュールされたコールにサイトを戻すことができます。

詳細については、「オペレータの会議（188 ページ）」を参照してください。

注：ポイントツーポイント会議が、実行中にブリッジにエスカレーションされた場合、CCC の情報はもはや正しくありません。重複する会議情報が表示されることがあります。

グラフィカル モニタ（Graphical Monitor）

[グラフィカル モニター（Graphical Monitor）] は、会議ネットワークの対話形式のライブ マップです。アニメーションと色を使用して、アクティブ コール、到達不可能なシステムを含むネットワークのライブ ビューを示します。ビューは、システム ナビゲータで設定されたフォルダ構造に基づいています。



オペレータの会議

オペレータの会議とは、通常のスケジュールされたコール以外で、会議への個々の参加者と協力するために会議オペレータが使用できるアドホック会議です。

サイトに問題が発生した場合、または質問が生じた場合、オペレータは、新しい会議を開始し、この会議に自分自身と問題のあるサイトを追加できます。問題が解決されるか、または質問が回答されたときに、オペレータは元の会議に再び参加者を戻すことができます。

- オペレータの会議は 1 回のクリックで迅速に作成できます。
- 参加者をクリックして、サイトを接続解除せずに、オペレータの会議に参加者を移動できます。
- オペレータの会議が存在しない場合、新しい会議が自動的に作成されることがあります。
- オペレータは、オペレータの会議の開始時に会議に自動的に追加できるデフォルトのシステムを自分で設定することができます。
- オペレータは、会議制御センターから、希望に応じて、1 人または複数の参加者を自由にオペレータの会議に出入りさせることができます。
- 複数のオペレータの会議を同時に実行できます。

- オペレータの会議に移動された参加者は、スケジュールされた会議の参加者として引き続き表示されますが、移動されたことを示す特別なアイコンが表示されます。
- オペレータの会議は、オペレータのシステムで使用されなくなると自動的に消去されます。

オペレータの会議の作成

オペレータの会議を作成する方法は 2 通りあります。

1. 画面の右上隅にある [MCU の表示（Show MCUs）] チェックボックスをオンにし、[MPS] または [MCU] を右クリックし、オペレータの [オペレータ会議の作成（Create Operator Conference）] を選択します。
2. メイン システムとして MPS または MCU を使用する会議の参加者を右クリックし、[オペレータに移動（Move to Operator）] を選択します。

オペレータの会議に移動された参加者は、元の会議で移動されたとしてマークされます。

注：参加者は、オペレータがオペレータの会議への接続に成功した場合にだけ、元の会議から移動するため、参加者が空の会議に移動する可能性はありません。

元の会議またはオペレータの会議のいずれかで参加者を右クリックして、[戻す（Move back）] を選択することにより、参加者を戻すことができます。参加者が含まれるオペレータの会議が終了した場合、参加者はそれぞれの会議に自動的に戻ります。

オペレータの会議は自動的に延長され、[会議制御センター（Conference Control Center）] から明示的に終了するか、または単にオペレータのエンドポイントを接続解除することにより終了できます。

参加者が元の会議から移動している間にその会議が終了すると、オペレータは CCC の警告イベントによって通知を受けます。元の会議が終了するときに、移動された参加者は、オペレータの会議に移動された参加者ではなく、アドホック参加者として振る舞います。

参加者が会議から移動しても、元の会議からのメッセージは、その参加者のエンドポイントに送信されます。

注：デュアル ビデオ ストリームまたはカスケード会議を送信している参加者は、会議から移動できません。

会議制御センター

Cisco TMS では、[モニタリング（Monitoring）] > [会議制御センター（Conference Control Center）]

[会議制御センター（Conference Control Center）]（CCC）は、Cisco TMS で予約されたすべての会議、あるいは Cisco TelePresence Management Suite Extension Booking API を使用する拡張機能（Cisco TMSXE と Smart Scheduler を含む）を通じて予約されたすべての会議、および会議ブリッジで直接スケジュールされた会議を管理およびモニタするためのツールです。

アドホック会議のモニタリングの有効化

[会議制御センター（Conference Control Center）] では、Cisco TMS によってスケジュールされていないネットワーク上のコールをモニタすることもできます。

注意：このモニタリングは非常に多くのリソースを消費するため、大規模な環境では、Cisco TMS サーバの処理速度が大きく低下する可能性があります。

アドホック コールのモニタリングを有効にするには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] に移動します。
2. [アドホック会議の検出を有効にする（Enable ad hoc conference discovery）] を [はい（Yes）] に設定します。
3. CCC ページの検索領域で、[アドホックの表示（Show Ad Hoc）] をオンにします。

会議の検索および表示

画面の左側にあるフォルダ ビューには、Cisco TMS で予約および登録されているすべての会議のリストが表示されます。

[検索（Search）] 領域では、表示される会議リストの絞り込み、展開、およびソートを実行できます。

- 会議 ID で CCC 検索を実行するには、[検索（Find）] フィールドに番号を入力します。
- 検索文字列に一致するタイトルまたは参加者を含む会議を検索するには、テキスト形式で検索します。
- アドホック コールを表示するには、[アドホックの表示（Show Ad Hoc）] をオンにします（アドホック会議のモニタリングがすでに有効になっている場合）。
- Cisco TMS に登録された各会議ブリッジまたは TelePresence Conductor を、下のリストで個別のフォルダとして表示するには、[MCU の表示（Show MCUs）] をオンにします。保留中、開催中、終了済みの会議が、その会議のメインブリッジの下に表示されます。

  主要な参加者が会議ブリッジまたは TelePresence Conductor でない会議は、[その他（Other）] フォルダに配置されます。

[グループ化...（Group By...）] ドロップダウン メニューを使用すると、現在の状態、日付、または所有者で会議をソートできます。

- 接続済みの参加者がいない会議は [アイドル（Idle）] フォルダに配置されます。
- 会議制御センターのデフォルトの開始フォルダを設定するには、フォルダを右クリックして [デフォルトの開始フォルダとして設定（Set as Default Start Folder）] を選択します。日付やユーザなどでグループ化されたカスタム フォルダを開始フォルダとして使用することはできません。
- ウォッチ リストに対する会議の追加または削除を行うには、会議を右クリックして [ウォッチ リストに追加（Add to Watch List）] または [ウォッチ リストから削除（Remove from Watch List）] を選択します。
- メイン ウィンドウに会議のプロパティを表示するには、フォルダ ビュー内から会議を選択します。会議を右クリックして、[新しいウィンドウで開く（Open in New Window）] を選択することもできます。

会議のモニタリングおよび管理

進行中の各会議について、会議およびプレゼンテーションのスナップショットが表示されます（可能な場合）。

表 118　ステータスによって異なる会議で利用可能な操作

ボタン	説明
画像モードの設定（Set Picture Mode）	画面上部付近の会議情報で、会議ブリッジで利用できるものに基づいて会議の画像モードを設定します。
参加者の追加（Add Participants）	[参加者の追加（Add Participants）] は、[新しい会議（New Conference）] から予約する場合と同じ動作をします。「[参加者の追加（Add Participants）] ウィンドウ（163 ページ）」を参照してください。
ロック/ロック解除（Lock/Unlock）	会議をロックすると、会議ブリッジでそれ以上参加者がダイヤル インできなくなります。管理者は引き続き、Cisco TMS を通じて参加者を追加することができます。
設定	会議の設定を開きます。「新しい会議（159 ページ）」を参照してください。
承認（Accept）	予約の承認を行えないユーザによって予約された場合に、会議を承認または拒否します。
却下	
終了（End）	進行中の会議を終了します。これは、会議ブリッジで直接スケジュールされた常設会議に対しては使用できません。

参加者の管理

[参加者（Participants）] タブは各会議で使用できます。

表示される参加者操作用のボタン/コマンドは、各システムで利用できる機能によって異なります。各ボタンにカーソルを合わせると、ヒントが表示されます。また、各参加者を右クリックして操作を実行することもできます。

表 119　CCC で参加者に対して実行できる操作

アイコン	名前	説明
	詳細の表示（View Details）	システムの [ナビゲータ（Navigator）] ページを別のウィンドウで開きます。

表 119　CCC で参加者に対して実行できる操作（続き）

アイコン	名前	説明
	Web の表示	システムの Web インターフェイスを示します。
	オーディオのミュート	ブリッジから参加者の音声のミュート/ミュート解除を行います（マルチポイント通話の場合だけ使用可能）。
	オーディオのミュート解除	
	マイクのオン/オフ切り替え	会議の参加者のマイクのミュート/ミュート解除を行います。
	フロアの設定	選択した参加者へのフロアの提供と、その開放を行います。
	フロアの開放	
	重要の設定	フォーカスする参加者の設定を行います。たとえば、フォーカスされた参加者は、発言していない場合でも、会議で最も目立つ参加者とみなされます。
	重要の削除	[重要の設定（Set Important）] 設定を取り消します。
	切断	選択した参加者の接続を解除します。
	メッセージ送信	参加者にメッセージを送信します。ビデオ画面またはシステムのタッチ スクリーン パネルに送信したメッセージが表示されることがあります。これは、主要な参加者によります。
	削除（Remove）	選択した参加者を会議から削除します。
	接続	選択した参加者を接続します。
	すべて接続	参加者全員を接続します（主要な参加者からのみ使用可能）。
	接続のキャンセル	選択した参加者への接続をキャンセルします。
	すべて切断	会議の全参加者の接続を解除します（主要な参加者からのみ使用可能）。
	発信オーディオのミュート	参加者に対する発信オーディオのミュート/ミュート解除を行います。
	発信オーディオのミュート解除	
	ビデオのミュート	参加者に対するビデオのミュート/ミュート解除を行います。
	ビデオのミュート解除	
	ステータス デュオビデオ	このアイコンにカーソルを合わせると、会議での MCU のコンテンツ ストリーム情報が表示されます。これは、すべての MCU およびソフトウェア バージョンで利用できるわけではありません。
	FUR のブロック	リモートの参加者からのクイック更新要求のブロック/ブロック解除を行います。従来の Cisco TelePresence MPS のみに適用されます。
	FUR のブロック解除	

表 119　CCC で参加者に対して実行できる操作（続き）

アイコン	名前	説明
	表示名の変更	参加者の表示名を変更します。
	スナップショットの表示	参加者のスナップショットを表示します。
	コンタクト情報（Contact Information）	この情報は、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select system）] > [設定（Settings）] > [全般（General）] の [システム管理者（System Contact）] フィールドから収集されます。
	オペレータ会議への移動	参加者を現在の会議からオペレータの会議に移動します。「オペレータの会議（188 ページ）」を参照してください。
	戻す	元の会議へ参加者を戻します。
	ダイヤル設定	参加者の接続設定を表示します。
	戻る（Get Back）	同一の MCU 上の会議間で参加者をドラッグ アンド ドロップすることができます。 参加者を選択して [戻る（Get Back）] ボタンをクリックすると、参加者が元の会議に戻されます。 この機能は、Cisco TelePresence MCU シリーズおよび従来の Cisco TelePresence MPS でのみ使用できます。
	[レイアウト（Layout）] ドロップダウン メニュー	参加者の受信ビデオのレイアウトを変更します。一部の会議ブリッジおよびソフトウェア バージョンでのみ使用できます。
	+参加者名	会議で MCU が使用されている場合、操作ボタンのすぐ上の [+ 参加者名（+participant name）] ボタンをクリックすると、システムのビデオおよび音声に関する送受信統計情報が表示されます。可能な場合には、コンテンツ ストリーム情報も表示されます。

接続の表示

進行中または終了済みの会議の接続を表示するには、会議の [グラフィカル ビュー（Graphical View）] タブを開きます。

- 通話の方向が線上に矢印で示されます。
- 接続ステータスが色で示されます。

[参加者（Participants）] タブで実行できるコマンドと同じコマンドをこのビューで参加者に対して実行できますが、参加者は 1 人しか選択できません。

会議イベントの表示

各会議には [イベント ログ（Event Log）] タブがあります。詳細については、「会議のイベント ログ（193 ページ）」を参照してください。左側のパネルの [会議イベント（Conference Events）] には、保留中および開催中のすべての会議のイベントが表示されます。

- イベントを承認または消去する場合、あるいは影響を受ける会議を開く場合は、イベントを右クリックします。
- ウォッチ リスト上の会議からのイベントだけを表示するには、[会議イベント（Conference Events）] ヘッダーにあるドロップダウン アイコンをクリックし、[マイ会議リスト（My Conferences List）] を選択します。

イベントが参加者に関連付けられている場合、会議イベントがフォルダ ビュー、会議リスト、および会議の詳細に表示されます。

システム チケットの表示

左側のパネルにある [システム チケット（System Tickets）] 領域に、関連するシステムのチケットが表示されます。詳細なリストおよび表示オプションは、[システム チケット（System Tickets）] ヘッダー上のドロップダウン アイコンから利用できます。

サウンド アラートの制御

開催中の会議、あるいは、開いている会議におけるエラーやその他のイベントに対するアラートを設定するには、[サウンド アラート（Sound Alerts）] をクリックします。

サウンド アラートの設定は、ユーザごとに保存されます。

会議イベントのログ

予約に対する変更の監査証跡や、進行中の会議における接続の問題を確認するには、会議イベントのログを参照します。このログは、Cisco TMS 内の次の 2 か所にあります。

- 画面の下半分にある [イベント ログ（Event Log）] タブ（すでに予約されている会議を表示または編集する場合）。
- [会議制御センター（Conference Control Center）]（CCC）の各会議の [イベント ログ（Event Log）] タブ。

ログには、予約後に会議に対して行われたすべての変更が記録されます。2 か所のログの内容は同じですが、CCC には診断を実行したり、リストをテキストで開いたりするための追加オプションはあります。

ログの確認

CCC では、イベント ログをインスタンス ベースでいつでも確認できます。[会議の一覧（List Conferences）] でシリーズのイベント ログを表示するには、インスタンスではなくシリーズを編集する必要があります。インスタンスのイベント ログには、常に、シリーズのイベントとインスタンスのイベントの両方が含まれます。

イベント ログでは、ログ エントリのプレフィックス（「会議（Conference）」または「インスタンス（Instance）」）を使用して、変更が会議シリーズに対して行われたのか、1 つのインスタンスに対して行われたのかが示されます。

ログには、タイムスタンプ、変更を行ったユーザ、以下のものに対するすべての変更の詳細が含まれます。

- 開始時刻および終了時刻
- 会議タイプ
- 反復パターン
- 会議内の WebEx の有無
- 画像モード
- 参加者（録画エイリアスの追加または削除は、（録画担当の）参加者の追加または削除としてログに記録されます）。

ユーザー フィールドでは、Cisco TMSBA を介して行われたすべての変更が、サービス ユーザーから行われたものとしてログに記録されます。

ユーザの **nt authority\network service** は、Cisco TMS によって行われたか、または開始された自動アクションを示します。たとえば、以下のようなものがあります。

- 主要参加者からのダイヤルの試み
- 参加者に送信される自動メッセージ
- 会議の自動延長

会議中には、以下もログに記録されます。

- 接続および接続解除を行っている参加者（アドホック参加者を含む）
- [会議制御センター（Conference Control Center）] から実行されたアクション（参加者の音声のミュート、参加者へのメッセージの送信など）

上記以外の変更については通常、「会議が更新されました（Conference updated）」と記録されます。

進行中の会議に対する変更はすべて、インスタンス レベルでログに記録されます。

会議の登録および診断

schedulerservice から liveservice に会議が引き渡されると、スケジュールされた開始時刻の 15 分前に「会議が登録済みです（Conference registered）」というメッセージがログに記録されます（これらのサービスの詳細については、「Windows サービス（20 ページ）」を参照）。

それと同時に、会議の診断が Cisco TMS によって実行されます（開始時刻まで 1 ～ 15 分の会議予約の場合は、その予約時）。この診断サービスでは、会議の設定に影響を及ぼす可能性があるシステム チケットの有無に関するチェックがすべてのシステムに対して行われます。さらに、ルーティングされた通話がまだ通話の有効な代替手段であること、およびダイヤル イン番号が存在するかどうかがチェックされます。このチェックで問題が検出されると、イベント ログにイベントが作成されます。

CCC でイベント ログを表示する場合、手動で診断を実行することもできます（[診断の実行（Run Diagnostics）] をクリック）。

例外の作成および会議の再作成

ログでは、インスタンスが例外かどうか、あるいはすでに例外ではなくなっているかどうか、およびシリーズ内の例外の数がキャプチャされます。

会議シリーズの更新担当者がシリーズ内のすべての例外を上書きするように選択した場合、またはインスタンスの継続中にシリーズに対して変更が行われた場合、古いインスタンスが削除され、新しい 会議 ID が設定された新しいインスタンスが作成されます。

新しいインスタンスのイベント ログには「会議が再作成されました（Conference recreated）」と記録され、シリーズが再作成される前のログ メッセージは削除済みのインスタンスでのみ確認できます。

グラフィカル モニタ（Graphical Monitor）

Cisco TMS では、[モニタリング（Monitoring）] > [グラフィカル モニター（Graphical Monitor）]

このページには、会議システムとインフラストラクチャのネットワークを監視する強力な機能が用意されています。

フォルダおよびシステムの表示

ここに表示される情報は、[システム（System）] > [ナビゲータ（Navigator）] のフォルダ構造を視覚的に反映したものです。フォルダはアイコンをダブルクリックするか、フォルダを右クリックして [開く（Open）]、[すべて開く（Open All）]、または [閉じる（Close）] を選択して開くか、閉じることができます。

システムを示すアイコンを直接クリックして、システムを表示、拡大させることができます。[グラフィカル モニター（Graphical Monitor）] ページの空いた領域を右クリックすると、次のメニューが表示されます。

配置（Arrange）

グラフィカル モニタに最適なフォルダおよびシステムの位置を自動的に配置します。

すべて展開

すべてのサブフォルダを展開して、表示します。

コントロール パネルの表示（Show Control Panel）

異なるプレゼンテーション オプションから選択します。[ズーム（Zoom）] のスライドバーを動かして、画像のサイズを拡大したり縮小したりできます。[通話中（In Call）] をオンにすると、通話中のシステムのみ表示されますが、[応答なし（No Response）] をオンにすると、停止しているシステム、ネットワークに接続されていないシステム、またはネットワークに何らかの問題があるシステムのみ表示されます。

開催中またはアイドルであるシステムのみを表示するには [アイドル/開催中（Idle / Alive）] を選択します。

オプション（Options）

表 120　[グラフィカル モニター（Graphical Monitor）] のユーザ設定

フィールド	説明
ユーザによる配置（User Arrange）	アイコンをクリックし、ドラッグすることによって、ユーザがアイコンを自由に配置できるようにします。
ロック（Locked）	アイコンの位置をロックします。
自動配置（Auto Arrange）	フォルダおよびシステムをグラフィカル モニタに自動的に配置します。
名前の表示（Show name）	システム名は、各システムの横に表示されます。
ネットワーク アドレスの表示（Show Network Address）	システムの IP アドレスは、各システムに表示されます。
表示可能な文字数（Visible Characters）	各システムに表示される文字数を選択します。
フォント サイズ（Font Size）	■ *小（Small）* ■ *標準（Normal）* ■ *大（Large）*
ラベルの色（Label Color）	各システムのラベル テキストの色のオプション。 ■ *ダーク グレー（Dark Gray）* ■ *青（Blue）* ■ *オレンジ（Orange）*
更新頻度	各システムのシステム ステータスをチェックする場合、グラフィカル モニタの更新レートを秒単位で定義します。1 秒から 60 秒のインターバル内で選択します。
アニメーション（Animation）	通話中およびフォルダの開閉時のシステムのアニメーションの速度を定義します。選択項目は次のとおりです。 ■ *高速（Fast）* ■ *標準（Normal）* ■ *低速（Slow）*
通話アニメーションの表示（Show Call Animation）	通話中のシステムのアニメーションをイネーブルまたはディセーブルにします。アニメーションをイネーブルにするには、Cisco TMS でより多くのリソースが必要になることに注意してください。
通話回線の表示（Show Call Lines）	Cisco TMS に登録されていて、1 つの通話内にある複数のシステムから導出される回線をイネーブルまたはディセーブルにします。
フォルダ移動時に入れ替え（Rotate when moving folder）	このチェックボックスをオフにすると、ノードのシステムを入れ替えたり、再配置したりせずに、ツリーの子ノードを移動できます。

電話帳の作成と管理

この章では電話帳の中心概念を取り上げ、Cisco TMS の電話帳とそのソースの作成および管理について説明します。

また、[電話帳（Phone Books）] メニューのすべてのエントリの参考情報も含まれます。

電話帳の基本 197
電話帳の種類 198
電話帳の作成 199
電話帳へのアクセスの許可 200
システムでの電話帳の設定 201
ファイルへの連絡先のエクスポート 201
電話帳の管理 202
電話帳ソースの管理 203
電話帳とソースの活動状況 211

電話帳の基本

電話帳ソースの役割

Cisco TMS の電話帳は 1 つ以上の電話帳ソースのコンテナです。電話帳ソースは、電話帳を介してエンドポイントが使用できるようになる連絡先のリストを提供します。1 つの電話帳に接続された複数のソースは、一緒にマージされます。

Active Directory ユーザや Unified CM ユーザなど、さまざまなソース タイプがサポートされています。説明と設定オプションの詳細リストについては、「電話帳ソースの管理（202 ページ）」を参照してください。

階層型の電話帳

電話帳ソースは連絡先のフラット リストとして常にインポートされます。ただし、電話帳には、たとえば、地理的な構造または組織構造に基づいて、階層構造の他の電話帳が含まれている場合があります。

階層的な電話帳のすべてまたは一部は異なるシステムに設定されることがあります。指定されたレベルより下のすべての電話帳が再帰的に含まれる一方、親電話帳は除外されます。

階層的な電話帳はレガシー グローバル ディレクトリの電話帳形式ではサポートされないことに注意してください。

このような構造の設定手順については、「電話帳階層の作成（199 ページ）」を参照してください。

デフォルトのソースおよび電話帳

Cisco TMS は、デフォルトのインストールの一部として、Cisco TMS で管理されるすべてのシステムを含む単純な電話帳を作成し、Cisco TMS で検出されたすべてのシステムに自動的に割り当てます。

電話帳のルーティング

[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] には、[電話帳ルート エントリ（Route Phone Book Entries）] と呼ばれる設定があります。

- [はい(Yes)] はデフォルト設定で、ダイヤルできるアドレスのみがエンドポイントに表示されることを意味します。たとえば、H.323 専用エンドポイントに、ISDN 番号および SIP アドレスは表示されません。
- [いいえ(No)] は、ダイヤル機能に関係なく、電話帳のすべてのアドレスおよび番号がエンドポイントに表示されることを意味します。

この設定を有効にすると、追加のサーバ負荷が発生し、ユーザの電話帳検索が遅くなる可能性があることに注意してください。たとえば、番号が電話帳にどのように表示されるかなど、ルーティングの詳細については、「ルーティング(31 ページ)」を参照してください。

電話帳の種類

エンドポイントのタイプに応じて、最大 3 つの異なる電話帳タイプをエンドタイプが使用可能で、そのうち 2 つは Cisco TMS によって管理されます。

社内ディレクトリ

ほとんどの Cisco エンドポイントが Cisco TMS サーバ上のこのライブ XML 検索サービスに依存します。社内ディレクトリの設定はサポートされるシステムで次のように修正されます。

- [システムに設定(Set on system)] リストに変更が加えられるたびに毎回。「システムでの電話帳の設定(200 ページ)」を参照してください。
- デフォルトでは、4 時間ごとに実行されるバックグラウンド サービスによって(有効になっている場合)。このバックグラウンド サービスをイネーブルにするには:
  a. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] に移動します。
  b. [TMS サービス(TMS Services)] セクションで、[システム上の管理設定の強制(Enforce Management Settings on Systems)] を [はい(Yes)] に設定します。
  c. [保存(Save)] をクリックします。

社内ディレクトリはフラットにすることも、階層構造を持つこともできます。

グローバル ディレクトリ

レガシー TANDBERG MXP のエンドポイントではグローバル ディレクトリも使用する可能性があります。これは、複数の電話帳を 1 つにまとめて、最大 400 件の連絡先を表示する HTTP 送信ファイルです。

ディレクトリ(**globdir.prm** ファイル)は 2 つの異なるイベントで HTTP を経由してエンドポイントに送信されます。

- [システムに設定(Set on system)] リストに変更が加えられるたびに毎回。「システムでの電話帳の設定(200 ページ)」を参照してください。
- [電話帳更新頻度(Phone Book Update Frequency)] で指定された頻度。「全般設定(218 ページ)」を参照してください。

グローバル ディレクトリの電話帳は常にフラットな構造を持ちます。

ローカル ディレクトリ

エンドポイントには通常、エンドポイント自体の上で直接入力される、ローカル ディレクトリ、電話帳、連絡先、またはお気に入りと呼ばれる連絡先エントリがいくつかあります。これらは、Cisco TMS によって管理されません。ただし、ローカル ディレクトリは電話帳ソースとしてインポートできます。「電話帳ソースの管理(202 ページ)」を参照してください。

ローカル ディレクトリを Cisco TMS で表示することもできます。

1. [システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] に移動し、システムを検索します。
2. [電話帳(Phone Book)] タブをクリックします。

すべてのシステムの電話帳の種類の設定

使用する電話帳タイプを設定するには:

1. [管理ツール(Administrative Tools)] > [設定(Configuration)] > [全般設定(General Settings)] に移動します。
2. [全般設定(General Settings)] セクションで、[シスコ システムの電話帳(Cisco System Phone Books)] を次のいずれかに設定します。

- TMS の一元化された電話帳だけを使用（企業電話帳）（Use centralized TMS phone books only (corporate phone book)）
- 一元化された電話帳とダウンロードした電話帳の両方を使用（両方）（Use both centralized and downloaded phone books (both)）
- システムにダウンロードしたグローバル電話帳だけを使用（グローバル電話帳）（Use global phone books downloaded to systems only (global phone book)）

  ダウンロードした電話帳はレガシー TANDBERG エンドポイントだけでサポートされるため、[社内電話帳（corporate phone book）] または [両方（both）] を選択することを推奨します。

  デフォルト設定は [両方（both）] で、企業ディレクトリのライブ検索に失敗した場合に、グローバル ディレクトリが使用可能になります。

3. [保存（Save）] をクリックします。

電話帳の作成

Cisco TMS で電話帳を作成するには、1 つ以上の電話帳ソースが必要です。既存のソースをそのまま使用するか、既存のソースを設定するか、または新しいソースを作成することができます。次の手順には、新しい電話帳ソースの作成が含まれます。

1. [電話帳（Phone Books）] > [電話帳ソースの管理（Manage Phone Book Sources）] に移動します。
2. [新規（New）] をクリックします。
3. ドロップダウンから電話帳ソース タイプを選択します。
   ソースの種類については、「電話帳ソースの管理（202 ページ）」を参照してください。
4. 新しいソースの名前を入力します。
   注：電話帳の名前には、「%」、「&」、「@」、「:」などの特殊文字を含めることはできません。
5. [保存（Save）] をクリックします。
   選択したタイプのソースによっては、[構成（Configuration）] フィールドが画面の下部に表示されます。
6. 必須フィールドに入力します。
   設定フィールドとオプションについては、「電話帳ソースの管理（202 ページ）」を参照してください。
7. [保存（Save）] をクリックします。
8. 新しいソースの [更新間隔（Update Frequency）] を、ドロップダウン リストから選択して設定します。
   電話帳に含める数のソースに対して、上記の手順を繰り返します。
9. [電話帳（Phone Books）] > [電話帳の管理（Manage Phone Books）] に移動します。
10. [新規（New）] をクリックします。
11. 新しい電話帳の名前を入力します。
12. [保存（Save）] をクリックします。
    3 つのタブがある新しいセクションが画面の下部に表示されます。
13. [接続（Connect）] をクリックします。
    使用可能なすべての電話帳ソースのリストが表示されます。
14. チェックボックスを使用して、電話帳に対して 1 つ以上のソースを選択します。
    必要な数のソースを組み合わせることができます。
15. 含める各ソースに対して、[更新タイプ（Update Type）] を設定します。これは [手動リスト（Manual List）] ソース タイプには適用されません。
    - [TMS へインポート（Import to TMS）]
    - [検索のみ（Search Only）]：この種類の電話帳ソースのエントリをスケジュールできないこと、これらのソースは参加者を会議に追加する際に表示される [電話帳（Phone Books）] タブからフィルタで除外されることに注意してください。
16. [OK] をクリックします。

これで、電話帳が作成されました。Cisco TMS 制御システムで使用できるようにするには、次の操作を実行する必要があります。

1. アクセス制御を設定します。「電話帳へのアクセスの許可（199 ページ）」を参照してください。
2. システムで電話帳を設定します。「システムでの電話帳の設定（200 ページ）」を参照してください。

電話帳階層の作成

配布および参照を容易にするために、電話帳階層を作成できます。

作成後に、電話帳階層の再編成はサポートされません。したがって、Cisco TMS で電話帳階層を作成する前に、電話帳の構造の詳細を計画することを強く推奨します。

別の電話帳内に電話帳を作成するには、次の手順を実行します。

1. [電話帳(Phone Books)] > [電話帳の管理(Manage Phone Books)] で、階層の上位レベル コンテナにする電話帳を開くか、または作成します。
2. 上位レベルの電話帳が開いている場合、その中に新しい電話帳を作成するには、[新規(New)] をクリックします。
3. 上位レベルの電話帳内に、必要な数のネストされた電話帳を作成します。必ず、構造内の適切な親から、新しい電話帳を作成してください。

電話帳階層内のすべてのレベルは、1 つ以上の電話帳ソースに接続できますが、これは必須ではありません。

電話帳を生成する別の方法

上記の手順は、Cisco TMS で電話帳ソースおよび電話帳を作成するために推奨される方法です。ただし、Cisco TMS ツール アプリケーションを使用して電話帳を生成することもできます。詳細については、「電話帳の生成(278 ページ)」を参照してください。

電話帳へのアクセスの許可

サイト管理者およびビデオ装置管理者だけが電話帳の読み取り/更新権限を設定できます。

Cisco TMS ユーザ

これらの権限は、選択したユーザ グループが、連絡先を読み取って更新できるか、および選択した電話帳を削除またはその名前を更新できるかを決定します。

1. [電話帳(Phone Books)] > [電話帳の管理(Manage Phone Books)] に移動し、ユーザ アクセス権を付与する電話帳を開くか、または作成します。
2. [アクセス制御(Access Control)] タブを開きます。
3. [TMS ユーザ グループ(TMS User Groups)] を選択します。
4. グループごとにアクセス権を指定するために、[読み取り(Read)]、[更新(Update)] の一方または両方のチェックをオンにします。
5. [保存(Save)] をクリックします。

デフォルトでは、サイト管理者およびビデオ装置管理者に、すべての電話帳のすべての権限が設定されています。

Cisco TMS の電話帳リストを読み取る権限、電話帳を作成および削除する権限、新しい電話帳の更新を許可する権限は、すべて別の場所で設定されることに注意してください。「グループ(250 ページ)」を参照してください。

プロビジョニング ユーザ

Cisco TMSPE がインストールされている場合は、プロビジョニング ユーザには次のようにアクセスを許可できます。

1. [電話帳(Phone Books)] > [電話帳の管理(Manage Phone Books)] に移動し、ユーザ アクセス権を付与する電話帳を開くか、または作成します。
2. [アクセス制御(Access Control)] タブを開きます。
3. [プロビジョニング ディレクトリ グループ(Provisioning Directory Groups)] を選択します。
4. ルート ディレクトリを展開し、この電話帳にアクセスできるようにするディレクトリ グループを選択します。
5. 必要に応じて、**[現在の電話帳および基盤となるすべての電話帳に設定を適用します(Apply settings to "(current phone book)" and all underlying phone books)]** のチェックをオンにします。
6. [保存(Save)] をクリックします。

システムでの電話帳の設定

この項は、Cisco TMS の管理対象システムにおける電話帳の設定に関連しています。プロビジョニングされたエンドポイントに電話帳を提供する方法については、*Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能導入ガイド*[英語] を参照してください。

複数のシステム上にある 1 つの電話帳

システムのグループに 1 つの電話帳を設定するには、次の手順を実行します。

1. [電話帳（Phone Books）] > [電話帳の管理（Manage Phone Books）] に移動します。
2. 左側のナビゲーション セクションで電話帳を選択します。
3. [システムに設定（Set on Systems）] をクリックします。
4. 表示される 2 セクションのビューで、右のリストからエンドポイントを追加または削除するには、矢印を使用します。
5. [OK] をクリックします。

更新が完了したことを確認するには、[電話帳（Phone Books）] > [電話帳の活動状況の監視（Monitor Phone Book Activity Status）] に移動します。詳細については、「電話帳とソースの活動状況（210 ページ）」を参照してください。

1 つのシステム上にある複数の電話帳

特定のシステムに 1 つ以上の電話帳を設定するには、次の手順を実行します。

1. [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、更新するシステムを選択します。
2. [電話帳（Phone Book）] タブをクリックします。
3. 表示される 2 セクションのビューで、右のリストから電話帳を追加または削除するには、矢印を使用します。
4. [保存（Save）] をクリックします。

更新が完了したことを確認するには、[電話帳（Phone Books）] > [電話帳の活動状況の監視（Monitor Phone Book Activity Status）] に移動します。詳細については、「電話帳とソースの活動状況（210 ページ）」を参照してください。

グローバル ディレクトリの更新頻度の設定

グローバル ディレクトリとして電話帳を使用しているレガシー システムでは、次の手順を実行します。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [全般設定（General Settings）] に移動します。
2. [電話帳更新頻度（Phone Books Update Frequency）] フィールドで、電話帳をエンドポイントにポストする頻度を指定します。
3. [保存（Save）] をクリックします。

社内ディレクトリを使用している場合、システムは Cisco TMS から電話帳を直接読み取るため、更新頻度は無視できます。

ファイルへの連絡先のエクスポート

Cisco TMS サーバまたは別の Web サーバのディレクトリ上のファイルに電話帳の連絡先をエクスポートするために使用する*ファイルベースの電話帳*ソースを設定できます。Cisco TMS は次にタブ区切りファイルを作成します。

1. 電話帳を作成します。
2. この電話帳の [接続（Connect）] をクリックします。
3. 連絡先のエクスポート元にするソースを選択します。
4. これらのソースの [更新タイプ（Update Type）] に、[Cisco TMS へインポート（Import to Cisco TMS）] または [Cisco TMS へのインポートと電話帳ソースへのエクスポート（Import to Cisco TMS and Export to phone book source）] を選択します。

5. ここでエクスポート先にする*ファイル ベースの電話帳*ソースを選択します。
6. このソースの [更新タイプ(Update Type)] に、[Cisco TMS へのインポートと電話帳ソースへのエクスポート(Import to Cisco TMS and Export to Phone Books Source)] を選択します。

ファイルの最初の行はヘッダー Name, ISDNNumber, ISDNNumber2, ISDNBandwidth, Restrict, Telephone, SIP, H.323, IPBandwidth, ExternalId を含みます。

残りの行には実際の電話帳の連絡先が含まれます。[ExternalId] 列には、電話帳エントリの一意の ID が含まれます。

電話帳の管理

Cisco TMS では、[電話帳(Phone Books)] > [電話帳の管理(Manage Phone Books)]

[電話帳の管理(Manage Phone Books)] ページは、電話帳を表示する左側の [電話帳(Directory)] ペインと右側の [ワークスペース(Workspace)] ペインで構成されます。

ワークスペースのボタン

[新規(New)] をクリックすると、新しい電話帳の作成が開始されます。電話帳を作成して入力した後で、それを選択して設定を変更するか、次のいずれかのボタンをクリックします。

- 名前を変更するには、[編集(Edit)]。
- 電話帳を削除するには、[削除(Delete)] の後で確認。これは、接続されたいずれのソースも削除しません。
- 特定のエンドポイントに電話帳を配布するには、[システムに設定(Set on Systems)]。詳細については、「システムでの電話帳の設定(201 ページ)」を参照してください。

ソース

[ソース(Sources)] タブに、選択した電話帳に接続された各ソースの情報が表示されます。[ソース(Sources)] タブでは電話帳ソースへの接続を作成、更新、および削除できます。

設定

表 121　電話帳のソースの設定

フィールド	説明
名前(Name)	ソースの設定を変更できる [電話帳ソースの管理(Manage Phone Book Sources)](202 ページ)へのリンク付きソースの名前。
タイプ(Type)	電話帳ソースのタイプ。概要については、「電話帳ソースの管理(202 ページ)」を参照してください。
更新のタイプ(Update Type)	このフィールドは、連絡先がどのように共有されるかを示します。オプション ■ [検索専用(Search only)]:Cisco TMS 電話帳に連絡先をインポートせずに、たとえば、大規模な H.350 ディレクトリでの直接検索を有効にします。この種類の電話帳ソースのエントリをスケジュールできないこと、これらのソースは参加者を会議に追加する際に表示される [電話帳(Phone Books)] タブからフィルタで除外されることに注意してください。 ■ [Cisco TMS へインポート(Import to Cisco TMS)]:Cisco TMS 電話帳にすべての連絡先をインポートします。 ■ [Cisco TMS へのインポートと電話帳ソースへのエクスポート(Import to Cisco TMS and export to phone book source)]:すべての連絡先を Cisco TMS 電話帳にインポートし、完全な電話帳(複数のソースで構成)を用意して、ソースにインポートされなかったものをエクスポートします。
更新の頻度(Update Frequency)	ソースと電話帳間の更新の頻度。この頻度は、「電話帳ソースの管理(202 ページ)」で設定されます。

接続のボタン

- [接続(Connect)] は、電話帳に追加可能な電話帳ソースのリストを開きます。
- [更新(Update)] は、1 つ以上の選択したソースの更新を強制します。
- [切断(Disconnect)] は、選択した 1 つ以上のソースを電話帳から削除します。
- [電話帳ソースの管理(Manage Phone Books Sources)] は、「電話帳ソースの管理(202 ページ)」に移動します。

アクセス制御

[アクセス制御(Access Control)] タブでは、各ユーザ グループの名前が付いたリンクをクリックすることによって、Cisco TMS ユーザ グループの電話帳に対する読み取りおよび更新アクセス権を設定できます。Cisco TMSPE がインストールされている場合は、プロビジョニング ユーザの電話帳へのアクセス権もここで設定できます。

手順については、「電話帳へのアクセスの許可(199 ページ)」を参照してください。

電話帳ソースの管理

Cisco TMS では、[電話帳(Phone Books)] > [電話帳ソースの管理(Manage Phone Book Sources)]

[電話帳ソースの管理(Manage Phone Book Sources)] ページの左側にソースを表示する [電話帳ソース(Phone Book Sources)] ペインがあります。電話帳に入力する前に、1 つ以上の電話帳ソースが使用できる必要があります。

ワークスペースのボタン

[新規(New)] をクリックすると、新しい電話帳ソースの作成が開始されます。ソースを作成した後で、それを選択して設定を変更するか、次のいずれかのボタンをクリックします。

- 名前を変更するには、[編集(Edit)]。
- ソースを削除するには、[削除(Delete)] の後で確認。
- 電話帳ソースを更新するには、[強制的に更新(Force Refresh)]。

ソースがすでに選択されている場合、[新規(New)] ボタンを表示するには、左側のペインで [ソース(Sources)] をクリックする必要があります。

ソース タイプおよび設定

電話帳ソースを設定する場合、使用可能なフィールドはソース タイプによって異なります。次のフィールドは、すべてのソース タイプに共通です。

表 122　すべての電話帳ソース タイプで利用可能な設定

フィールド名	説明
インポートした連絡先のデフォルト帯域幅(Default Bandwidth for Imported Contacts)	インポートした連絡先に設定する帯域幅。これはコールが発信される帯域幅に適用されます。帯域幅のない、または帯域幅が [自動(Auto)] に設定されているインポートした連絡先だけに、このフィールドから帯域幅が設定されます。手動リストでは、このフィールドの名前が [新しい連絡方法のデフォルト帯域幅(Default Bandwidth for New Contact Methods)] になります。
更新頻度	Cisco TMS が電話帳ソースと同期する頻度を選択します。このフィールドは手動リストには適用されません。 大規模な AD ソースまたはプロビジョニング ユーザ ベースからのインポートは、ソース サーバおよび Cisco TMS の両方にとって、リソースを大量に消費するおそれがあることに注意してください。完了に時間がかかる更新は、他のスケジュール タスクをブロックする場合もあります。ほとんどのソースが比較的スタティックであるため、したがって、1 日に最大 4 回更新することを推奨します。

Cisco TMS エンドポイント

ソースを作成するために、すべての管理対象システムまたは管理対象システムのサブセットを動的に取り出します。

設定

表 123 エンドポイント電話帳ソースの設定

フィールド	説明
連絡先のインポート元となるフォルダの選択（Select Folder to Import Contacts from）	Cisco TMS は、このフォルダおよびそのサブフォルダのすべての連絡先をインポートします。
サブフォルダを含める（Include Subfolders）	[タイプ（Type）] が [Cisco TMS エンドポイント（Cisco TMS Endpoints）] の電話帳ソースを作成する場合、[サブフォルダを含める（Include Subfolders）] のチェックボックスはデフォルトでオンになっています。選択を解除すると、連絡先のインポート元に選択したフォルダのサブフォルダから連絡先をインポートしません。

手動リスト

手動で維持されるリストを作成します。連絡先は、[連絡先の表示/編集（View/Edit Contacts）] タブに移動することにより、Cisco TMS インターフェイスで直接追加および編集します。

連絡先メソッド

表示される連絡先ごとに、最初のビューには、連絡先の名前および発信元電話帳ソースが表示されます。すべての連絡先メソッドも表示されます。各連絡先メソッドには次のフィールドが表示されます。

表 124 タイプが手動の電話帳ソースの連絡方法

フィールド	説明
タイプ（Type）	■ [音声（Voice）]：標準電話プロトコルを使用するコール設定。（非ビデオ接続、携帯電話または電話番号）。 ■ [IP]：連絡先への直接 IP 通信を使用するコール設定。ゲートキーパーまたは SIP レジストラは関係しません。 ■ [SIP]：Session Initiation Protocol（SIP）を使用するコール設定。 ■ [H.323]：H.323 プロトコルを使用するコール設定。 ■ [ISDN]：ISDN を使用するコール設定。 ■ [ISDN2]：2B コールの ISDN 番号とペアになる番号（128 Kb/s）。 ■ [Tel3G]：廃止。
アドレス（Address）	選択したタイプ（上記を参照）の各システムのアドレス。
ISDN の制限（Restrict ISDN）	制限されるコールは 56 Kb/s ネットワークへのコールです。 ■ [True]：ISDN は制限されます。 ■ [False]：ISDN は制限されません。
説明（Description）	各連絡先を編集する場合に入力できる情報。
帯域幅（Bandwidth）	この連絡先およびタイプに選択された帯域幅。

表 124　タイプが手動の電話帳ソースの連絡方法（続き）

フィールド	説明
手動リストのアイコン	連絡先を編集するには、このボタンを使用します。
手動リストのアイコン	連絡先を削除するには、このボタンを使用します。

連絡先の新しい連絡方法の追加

手動リスト電話帳の既存の連絡先に新しい連絡先メソッドを手動で追加するには：

1. 手動リストを開きます。
2. [連絡先の表示/編集（View/Edit Contacts）] タブに移動します。
3. 新しいメソッドを追加する連絡先を検索します。
4. 連絡先の アイコンをクリックします。
5. [連絡先メソッドの追加（Add contact method）] をクリックします。
6. フィールドに入力します（上の表を参照）。
7. [追加（Add）] をクリックします。
8. より多くのメソッドを追加するには繰り返します。
9. [完了（Done）] をクリックします。

新しい連絡先の追加

1. 手動リストを開きます。
2. [連絡先の表示/編集（View/Edit Contacts）] タブに移動します。
3. 画面下の [連絡先の追加（Add contact）] をクリックします。
4. 連絡先の名前を入力します。
5. [保存（Save）] をクリックします。
6. [連絡先メソッドの追加（Add contact method）] をクリックします。
7. 連絡先の情報を入力します。
8. [追加（Add）] をクリックします。

1 度限りのインポート

[1 度限りのインポート（One-time Import）] タブでは、[コピー元のソースを選択（Select source to copy from）] ドロップダウン リストで発信元ソースを選択することにより、他の任意のソースから手動リスト ソースに連絡先を取得できます。

インポートの結果は、いったん完了すると、[連絡先の表示/編集（View/Edit Contacts）] タブに表示できます。

Active Directory

ソースを作成するために Microsoft Active Directory から IP フォンおよび電話番号をインポートします。

設定

表 125 Active Directory 電話帳ソースの設定

フィールド	説明
IP アドレス/DNS（IP Address/DNS）	Active Directory ドメイン コントローラまたはグローバル カタログ サーバの IP アドレスまたはホスト名。
ユーザ名（Username）	連絡先をインポート/エクスポートするために外部ソースへログオンするときに使用するアカウントのユーザ名。 形式は `DOMAIN\username` または `username@DOMAIN` にする必要があります。
パスワード（Password）	上のアカウントのパスワード。
デフォルト国番号（Default Country Code）	Cisco TMS には電話番号の国番号が必要です。ディレクトリの連絡先が国番号の指定なしで保存されている場合には、ここでそれを指定します。
詳細設定（Advanced Settings）	
LDAP ポート番号（LDAP Port Number）	ドメイン コントローラが標準（389）とは異なるポートで応答している場合は、ここでポート番号を指定できます。グローバル カタログ サーバに接続する場合は、ポート 3268 を使用できます。
検索ベース（DN）（Search Base (DN)）	これを使用すると、インポートの最上位レベルとして使用する Active Directory コンテナの識別名（DN）を指定することができます。空白に設定した場合、[IP アドレス/DNS（IP Address/DNS）] で指定されたドメイン コントローラが存在するドメインの DN が使用されます。 例：`OU=Norway,OU=Europe,DC=EXAMPLE,DC=COM`。
検索範囲（Search Scope）	[検索ベース（DN）（Search Base (DN)）] で指定されたコンテナにある連絡先をインポートする場合は、[1 レベル（One Level）] を選択します。インポートを展開してすべてのサブコンテナの連絡先も返すには、[再帰（Recursive）] を選択します。
カスタム LDAP フィルタ（Custom LDAP Filter）	Active Directory の特定のユーザ プロパティに基づいてインポートで連絡先を除外する場合、LDAP フィルタを指定できます。 このようなフィルタの構造は NWG RFC 3377「The String Representation of LDAP Search Filters」に定義されています。例：文字 A で始まる姓を持つすべての連絡先を返す「sn=A*」。プロパティ名については Active Directory スキーマ仕様を参照してください。
IP 電話をインポート（Import IP Phone）	IP フォンの連絡先をディレクトリからインポートします。
自宅電話をインポート（Import Home Phone）	自宅電話の連絡先をディレクトリからインポートします。
SIP をインポート（Import SIP）	SIP の連絡先をディレクトリからインポートします。
携帯電話をインポート（Import Mobile Phone）	携帯電話の連絡先をディレクトリからインポートします。
電話のインポート（Import Telephone）	電話の連絡先をディレクトリからインポートします。

H.350 ディレクトリおよび H.350 ユーザ ディレクトリ

H.350 はさまざまなビデオおよび VoIP 形式の発信者アドレスの LDAP ベース グローバル ディレクトリと通信するための標準です。

- H.350 ディレクトリ ソース：H.350 commObjects を検索し、インポートします。
  双方向同期がサポートされますが、Cisco TMS は Cisco TMS によって作成された H.350 ディレクトリの連絡先のみ更新できます。
- H.350 ユーザ ディレクトリ ソース：H.350 commURI プロパティを検索し、それらが指す commObjects をインポートします。このソースにはインポートだけがサポートされます。

設定

表 126 H.350 電話帳ソースの設定

フィールド	説明
IP アドレス/DNS（IP Address/DNS）	Active Directory ドメイン コントローラまたはグローバル カタログ サーバの IP アドレスまたはホスト名。
ユーザ名（Username）	連絡先をインポート/エクスポートするために外部ソースへログオンするときに使用するアカウントのユーザ名。
パスワード（Password）	上のアカウントのパスワード。
新規連絡先を（RDN）に追加（New contacts will be put in (RDN)）	このエントリは H.350 ディレクトリにエクスポートする場合に H.350 ディレクトリのどこに Cisco TMS で作成された連絡先を保存すべきかを指定します。これを指定する際には相対識別名を使用する必要があります。 例：DN が `OU=VideoConferencing,DC=EXAMPLE,DC=COM` に設定されている場合に、ここで `OU=ExampleUnit` が指定されると、新規連絡先は `OU=ExampleUnit,OU=VideoConferencing,DC=EXAMPLE,DC=COM` に保存されます。
詳細設定（Advanced Settings）	
LDAP ポート番号（LDAP Port Number）	ドメイン コントローラが標準（389）とは異なるポートで応答している場合は、ここでポート番号を指定できます。グローバル カタログ サーバに接続する場合は、ポート 3268 を使用できます。
検索ベース（DN）（Search Base (DN)）	これを使用すると、インポートの最上位レベルとして使用する Active Directory コンテナの識別名（DN）を指定することができます。空白に設定した場合、[IP アドレス/DNS（IP Address/DNS）] で指定されたドメイン コントローラが存在するドメインの DN が使用されます。 例：`OU=Norway,OU=Europe,DC=EXAMPLE,DC=COM`
検索範囲（Search Scope）	[検索ベース（DN）（Search Base (DN)）] で指定されたコンテナにある連絡先をインポートする場合は、[1 レベル（One Level）] を選択します。インポートを展開してすべてのサブコンテナの連絡先も返すには、[再帰（Recursive）] を選択します。
カスタム LDAP フィルタ（Custom LDAP Filter）	Active Directory の特定のユーザ プロパティに基づいてインポートで連絡先を除外する場合、LDAP フィルタを指定できます。このようなフィルタの構造は NWG RFC 3377「The String Representation of LDAP Search Filters」に定義されています。例：文字 A で始まる姓を持つすべての連絡先を返す「sn=A*」。プロパティ名については Active Directory スキーマ仕様を参照してください。
TMS での表示名に使用するフィールド（Field to use for Display Name in TMS）	Cisco TMS での表示名として **commUniqueId** とは別のプロパティを使用する場合は、このプロパティの名前をここで指定できます。H.350 プロパティや LDAP サーバのカスタム方法で定義されたプロパティを使用できます。 例：*DisplayName*。
TMS のプレフィックス表示名に対するユーザ オブジェクトのフィールド（Field on User Object to Prefix Display Name in TMS）	インポートした連絡先の表示名は通常、commURI のポストフィックスとして提供されます。インポートした連絡先の表示名のポストフィックスとして commURI を含むオブジェクトに LDAP プロパティの値を使用する場合は、ここでそれを指定できます。

LDAP からインポートされる誤った数のエントリ

間違った数のエントリが LDAP サーバから電話帳ソースに返される場合に、限られた数のエントリを返すようにサーバを設定する場合があります。切り捨ては LDAP サーバで発生し、通常、それはページ LDAP 拡張を実装しないためです。詳細については、LDAP サーバのマニュアルを参照してください。

ファイル ベースの電話帳

電話帳ソースを作成するためにローカル ファイルまたはオンライン ファイルに接続します。

設定

表 127 ファイルベースの電話帳ソースの設定

フィールド	説明
デフォルトの帯域幅を強制（Force Default Bandwidth）	このチェックボックスをオンにすると、Cisco TMS はインポートしたすべての連絡先にデフォルトの帯域幅を強制します。電話帳ソースに設定されるすべての帯域幅は、[インポートした連絡先のデフォルト帯域幅（Default Bandwidth for Imported Contacts）] として選択された値で上書きされます（帯域幅のない、または帯域幅が [自動（Auto）] に設定されている連絡先だけではありません。上記のフィールドを参照）。
ローカル ファイルまたは URL のファイルを使用（Use Local File or File from URL）	Cisco TMS との間でインポート/エクスポートされる電話帳を含むファイルの場所を決定するオプション ボタン。
ファイル パス（File Path）	ローカル ファイルを選択する場合は、[参照ファイル（Browse Files）] ボタンをクリックしてファイル パスを指定する必要があります。
URL	URL からファイルを選択する場合は、そのファイルが配置されている URL を指定します。
ユーザ名（空白 = 匿名）（Username (Empty = anonymous)）	URL のファイルを使用する場合にだけ利用可能です。ファイルへのアクセスに必要なユーザ名。ユーザ名が不要な場合またはローカル ファイルを使用する場合は空白のままにします。
ドメイン	URL のファイルを使用する場合にだけ利用可能です。ファイルへのアクセスに必要なドメイン。
パスワード（Password）	URL のファイルを使用する場合にだけ利用可能です。ファイルへのアクセスに必要なパスワード。パスワードは不要な場合またはローカル ファイルを使用する場合は空白のままにします。

ファイルベースの電話帳ソースへの連絡先のインポート

ファイルベースの電話帳ソースを作成することを選択した場合、Web サーバまたは Cisco TMS サーバのローカル ディレクトリにあるカンマ区切りファイルから連絡先を設定し、インポートすることができます。

たとえば、電話帳情報を含む phonebook.txt ファイルが Cisco TMS サーバに配置されている場合：

1. [ファイル パス（File Path）] で、[参照ファイル（Browse Files）] をクリックします。
   これで、Cisco TMS サーバの **~\TANDBERG\TMS\data\ExternalSourceFiles** フォルダにあるファイルのリストが取得されます。
2. [参照…（Browse…）] をクリックします。
3. 正しいファイルを参照して選択します。
4. [開く（Open）] をクリックし、ファイルのコピーを **~\TANDBERG\TMS\data\ExternalSourceFiles** フォルダに作成します。
5. **phonebook.txt** ファイルをリストから選択し、[使用（Use）] をクリックします。
6. ファイルが空でない場合は、[連絡先の表示（View Contacts）] をクリックして、このソースから電話帳の連絡先を表示できます。そのエントリの詳細を展開するには、各エントリの左側にある矢印をクリックします。

インポートされたファイルの構造要件

インポートするファイルは、カンマ区切り値を含み、**.txt** または **.csv** 拡張子が付いている必要があります。最初の行は、各カラムの内容を説明するカラム ヘッダーを含む必要があります。

- 列ヘッダーの名前は次のようにする必要があります。
  `Id, Name, ISDNNumber, ISDNNumber2, ISDNBandwidth, Restrict, Telephone, SIPAlias, IPNumber, IPAddress, IPBandwidth`。

  IPNumber は H.323 ID または E.164 エイリアスを含む場合があることに注意してください。

- 列ヘッダーとデータ エントリはすべてカンマで区切る必要があります。
- すべての列を含める必要も、すべての列にデータを含める必要もありませんが、[名前(Name)] 列は空にできません。
- Id 列を使用することを強く推奨します。512 文字未満の任意の文字列または数字を使用できます。これは、以降のインポートで ID として使用されます。

カンマ区切りのファイルの例を次に示します。ここで、最初の行はヘッダーを含みます(一部のカラムだけにデータが含まれることに注意してください)。

```
Id,Name,ISDNNumber,SIPAlias,IPNumber,IPAddress
1,Test Entry,+1 (555)1231234,system@example.com,system@example.com,10.0.0.5
2,Test Entry2,+1 (555)1111111,system2@example.com,system2@example.com,10.0.0.6
```

Gatekeeper

電話帳ソースを作成するためにゲートキーパーの登録をインポートします。

注:SIP エントリのインポートはサポートされていません。

設定

表 128 ゲートキーパー電話帳ソースの設定

フィールド	説明
ゲートキーパーの選択(Select Gatekeeper)	現在 Cisco TMS に追加されているゲートキーパーからゲートキーパーを選択します。
ゲートキーパーのゾーン プレフィックスを含む(Include Zone Prefix from GK)	インポートした連絡先にゲートキーパーのゾーン プレフィックスを含めるには、これをオンにします。
ユーザ定義プレフィックス(User Defined Prefix)	インポートした連絡先に追加するプレフィックス。
ユーザ定義のポストフィックス(User Defined Postfix)	インポートした連絡先に追加するポストフィックス。

その他の TMS 電話帳(Other TMS Phone Book)

ソースとして Cisco TMS 電話帳から連絡先をインポートし、ネストされた電話帳を作成します。

設定

表 129 その他の TMS 電話帳ソースの設定

フィールド	説明
TMS 電話帳を選択(Select TMS Phone Book)	連絡先のインポート元にする Cisco TMS の電話帳の 1 つを選択します。

TMS ユーザ電話帳(TMS User Phone Book)

Cisco TMS に登録されているすべてのユーザからソースを作成します。デフォルトの帯域幅および更新頻度だけがこの電話帳ソースでは設定可能です。

Cisco TMS プロビジョニングディレクトリ

Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能を使用する場合は、プロビジョニング ユーザ ベースを 1 つ以上の電話帳ソースに使用できます。

設定

表 130　プロビジョニング電話帳ソースの設定

フィールド	説明
ルート ディレクトリ グループ（Root Directory Group）	Cisco TMS プロビジョニング ディレクトリ ソースを作成する場合に連絡先のインポート元にするプロビジョニング ディレクトリのルート ディレクトリ グループを指定します。
詳細設定（Advanced Settings）	
プロビジョニングされたデバイスのインポート（Import Provisioned Devices）	プロビジョニングされたデバイスを各ユーザにインポートします。
オフィスの電話をインポート（Import Office Phone）	オフィスの電話番号がユーザ ディレクトリに含まれている場合に、それを電話帳ソースにインポートします。
携帯電話をインポート（Import Mobile Phone）	携帯電話番号がユーザ ディレクトリに含まれている場合に、それを電話帳ソースにインポートします。

システムのローカル電話帳（System Local Phone Book）

エンドポイントからローカル ディレクトリをインポートします。この機能は、Cisco TelePresence MXP などのレガシー エンドポイントに対してだけサポートされています。

設定

表 131　システムのローカル電話帳ソースの設定

フィールド	説明
デフォルトの帯域幅を強制（Force Default Bandwidth）	インポートしたすべての連絡先にデフォルトの帯域幅を Cisco TMS に強制させる場合にオンにします。 電話帳ソースに設定されるすべての帯域幅は、[インポートした連絡先のデフォルト帯域幅（Default Bandwidth for Imported Contacts）] として選択された値で上書きされます（帯域幅のない、または帯域幅が [自動（Auto）] に設定されている連絡先だけではありません。上記を参照）。
システムの選択（Select a System）	ローカル電話帳のインポート元にするシステムをドロップダウン リストから選択します。

Cisco Unified Communications Manager

Cisco TMS が管理する Unified CM を電話帳ソースに使用します。設定

表 132　Unified CM 電話帳ソースの設定

フィールド	説明
Cisco Unified CM を選択（Select Cisco Unified Communications Manager）	Cisco TMS 管理対象 Unified CM をドロップダウンから選択します。
詳細設定（Advanced Settings）	
インポートした番号のプレフィックス（Prefix for Imported Numbers）	Unified CM からインポートしたすべての番号にこのプレフィックスを追加します。
インポートした番号のサフィックス（Suffix for Imported Numbers）	Unified CM からインポートしたすべての番号にこのサフィックスを追加します。

連絡先の表示

電話帳ソースを選択した後で、[連絡先の表示/編集（View/Edit Contacts）] タブに移動して連絡先を検索および表示できます。

検索するには：

1. 検索フィールドで探す人の名前を入力します。
2. [連絡先数（Number of Contacts）] で、表示する検索結果の数を選択します。このフィールドは*手動リスト*タイプのソースには適用されないことに注意してください。その場合には検索結果の最下行に表示される連絡先の数を自分で調整します。
3. [検索（Search）] をクリックします。

表示される以上に多くの結果が検索から返される場合は、このことが検索結果の最下行に通知されます。

電話帳とソースの活動状況

Cisco TMS では、[電話帳（Phone Books）] > [電話帳の活動状況（Phone Book Activity Status）] および [電話帳ソースの活動状況（Phone Book Source Activity Status）]

[電話帳の活動状況（Phone Book Activity Status）] ページでは、Cisco TMS がシステムに電話帳を送信したときに作成されるすべてのイベントが追跡されます。

[電話帳ソースの活動状況（Phone Book Sources Activity Status）] ページでは、電話帳が電話帳ソースと同期されたとき作成されるすべてのイベントが追跡されます。

進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

  下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

レポート

この章では、Cisco TMS がシステムとコールに関するデータを収集する方法、および [レポート（Reporting）] メニューから入手できる統計情報の詳細について説明します。

レポートの基本 212
レポートの作成 212
レポーティング テンプレートの使用 214
ブリッジの使用状況 215
コール詳細レコード 216
課金コードの統計 217
会議 217
システム 219

レポートの基本

レポーティング ページはすべてが同様に動作し、コア機能を共有します。

より柔軟なレポート オプションにするには、導入環境に Cisco TelePresence Management Suite の分析拡張機能（Cisco TMSAE）を追加することを推奨します。「分析拡張機能（266 ページ）」を参照してください。

データの種類

- 「コール詳細レコード（216 ページ）」。テレプレゼンス展開内のコールの頻度とコール時間を追跡します。
- 「課金コードの統計（216 ページ）」。どの課金コードが会議に適用されるかを示します。
- 「会議（216 ページ）」。ユーザごと、タイプごとなどに追跡します。
- 「システム（218 ページ）」。レポートは、システムのエラーやその他のイベントを捕捉します。

履歴消去設定がレポートに与える影響

統計計算の多くは通話ログに基づきます。ログが一定時間後に消去されると、古い日付にまたがる計算に誤りが生じます。

ログ消去の設定を表示または変更するには：

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）] に移動します。
2. [データベース テーブル プランの旧データの消去（Purge Old Data in Database Tables Plan）] セクションを展開します。
3. 任意のエントリを変更するには、[編集（Edit）] をクリックします。
4. 変更した各エントリに対して [更新（Update）] をクリックします。

レポートの作成

すべてのレポート クエリー フォームは検索するデフォルト値を含みます。これらのデフォルト値は、「レポートの設定（241 ページ）」で確認および変更できます。

カスタム レポートを生成するには:

1. 検索の開始および終了時間を入力します。レポートのタイプに応じて、日付および特定の時刻の両方を追加するオプションがある場合があります。
2. 追加の検索基準を指定します。

表 133 レポート検索の検索条件

計算単位（Calculate By）	レポートがどのように計算されるかを定義し、グラフの Y 軸上の単位を設定します。次の設定に基づいてレポートを生成できます。 – 期間（Duration） – 発生回数（Number of Occurrences） – [使用率（Utilization）]:ビデオ システムが特定の時間範囲で平均して使用中であった時間の割合を表示します。
通話プロトコル（Call Protocols）	特定の通話プロトコルを使用して発信された通話を表示するには、目的のプロトコルを選択します。いずれのプロトコルが使用されたかを無視してすべての通話を表示する場合は、[すべての通話プロトコル（All Call Protocols）] を選択します。
会議タイプ	どのような会議の種類をレポートの生成に使用すべきかを定義します。次のレポートを生成できます。 – *スケジュール済み会議* – *アドホック会議* – *すべての会議*
グラフの種類（Graph Types）	グラフの X 軸に表示される単位を設定します。 – [日付の範囲（Date Range）]: · 計算基準が [期間（Duration）] の場合、指定した時間範囲に行われたコールの合計時間（分単位）が、指定した日付範囲の日ごとにプロットされます。 · 計算基準が [発生回数（Number of Occurrences）] の場合、チャートには指定した時間範囲に行われたコールの回数が表示されます。 · 計算基準が [使用率（Utilization）] の場合、チャートには指定した時間範囲におけるビデオ システムの平均使用時間の割合が表示されます。 – [月の日付（Day of the Month）]:このグラフには、月の日付別にコールの分布がプロットされます。 · 計算基準が [期間（Duration）] の場合、日付の範囲内で月の日付ごとに指定した時間範囲における通話時間が合計されます。例:500 分のビデオ コールが 1 月 11 日の指定した時間範囲に発生し、2 月 11 日に 900 分発生したときに、日付範囲のスパンが 1 月および 2 月であれば、図の 11 日の値は 1400 分になります。 · 計算基準が [発生回数（Number of Occurrences）] の場合、チャートには月の日付別のコール回数の分布が表示されます。 · 計算基準が [使用率（Utilization）] の場合、チャートには月の日ごとに平均使用率の変化が表示されます。 – [曜日（Day of the Week）]:このグラフには、曜日ごとに期間、コール回数、使用率の変化が表示されます。 – [時刻（Time of Day）]:このグラフには、指定した時間範囲の時刻における期間、コール回数、使用率の変化が表示されます。
システム カテゴリ（System Category）	いずれのタイプのシステムの統計データを含めるかを選択します。

3. 一部のレポート クエリ フォームでは、[システム フィルタ（Filter Systems）] ボタンを使用して、含める対象とする特定のシステムを選択することができます。
   - システムを指定しない場合、すべての使用可能なシステムが含まれます。
   - ナビゲータ ビューで目的のシステムを選択するには、このボタンをクリックします。
4. レポートを生成するには、[検索（Search）] をクリックします。
5. 同じ検索を後で再利用する場合は、[テンプレートとして保存（Save as Template）] をクリックします。詳細については、「レポーティング テンプレートの使用（213 ページ）」を参照してください。
6. 検索結果をどのように表示するかを選択するにはクエリー領域の下にあるタブを使用します。
   - [チャート（Chart）] ビュー：データのグラフィカル表示です。
   - [データ（Data）] ビュー：通話履歴、イベント ログ、会議履歴など、レポートを構成する実際のデータを表形式で表示します。

Excel シートへのデータのエクスポート

[データ（Data）] タブで、Excel シートにすべてのデータをエクスポートするには [Excel にエクスポート（Export Excel）] をクリックします。

エクスポートされた **.csv** ファイルには、[データ（Data）] タブには表示されない追加情報が含まれます。

レポーティング テンプレートの使用

Cisco TMS では、[レポート（Reporting）] > [レポーティング テンプレート（Reporting Templates）]

テンプレートの作成

レポーティング テンプレートの作成は、Cisco TMS のレポーティング ページのほとんどで実行できます。

1. クエリ フィールドの [テンプレートとして保存（Save as Template）] ボタンをクリックします。
2. テンプレートに付ける一意の名前を入力します。
3. [保存（Save）] をクリックします。
4. 保存されている検索が、[レポーティング テンプレート（Reporting Templates）] ページで使用可能です。

テンプレート検索の表示および実行

[マイ テンプレート（My Templates）] および [すべてのテンプレート（All Templates）] タブの両方ですべてのテンプレート検索を実行できます。日付は保存されるクエリーと同じ時間間隔で現在の日付に調整されます。

テンプレート検索を実行するには：

1. 次のいずれかの操作を実行して、使用可能なテンプレートを表示します。
   - [レポート（Reporting）] メニューのいずれかのページで [テンプレートの一覧表示（List Templates）] ボタンをクリックして、そのページのすべての保存済みテンプレートをポップアップ ウィンドウに表示します。
   - [レポート（Reporting）] > [レポーティング テンプレート（Reporting Templates）] に移動すると、テンプレートとして保存されたすべての検索が一覧表示されます。誰がいずれのレポーティング ページからテンプレートを作成したかも表示されます。
2. 目的のテンプレートの上にマウス ポインタを置き、ドロップダウン ボタンをクリックし、ドロップダウン メニューの [レポーティング テンプレートを実行する（Run Reporting Template）] を選択します。

テンプレート検索の自動実行

すべてのレポーティング テンプレート検索が自動的に実行できます。

1. ブラウザのアドレス フィールドに、目的のレポーティング ページの URL を入力し、末尾に **`&RunStatTemp=<template name>`** を追加します。
2. `Enter` を押すと、要求されたテンプレート検索が実行されます。

たとえば、`http://<servername>/tms/default.aspx?pageId=29&RunStatTemp=CDR_All_systems_monthly` と入力すると、CDR_All_systems_monthly という名前のテンプレート検索が [詳しい通話記録（Call Detail Record）] ページで実行されます。

テンプレートの編集と削除

作成したテンプレートだけを編集および削除できます。

編集するには：

1. 変更するテンプレートのドロップダウン メニューから [編集（Edit）] を選択します。
2. 必要に応じてテンプレート検索を変更します。
3. [テンプレートとして保存（Save as Template）] をクリックします。
4. 既存のテンプレートを上書きするかどうかが尋ねられます。
   - 元のテンプレートを更新するには、[はい（Yes）] をクリックします。
   - 変更した検索を新しいテンプレートとして保存するには、[いいえ（No）] をクリックします。
     1. 新しいテンプレートの名前を入力します。
     2. [保存（Save）] をクリックします。
   - テンプレートの編集画面に戻るには、[キャンセル（Cancel）] をクリックします。

削除するには：

1. 削除するテンプレートの横にあるチェックボックスを選択します。
2. [削除（Delete）] をクリックします。
3. テンプレートを削除することを確認するには、[OK] をクリックします。

ブリッジの使用状況

[ブリッジの使用状況（Bridge Utilization）] ページには、Cisco TMS の管理対象ブリッジの使用量に関するレポート情報が含まれています。データは、直接管理される TelePresence Server および TelePresence MCU からのみ収集されます。

2 つのグラフと 1 つのテーブルにより、ブリッジの使用量が示されます。上側のグラフでは、合計容量と指定した時点におけるピークのコール件数を比較します。下側のグラフでは、同じ情報を割合で表示します。テーブルには、選択した情報が raw データとして表示されます。

次の点に注意してください。

- レポートに含まれるのは、ビデオ コールのデータのみです。
- TelePresence Conductor、TelePresence Conductor の管理対象ブリッジ、および管理対象外ブリッジのレポート データは、このレポートには含まれません。
- 常設会議は、その会議の終了日以降のレポート データにのみ含まれます。

レポート メカニズムおよびログ

データは、SQL データベースの抽出、変換、書き込み（ETL）プロセスを使用して収集されます。

ETL ジョブの動作は次のとおりです。

- 毎日午前 04:05 に実行されます。前日の 00:00 から 23:59 までのデータを処理します。したがって、00:05 に終了したコールは、当日のデータではなく翌日のデータに影響を与えます。
- データベース集約型ではありません。

ETL ログは、[診断ファイルのダウンロード（Download Diagnostic Files）] ダウンロード バンドルに含まれます。データの保存期間は 30 日です。ログは自浄式であり、ログ レベル情報のみを含みます。

トラブルシューティング

トラブルシューティングに役立つ情報については、トラブルシューティングの章の「ブリッジの使用状況レポート（293 ページ）」を参照してください。

コール詳細レコード

Cisco TMS では、[レポート（Reporting）] > [詳しい通話記録（Call Detail Record）]

[レポート（Reporting）] > [詳しい通話記録（Call Detail Record）] メニュー セクションのページにはサポートされるすべての Cisco TMS の管理対象システムの詳しい通話記録のレポート オプションが含まれます。

詳しい通話記録とは何か

詳しい通話記録は通話（ビデオ会議または音声）が終了すると作成されます。さまざまなシステムが CDR を生成し、さまざまなメカニズムを使用して Cisco TMS と共有します。このため、データは異なる方法で処理および解釈され、同じ通話に参加した異なるシステムの CDR が矛盾する結果になる場合があります。

CDR の主要な情報は次のとおりです。

- コール参加者（システム）
- 期間
- 使用する暗号化モードおよびプロトコル

CDR ベースのレポートは、テレプレゼンス ネットワーク配置がどのように使用されるかの計画および確認で一般に使用されます。CDR により、より多くのテレプレゼンス リソースが必要な場所や、既存の機器の使用率での潜在能力が明らかになる可能性があります。Cisco TMS 統計情報を生成できるさまざまなタイプのシステムと、それらの統計がどのように取得されるかの簡単な説明を次に示します。

Cisco TMS の CDR はベスト エフォートと見なすべきで、表示されるデータの品質はシステムから受信したデータの品質に依存することに注意してください。

エンドポイント

Cisco TMS によって管理されるエンドポイントは CDR を生成し、それをコール終了後に Cisco TMS へすぐに伝達します。

エンドポイント CDR に基づくレポートは [エンドポイントと MCU（Endpoints and MCUs）] ページ（ここには、蓄積した 2 つの異なる CDR を表示するオプションもある）または [エンドポイント（Endpoints）] ページに生成できます。

これらのレポートの両方には Cisco TMS が管理するエンドポイントだけが含まれることに注意してください。プロビジョニングされたエンドポイントの統計情報は、[ユーザ（User）]（216 ページ）で使用できます。

MCU

Cisco TMS データベース スキャナ サービスは定期的に MCU CDR を要求します。

MCU CDR に基づくレポートは [エンドポイントと MCU（Endpoints and MCUs）] ページ（ここには、蓄積した 2 つの異なる CDR を表示するオプションもある）または [MCU] ページに生成できます。

外部参加者はエンドポイント レポートではなく MCU CDR レポートにのみ表示されます。

MCU 使用率チャートに表示される最小値は 1 % です。計算値が 1 % 未満の場合、MCU 使用率チャートに表示するにはデータとして不十分なため、使用率は 0 % であるとみなされます。

ゲートキーパーおよび VCS

Cisco VCS は、イベントが発生すると、Cisco TMS にコール データとその他のイベントを送信します。[ゲートキーパー CDR（Gatekeeper CDRs）] ページでは、このコール データに基づいてレポートを作成できます。

図は、各デバイス タイプによって処理されたコールの量を示します。特定の Cisco VCS のコール データを取得するには、図のバーをクリックするか、[データ（Data）] タブのシステムを選択します。

ユーザ

[ユーザ CDR（User CDR）] ページは、Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能（Cisco TMSPE）がインストールされ、アクティブになっている場合のみ表示されます。

これらの CDR はユーザごとにリストされます。

次の点に注意してください。

- ユーザ CDR は発信コールに対してのみ生成されます。
- ユーザ CDR は、発信コールを行うエンドポイントが登録されている Cisco VCS でのみ生成されます。
- ユーザ CDR は、発信コールを行うエンドポイントが登録されている Cisco VCS からコール切断フィードバックを受け取る Cisco TMS サーバでのみ表示されます。Cisco VCS の負荷が高いと Cisco TMS へのフィードバック イベントの送信が失敗する可能性がありますが、再試行のメカニズムはありません。
- Cisco TMS の [ゲートキーパー ログの数値をユーザに解決（Resolve users from numbers in gatekeeper log）] というスケジュール タスクにより、フィードバック イベントが Cisco TMSPE ユーザに解決されます。このタスクは 5 分おきに実行されるため、ユーザ CDR が作成されるまでには多少の遅れがあります。
- Cisco TMS は、Cisco VCS からのフィードバックを解決するときに、時間がゼロのコールを除外します。

ユーザ CDR は、Cisco TMS の他の CDR と同様に、ベスト エフォートと見なす必要があります。

TelePresence Content Server

TelePresence Content Server を Cisco TMS で管理している場合、それらのサーバの CDR ベースのレポートは、[コンテンツ サーバ（Content Server）] ページで確認できます。

各サーバの [コンテンツ サーバの活動ログ（Content Server Activity Log）] を表示するには、チャート ビューのバーを選択します。

ゲートウェイ

ゲートウェイの CDR ベースのレポートは、[ゲートウェイ（Gateway）] ページで確認できます。

図は、通話プロトコル別にフィルタリングされたアクティビティを示します。

課金コードの統計

Cisco TMS では、[レポート（Reporting）] > [課金コードの統計（Billing Code Statistics）]

[課金コードの統計（Billing Code Statistics）] ページで、選択した課金コードの統計情報を生成し、表示してその CDR（詳しい通話記録）をエクスポートできます。これには、スケジュールされたコールおよびスケジュールされていないコールの課金コードが含まれます。

データは、選択した課金コードに定義された時間間隔で収集できます。20 の課金コードだけがチャートに表示されます。より多く表示するには [ページング（Paging）] ドロップダウンを使用します。

会議

Cisco TMS では、[レポート（Reporting）] > [会議（Conferences）]

[レポート（Reporting）] > [会議（Conferences）] メニュー セクションのページには、Cisco TMS のスケジュールされた会議およびスケジュールされていない会議用のレポート オプションが含まれます。

会議統計（Conference Statistics）

[会議統計（Conference Statistics）] ページで、指定された時間間隔のスケジュールされた会議およびアドホック会議の統計情報を生成できます。

会議リソース

[会議リソースの概要（Conference Resources Overview）] ページには、会議で使用される Cisco TMS が登録したそれぞれのリソースについてのレポートを表示できます。このようなリソースには、エンドポイント、MCU、ゲートウェイ、および Cisco VCS が含まれます。

データは、選択したシステムに定義された時間間隔で収集できます。

生成されたチャートを閲覧するには、[ページング（Paging）] ドロップダウンを使用します。

イベント

[会議イベントの概要（Conference Events Overview）] ページでは、会議に登録されているすべてのイベントを説明する詳細ログを取得できます。これらのイベントには、スケジューリング、暗号化ステータス、すべてのエラーなどが一般に含まれます。

次のイベントのいずれかがログに記録された場合に、会議を表すバーの色が赤に変わるため、図はいずれの会議でエラーが発生したかを示します。

- 起動
- リンク ダウン
- 接続エラー
- 応答なし
- ダウンスピード

20 の最後の会議だけが生成された図に示されます。

スケジューリング インターフェイス

[スケジューリング インターフェイス（Scheduling Interfaces）] ページではスケジューリングの使用頻度が最も高いツールと最も低いツールを表示できます。図は、指定された期間について各ユーザがスケジュールした 1 ユーザあたりの分単位の時間、およびコールのスケジューリングに使用されたツールを示します。

可能なスケジューリング インターフェイスは次のとおりです。

- 「新しい会議（159 ページ）」
- Smart Scheduler
- Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange（Cisco TMSXE）
- Cisco TelePresence Management Suite Extension for IBM Lotus Notes（Cisco TMSXN）
- Cisco TelePresence Management Suite Extension Booking API（Cisco TMSBA）を使用する任意のサードパーティ アプリケーション

ブリッジ メソッド

このレポートは、いずれのブリッジ メソッド、つまりマルチサイト オプションが、テレプレゼンス ネットワークで使用されるかを観察するのに役立ちます。

[ブリッジ メソッド（Bridging Methods）] ページでは、Cisco TMS の各システムで設定された、次に示す各タイプ（**コール タイプ**）の会議の分布を表示できます。

- [ポイントツーポイント（Point-to-point）]：エンドポイントは、別のエンドポイントとのポイントツーポイント コール中でした。
- [マルチポイント（Multipoint）]：エンドポイントは、外部 MCU を含む、または内部 MCU のある別のエンドポイント（マルチサイト オプション）を含むマルチポイント会議中でした。
- [内部 MCU（Internal MCU）]：エンドポイントは、内部 MCU を使用するマルチポイント会議中でした。
- [内部 MCU カスケード（Internal MCU cascaded）]：エンドポイントは、内部 MCU を使用するカスケード マルチポイント会議中でした。

カスケード会議、多方向会議、および通常の MCU 会議の表示

MCU のカスケード会議、多方向会議、および通常の MCU 会議の分布を表示することもできます。

- [外部 MCU（External MCU）]：MCU はマルチポイント会議で使用されました。
- [外部 MCU カスケード（External MCU cascaded）]：MCU はカスケード マルチポイント会議で使用されましたが、会議の他の MCU は別の MCU または内部 MCU のあるエンドポイントでした。
- [多方向（Multiway）]：MCU は多方向会議で使用されました。

システム（System）

Cisco TMS では、[レポート（Reporting）] > [システム（System）]

[レポート（Reporting）] > [システム（System）] メニュー セクションのページには、管理対象システムのデータ用のレポート オプションが含まれます。これは、これらのレポートのいずれも、プロビジョニングされたエンドポイントを扱わないことを意味します。これらのレポート オプションの多くも、特定のタイプのエンドポイントだけでのみサポートされています。

チケット ログ（Ticket Log）

[チケット ログ（Ticket Log）] は、Cisco TMS のシステムで発生したすべてのシステム チケットを、ネットワーク アドレス、チケットの発生時間、およびチケットの説明とともに報告します。

フィードバック ログ（Feedback Log）

[フィードバック ログ（Feedback Log）] は、Cisco TMS のシステムでのスケジューリング、エラー、および暗号化ステータスなどのイベントを報告します。

SNMP に依存するシステムから Cisco TMS がイベントを受信するには、システムのトラップホスト IP アドレスが [モニタリング/SNMP 設定（Monitoring/SNMP Settings）] の下の Cisco TMS サーバの IP アドレスに設定されている必要があります。その他の詳細については、「ナビゲータ（65 ページ）」で、関連のシステム タイプの説明を参照してください。

接続エラー

[接続エラー（Connection Error）] ページには、原因コードのみで接続エラーについて説明する詳細なログが表示されます。この情報は、Cisco TMS 内のシステムに向かうネットワーク接続に問題があるかどうかを判断するときに役立ちます。

特定のシステムのログを表示するには、システムの横にあるチェックボックスをオンにして、ページの下部にある [表示（View）] ボタンをクリックします。

システム接続

[システム接続（System Connection）] ページには、システムのすべての管理接続と Cisco VCS への登録の試行が表示されます。

認証失敗（Authentication Failure）

[認証エラー（Authentication Failure）] ページには、Telnet、HTTP、または SNMP によるシステムへのアクセスにパスワードを必要とするシステムについて、すべての失敗したログイン試行に関する情報が提供されます。

ブート

[ブート（Boot）] ページには、Cisco TMS に登録されたシステムのすべてのブート イベントの統計情報が表示されます。

履歴（History）

[履歴（History）] ページでは、Cisco TMS の登録済みシステムで行われた変更がまとめて一覧表示されます。これはシステム ナビゲータのシステムごとに [システム履歴（System History）] タブを選択したときに表示されるデータと同じですが、ここではすべてのシステムにわたる概要が取得されます。

管理ツール（Administrative Tools）

この章には、Cisco TMS の [管理ツール（Administrative Tools）] セクションにあるすべてのページの参考情報が含まれています。このセクションには、設定、ユーザ管理、コール ルーティング、および課金コード管理のためのツールが含まれています。

設定 220
ユーザ管理 251
ロケーション 262
課金コード 264
診断 266
活動状況 268
分析拡張機能 268
TMS サーバ メンテナンス 269
監査ログ 271

設定（Configuration）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）]

[設定（Configuration）] メニューは、Cisco TMS アプリケーションの設定を変更し、会議、電子メール、ネットワーク、エラー、およびインストールした拡張製品のデフォルトを設定することができる場所です。

全般設定

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）]

表 134　[全般設定（General Settings）] セクションの設定

フィールド	説明
TMS リリース キー（TMS Release Key）	これは、Cisco TMS インストールのリリース キーです。 リリース キーはサポートまたは新しいオプション キーについてシスコに連絡するときに指定する必要があります。
デフォルト タイム ゾーン（Default Time Zone）	Cisco TMS でのユーザとシステムのデフォルトのタイム ゾーンを指定します。 次の場合は、自分のタイム ゾーンがユーザに表示されます。 ■ 新しい会議の予約。 ■ 既存の会議の一覧表示。 異なるタイム ゾーンに対して作成された予約の詳細を編集または表示しているときは、会議のタイム ゾーンが表示され、このことがユーザに通知されます。
デフォルト ISDN ゾーン（Default ISDN Zone）	Cisco TMS のシステムにデフォルトの ISDN ゾーンを指定します。
デフォルト IP ゾーン（Default IP Zone）	Cisco TMS のシステムにデフォルトの IP ゾーンを指定します。

表 134　[全般設定（General Settings）] セクションの設定（続き）

フィールド	説明
ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）	システム アップグレード用のシステム ソフトウェアが保存されている Cisco TMS サーバ上にあるソフトウェア ディレクトリ。 このロケーションは、サーバ自体でアクセスされる Cisco TMS ツール プログラムを使用して編集します。次を参照してください。
システム管理者名（System Contact Name）	Cisco TMS システムの連絡先担当者の名前。この名前は、すべてのページの Cisco TMS フッターに表示されます。
システム連絡先の電子メール アドレス（System Contact Email Address）	Cisco TMS システムの連絡先担当者の電子メール アドレス。Cisco TMS フッターのシステム連絡先の名前は、このアドレスが設定されている場合、クリックできる電子メール リンクです。
グローバル電話帳ソート（Global Phone Book Sort）	Cisco TMS からシステムに送信されるグローバル電話帳エントリをソートする方法を指定します。 ■ *[デフォルトの TMS ソート（Default TMS Sort）]：Cisco TMS サーバの言語に従ってソートします。* ■ *[システム固有のソート（System Specific Sort）]：システムの言語に従ってソートします。*
電話帳ルート エントリ（Route Phone Book entries）	この設定は、[シスコ システムの電話帳（Cisco System Phone Books）] で指定した電話帳に適用されます。 ■ *[はい（Yes）] はデフォルト設定で、ダイヤルできるアドレスのみがエンドポイントに表示されることを意味します。たとえば、H.323 専用エンドポイントに、ISDN 番号および SIP アドレスは表示されません。* ■ *[いいえ（No）] は、ダイヤル機能に関係なく、電話帳のすべてのアドレスおよび番号がエンドポイントに表示されることを意味します。*
シスコ システムの電話帳（Cisco System Phone Books）	使用する電話帳のタイプを選択します。 ■ *TMS の一元化された電話帳だけを使用（企業電話帳）（Use centralized TMS phone books only (corporate phone book)）* ■ *一元化された電話帳とダウンロードした電話帳の両方を使用（両方）（Use both centralized and downloaded phone books (both)）* ■ *システムにダウンロードしたグローバル電話帳だけを使用（グローバル電話帳）（Use global phone books downloaded to systems only (global phone book)）* ダウンロードした電話帳はレガシー TANDBERG エンドポイントだけでサポートされるため、[社内電話帳（corporate phone book）] または [両方（both）] を選択することを推奨します。 デフォルト設定は [両方（both）] で、企業ディレクトリのライブ検索に失敗した場合に、グローバル ディレクトリが使用可能になります。 詳細については、「電話帳タイプ（197 ページ）」を参照してください。
電話帳更新頻度（Phone Books Update Frequency）	グローバル電話帳をシステムにダウンロードする頻度を指定します。これはレガシー エンドポイントだけに関連していることに注意してください。 次のオプションがあります。 ■ *設定なし（Not Set）* ■ *1 時間ごと（Every Hour）* ■ *毎日（Every Day）*
電話帳の更新日時（Phone Books Update Time of Day）	[電話帳更新頻度（Phone Books Update Frequency）] が [毎日（Every Day）] に設定されている場合は、ここに時刻を設定します。

表 134 [全般設定（General Settings）] セクションの設定（続き）

フィールド	説明
エンドポイントおよび会議室の代替システム名ルール（使用する名前の順序）	Cisco TMS でシステム名を表示する方法を指定します。次のオプションがあります。 ■ [システム名のみを使用（Use System Name only）]（空白の場合は [名前がありません（No Name）] と表示されます）：システム名が Cisco TMS に表示されますが、システム名が設定されていない場合は [名前がありません（No Name）] と表示されます。 ■ [システム名/ネットワーク アドレス（System Name/Network Address）]：空白でない場合は [システム名（System Name）] が Cisco TMS に表示され、空白の場合は [ネットワーク アドレス（Network Address）] が表示されます。 ■ [H.323 ID/システム名/ネットワーク アドレス（H.323 ID/System Name/Network Address）]：設定されている場合は [H.323 ID] が Cisco TMS に表示されます。[H.323 ID] が設定されていない場合、空白でなければ [システム名（System Name）] が Cisco TMS に表示されます。[システム名（System Name）] が空白の場合は、[ネットワーク アドレス（Network Address）] が表示されます。 ■ [H.323 ID/E.164 エイリアス/システム名/ネットワーク アドレス（H.323 ID/E.164 alias/System Name/Network Address）]：設定されている場合は [H.323 ID] が Cisco TMS に表示されます。[H.323 ID] が設定されていない場合、Cisco TMS は [E.164 エイリアス（E.164 Alias）] を表示します。E.164 エイリアスが設定されていない場合、[システム名（System Name）] が表示されます（空白でない場合）。[システム名（System Name）] が空白の場合は、[ネットワーク アドレス（Network Address）] が表示されます。
監査の有効化（Enable Auditing）	[はい（Yes）] に設定すると、Cisco TMS の設定、システム、フォルダ、ユーザ、グループ上のすべての更新、作成、削除の操作が Cisco TMS により記録されます。 このログは、[管理ツール（Administrative Tools）] > **[監査ログ（Audit Log）]（269 ページ）** にあります。 この設定は、[Cisco TMS ツール（Cisco TMS Tools）] で上書きできます。
Provisioning Mode	Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能がインストールされている場合は、この設定を使用して、その拡張機能をアクティブ化または非アクティブ化できます。次のオプションがあります。 ■ オフ（Off） ■ プロビジョニング拡張機能（Provisioning Extension） 拡張機能のインストールとアクティブ化の詳細については、『*Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide*』を参照してください。
分析拡張機能管理 URL（Analytics Extension Admin URL）	この設定を使用して、Cisco TelePresence Management Suite の分析拡張機能（Cisco TMSAE）Web インターフェイスへの URL を変更できます。この設定は、拡張機能をインストールした場合にだけ使用できます。 拡張機能のインストールと設定の詳細については、*Cisco TelePresence Management Suite 分析拡張機能インストール ガイド* [英語] を参照してください。
ログイン バナーの有効化（Enable Login Banner）	このフィールドに入力したテキストは、各ユーザが Cisco TMS に接続したときに表示されます。ユーザが 1 時間以上非アクティブだった後に Cisco TMS を使用し始めると、テキストが再度表示されます。イネーブルにするには: 1. [はい（Yes）] を選択します。 2. [ログイン バナーの編集（Edit Login Banner）] をクリックします。 3. ユーザに表示するテキストを入力します。 4. [ログイン バナー（Login Banner）] ウィンドウの [保存（Save）] をクリックします。 5. ページで [保存（Save）] をクリックします。
ナビゲータ ツリーでシステムを表示する（Show Systems In Navigator Tree）	*[はい（Yes）]* に設定した場合、すべてのシステムを [ナビゲータ（Navigator）] ツリー（[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] の左側のセクション）で表示できます。 *[いいえ（No）]* に設定すると、[ナビゲータ（Navigator）] ツリーでフォルダだけを表示できます。 フォルダを選択すると、システムを右側のセクションで表示できます。

ライセンスとオプション キー（Licenses and Option Keys）

注：5000 個を上回るシステム ライセンスを追加すると、5000 個を上回るシステムの利用がサポートされないことを示す警告が表示されます。この警告は、[全般設定（General Settings）] ページにアクセスするたびに表示されます。導入環境のシステム数が 5000 個を超えた場合、または 5000 個を超える可能性がある場合は、tms-marketing@cisco.com にお問い合わせください。

表 135 [ライセンスとオプション キー（Licenses and Option Keys）] セクションの説明

セクション名	説明
ライセンス	使用中のライセンス数と利用可能なライセンス数の概要です。
有効なアプリケーション統合クライアント	このセクションは、アクティブな Cisco TMSBA クライアントがある場合のみ表示されます。現在アクティブなすべてのアプリケーション統合クライアントが一覧表示されます。 表には以下の項目が表示されます。 ■ [セッション ID（Session ID）]：Cisco TMSBA のバージョン 13 以降を使用するクライアントのみが、必要に応じてこの ID を使用します。 ■ [ネットワーク アドレス（Network Address）]：ホスト名または IP アドレスです。冗長 Cisco TMS 展開ではロード バランサのアドレスになることがあります。 ■ [前回のアクセス（Last Access）]：前回のアクセスのタイムスタンプです。
オプション キー（Option Keys）	Cisco TMS に追加されたすべてのオプション キーが一覧表示されます。

[オプション キーを追加（Add Option Key）] をクリックして Cisco TMS にオプション キーを追加します。選択したオプション キーを Cisco TMS から削除するには、[削除（Delete）] をクリックします。

ネットワーク設定（Network Settings）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）]

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定

セクションおよびフィールド	説明
一般的なネットワークの設定	
Telnet/HTTP の接続のタイムアウト（秒単位）（Telnet/HTTP Connection Timeout (in seconds)）	システムの Telnet または HTTP サービスの応答をタイムアウトにするまで Cisco TMS が待機する秒数。
Telnet/HTTP のコマンドのタイムアウト（秒単位）（Telnet/HTTP Command Timeout (in seconds)）	タイムアウトになる前に、システムが Telnet または HTTP コマンドに応答するのを Cisco TMS が待つ秒数。
SNMP タイムアウト（秒）（SNMP Timeout (in seconds)）	Cisco TMS が SNMP クエリーへの応答を待つ秒数。

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
SNMP コミュニティ名（SNMP Community Name）	Cisco TMS で使用されるデフォルト値は次のとおりです。 ■ `public` ■ **パブリック（`Public`）** ■ `RVGET2` ■ `RVGK` 複数のコミュニティ名はコンマ区切りリストで入力します。 データベースの SNMP コミュニティ名の長さの上限は 255 文字です。したがって、コミュニティ名が 1 つの場合は 255 文字まで、複数ある場合は合計 255 文字までの名前を使用できます。コンマも文字数に含まれます。
DNS を無視（Override DNS）	[はい（Yes）] に設定すると、Cisco TMS は DNS 名ではなく IP アドレスを使用してシステムと通信します。
DNS タイムアウト（秒単位）（FTP Timeout (in seconds)）	タイムアウトになる前に Cisco TMS が DNS クエリへの応答を待つ秒数。
システム追跡用デフォルトシステム ID タイプ（Default System Identifier type to track systems）	Cisco TMS が管理対象システムへの接続に、*IP アドレス*、*MAC アドレス*、または*ホスト名*のどれを使用するか選択します。
ソフトウェア パッケージがダウンロードできる URL（URL where software packages can be downloaded）	注：*この機能は従来のシステムにのみ適用されます。*このフィールドは、バージョン TC 6.x 以降のソフトウェアを実行しているエンドポイントでは使用されません。代わりに、後続の [社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）] セクションで Cisco TMS に設定されている、正しいパスが自動的に追加されているアドレスが使用されます。 ファイアウォール/NAT の背後のエンドポイントでソフトウェアのアップグレードを実行するときに使用する URL を指定します。エンドポイントはこの URL に接続してソフトウェア パッケージをダウンロードします。 デフォルトのディレクトリは **TMS/public/data/software** で、Cisco TMS は [システム（Systems）] > [システムのアップグレード（System Upgrade）] > [ソフトウェア マネージャ（Software Manager）] にあるパッケージのリストを取得します。
イベント通知（Event Notifications）	
システムおよびネットワークの通知を受信する電子メール アドレス（Email Addresses to Receive System and Network Notifications）	イベント通知が作成されるときに、電子メールを受信する電子メール アドレスを指定します。 複数のアドレスはコンマ区切りリストで入力します。
SMNP トラップホスト IP アドレス（SNMP Traphost IP Address）	*レガシー システムのみ。* Cisco TMS MIB ファイルをアップロードする 1 つ以上の外部トラップホストを使用している場合は、該当するイベント通知の受信時に Cisco TMS から SNMP トラップを受信する IP アドレスのコンマ区切りのリストを指定します。
トラップの SNMP バージョン（SNMP Version for Traps）	このフィールドは編集できません。Cisco TMS は SNMPv2 のみを使用します。

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
システムの自動検出（Automatic System Discovery）	
システムの自動検出モード（Automatic System Discovery Mode）	Cisco TMS は、システムを自動的に検出および登録できます。この機能を使用するには、HTTP イベントまたは SNMP トラップが Cisco TMS に送信されるようにシステムを設定する必要があります。 [オフ（Off）] に設定すると、システムはフォルダには追加されませんが、自動検出は行われます。自動検出システムは、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムの追加（Add Systems）] > [Unified CM または TMS からの追加（Add from Unified CM or TMS）] > [TMS] に移動し、ここからフォルダに追加することで表示できます。 システムが検出されるたびに、電子メール通知が、[システムおよびネットワーク通知を受信するための電子メールアドレス（Email Addresses to Receive System and Network Notifications）] で指定された電子メール アドレスに送信されます。
検出されたシステムのデフォルトの構成テンプレート（Default Configuration Template for Discovered Systems）	検出されたシステムに対して、デフォルトの設定テンプレートを適用するように Cisco TMS を設定できます。 デフォルトの *Discovered Systems Template* では、以下が適用されます。 ■ デフォルト IP ゾーン ■ 電話帳 このテンプレートは、ドロップダウン メニューで別のテンプレートを選択するか、デフォルト テンプレートを編集するか、新しいテンプレートを作成することで変更できます。
検出されたシステムのデフォルト フォルダ（Default Folder for Discovered Systems）	[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で検出されたシステムをこのフォルダに追加します。
ファイアウォール/NAT の背後のエンドポイント用の自動ディスカバリ機能モード(Automatic System Discovery Mode for Endpoints behind a Firewall/NAT)	ファイアウォール/NAT の背後にあるエンドポイントを自動的に検出して登録するようにするには、フィードバックが Cisco TMS に送信されるよう、各エンドポイントを設定する必要があります。 システムが検出されるたびに、電子メール通知が、[システムおよびネットワーク通知を受信するための電子メールアドレス（Email Addresses to Receive System and Network Notifications）] で指定された電子メール アドレスに送信されます。
ファイアウォール/NAT の背後で検出されたエンドポイントのデフォルト テンプレート（Default Template for Discovered Endpoints behind a Firewall/NAT）	前述の「**検出されたシステムのデフォルトの構成テンプレート（Default Configuration Template for Discovered Systems）**」を参照してください。
Active Directory	
Active Directory からのユーザ情報のルックアップ（Lookup User Information from Active Directory）	イネーブルにすると、Cisco TMS にログインしている、またはブッキング API（Cisco TMSBA）を使用しているユーザにより Active Directory 内のユーザおよびグループ情報の参照が生成されます。 ディセーブルにすると、このセクションの他のフィールドがグレー表示になります。
GC サーバまたは AD フォレストの DNS 名（GC server or AD forest DNS name）	GC（グローバル カタログ）サーバまたは AD フォレストの DNS 名を指定します。 フォレスト構造が複雑すぎる場合、グローバル カタログ（GC）への接続を設定するには、ポート 3268 が必要です。ポート 3268 を使用し、ドメイン名とコロンを加えます。たとえば `[domain.com:3268]`
AD ルックアップ アカウント - ユーザ名（AD Lookup Account - Username）	Cisco TMS が Active Directory への接続に使用するユーザ名、パスワードおよびドメインを指定します。
AD ルックアップ アカウント - ドメイン（AD Lookup Account - Domain）	
AD ルックアップ アカウント - パスワード（AD Lookup Account - Password）	

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
AD の同期スケジュール（AD synchronization schedule）	ユーザとグループの Active Directory 同期の曜日および時間を指定します。
AD グループの許可（Allow AD Groups）	[はい（Yes）] に設定した場合、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] で Cisco TMS グループを Active Directory グループにマッピングできます。「グループ（250 ページ）」を参照してください。
Active Directory へのテスト接続（Test connection to Active Directory）	テストするには、[保存して接続をテスト（Save and Test connection）] をクリックします。Active Directory への接続が成功すると、「Active Directory <AD 名> への接続に成功しました（Successfully connected to Active Directory <AD name >）」というメッセージが表示されます。
TMS サービス	
SNMP の機能のあるシステムをスキャンし、アクセス不可能な状況をすばやく検出します（Scan SNMP Capable Systems to Allow Quick Discovery of Inaccessibility）	*レガシー システムのみ。* Cisco TMS によるすべての SNMP 対応システムの定期的なポーリングを有効にします。頻度は次のフィールドに設定されます。
System Alive-Status Scan Interval (in seconds)	ポーリングの間隔を指定します。
システムをアクセス不能に設定するまでの、SNMP 最大応答数（Maximum Number of Missed SNMP Responses Before System Is Set to Inaccessible）	HTTP 経由で接続を試みるまでに、何回まで SNMP ポーリング要求の連続失敗を許容するかを指定します。両方の接続が失敗すると、Cisco TMS は接続の状態を [SNMP の応答がありません（No SNMP Response）] に設定します。 パケット損失が多く発生するネットワークでは、このフィールドをデフォルト値（2）よりも高く設定する必要があります。SNMP は UDP プロトコルのため、パケット配信は保証されません。
システム強制更新間隔（時間単位）（System Force Refresh Interval (in hours)）	[システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）] が [はい（Yes）] に設定されている場合に、Cisco TMS が管理対象システムから設定を取得し、設定を適用する間隔を制御します。
SNMP ブロードキャストの間隔（分単位）（SNMP Broadcast Interval (in minutes)）	*レガシー システムのみ。* Cisco TMS が、システム検出、システム ステータス、およびコール ステータスの連続した SNMP スキャンを行う間隔を分単位で指定します。
SNMP ブロードキャスト/マルチキャスト アドレス（SNMP Broadcast/ Multicast Address(es)）	サブネットの IPv4 ブロードキャスト アドレス、または、TMS SNMP サービス（TMSSnmpService）がスキャンしている IPv6 マルチキャスト アドレスを指定します。 デフォルトでは、SNMP サービスは IP アドレス「255.255.255.255」にブロードキャストして、IPv4 ネットワーク全体でシステムをスキャンします。 ■ ブロードキャストの範囲を絞り込む場合は、この値を変更します。 例：アドレスを「10.0.255.255」に設定して、このサブネットに接続されているシステムからのみ応答を受信します。 ■ 複数の範囲をスキャンするには、カンマ区切りを使用します。
システム上の管理設定の強制（Enforce Management Settings on Systems）	イネーブルの場合は、次のようになります。 ■ [社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）] で設定されている Cisco TMS サーバ アドレスがフィードバック アドレスとしてすべてのシステムに適用されます。このアドレスは、電話帳や、Cisco TMS 制御下のエンドポイントの管理にも使用されます ■ Cisco TMS は、[管理ツール（Administrative tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network settings）] > [TMS サービス（TMS Services）] > [システム強制更新間隔（時間単位）（System Force Refresh Interval (in hours)）] で設定した間隔を使用します。 [夏時間（Daylight Saving Time）] と [タイム ゾーン（Time Zone）] も Cisco TMS 制御下のエンドポイントに適用されます。

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
今すぐ適用（Enforce Now）	クリックして、前述した管理設定をすぐに適用します。 これは、[システム（System）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select system）] > [設定（Settings）] タブ > [設定の編集（Edit Settings）] ページの下部にある [管理設定の強制（Enforce Management Settings）] をクリックした場合と同じ結果になります。
アドホック会議の検出を有効にする（Enable Ad Hoc Conference Discovery）	■ [はい（Yes）] に設定すると、Cisco TMS で管理されているシステムのアドホック コールが Cisco TMS によって検出および監視され、「会議制御センター（189 ページ）」に表示されます。 ■ [MCU の場合のみ（Only for MCUs）] に設定すると、MCU のアドホック会議のみ**会議制御センター**に表示されます。 大規模な導入で Cisco TMS への負荷を抑えるには、この設定をディセーブルにするか、[MCU の場合のみ（Only for MCUs）] に設定します。
Update System Connectivity for Systems	Cisco TMS で、接続の変更が検出された場合にシステムの接続ステータス（例：[LAN で接続可能（Reachable on LAN）]、[ファイアウォールの背後（Behind Firewall）]）を自動的に変更するかどうかを指定します。 ■ [自動（Automatic）]：Cisco TMS は接続の変更を検出すると、システムの接続ステータスを変更します。 ■ [手動（Manual）]：Cisco TMS はステータスを変更しません。 管理者は、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select a system）] > [接続（Connection）] タブ > [システムの接続性（System Connectivity）] を選択して、システムの接続ステータスを変更できます。 「Cisco TMS がシステムの接続性ステータスを変更する理由（49 ページ）」も参照してください。
社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN）	
TMS サーバ IPv4 アドレス（TMS Server IPv4 Address） **TMS サーバ IPv6 アドレス（TMS Server IPv6 Address）** **TMS サーバの完全修飾ホスト名（TMS Server Fully Qualified Hostname）**	Cisco TMS の制御下にあるエンドポイントに管理設定を適用する場合、これらのアドレスが次の順序で適用されます。 ■ FQDN ■ IP アドレス（IP Address） Cisco TMS の制御下にあるエンドポイントの場合、これらのアドレスは、トラップホスト アドレス、電話帳サーバ アドレス、外部マネージャ アドレス、および外部サービス アドレスとして使用されます。 Cisco TMSPE でプロビジョニングされ、Unified CM に登録されるシステムの場合、アドレスは「フィードバック 3」アドレスとして使用されます。
パブリック インターネット/ファイアウォール外のシステムの詳細ネットワーク設定（Advanced Network Settings for Systems on Public Internet/Behind Firewall）	
TMS サーバ アドレス（完全修飾ホスト名または IPv4 アドレス）（TMS Server Address (Fully Qualified Host Name or IPv4 Address)）	リモート システムに対して到達可能にする必要のある Cisco TMS サーバのパブリック FQDN または IP アドレス。 このアドレスは、リモート システムの電話帳サーバ アドレス、外部マネージャ アドレス、および外部サービス アドレスとして使用されます。
自動ソフトウェア更新（Automatic Software Update）	

表 136 [ネットワーク設定（Network Settings）] ページの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
更新の自動確認（Automatically Check for Updates）	*レガシー システムのみ。* ■ 有効にすると、Cisco TMS は 2 日おきに cisco.com をチェックして、レガシー システムで使用できる新しいソフトウェア アップデートがないか確認します。ソフトウェアと対応するリリース キーは、Cisco TMS ツール（[管理ツール（Administrative Tools）] > [全般設定（General Settings）] > [ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）] で指定された場所にダウンロードされます。 ■ 無効にすると、[システムのアップグレード（System Upgrade）] ページに [ログのインポート（Import Log）] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、システムのアップグレード時に使用するソフトウェアおよびリリース キーの一覧をインポートできます。アップグレード対象としてシステムが選択されると、[ログのインポート（Import Log）] ボタンと [ログの生成（Generate Log）] ボタンの両方が [ソフトウェアとリリース キーの選択（Select Software and Release Key）] ページに表示されます。詳細については、「システムのアップグレード（146 ページ）」を参照してください。
サービス URL（Service URL）	これは cisco.com のソフトウェア アップデート サービスの URL で、変更できません。
Web プロキシのアドレス（Web Proxy Address）	ネットワークにプロキシ サーバがある場合は、ここにアドレスを入力します。
Web プロキシのユーザ名（Web Proxy Username）	Cisco TMS がプロキシ サーバに対する認証に使用する有効なユーザ名とパスワード。
Web プロキシのパスワード（Web Proxy Password）	

電子メール設定（Email Settings）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [電子メール設定（Email Settings）]

E メール

表 137 [メール（Email）] セクションの設定

フィールド	説明
電子メールの送信のイネーブル（Enable Sending of Email）	Cisco TMS でユーザに電子メールが送信できるようにします。
電子メールのコンテンツ タイプ（Email Content Type）	会議の詳細が含まれる電子メールのタイプを選択できます。 ■ [プレーン テキスト（Plain Text）]：プレーン テキストの電子メールを送信します。 ■ [HTML]：HTML の電子メールを送信します。 ■ [両方（マルチパート）（Both(Multipart)）]：プレーン テキストと HTML タイプの電子メールを 1 つのメッセージで送信します。ただし、ユーザに表示する電子メールのタイプは、電子メール クライアントによって決定されます。
送信元の電子メール アドレス（From Email Address）	Cisco TMS で電子メール通知を送信するときに使用する電子メール アドレス。このアドレスは、受信者の電子メール クライアントの [送信元（From）] フィールドに表示されます。

SMTP

表 138 [SMTP] セクションの設定

SMTP サーバ	SMTP（メール）サーバの IP アドレスまたはホスト名。 デフォルト ポートは 25 ですが、サーバの IP アドレスの後に :<ポート番号> を追加して変更できます。

表 138 [SMTP] セクションの設定（続き）

SMTP サーバの認証用ユーザ名（必要な場合）（SMTP Server Authentication Username (if needed)）	認証が必要な場合に、Cisco TMS で SMTP サーバへの接続に使用できる有効なユーザ名。
SMTP サーバの認証用パスワード（必要な場合）（SMTP Server Authentication Password (if needed)）	[ユーザ名（Username）] フィールドに指定されたアカウントのパスワード。

目次

表 139 [コンテンツ（Content）] セクションの設定

プライマリ SIP プロトコル ハンドラ（Primary SIP Protocol Handler）	会議の招待メールの SIP URI リンク用に最初および 2 番目に表示されるプロトコル ハンドラとアプリケーション名を特定します。これらのリンクを使用すると、ユーザは電子メール メッセージから会議に直接参加できます。 たとえば、`sip` と `Jabber` を入力すると、sip:// プロトコル ハンドラを使用する「Jabber」というリンクが作成されます。
セカンダリ SIP プロトコル ハンドラ（Secondary SIP Protocol Handler）	
Web クライアント URL（Web Client URL）	環境で使用できる場合、Web ベースのテレプレゼンス クライアントの URL と名前を入力します。http または https プロトコルを使ったフル URL と Web クライアントの名前を必ず含めてください。そうしないと、リンクが正しく表示されません。
アイコン用のベース URL（Base URL for Icons）	HTML 形式の電子メール メッセージ内の画像の場所は、ここに表示されます。Cisco TMS をアップグレードすると、デフォルトの場所が上書きされます。 画像ファイルを追加または変更するには、カスタマイズされた場所を選択してください。この場所が組織内の信頼できる場所であることを確認してください。そうでない場合、ユーザの電子メール クライアントで画像が表示されないことがあります。

[ハンドラ（Handler）] フィールドと [アプリ（App）] フィールドに入力すると、[予約招待のプレビュー（Booking invite preview）] が更新され、ユーザが予約招待の電子メールを受け取ったときに表示される内容と同じ内容が表示されます。プレビューにあるリンクはクリック可能です。

電子メール テンプレートの編集

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [電子メール テンプレートの編集（Edit Email Templates）]

このページを使用して、Cisco TMS のすべての電子メール テンプレートのレイアウトおよびテキストを変更できます。Cisco TMS から電子メールを送信するために必要な設定については、「電子メール設定（227 ページ）」を参照してください。

テンプレート タイプ

Cisco TMS を使用すると、管理者への通知などのシステム生成された電子メールをカスタマイズできますが、このドキュメントでは、予約に関してエンド ユーザへのメッセージで使用されるテンプレートを主に取り上げます。

各テンプレートには、HTML バージョンとプレーン テキスト バージョンの 2 つが用意されています。エンド ユーザに表示されるバージョンは、次の要素によって決定されます。

- [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [電子メール設定（Email Settings）] の [電子メールのコンテンツ タイプ（Email Content Type）] の設定。デフォルトの推奨される設定は、電子メール クライアントによってバージョンが指定される [マルチパート（Multipart）] です。
- 受信者の電子メール クライアントの機能と設定。たとえば、一部のモバイル クライアントはテキストのみを表示します。

テンプレートを生成する方法

両方のバージョンのテンプレートは同じタイプの変数タグで構成され、同じフレーズ ファイルを共有しています。

タグ	説明
{…}	波カッコは、フレーズ タグを示します。あらゆるテンプレートで制限なしにフレーズ タグを作成、追加、および削除できます。
<…>	山カッコは、定義済みのコンテンツ タグを示します。コンテンツ タグを移動または削除できますが、変更または作成することはできません。また、一部のテンプレートに対して有効ではないコンテンツ タグがあります。
<SECTION: ...>	SECTION タグは、定義された条件の下に表示されるコンテンツ セクションを示します。次の例を参考にしてください。 <SECTION:RECURRENCE_INFO> は、定例会議が予約された場合にのみ表示されます。SECTION タグは常に終了タグで閉じる必要があります。
<FOREACH: ...>	FOREACH タグは、条件に一致するコンテンツの数だけ繰り返されるコンテンツ セクションを示します。たとえば、<FOREACH:LOCATION> は、会議にスケジュールされているすべての Telepresence エンドポイントのリストを表示します。FOREACH タグは常に終了タグで閉じる必要があります。
<VAL: ...>	VAL タグは、存在する場合に表示される単一値を示します。次の例を参考にしてください。 Cisco TMS で管理者または連絡先担当者の名前が設定されている場合、<VAL:ADMINISTRATOR> には、Cisco TMS の管理者または連絡先担当者の名前が含まれます。VAL タグは自己完結型であり、閉じる必要はありません。
<UPPERCASE>	このタグでフレーズを囲うと、フレーズが大文字で表示されます。このタグは、プレーン テキスト テンプレートと HTML テンプレートの両方で使用できます。UPPERCASE タグは常に終了タグで閉じる必要があります。
<ADD:ICALENDAR_ATTACHMENT>	電子メール メッセージに .ical 添付ファイルを含めます。このタグは自己完結型であり、テンプレート内のあらゆる場所に配置できます。
<VAL:TMS_ICONS_BASE_URL>	このタグは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [電子メール設定（Email Settings）] > [コンテンツ（Content）] から [アイコン用のベース URL（Base URL for Icons）] の設定を適用します。

HTML テンプレートには、コンテンツ タグとフレーズ タグに加えて、HTML マークアップおよびインライン スタイリングが含まれています。山カッコなどの特殊文字を電子メール メッセージに表示する場合は、HTML 文字エンコーディングを使用する必要があります。たとえば、> を表示するときは、> を使用します。

テンプレートのカスタマイズ

テンプレートをカスタマイズする方法は、変更する対象によって異なります。

- ルックアンドフィール：HTML テンプレートでインライン スタイルを使用します。これを変更するには、各テンプレートのマークアップを変更する必要があります。■ カスタム グラフィックは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [電子メール設定（Email Settings）] > [コンテンツ（Content）] で指定した場所に追加する必要があります。
- 表現：変更可能なすべての表現は、右側のペインで利用できるフレーズ ファイルにあります。これらのフレーズ ファイルで独自のフレーズ タグを作成し、対応するテンプレートに追加することができます。
- コンテンツの構成：コンテンツの表示順を変更するために、タグの並べ替えや削除ができます。通常、VAL タグは SECTION タグ内または FOREACH タグ内に表示されることに注意してください。

電子メール テンプレートの編集中に、次の操作を実行できます。

- [プレビュー（Preview）] セクションでのメッセージの表示を確認するには、変更後に [更新（Refresh）] をクリックします。
- 最後に保存したバージョンのテンプレートに戻るには、[変更の破棄（Discard Changes）] をクリックします。
- テンプレートに加えたすべての変更を削除するには、[デフォルトに戻す（Revert to Default）] をクリックします。

予約電子メール テンプレート

Cisco TMS には、次の 4 つのデフォルトの予約関連電子メール テンプレートがあります。

- 予約招待
- 予約のキャンセル

- 予約イベント
- 予約失敗

予約の Invite レガシーおよび予約のキャンセル レガシーは従来のテンプレートです。レガシー テンプレートを使用している顧客のために、これらのレガシー テンプレートは引き続きサポートされていますが、新しいユーザに対しては、デフォルト テンプレートのみを使用することを強くお勧めしています。

予約の Invite

```
<VAL:TMS_ICONS_BASE_URL> // [アイコン用のベース URL(Base URL for Icons)] の設定を適用します。
<ADD:ICALENDAR_ATTACHMENT> // .ical 添付ファイルによる招待を電子メール通知に追加します。

<FOREACH:API_ERROR> // Cisco TMSBA(予約 API)からの各エラーに対して繰り返されます。
       <VAL:API_ERROR> // エラー メッセージ。

<SECTION:MEETING_PARTIAL_FAILURE> // 一連の障害が発生した場合に使用されます。
       <VAL:MEETING_PARTIAL_FAILURE_DESCRIPTION>

       <SECTION:MEETING_PARTIAL_FAILURE_FEW> // 障害が 4 回未満の場合に使用されます。
              <VAL:MEETING_DEFECTIVE_DATES> // 発生した日付と推奨アクション。
       <SECTION:MEETING_PARTIAL_FAILURE_MANY> // 障害が 3 回を超えて発生した場合に使用されます。

<SECTION:MEETING_WEBCONF_ERROR> // 予約の WebEx 部分が失敗した場合に使用されます。
       <VAL:MEETING_WEBCONF_ERROR> // WebEx エラー テキスト。

<SECTION:MEETING_WEBCONF_WARNING> // WebEx 予約に関する警告。
       <VAL:MEETING_WEBCONF_WARNING> // WebEx 関連の警告テキスト。

<FOREACH:API_WARNING> // Cisco TMSBA(予約 API)からの各警告に対して繰り返されます。
       <VAL:API_WARNING> // 警告テキスト。

<SECTION:MAIL_HEADING_MCU_FAILOVER> // MCU フェールオーバーの場合に使用されます。

<SECTION:MUST_BE_APPROVED> // 予約が承認待ちの場合に使用されます。


<SECTION:NO_SETUP_BUFFER_WARNING> // [早期参加(Early Join)] が無効になっていて、{NO_SETUP_BUFFER_MESSAGE}
がフレーズ ファイル内で空でない場合に使用されます。
       <SECTION:NO_SETUP_BUFFER_WARNING_TEXT> // フレーズ ファイルからの関連テキスト(利用できる場合)。

<FOREACH:API_INFO> // Cisco TMSBA(予約 API)からの情報メッセージ。
       <VAL:API_INFO>

<SECTION:RESERVATION_ONLY> // 会議のタイプが予約である場合に使用されます。

<SECTION:BOOKEDBYOWNER> // 会議の所有者が会議を予約した場合に使用されます。
       <VAL:OWNER> // 所有者。

<SECTION:BOOKEDONBEHALF> // 会議の所有者の代理が会議を予約した場合に使用されます。
       <VAL:BOOKED_BY> // 予約を実行した人。
       <VAL:OWNER> // 所有者。

<SECTION:MEETING_TITLE> // 会議のタイトルに使用されます(利用できる場合)。
       <VAL:MEETING_TITLE> // 会議のタイトル。

<SECTION:RECURRENCE_ICON> // 定例会議の場合、アイコンが含まれます。
<SECTION:RECURRENCE_INFO> // 定例会議の場合に使用されます。
       <VAL:RECURRENCE_INFO> // 定例パターンの情報。

<VAL:MEETING_DATE_TIME> // 会議の日時。
<VAL:MEETING_TIME_ZONE> // 会議のタイム ゾーン。
<VAL:OWNEREMAILADDRESS> // 会議所有者の電子メール アドレスを使用します。
<VAL:OWNERPHONENUMBER> // 会議所有者の電話番号を使用します。
```

```
<SECTION:MEETING_MESSAGE> // [会議のメッセージ(Meeting Message)] フィールドからのテキストを表示します(利用できる場合)。
        <VAL:MEETING_MESSAGE> // 会議のメッセージ(議題)。
<SECTION:NO_MEETING_MESSAGE> // 会議のメッセージ(議題)が利用できない場合に使用されます。

<SECTION:MEETING_WEBCONF_DETAILS> // 会議に WebEx が含まれる場合に使用されます。
        <VAL:ATTENDANT_URL> // アテンダント URL。
        <SECTION:WEBCONF_PASSWORD> // WebEx のパスワード(表示される場合)。
                <VAL:WEBCONF_PASSWORD>
        <SECTION:WEBCONF_HIDDEN_PASSWORD> // WebEx のパスワードが非表示になっている場合に使用されます。
        <VAL:WEBCONF_ID>

  <SECTION:TELEPRESENCE> // 会議にテレプレゼンス コンポーネントがある場合に使用されます。
        <SECTION:TP_ONLY_TITLE> // テレプレゼンス専用の会議に使用されます。
        <SECTION:TP_COMBINED_TITLE> // CMR ハイブリッド会議に使用されます。
        <SECTION:JOIN_FROM_LINKS> // プロトコル ハンドラまたは Web クライアント URL が定義されている場合に使用されます。
                <SECTION:JOIN_WITH_APPS> // プロトコル ハンドラが定義されている場合に使用されます。
                        <SECTION:SIP_HANDLER1> // プライマリ プロトコル ハンドラ(定義されている場合)。
                                <VAL:SIP_HANDLER1_URI>
                                 <VAL:SIP_HANDLER1_LABEL>
                        <SECTION:SIP_HANDLER2> // セカンダリ プロトコル ハンドラ(定義されている場合)。
                                <VAL:SIP_HANDLER2_URI>
                                 <VAL:SIP_HANDLER2_LABEL>
                        <SECTION:WEB_CLIENT1> // Web クライアント(定義されている場合)。
                                  <VAL:WEB_CLIENT1_URL>
                                <VAL:WEB_CLIENT1_LABEL>
         <SECTION:VIDEO_ADDRESS> // 少なくとも 1 つのビデオ アドレスがある場合に使用されます。
                <SECTION:VIDEO_ADDRESS_TITLE> // プロトコルが 1 つだけある場合に使用されます。
                <FOREACH:VIDEO_ADDRESS_PROTOCOL> // 利用できる各プロトコルに対して繰り返されます。
                        <SECTION:PROTOCOL> // 複数のプロトコルがある場合に使用されます。
                                <VAL:PROTOCOL>
                        <FOREACH:ZONE> // ビデオ アドレスで使用されるすべての TMS ゾーンに対して繰り返されます。
                                <SECTION:ZONE> // 複数のゾーンがある場合に使用されます。
                                         <VAL:ZONE>
                                <FOREACH:VIDEO_ADDRESS> // すべてのビデオ アドレスに対して繰り返されます。
                                         <VAL:VIDEO_ADDRESS>
        <SECTION:CMS_WEBBRIDGE_ADDRESS; // 会議は CMS でホストされ、Web ブリッジ URI が設定されています。
                                <VAL:CMS_WEBBRIDGE_ADDRESS>
        <SECTION:MEETING_CONFERENCEME> // 会議が ConferenceMe 対応の TelePresence MCU 上に設定されています。
                <VAL:CONFERENCEME_URL> // ConferenceMe の URL。
        <SECTION:MEETING_CONFERENCESTREAMING> // 会議がストリーミング対応の TelePresence MCU 上に設定されている場合に使用
        されます。
                <VAL:CONFERENCESTREAMING_URL> // ストリーミングの URL。
        <SECTION:MEETING_PASSWORD> // 会議に PIN コードがある場合に使用されます。
                <VAL:MEETING_PASSWORD> // 会議の PIN。
        <SECTION:LOCATIONS> // TelePresence エンドポイントがスケジュールされている場合に使用されます。
                <FOREACH:LOCATION> // スケジュールされている各 TelePresence エンドポイントに対して繰り返されます。
                        <VAL:LOCATION> // エンドポイント名。

<SECTION:WEBEX_AUDIO> // 会議に WebEx が含まれる場合に使用されます。
        <SECTION:WEBCONF_LOCAL_CALL_IN_TOLL_NUMBER> // 国にローカル トールのコールイン番号が設定されている場合に使用されます。
                <VAL:WEBCONF_LOCAL_CALL_IN_TOLL_NUMBER> // トールのコールイン番号。
        <SECTION:WEBCONF_LOCAL_CALL_IN_TOLL_FREE_NUMBER> // 国にローカルのフリーダイヤル コールイン番号が設定されている場合に使用されます。
number
                <VAL:WEBCONF_LOCAL_CALL_IN_TOLL_FREE_NUMBER> // トールフリーのコールイン番号。
         <VAL:WEBCONF_ACCESS_CODE> // WebEx 会議のアクセス コード。
        <SECTION:WEBCONF_GLOBAL_CALL_IN_NUMBER_URL> // WebEx 会議にグローバル コールイン URL が設定されている場合に使用されます。
                <VAL:WEBCONF_GLOBAL_CALL_IN_NUMBER_URL> // グローバル コールイン URL。
        <SECTION:WEBCONF_TOLL_FREE_RESTRICTIONS_LINK> // フリーダイヤル コールの制限へのリンク。

<SECTION_WEBEX_HELP> // 会議に WebEx が含まれる場合に使用されます。
        <VAL:PRESENTER_URL> // プレゼンターの URL。

<SECTION:TMS_CONFERENCE_URL> // Cisco TMS 会議の URL が設定されている場合に使用されます。
        <VAL:TMS_CONFERENCE_URL> // Cisco TMS 会議の URL。
```

```
<SECTION:MEETING_RECORDING_FOOTER> // 会議の録音が設定されている場合に使用されます。
      <VAL:RECORDING_URL> // 録音の URL。

<SECTION:WEBEX_NOTICE> // 会議に WebEx が含まれる場合に使用されます。
```

レガシー セクションおよび値

```
<SECTION:MEETING_RECORDING> // 会議の録音が設定されている場合に使用されます。
      <VAL:RECORDING_URL> // 録音の URL。
```

オプション値

```
<VAL:NUMERIC_ID> // 会議に数字の会議 ID が含まれる場合に使用します。
```

予約のキャンセル

会議がキャンセルされた場合に使用されます。

```
<SECTION:MEETING_TITLE> // 会議にタイトルがある場合に使用されます。
      <VAL:MEETING_TITLE> // 会議のタイトル。
<SECTION:RECURRENCE_INFO> // 定例会議の場合に使用されます。
      <VAL:RECURRENCE_INFO> // 定例パターンの情報。
<VAL:MEETING_DATE_TIME> // 会議の日時。
<VAL:MEETING_TIME_ZONE> // 会議のタイム ゾーン。
<VAL:OWNEREMAILADDRESS> // 会議所有者の電子メール アドレス。
<VAL:OWNERPHONENUMBER> // 会議所有者の電話番号。

<VAL:OWNER> // 会議の所有者。
<VAL:DELETED_BY_EMAILADDRESS> // 会議を削除したユーザの電子メール アドレス。
<VAL:DELETED_BY_PHONENUMBER> // 会議を削除したユーザの電話番号。
```

予約イベント

```
<SECTION:ERROR> // イベントがエラーである場合に使用されます。
      <VAL:MESSAGE>

<SECTION:WARNING> // イベントが警告である場合に使用されます。
      <VAL:MESSAGE>

<SECTION:INFO> // イベントが情報である場合に使用されます。
      <VAL:MESSAGE>

<VAL:PROPOSED_ACTION> // ユーザに提案されたアクション。
<VAL:FAILURE_DESCRIPTION> // 問題の説明。

<VAL:MEETING_TITLE> // 会議のタイトル。
<SECTION:RECURRENCE_INFO> // 定例会議の場合に使用されます。
      <VAL:RECURRENCE_INFO> // 定例パターンの情報。
<VAL:MEETING_DATE_TIME> // 会議の日時。
<VAL:MEETING_TIME_ZONE> // 会議のタイム ゾーン。

<SECTION:HOST> // 会議にホストが存在する場合に使用されます。
       <VAL:HOST> // ホスト。

<SECTION:ADMINISTRATOR> // Cisco TMS の連絡先情報を使用して管理者が定義されている場合に使用されます。
      <VAL:ADMINISTRATOR> // 管理者の名前。
      <VAL:EMAIL> // 管理者の電子メール アドレス。
```

予約失敗

予約が失敗したときに使用されます。

```
<VAL:PROPOSED_ACTION> // 会議を処理するために提案されたアクション。
<VAL:FAILURE_DESCRIPTION> // 問題の説明。

<VAL:MEETING_TITLE> // 会議のタイトル。
<SECTION:RECURRENCE_INFO> // 定例会議の場合に使用されます。
      <VAL:RECURRENCE_INFO> // 定例パターンの情報。
<VAL:MEETING_DATE_TIME> // 会議の日時。
<VAL:MEETING_TIME_ZONE> // 会議のタイム ゾーン。

<VAL:HOST> // ホスト。

<SECTION:ADMINISTRATOR> // Cisco TMS の連絡先情報を使用して管理者が定義されている場合に使用されます。
      <VAL:ADMINISTRATOR> // 管理者の名前。
      <VAL:EMAIL> // 管理者の電子メール アドレス。
```

会議設定

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）]

このページでは、Cisco TMS でデフォルトとしてスケジュールされているすべての会議に適用される設定を指定できます。予約中に、個々の会議設定を変更できます。

会議表示

表 140 [会議の表示（Conference Display）] セクションの設定

フィールド	説明
アドホック予約のネットワーク製品の表示（Show Network Products in Ad Hoc Booking）	ゲートウェイ、MCU および VCS などのインフラストラクチャ製品をアドホック予約で表示するかどうかを指定します。

会議の作成（Conference Creation）

表 141 [会議の作成（Conference Creation）] セクションの設定

フィールド	説明
デフォルトの会議タイトル（Default Conference Title）	予約されたすべての会議に使用されるデフォルト タイトルは、[スケジュール済み会議（Scheduled Meeting）] に設定されます。テキスト ボックスをクリックしてデフォルト タイトルを編集することもできます。タイトルに日付と時刻を入れたい場合は、タイトルとともに、「*%DATE% %TIME%*」と入力します。
スケジュールされた通話期間のデフォルト（分）（Default Scheduled Call Duration (in minutes)）	スケジュールされたコールに対してデフォルトの会議の期間を指定します。
デフォルトのイマーシブ帯域幅（Default Immersive Bandwidth）	この帯域幅は、スケジュール済み会議の 2 人のイマーシブ参加者間で使用されます（T3、T1、CTS、TX、IX または TelePresence Server システム、および [マルチスクリーンを選択（Prefer for Multiscreen）] が選択されている TelePresence Conductor エイリアス）。 これを使用してイマーシブ会議で複数のコーデックと画面に十分な帯域幅があることを確認します。 同じ会議の他のシステム タイプでは、[デフォルトの帯域幅（Default Bandwidth）] 設定で定義された帯域幅が使用されます。
デフォルトの IP 帯域幅（Default IP Bandwidth）	スケジュールされた会議のデフォルト IP 帯域幅。予約中にこの帯域幅を調整することができます。
デフォルトの ISDN 帯域幅（Default ISDN Bandwidth）	スケジュールされた会議のデフォルト ISDN 帯域幅。予約中にこの帯域幅を調整することができます。

表 141 [会議の作成（Conference Creation）] セクションの設定（続き）

フィールド	説明
デフォルト画像モード	スケジュールされた会議のデフォルトの画像モードを指定します。 ■ *音声切り替え（Voice Switched）* ■ *分割表示（Continuous Presence）* ■ *拡張分割表示（Enhanced Continuous Presence）* この設定は、Cisco TelePresence MCU、Cisco TelePresence Server、および Cisco TelePresence Conductor には適用されません。
スケジュール済み通話のデフォルト予約タイプ（Default Reservation Type for Scheduled Calls）	スケジュールされた会議のデフォルトの予約タイプを指定します。 ■ [自動接続（Automatic Connect）]：会議は自動的にルーティングされ、開始されます。 ■ [ワンボタン機能（One Button to Push）]：会議は、サポートされているエンドポイントでワンボタン機能を使用してルーティングされ、開始できるようになります。 ■ [手動接続（Manual Connect）]：会議のルーティングが設定され、ビデオ会議マスターが会議を開始する必要があります。 ■ [接続なし（No Connect）]：会議のルーティングが設定され、参加者自身が接続する必要があります。 ■ [予約（Reservation）]：システムだけが予約されます。ルーティングは試行されません。
デフォルトでは会議をセキュアに設定します（Set Conferences as Secure by Default）	スケジュールされた会議がデフォルトで暗号化対象として予約されるよう指定します。 *[はい（Yes）]* に設定した場合、予約中に個々の会議を暗号化しないように変更できます。 注：暗号化をサポートするエンドポイントの暗号化が [オフ（Off）] に設定されていて、このエンドポイントが暗号化されている会議に追加されている場合、このエンドポイントの暗号化は [オン（On）] に設定されます。この設定はエンドポイント自体で [オフ（Off）] に設定するまで、会議の終了後も維持されます。
新しい会議の PIN を自動生成する（Auto Generate PIN on New Conferences）	スケジュール済みコールの会議の PIN を Cisco TMS で自動生成することを指定します。
自動生成された PIN の長さ（Auto Generated PIN Length）	会議の PIN の自動生成時に Cisco TMS が使用する桁数を指定します。 デフォルト値は 3 です。
スケジュールされた通話の課金コード（Billing Code for Scheduled Calls）	スケジュール済みコールに課金コードを適用するかどうかを指定します。 ■ [なし（No）]：予約時に入力された課金コードは適用されません。 ■ [オプション（Optional）]：予約時に課金コードを入力できます。 ■ [必須（Required）]：[管理ツール（Administrative Tools）] > [課金コード（Billing Codes）] > [課金コードの管理（Manage Billing Codes）] の一覧に一致する課金コードを予約時に入力する必要があります。「課金コードの管理（262 ページ）」を参照してください。
課金コードの選択ポップアップを有効にする（Enable Billing Code Selection Popup）	■ [はい（Yes）]：[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] > [詳細設定（Advanced Settings）] の [課金コード（Billing Code）] フィールドの横にボタンが表示されます。このボタンで、[課金コード選択ポップアップ（Billing Code Selection Popup）] が起動します。 ■ [いいえ（No）]：ボタンは表示されません。
Booking Window (in days)	ユーザが会議をスケジュールすることを許可される将来の最大日数を指定します。

表 141 [会議の作成（Conference Creation）] セクションの設定（続き）

フィールド	説明
デフォルトの会議の言語（Default Conference Language）	会議に関するすべての電子メール、ビデオ上での会議終了通知に使用する言語を指定します。

会議の接続（Conference Connection）

表 142 [会議の接続（Conference Connection）] セクションの設定

フィールド	説明
スケジュールされたコールに対する割り当ての試行回数（Allocation Attempts for Scheduled Calls）	Cisco TMS がブリッジでコールの割り当てを試行する回数。 デフォルト値は 4 です。
スケジュールされた通話に対する接続の試行（Connection Attempts for Scheduled Calls）	コールが最初に成功しなかった場合に、Cisco TMS が接続の試行を続ける回数。 ユーザがコールを拒否した場合、Cisco TMS は接続を続行しません。 デフォルト値は 4 です。
スケジュール済みコールと割り当ての接続タイムアウト（秒）（Connection Timeout for Scheduled Calls and Allocation (in seconds)）	割り当てと接続が成功するまで待機する秒数。この時間内にシステムが応答しない場合、コールは切断され、[スケジュールされた通話に対する接続の試行（Connection Attempts for Scheduled Calls）] と [スケジュールされたコールに対する割り当ての試行回数（Allocation Attempts for Scheduled Calls）] で設定された回数再試行します。 デフォルト値は 30 です。 Cisco TMS は、少なくともここで設定された値まで待機します。タイムアウトの上限が設定されないため、次の割り当てが試行されるまでの時間がここで設定した値よりも長くなる可能性があります。
参加者に対し 5 分前の接続を許可する（Allow Participants to Join 5 Minutes Early）	[はい（Yes）] に設定すると、スケジュールされた開始時刻の 5 分前に会議を開始するベストエフォート機能が有効になります。参加者は、5 分前から会議に参加できるようになります。 時間は設定できません。
スケジュール済み会議を無視し、アクティブコールを続ける（Ignore Scheduled Meeting and Continue Active Call）	この機能を [はい（Yes）] に設定すると、Cisco TMS は、スケジュール済み会議が割り当てられた時刻にエンドポイントのアクティブ コールを切断しません。エンドポイントはスケジュール済み会議の着信コールを引き続き受け、その着信コールに参加するか、無視するかを選択できます。 この機能は次の場合のみ機能します。 ■ 次のスケジュール済み会議のタイプが [自動接続（Automatic Connect）] の場合。 ■ 通話の方向がブリッジからエンドポイントの場合。 この機能は、次のシナリオで使用されます。 ■ エンドポイントに、スケジュール済みコールと競合する進行中のアドホック コールがある。 ■ エンドポイントに、別のスケジュール済みコールと競合する進行中のスケジュール済みコールがあり、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [会議設定（Conference Settings）] > [会議の延長（Conference Extension）] で、[延長時のリソース可用性チェック（Resource Availability Check on Extension）] が [無視（Ignore）] に設定されている。

会議の延長（Conference Extension）

表 143 [会議の延長（Conference Extension）] セクションの設定

フィールド	説明
会議延長のための連絡先（Contact Information to Extend Meetings）	Cisco TMS では、会議の終了前にシステムに会議の終了通知が表示されます。 メッセージは、設定 [終了 X 分前のメッセージ表示（Show Message X Minutes Before End）] に入力された時間（分単位）に従って表示されます。 このフィールドで会議終了通知に続く内容をカスタマイズすることができます。ユーザの代わりに会議を延長できる担当者の電話番号または名前などの連絡先情報を入力できます。 ここで設定されたテキストは、ブリッジから会議の全参加者に送信される会議終了に関するビデオ内警告と、Cisco TMS から個々の参加者に送信される会議終了通知の両方に適用します。
会議スケジュールの延長の競合に関する問い合わせ情報を提供（Supply Contact Information on Extend Meeting Scheduling Conflict）	会議の延長が予約の競合で不可能な場合に参加者に連絡先情報を表示する場合は、[はい（Yes）] を選択します。
延長会議モード（Extend Conference Mode）	■ [なし（None）]：会議が自動的に延長されないようにします。 ■ [エンドポイント プロンプト（Endpoint Prompt）]：会議終了時刻の 5 分前と 1 分前に、設定不可の会議延長メッセージをビデオ会議マスターに表示します。 ■ [自動ベスト エフォート（Automatic Best Effort）]：スケジュール済み会議の 15 分ずつの自動延長を最大 16 回まで有効にします。最初の自動延長の場合のみ、会議はその会議に接続している参加者の数に関係なく延長されます。後続の延長は、2 人以上の参加者が会議に接続している場合のみ行われます。会議の延長は、[延長時のリソース可用性チェック（Resource Availability Check on Extension）] が [無視（Ignore）] に設定されている場合を除き、次の 15 分以内にいずれの参加者にも競合する会議が存在しない場合のみ行われます。
15 分の自動延長最大数（Maximum Number of Automatic 15-minute Extensions）	[延長会議モード（Extend Conference Mode）] が [エンドポイント プロンプト（Endpoint Prompt）] または [自動ベスト エフォート（Automatic Best Effort）] に設定されている場合に会議が 15 分おきに自動的に延長される回数。最大値は 16 です。
延長時のリソース可用性チェック（Resource Availability Check on Extension）	■ [ベスト エフォート（Best Effort）]：今後 15 分間にわたりすべてのリソースが使用可能な場合に、ベスト エフォート ベースでスケジュールされている終了時刻から会議を自動的に延長します。 ■ [無視（Ignore）]： – Cisco TMS は、リソース可用性チェックを無視し、すべてのリソースが使用可能であるかどうかにかかわらず、スケジュールされている終了時間から会議を自動的に延長します。唯一の例外は、主要参加者で使用されるポートが、延長時間中に行われる別の会議と重なる場合です。その場合、会議は延長されません。 – この設定を使用する場合は注意が必要です。リソースが前の会議で使用中である場合、参加者が新しい会議に参加できなかったり、ビデオから音声にダウングレードしたりすることがあります。ただし、会議は常に割り当てられます。会議を延長したために新しい別の会議が開始できない場合（ブリッジで同じ URI を使用しているなど）、延長は行われません。 – 会議の [タイプ（Type）] が [自動接続（Automatic Connect）] の場合、この設定は使用しないでください。

会議の終了（Conference Ending）

表 144 [会議の終了（Conference Ending）] セクションの設定

フィールド	説明
メッセージタイムアウト（Message Timeout）	メッセージがエンドポイントで表示されるデフォルトの時間（秒数）。 デフォルト値は 10 です。
終了 X 分前のメッセージ表示（Show Message X Minutes Before End）	会議の終了の何分前に会議終了通知を表示するかを指定します。 このメッセージは、カンマで分を分割して複数回示すことができます。たとえば、1,5 と指定すると、会議の終了予定の 5 分前および 1 分前にメッセージが表示されます。 [会議の終了に関するビデオ上での警告を表示（Show In-Video Warnings About Conference Ending）] 設定が無効の場合でも、会議終了通知には個々の参加者に対する [会議を延長する連絡先情報（Contact Information to Extend Meetings）] テキストは表示されます。 すべてのシステムが個別の会議終了通知を表示できるわけではありません。 **注：**TelePresence MPS ブリッジの場合、ここには 10、5 および 1 のみ入力でき、画面の上に数字アイコンとして表示されます。その他すべてのシステムは、任意の数の間隔に設定でき、[会議延長のための連絡先（Contact Information to Extend Meetings）] に入力されたテキスト文字列に続いて会議終了通知を表示します。
エンドポイントに再接続メッセージボックスを表示する（Show Reconnect Message Box on Endpoints）	イネーブルにすると、スケジュール済みコールが会議の終了時間前に切断された場合、Cisco TMS は Cisco システムに再接続メッセージを表示します。 このメッセージは、Cisco TMS が切断されたコールを検出した後、およびコールが Cisco TMS 側から切断されたのでない場合のみ、10 秒間表示されます。
会議終了に関するビデオ内の警告の表示（Show In-Video Warnings About Conference Ending）	イネーブルの場合、リモート参加者は会議の終了について警告する内部ビデオを受信します。 警告は、設定 [終了 X 分前のメッセージ表示（Show Message X Minutes Before End）] に入力された時間（分単位）に従って表示されます。 この設定は、ブリッジでホストされたマルチポイント会議だけに適用されます。
X 分後に開始する会議のエンドポイントに関するメッセージを表示（Show Messages On Endpoints About Conference Starting In X Minutes）	イネーブルの場合、会議参加者はエンドポイントで会議開始時刻前の 5 分と 1 分の事前定義された間隔で、会議が開始されるという通知を受けます。
エンドポイントメッセージの匿名化（Endpoint message anonymization）	任意でメッセージの管理者の Username/ID を非表示にします。 ■ [なし（None）]：ユーザ名/ID が公開されます。 ■ [会議の終了メッセージ（End conference messages）]：管理者のユーザ名/ID が会議の終了メッセージで非表示になります。 ■ [すべてのメッセージ（All messages）]：管理者のユーザ名/ID が送信されたすべてのメッセージで非表示になります。

詳細設定（Advanced）

表 145 [詳細設定（Advanced）] セクションの設定

フィールド	説明
ルーティングでの外部 MCU の使用（External MCU Usage in Routing）	会議を予約する際、Cisco TMS が外部 MCU を使用するかどうかを指定します。 ■ [必要な場合のみ（Only if needed）]：使用可能な場合はエンドポイントで組み込みの MCU を使用します。 ■ [ポイントツーポイント以外は常に（Always, except point to point）]：ポイントツーポイント コールを除き、常に外部 MCU を使用します。 ■ [常時（Always）]：ポイントツーポイント コールも含め、常に外部 MCU を使用します。
ルーティングの優先 MCU タイプ（Preferred MCU Type in Routing）	会議を作成するときに、Cisco TMS でデフォルトとして優先される MCU タイプを定義します。 イマーシブ テレプレゼンス会議を予約する場合、十分なリソースが利用できる限り、ここでの設定に関係なく、TelePresence Server、TelePresence Conductor、Cisco Meeting Server、イマーシブ管理対象外ブリッジが、この順序で常に Cisco TMS で優先されます。 この設定は、他の要因により影響を受けたり、上書きされたりすることがあります。詳細については、「主要参加者（32 ページ）」を参照してください。
ルーティングの優先プロトコル（Preferred Protocol in Routing）	会議のルーティングに使用されるプロトコルとして、H.323 または SIP プロトコルを指定します。 アップグレード時には、H.323 がデフォルト プロトコルとして設定され、新しいインストールの場合は SIP がデフォルト プロトコルとして設定されます。
通話のルーティング時にフラットな H.323 ダイヤル計画を使用する（Use Flat H.323 Dialing Plan When Routing Calls）	フラットな H.323 ダイヤル プラン オプションはコール ルーティング ロジックを確認するゲートキーパーのネイバーをディセーブルにするために使用します。 [オン（On）]：「フラット」ダイヤル プランを前提にするように Cisco TMS を設定します。このプランでは、デバイスが登録されているゲートキーパーに関係なく、プレフィクスなしですべてのエイリアスにダイヤルできます。*[オン（On）]* に設定すると、コール ルーティングでは、ゲートキーパーの比較は行われません。この機能は、Cisco TMS がゲートキーパーを管理していないためにネイバー チェックが実行できない場合や、ゲートキーパーが互いに直接のネイバーでない場合（階層型またはマルチレッグ パス）に役に立ちます。 ゲートキーパーから読み込まれる隣接のゾーン プレフィックスは、コール ルーティングでこのオプションが *[オン（On）]* に設定されている場合に使用されません。 [オフ（Off）]：Cisco TMS は、コール参加者が同じゲートキーパーに登録されているかどうか、またはゲートキーパーが直接のネイバーかどうかをチェックして、ゲートキーパーに互換性があるかどうかを判断します。Cisco TMS は、ゲートキーパー間のエイリアスに到達できるかどうかを判断し、ゲートキーパーの設定で必要になった場合は、ネイバー ゾーンに対して E.164 ダイヤル プレフィックスを挿入します。Cisco TMS がこのネイバー チェックに失敗すると、H.323 エイリアスで発信できないと見なされ、エイリアス オプションは有効なコール ルートとして指定されません。
E.164 エイリアスよりも H.323 ID を優先する（Prefer H.323 ID over E.164 Alias）	■ [はい（Yes）]：H.323 コールをルーティングするときに、E.164 エイリアスよりも H.323 ID が優先されます。 ■ [いいえ（No）]：H.323 コールをルーティングするときに、H.323 ID よりも E.164 エイリアスが優先されます。
アドホック会議がこの時間を超えたときに警告を送信する（時間）（Send Warning When Ad Hoc Conferences Exceed This Duration (in hours)）	会議イベントは、アドホック会議の期間が設定時間の制限（時間単位）を超えている場合、**会議制御センター**でトリガーされます。0 でディセーブルに設定します（イベントはトリガーされません）。

表 145 [詳細設定（Advanced）] セクションの設定（続き）

フィールド	説明
自動アテンダント会議がこの時間を超えたときに警告を送信する（秒）（Send Warning When Auto Attendant Conferences Exceed This Duration (in seconds)）	会議イベントは、MCU 自動受付会議の期間が設定時間の制限（秒単位）を超えている場合、**会議制御センター**でトリガーされます。0 でディセーブルに設定します（イベントはトリガーされません）。
自動 MCU フェールオーバー（Automatic MCU Failover）	■ [オフ（Off）]：Cisco TMS では自動 MCU フェールオーバーは開始されません。 ■ [会議の開始に失敗した場合（If conference start fails）]：会議を開始するときに会議の設定に失敗すると、Cisco TMS では自動的に別の MCU が試行されます。 ■ [会議の開始または MCU ポーリングが失敗した場合（If conference start or MCU polling fails）]：会議を開始するときに会議の設定に失敗した場合、または MCU が会議中に応答しない場合、Cisco TMS では自動的に別の MCU が試行されます。フェールーバーのしきい値については、次のフィールドを参照してください。ホスティング MCU へのネットワーク接続が短い間失われると、Cisco TMS は会議が問題なく続行されていても、会議からすべての参加者を切断する場合があるため、この設定を使用することは推奨しません。TelePresence Conductor でホストされている会議の場合、この設定は無視されます。 **注：**自動 MCU フェールオーバーは、主要参加者が MCU または TelePresence Conductor であるスケジュール済み会議でのみサポートされます。この機能は、直接管理されている MCU でホストされるカスケード式会議ではサポートされません。
自動 MCU フェールオーバーのしきい値（最初のポールに失敗した後の秒数）（Automatic MCU Failover Threshold (seconds after first poll failure)）	最初のポーリング障害の後、MCU フェールオーバーが実行されるまでに Cisco TMS が待つ秒数を指定します。

WebEx 設定

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [WebEx 設定（WebEx Settings）]

[WebEx 設定（WebEx Settings）] ページで、WebEx サイトを Cisco TMS に追加して設定します。

WebEx をテレプレゼンス会議に追加できるようにするためには、Cisco TMS で会議の所有者ごとに [WebEx サイト（WebEx Site）]、[WebEx ユーザ名（WebEx Username）]、および [WebEx パスワード（WebEx Password）] も設定する必要があること、および CMR Hybrid をサポートするようにテレプレゼンス展開を設定する必要があることに注意してください。

- WebEx のユーザ設定の詳細については、「ユーザ（257 ページ）」を参照してください。
- Cisco TMS で CMR ハイブリッドを設定する手順については、*Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid 構成ガイド* [英語] を参照してください。

WebEx の設定

表 146 Cisco TMS の WebEx の一般設定

フィールド	説明
WebEx を有効化（Enable WebEx）	■ [はい（Yes）]：会議に WebEx を含めることができます。 ■ [いいえ（No）]：会議に WebEx を含めることはできません。

表 146　Cisco TMS の WebEx の一般設定（続き）

フィールド	説明
すべての会議に WebEx を追加（Add WebEx to All Conferences）	■ [はい（Yes）]：デフォルトで、すべての会議に WebEx が含まれます。予約ページの [WebEx 会議を含める（Include WebEx Conference）] チェックボックスがオンになりますが、オフにすることもできます。 ■ [いいえ（No）]：このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。
Active Directory から WebEx ユーザ名を取得する（Get WebEx Username from Active Directory）	このフィールドを選択する前に AD ルックアップを有効にしてください。AD ルックアップを有効にするには、「Active Directory ルックアップの有効化（24 ページ）」を参照してください。WebEx ユーザ名の検索に使用される AD 属性は、WebEx 内のユーザ名に対応している必要があります。 ■ [無効（Disabled）]：ユーザ名の検索が無効になります。 ■ ユーザ名（SamAccountName）（Username (SamAccountName)） ■ 電子メール（mail）（Email (mail)） ■ [カスタム属性（Custom Attribute）]：WebEx ユーザ名が AD の別の属性と一致する場合、ここに属性の名前を入力します。

WebEx サイト

サイトの一覧には、追加されたサイトごとにサイト名とホスト名が表示されます。緑色のチェックマークはデフォルトの WebEx サイトを示します。

[Active Directory から WebEx ユーザ名を取得（Get WebEx Username from Active Directory）] オプションが有効になっている場合、デフォルト サイトは自動的に*新しい* Cisco TMS ユーザに設定されます。

WebEx サイトの設定

[サイトの追加（Add Site）] ボタンをクリックすると以下の設定が表示されます。

表 147　WebEx サイトごとの設定オプション

フィールド	説明
サイト URL（Site URL）	サイト URL。これは、**ホスト名**と**サイト名**の組み合わせです。 例：`https://hostname.webex.com/sitename`。
ホストネーム	上記の WebEx サイトのホスト サーバの名前。
サイト名（Site Name）	WebEx サイトの名前。
WebEx 参加者帯域幅（WebEx Participant Bandwidth）	このフィールドを使用して、WebEx 参加者の使用可能な帯域幅を指定します。 値の仕様については、MCU のドキュメントを参照してください。
デフォルト サイト（Default Site）	[Active Directory から WebEx ユーザ名を取得（Get WebEx Username from Active Directory）] オプションが有効になっている場合、デフォルト サイトは自動的に*新しい* Cisco TMS ユーザに設定されます。
TSP Audio	■ [はい（Yes）]：PSTN（公衆電話交換網）を使用するように WebEx サイトが設定されている場合には、この設定を有効にします。PSTN では、会議中に音声用の追加ポートを会議で使用できます。（TSP：テレフォニー サービス プロバイダー）。この音声回線は暗号化されません。 ■ [いいえ（No）]：ビデオと音声の両方に SIP が使用されます。

表 147　WebEx サイトごとの設定オプション（続き）

フィールド	説明
Web プロキシを使用する（Use Web Proxy）	■ [はい（Yes）]：ネットワークがイントラネットの外部に接続するために Web プロキシを使用する場合は、この設定を有効にします。次の 3 つのフィールドとともに [Web プロキシ設定（Web Proxy Configuration）] が表示されます。 – [Web プロキシのアドレス（Web Proxy Address）]（必須） – [Web プロキシのユーザ名（Web Proxy Username）] – [Web プロキシのパスワード（Web Proxy Password）]
SSO を有効にする（Enable SSO）	シングル サインオンを使用するように CMR ハイブリッドを設定する場合は、この設定を有効にします。手順については、*Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid 構成ガイド* [英語] を参照してください。
接続状況	このフィールドには、Cisco TMS と WebEx サイト間の接続のステータスが表示されます。

SSO の設定

表 148　シングル サインオン（SSO）の設定オプション

フィールド	説明
証明書	このフィールドには、シングル サインオンで Cisco TMS と WebEx 間のデータ転送の安全を保証する証明書が表示されます。この証明書は、Cisco TMS と WebEx の間で信頼関係をセット アップするために、WebEx 管理者に送信する必要があります。
証明書のアップロード（Upload Certificate）	参照して、証明書をアップロードします。証明書については、*Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid 構成ガイド* [英語] を参照してください。
証明書パスワード（Certificate Password）	WebEx クラウド サービス チームが提供します。
パートナー名	通常は、Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid を展開している会社の名前です。この値は一意なものでなければならないため、WebEx チームが決定または承認する必要があります。 WebEx クラウド サービス チームが提供します。
パートナーの発行元（IdP ID）	ID プロバイダーの ID です。ID プロバイダーは Cisco TMS であるため、この値は通常、Cisco TMS 管理者によって決定されます。 WebEx クラウド サービス チームが提供します。
SAML 発行元（SP ID）	サービス プロバイダーの ID です。サービス プロバイダーは WebEx であるため、この値は通常、WebEx によって決定されます。 WebEx クラウド サービス チームが提供します。
AuthContextClassRef	これは、認証コンテキストです。IdP はさまざまなコンテキスト（X509 認証、スマート カード、IWA、ユーザ名とパスワードなど）でユーザを認証します。 WebEx クラウド サービス チームが提供します。

レポートの設定

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [レポートの設定（Reporting Settings）]

このページで、「レポート（211 ページ）」にある統計に使用する一般的な設定を定義します。

表 149　[レポート（Reporting）] で生成されるレポートの設定

フィールド	説明
レポート履歴（日）（Reporting History (in days)）	統計情報に使用するデフォルトの日付範囲を設定します。最後の統計履歴日数のデータのみがデフォルトで示されます。
レポートのデフォルト開始時刻（Reporting Default Start Time）	統計情報のデフォルトの開始時刻。
レポートのデフォルト終了時刻（Reporting Default End Time）	統計情報のデフォルトの終了時刻。

プロビジョニングの拡張機能の設定

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [Provisioning Extension の設定（Provisioning Extension Settings）]

このページは、システムに Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能をインストールしてアクティブ化した場合にのみ Cisco TMS で使用できます。詳細については、お使いの環境の『*Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide*』を参照してください。

表 150　[Provisioning Extension の設定（Provisioning Extension Settings）] ページのボタン

ボタン	説明
保存（Save）	セクション内の設定の変更内容を保存します。
キャンセル（Cancel）	セクション内の設定に保存されていない変更をキャンセルします。
デフォルトに戻す（Restore Default）	デフォルトのセクションのすべての設定を復元します。

アカウント情報の電子メール

表 151　ユーザに送信されるアカウント情報に関する電子メールの設定

フィールド	説明
送信者アドレス（Sender Address）	ユーザがプロビジョニングのアカウントの電子メール メッセージを受信する電子メール アドレス。
Subject	プロビジョニングのアカウント情報の電子メールの件名がユーザに送信されます。
本文（Body）	メッセージ本文のテンプレート。次のプレースホルダはサポートされます。 ■ `{display_name}`：受信者の表示名 ■ `{username}`：プロビジョニング ユーザ名 ■ `{password}`：プロビジョニング パスワード ■ `{video_address}`：受信者の SIP URI
SMTP ホスト名（SMTP Hostname）	SMTP サーバのホスト名です。
SMTP ポート（SMTP Port）	SMTP サーバで使用するポート。
SMTP ユーザ名（SMTP Username）	SMTP サーバのユーザ名。
SMTP パスワード（SMTP Password）	SMTP サーバのパスワード。

ユーザ リポジトリ

表 152　Cisco TMSPE ユーザ リポジトリの設定

フィールド	説明
パスワードの生成を有効にする（Enable Password Generation）	*[はい（Yes）]* に設定すると、新しいパスワードが自動的に生成されます。
パスワードの長さ（Password Length）	生成されるパスワードの文字数。
パスワード生成方式（Password Generation Scheme）	パスワードは次のいずれかとして生成できます。 ■ *数字* ■ *英数字*
インポートしたユーザへの電子メールの自動送信を有効にする（Enable automatic email sending to imported user）	Active Directory からのインポート時に新しいユーザにアカウント情報を自動的に電子メールで送信するかどうかを指定します。デフォルト設定は [いいえ（No）] です。

コラボレーション会議室

表 153　コラボレーション会議室の設定

フィールド	説明
WebEx 接続を許可する（Allow WebEx Connections）	[WebEx 接続を許可する（Allow WebEx Connections）] を有効にして、CMR テンプレートに **WebEx を含める** オプションを含めます。 この設定では CMR ハイブリッドを導入する必要があります。WebEx を CMR に追加する詳細については、お使いの環境の『*Cisco TelePresence Management Suite Provisioning Extension Deployment Guide*』を参照してください。
Active Meeting Manager を許可する（Allow Active Meeting Manager）	CMR セルフサービス ポータルで Active Meeting Manager を有効にするには、[はい（Yes）] に設定します。 CMR セルフサービス ポータルで Active Meeting Manager を無効にするには、[いいえ（No）] に設定します。

Smart Scheduler

表 154　複数のプロトコル サポートの設定

フィールド	説明
SIP ビデオ コールインを追加します	SIP ユーザにビデオ コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。デフォルトでは、このオプションは参加者のビデオ コールに対して選択されています。
IP ビデオ コールインを追加します	IP ユーザにビデオ コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。
ISDN ビデオ コールインを追加します	ISDN ユーザにビデオ コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。
ISDN 音声コールインを追加します	ISDN ユーザに音声コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。
SIP 音声コールインを追加します	SIP ユーザに音声コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。デフォルトでは、このオプションは参加者の音声コールに対して選択されています。
IP 音声コールインを追加します	IP ユーザに音声コールインを有効にするには [はい（Yes）] に設定します。

FindMe

表 155　FindMe の設定

フィールド	説明
FindMe の有効化（Enable FindMe）	[はい（Yes）] に設定すると、FindMe 機能がイネーブルになります。これは Cisco VCS に FindMe オプションキーをインストールする必要があることに注意してください。
プロビジョニングされたデバイス（Provisioned Devices）	プロビジョニングされたときにデバイスが FindMe に自動的に追加されるかどうかを指定します。 ■ [ユーザのデバイス リストに追加（Add to user's device list）]：デバイスは初めてプロビジョニングされるときに、ユーザの FindMe デバイス リストに追加されます。 ■ [ユーザのアクティブな場所のデフォルト デバイスとして設定（Set as default device for user's active location）]：デバイスは初めてプロビジョニングされるときに、ユーザのアクティブな FindMe ロケーションにデフォルト デバイス（FindMe ユーザ ポータルの [初期リング（Initial Ring）]）として追加されます。また、ユーザのデバイス リストに追加されます。 ■ [含めない（Do not include）]：デバイスはプロビジョニングされるときに、FindMe に自動的に追加されません。

Cisco TMS 接続

表 156　Cisco TMSPE を Cisco TMS に接続するための設定

フィールド	説明
HTTPS	Cisco TMS とのセキュア通信には [はい（Yes）] に設定します。
接続タイムアウト（Connection Timeout）	Cisco TMS に接続する場合のタイムアウト（秒）。
受信タイムアウト（Receive Timeout）	秒単位での Cisco TMS の受信タイムアウト。
ホストネーム	Cisco TMS サーバのホスト名。このフィールドは、以前ホスト名が誤って `localhost` 以外の名前に設定されていた場合にのみ編集する必要があります。
ユーザ名（Username）	Cisco TMS のサイト管理者グループのメンバーとなっているアカウントのユーザ名。
パスワード（Password）	上のアカウントのパスワード。

LDAP 接続

表 157　LDAP 接続設定

フィールド	説明
リファーラルに従う（Follow Referrals）	名前付けリフェラルを自動的にたどる場合は [はい（Yes）] に設定します。
LDAP 接続のタイムアウト（LDAP Connection Timeout）	LDAP サーバに接続する場合のミリ秒単位のタイムアウト。

Active Directory 接続

表 158　AD 接続設定

フィールド	説明
接続タイムアウト（Connection Timeout）	Active Directory に接続する場合のミリ秒単位のタイムアウト。
フィルタ テンプレート（Filter Template）	Active Directory からユーザをインポートするためのフィルタ テンプレートを定義します。グループごとに定義できる検索フィルタのプレースホルダとして `%s` を追加します。
リファーラルに従う（Follow Referrals）	名前付けリフェラルを自動的にたどる場合は [はい（Yes）] に設定します。

チケット エラー レベルの管理

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [チケット エラー レベルの管理（Manage Ticket Error Levels）]

Cisco TMS のエラーの重要度を反映するようにチケットのエラー レベルを変更します。

注：エラー レベルは、Cisco TMS のすべてのユーザに共通です。ユーザごとに定義することはできません。

エラー レベルを変更すると、チケットが Cisco TMS とチケット サービスでどのように表示されるかにも影響します。チケットの種類を [エラーではありません（Not an error）] に設定すると、そのチケットは Cisco TMS に表示されなくなります。

特定の種類のすべてのシステムではなく、選択したシステムでのみ Cisco TMS にチケットが表示されないようにするには、代わりにチケット フィルタを使用します。詳細については、「チケット サービス（129 ページ）」を参照してください。

表 159　チケット エラーとその説明

チケット エラー	説明
アクティブなゲートキーパーのアドレスがブランク（Active Gatekeeper Address Blank）	ゲートキーパーの設定が正しく設定されていません。アクティブなゲートキーパーのアドレスは空白です。
エイリアスが作業サービスの環境設定に関連付けられていません（Aliases Not Associated With Working Service Preference）	1 つ以上のエイリアスが、TelePresence Conductor の会議のエイリアスと一致していません。
プロビジョニングのためのアプローチの制限は認可します（Approaching Limit for Provisioning Licenses）	このチケットは Cisco TMSPE に適用されます。 （ライセンスの合計数（またはゼロ）のうち）使用可能なプロビジョニング ライセンスだけが残っています（またはゼロ）。これ以上のライセンスがない場合、追加のクライアントまたはデバイスが登録を拒否されます。このチケットが自動的にクリアされず、確認または削除する必要があることに注意してください。
自動応答オフ	自動応答は、システムでオフにスイッチされます。これは、Cisco TMS がこのシステムの着信コールを自動接続できないことを意味します。
帯域幅エラー（Bandwidth Error）	帯域幅はシステムで定義されていません。
ブランク システム名（Blank System Name）	システム名は空白です。
証明書の検証エラー（Certificate Validation Error）	システムの証明書にエラーがあります。
E.164 エイリアスまたは H.323 ID、IP の帯域幅不足（E.164 Alias or H.323 ID, but no IP Bandwidth）	E.164 エイリアスまたは H.323 ID はシステムで指定されますが、システムの IP 帯域幅なしで設定されます。

表 159　チケット エラーとその説明（続き）

E.164 エイリアス、IP の帯域幅不足（E.164 Alias, but no IP Bandwidth）	E.164 番号がシステムで指定されますが、システムは IP 帯域幅なしで設定されます。
ゲートキーパーの設定エラー（Gatekeeper Configuration Error）	ゲートキーパーの設定が正しく設定されていません。
ディセーブルにされたゲートキーパーの登録 ID（Gatekeeper ID Registration Disabled）	ゲートキーパーの ID 登録がディセーブルになっています。
ゲートキーパー モード オフ（Gatekeeper Mode Off）	システムのゲートキーパー モードがオフです。このシステムにダイヤルするには、E.164 エイリアスを使用することはできません。
ゲートキーパー登録の失敗（Gatekeeper Registration Failure）	システムは、ゲートキーパーに登録できませんでした。
ホスト名の不一致（Hostname Mismatch）	Cisco TMS のシステムのホスト名が、システム自体のホスト名と一致しません。
HTTP エラー（HTTP Error）	Cisco TMS とシステムの間に HTTP 通信の問題があります。
HTTPS 接続エラー（HTTPS Connection Error）	Cisco TMS が HTTPS を使用してシステムに接続できません。
不正な認証情報（Incorrect Authentication Information）	Cisco TMS に保存されているこのシステムの認証情報が正しくありません。
不正なフィードバック アドレス（Incorrect Feedback Address）	システムのフィードバック アドレスが適切に設定されていません。コール状態およびレポートが不正確になる可能性があります。
正しくない管理アドレス（Incorrect Management Address）	システムの管理アドレスが正しく設定されていません。コール状態およびレポートが不正確になる可能性があります。
不正なプロビジョニング モード（Incorrect Provisioning Mode）	Cisco TMS の [システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select system）] > [設定（Settings）] > [一般（General）] ペインの [プロビジョニング済み（Provisioned）] の設定がシステムの [プロビジョニング モード（Provisioning Mode）] の設定と一致していません。 次のいずれかを行います。 ■ このシステムの Cisco TMS の [プロビジョニング済み（Provisioned）] フィールドは無効化されていますが、システム自体の [プロビジョニング モード（Provisioning Mode）] は VCS に設定されています。システムの [プロビジョニング モード（Provisioning Mode）] は、TMS に設定する必要があります。[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] > [システムを選択（Select system）] > [設定（Settings）] > [設定を編集（Edit Settings）] > [一般（General）] ペインに移動します。フィールド [TMS エージェントによるプロビジョニング（Provisioned）] を修正します。新しい設定を適用するか、またはシステムでプロビジョニング モードを手動で修正するために [管理設定の強制（Enforce Management Settings）] をクリックします。 または ■ このシステムの Cisco TMS の [プロビジョニング済み（Provisioned）] フィールドは有効化されていますが、システム自体の [プロビジョニング モード（Provisioning Mode）] は TMS に設定されています。システムのプロビジョニング モードは VCS に設定する必要があります。システムでプロビジョニング モードを手動で修正します。
不正な SNMP CN（Incorrect SNMP CN）	システムの SNMP コミュニティ名が間違っています。
不正な SNMP トラップホスト（Incorrect SNMP Traphost）	システムの SNMP トラップホストが正しく設定されていません。コール状態およびレポートはこのシステムに誤っている可能性があります。
無効な MCU プレフィックスの設定（Invalid MCU Prefix Configuration）	MCU の [MCU サービス プレフィックス（MCU Service Prefix）] 設定および [MCU 登録のプレフィックス（Prefix for MCU Registrations）] 設定が定義されている場合、プレフィックスは同じ値でなければなりません。これにより Cisco TMS はカスケードされた MCU 会議を正しく解決できます。

表 159　チケット エラーとその説明（続き）

IP の帯域幅の設定エラー（IP Bandwidth Configuration Error）	システムは IP コールを受け入れるように設定されている使用可能な IP の帯域幅がありません。
設定されていない IP ゾーン（IP Zone Not Set）	IP のゾーンがこのシステムに設定されていません。Cisco TMS はこのシステムで H.323 コールを予約できない可能性があります。
ISDN 設定エラー（ISDN Configuration Error）	システムの ISDN 設定が適切に設定されていません。
設定されていない ISDN ゾーン（ISDN Zone Not Set）	ISDN のゾーンがこのシステムに設定されていません。Cisco TMS はこのシステムで ISDN コールを予約できない可能性があります。
リモコンの電池残量低下（Low Battery on Remote Control）	エンドポイントは、リモート制御のバッテリの充電が必要であることを示しました。
システムのディスク スペース不足（Low Diskspace on System）	システムのディスク スペースが不足しています。
TMS Web サーバのディスク スペース不足（Low Diskspace on TMS Web Server）	Cisco TMS サーバのディスク容量が不足しています。
欠落している E.164 エイリアス（Missing E.164 Alias）	少なくとも 1 つの E.164 エイリアスが欠落しています。
欠落している E.164 エイリアスと H.323 ID（Missing E.164 Alias and H.323 ID）	少なくとも 1 つのポートの E.164 エイリアスと H.323 ID の両方が見つかりません。
欠落している ISDN 番号（Missing ISDN Number）	システムは ISDN 帯域幅で設定されますが、ISDN 番号はシステムに設定されていません。
Movi クライアントの新しいソフトウェアが使用可能（New Movi Client software available）	使用可能な Jabber Video クライアントの新しいバージョンがあります。チケットでセットアップ ファイルをダウンロードする場所がわかります。
新しいソフトウェアを使用できます（New Software Available）	利用できる新しいソフトウェア バージョンがあります。ソフトウェア パッケージは、Cisco ソフトウェア リポジトリから自動でダウンロードされます。リリース キーはチケットに含まれます。
予約可能なエイリアスが設定されていません（No Bookable Aliases Configured）	予約可能な Cisco TelePresence Conductor エイリアスを設定しませんでした。
ISDN 帯域幅なし（No ISDN Bandwidth）	システムは、ISDN 番号で設定されますが、使用可能な ISDN 帯域幅がありません。
定義されたポートなし（No Ports Defined）	このシステムで定義されたポートはありません。Cisco TMS はこのシステムからのポート情報を読み取ることができません。
サービス契約がありません（No Service Contract）	このシステムに登録されている有効でアクティブなサービス契約がありません。
割り当てられたシステム接点なし（No System Contact Assigned）	システム連絡先はこのシステムに割り当てられていません。
TMS CP サービスなし（No TMS CP Services）	レガシー システムにのみ適用されます。 MCU で定義された Cisco TMS CP サービスはありません。このため、この MCU との分割表示会議を予約することは不可能です。
TMS ECP サービスなし（No TMS ECP Services）	レガシー システムにのみ適用されます。 MCU で定義された Cisco TMS ECP サービスはありません。このため、この MCU との拡張分割表示会議を予約することは不可能です。

表 159　チケット エラーとその説明（続き）

TMS VS サービスなし（No TMS VS Services）	レガシー システムにのみ適用されます。 MCU で定義された Cisco TMS VS サービスはありません。このため、この MCU での音声の交換の会議を予約することは可能です。
TMS アーカイブ回線が定義されていません（No TMS-archiving Lines Defined）	レガシー システムにのみ適用されます。 Cisco TMS 用に定義された予約済み Cisco TMS アーカイブ回線がありません。
TMS トランスコーディング回線が定義されていません（No TMS-transcoding Lines Defined）	レガシー システムにのみ適用されます。 Cisco TMS 用に定義された予約済み Cisco TMS トランスコーディング回線がありません。
組織の最上位ドメインが設定されていません（Organization Top Level Domain is not set）	Unified CM で組織の最上位ドメインが設定されていないため、Cisco TMS は、Unified CM により管理されるシステムを含むコールをスケジュールできないか、このコールに関するフィードバックを受信できない可能性があります。
システムの構成変更を保留中（Pending Configuration Changes for System）	システムに適用されていない保留中の設定変更が、Cisco TMS に保存されています。
永続名とシステム名の不一致（Persistent Name Not the Same as Name on System）	永続名はシステム名と同じではありません。Cisco TMS は永続名を設定できません。
持続性設定の不一致（Persistent Setting Mismatch）	システム設定は設定された永続的な設定とは異なります。
ポート数はライセンスを超えています（Port Count Exceeds License）	定義されている Cisco TMS ポートの数がライセンスを超えています。
プロビジョニングの拡張の重大なエラー（Provisioning Extension Critical Error）	重大な Cisco TMSPE の診断エラー。
プロビジョニングの拡張の警告（Provisioning Extension Warning）	ローカルの Cisco TMSPE または Cisco VCS の Cisco TMSPE 診断で、大量の警告が発生しました。
スケジュール エラー（Scheduling Error）	スケジュール エラーが発生しました。
サービス契約の期限が切れています（Service Contract Expired）	このシステムのサービス契約の期限が切れました。有効なサービス契約なしでは新しいソフトウェア アップデートの資格がありません。このシステムの現在のソフトウェア バージョンは（バージョン番号）で、Cisco ソフトウェア リポジトリで入手可能な最新バージョンは（バージョン番号）です。
サービス契約の期限が切れようとしています（Service Contract Expiring）	このシステムのサービス契約が期限切れになります。チケットには有効期限が含まれます。
SIP の登録に関する問題（SIP Registration Problem）	SIP の登録の問題があります。
SIP サーバの登録の失敗（SIP Server Registration Failure）	システムは、SIP サーバに登録できませんでした。
サイト管理者がデフォルトのグループとして設定されています（Site Administrators Set as Default Group）	サイト管理者グループが新規ユーザのデフォルトのグループとして設定されているため、すべての新規ユーザに Cisco TMS の完全な管理者権限が与えられます。
互換性のないソフトウェア バージョン（Software Version Incompatible）	システムのソフトウェア バージョンはこのバージョンの Cisco TMS と互換性がありません。

表 159　チケット エラーとその説明（続き）

イネーブルになっている SSH のパスワード失効（SSH Password Expiry Enabled）	CTS システムだけに適用されます。SSH のパスワード有効期限は、このシステムでイネーブルです。TMS は、特定の機能を制御するために SSH を使用するため、パスワードが期限切れになると、この機能も動作しなくなります。パスワードの期限切れをディセーブルにします。
システムはリソース限度に達している（System Has Reached Resource Limit）	システムは、オプション キーによって指定されたリソース（コール/トラバーサル コール/登録）の限度に到達しました。このチケットは自動的にクリアされず、確認するか削除しなければならないことに注意してください。
システムは Unified CM に登録されていません（System Is Not Registered with Unified CM）	Unified CM 登録システムに適用されます。Unified CM により、このシステムは未登録と見なされます。システムがネットワークから切断されたか、オフに切り替えられたか、正しく設定されていないことが原因である可能性があります。この問題の解決を続行するには Unified CM にログインする必要があります。
システムを再起動する必要があります（System Must Be Restarted）	システムの設定が変更され、変更を有効にするためにシステムを再起動する必要があります。
見つからないシステム設定（System Settings Not Found）	システムのデフォルト設定は実行されません。
TelePresence Conductor ブリッジが TMS にありません（TelePresence Conductor Bridges Not Found in TMS）	この TelePresence Conductor で管理されているシステムは、Cisco TMS に登録されていません。これは、一部の機能が使用できないことを意味します。
TelePresence Server はリモート管理モードになっていますが TelePresence Conductor に管理されていません（TelePresence Server is in Remotely Managed Mode but is Not Managed By a TelePresence Conductor）	TelePresence Server は [動作モード：リモート管理（Operation Mode: Remotely Managed）] になっていますが、TelePresence Conductor の背後にない場合は [動作モード：ローカル管理（Operation Mode: Locally Managed）] に設定する必要があります。
システムの CUCM は使用できません（The System's Unified CM Is Not Available）	Unified CM 登録システムに適用されます。このシステムが登録されている Unified CM を利用できません。
サポートされていないソフトウェアのバージョンがこのシステムで実行されています（This System is Running a Software Version that is Not Supported）	このシステムで実行されているソフトウェアのバージョンは、このバージョンの Cisco TMS ではサポートされていません。
サポートされていないソフトウェアのバージョンがこの TelePresence Conductor で実行されています（This TelePresence Conductor is Running a Software Version that is Not Supported）	この TelePresence Conductor で実行されているソフトウェアのバージョンは、このバージョンの Cisco TMS ではサポートされていません。
タイム ゾーンの不一致（Time Zone Mismatch）	Cisco TMS でシステム用に設定したタイム ゾーンは、システムのタイム ゾーンと異なります。
設定されていないタイム ゾーン（Time Zone Not Set）	タイム ゾーンが設定されていません。このシステムを予約することはできません。
TMS の接続エラー（TMS Connection Error）	Cisco TMS とシステムの間に接続の問題があります。
TMS のデータベース ファイルにスペースが不足しています（TMS Database file is running out of space）	Cisco TMS データベース ファイルにスペースが不足しています。
TMS の暗号化キーの不一致（TMS Encryption key mismatch）	TMS ツールの暗号キー セットは、Cisco TMS で認証データの暗号化解除に使用する暗号キーと一致しません。
非同期の TMS サーバ時間（TMS Server Time Out of Sync）	SQL サーバの現在時刻と Cisco TMS Server のサーバ時間とのずれが 30 秒を超えています。
動作しない TMS サービス（TMS Service Not Running）	TMS サービスの 1 つが停止した状態です。チケットがどれかを指定します。

表 159　チケット エラーとその説明（続き）

IP 割り当てと互換性のないトラッキング方式（Tracking Method Incompatible with IP Assignment）	システムは、[接続（Connection）] タブの *IP アドレス*によって追跡するよう設定されていますが、DHCP アドレッシングを使用するようにシステムはローカルで設定されています。この設定では、システムの IP アドレスが変わった場合に、Cisco TMS がシステムを追跡できなくなります。
プロビジョニングの拡張と通信できません（Unable to Communicate with the Provisioning Extension）	Cisco TMS は、Cisco TMSPE と通信できません。
CUCM サーバの時間が TMS サーバの時間と同期していません（Unified CM Server Time Is Out of Sync with TMS Server Time）	Unified CM のサーバの時刻は、Cisco TMS のサーバ時刻と異なります。

イベント通知のエラーレベルを管理

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [イベント通知のエラー レベルの管理（Manage Event Notification Error Levels）]

このページで、Cisco TMS のさまざまなエラーの重要性をカスタマイズするためのイベント通知エラー レベルを変更できます。

注：エラー レベルは、Cisco TMS のすべてのユーザに共通です。ユーザごとに定義することはできません。

ユーザ管理（User Administration）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）]

ここでは、管理者はユーザ、グループ、および権限レベルを管理できます。

Cisco TMS ユーザ権限はグループ レベルで制御され、各ユーザは複数のグループのメンバーになることができます。エンドユーザの合計権限レベルは、その Cisco TMS ユーザがメンバーであるすべてのグループに割り当てられているすべての権限の合計です。

新規ユーザは、Cisco TMS に最初にアクセスしたとき、そのユーザの Windows ユーザ名が Active Directory 参照で自動的に検出されるため、自動的に一連のグループ（「デフォルト グループ（259 ページ）」を参照）に追加されます。詳細については、「ユーザ（257 ページ）」を参照してください。

グループ（Groups）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）]

このページで、グループと、そのページと機能に対する権限を管理できます。

事前に定義されているグループ

Site Administrator

このグループの権限は変更できず、Cisco TMS 内のすべてのメニュー、機能、フォルダ、およびシステムに対するフル アクセスがデフォルトで設定されています。Cisco TMS を担当するユーザだけをこのグループのメンバーにします。[サイト管理者（Site Administrators）] グループのメンバーだけが、[管理ツール（Administrative Tools）] の [設定（Configuration）] ページを編集する権限を持ち、サーバの IP アドレスを変更したり、オプション キーを変更したりできます。

Users

すべての新規 Cisco TMS ユーザはデフォルトでこのグループのメンバーです。**ユーザ** グループに所属するユーザを追加または削除することはできません。このグループの権限は、**サイト管理者**が変更できます。このグループに割り当てるアクセス権が、組織の人に持たせたい最低レベルを表すことが推奨されます。これは、ユーザがアクセス権を持つ Cisco TMS 内のページ、およびユーザに使用が許可されるシステムの両方に適用されます。

Video Unit Administrator

このグループにすべてのビデオ会議システム（ゲートウェイ、ゲートキーパー、および MCU など）に対する完全な管理権限があります。権限は変更できます。

通常、技術面の責任を持つ人はこのグループのメンバーです。**ビデオ装置の管理者**には [設定（Configuration）] ページの編集権限がありません。それ以外では、**サイト管理者**と同じ権限があります。

グループの管理

[グループ（Groups）] ページには、Cisco TMS 内に存在するグループの**名前**、**説明**、およびタイプが表示されます。Cisco TMS には次の 3 種類のグループがあります。

- [削除可能（Removable）] グループはユーザが作成および削除できます。
- [デフォルト グループ（Default Group）] については、該当セクションの説明を参照してください。これらは削除できません。
- [AD グループ（AD Group）] は Active Directory からインポートされます。このタイプの詳細については、次を参照してください。

グループのメンバーの表示

1. グループ名の上にカーソルを移動します。
2. [表示（View）] ボタンをクリックします。
3. グループ メンバーのリストが表示されます。

グループの編集

必要な権限がある場合にグループを編集するには、次の手順を実行します。

1. グループ名の上にカーソルを移動します。
2. [編集（Edit）] をクリックします。
3. これで、グループの名前、説明、またはメンバーを変更できます。
   - メンバーを削除するには、次の手順を実行します。
     1. [グループ メンバー（Group members）] タブに移動します。
     2. グループから削除するユーザを選択します。
     3. [削除（Remove）] ボタンをクリックします。
   - メンバーを追加するには、次の手順を実行します。
     1. [メンバーの追加（Add members）] タブに移動します。
     2. グループに追加するユーザを選択します。
     3. [追加（Add）] をクリックします。
4. 完了したら、[保存（Save）] をクリックします。

新しいグループの追加

1. ページの下部にある [新規（New）] をクリックします。
2. グループの名前と説明を入力します。
3. グループに Cisco TMS 登録ユーザを追加します。
4. [保存（Save）] をクリックします。

グループの権限の設定

1. グループ名の上にカーソルを移動します。
2. [権限の設定（Set Permissions）] をクリックします。
3. これで、Cisco TMS の特定の機能とページに対する権限を設定できます。必要に応じてチェックボックスを選択または選択解除します。
4. 完了したら、[保存（Save）] をクリックします。

次の表で、Cisco TMS の各メニュー内のさまざまな機能に設定できる権限について説明します。

ポータル（Portal）

表 160　Cisco TMS ポータル ページの権限

ページ/機能	権限	グループが実行できる処理
ポータル（Portal）	**読み取り（Read）**	ページにアクセスします。
サイトマップ	**読み取り（Read）**	ページにアクセスします。

予約

表 161　予約権限

ページ/機能	権限	グループが実行できる処理
会議の一覧 -- すべて（List Conferences -- All）	*読み取り（Read）*	[会議の一覧（List Conferences）] と [会議制御センター（Conference Control Center）] にすべてのユーザの会議を表示します。 この設定を使用して、[アドホック予約（Ad hoc Booking）]、[参加者の追加（Add Participant）] 可用性テーブルなどの会議情報に対する読み取りアクセスを制限します。
	更新（Update）	すべてのユーザの会議を作成、編集、および削除します。
	ログのエクスポート（Export Log）	[会議の一覧（List Conferences）] ページから、Excel/スプレッドシート形式にログをエクスポートします。
会議の一覧 -- 自分用（List Conferences -- Mine）	*読み取り（Read）*	[会議の一覧（List Conferences）] と [会議制御センター（Conference Control Center）] に自分の会議と、誰かの代わりに予約した会議のみ表示します。
	更新（Update）	自分の会議のみ編集および削除します。 Cisco TMSBA サービス ユーザにはこの権限が必要です。
参照の一覧（List References）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	更新（Update）	参照を作成、編集、および削除します。
参加者テンプレート（Participant Template）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	更新（Update）	テンプレートを作成、編集、および削除します。

表 161　予約権限（続き）

その他（Misc）	*予約*	新しい会議を予約する権限。 Cisco TMSBA サービス ユーザにはこの権限が必要です。
	アドホック予約ページ（Ad Hoc Booking Page）	ページにアクセスします。
	詳細設定（Advanced Settings）	[予約（Booking）] > [新しい会議（New Conference）] で [詳細設定（Advanced Settings）] にアクセスします。
	会議承認（Approve Meeting）	スケジュールされた会議を承認または拒否します。イネーブルでない場合、このグループのユーザによって予約されているすべての会議は、この権限を持つユーザの承認が必要です。 Cisco TMSBA サービスのユーザには通常この権限が必要です。
	代表予約（Book on behalf of）	他のユーザの代理として予約します。 Cisco TMSBA サービス ユーザにはこの権限が必要です。
	新しい会議のページ（New Conference Page）	[新しい会議（New Conference）] ページにアクセスします。新しい会議を作成するには、*予約*権限が必要です。

モニタリング（Monitoring）

表 162　モニタリング権限

ページ/機能		
その他（Misc）	*会議制御センター*	ページにアクセスします。
	グラフィカル モニタ（Graphical Monitor）	ページにアクセスします。

システム（Systems）

表 163　[システム（Systems）] メニューに関連する権限

ページ/機能	権限	グループが実行できる処理
ナビゲータ	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	TelePresence Conductor エイリアスの読み取り	[TelePresence Conductor エイリアス（TelePresence Conductor Aliases）] タブを表示します。
	TelePresence Conductor エイリアスの作成/更新/削除	TelePresence Conductor エイリアスを作成、編集、および削除します。
チケット サービス（Ticketing Service）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
システム概要（System Overview）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
ダイヤル計画の管理（Manage Dial Plan）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。

表 163　[システム（Systems）] メニューに関連する権限（続き）

プロビジョニング	*ディレクトリ（Directory）*	ページにアクセスします。
	ユーザ（Users）	ページにアクセスします。
	FindMe	ページにアクセスします。
構成のバックアップ（Configuration Backup）	*構成のバックアップ（Configuration Backup）*	ページにアクセスします。
	構成の復元（Configuration Restore）	ページにアクセスします。
	バックアップ状況を表示（View Backup Status）	ページにアクセスします。
システム アップグレード（System Upgrade）	*システム アップグレード（System Upgrade）*	ページにアクセスします。
	ソフトウェア マネージャ（Software Manager）	ページにアクセスします。
システムを消去（Purge Systems）	*システムを消去（Purge Systems）*	Cisco TMS データベースからシステムを削除または消去します。
履歴（History）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
イベント通知マネージャ（Event Notification Manager）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	更新（Update）	すべてのユーザへの通知を編集します。
	自己通知（Own Notifications）	ユーザ自身用の通知だけを編集します。

電話帳

表 164　[電話帳（Phone Books）] メニューに関連する権限

ページ/機能	権限	説明
電話帳	*読み取り（Read）*	たとえば、[電話帳（Phone Books）] > [電話帳の管理（Manage Phone Books）] ページで電話帳のリストにアクセスします。
	作成/削除（Create/Delete）	自分が更新できる電話帳を作成、編集、および削除します。
	新規電話帳の更新の許可（Grant Update on New Phone Books）	新しい電話帳のエントリを入力および編集します。これには、既存の電話帳を更新する権限はありません。 注：既存の電話帳を更新または削除するには、電話帳ごとにグループ権限を設定する必要があります。「電話帳の管理（201 ページ）」を参照してください。
	システムに設定（Set On System）	システムの電話帳を設定します。
	ソースに接続（Connect to Source）	電話帳と電話帳ソースの間の接続を設定します。
電話帳ソース（Phone Book Sources）	*読み取り（Read）*	[電話帳ソース（Phone Book Sources）] ページへの読み取りアクセス。
	作成（Create）	新しい電話帳ソースを作成します。
	更新（Update）	既存の電話帳ソースを編集します。
	削除（Delete）	電話帳ソースを削除します。
	1 度限りのインポート（One-time Import）	手動リスト ソースへの 1 度限りのインポートを実行します。

管理ツール（Administrative Tools）

レポート

表 165　レポート権限

ページ/機能	権限	説明
レポート	*詳しい通話記録（Call Detail Record）*	ページにアクセスします。
	会議統計（Conference Statistics）	ページにアクセスします。
	ネットワーク統計（Network Statistics）	ページにアクセスします。
	システム統計（System Statistics）	ページにアクセスします。
	課金コード（Billing Codes）	ページにアクセスします。

管理ツール（Administrative Tools）

表 166　[管理ツール（Administrative Tools）] メニューに関連する権限

ページ/機能	権限	説明
設定（Configuration）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	更新（Update）	設定を編集します。
Users	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	作成（Create）	新規ユーザを作成します。
	更新（Update）	既存のユーザを更新します。
	削除（Delete）	既存のユーザを削除します。
	グループの設定（Set Groups）	ユーザにグループを設定します。
グループ（Groups）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	作成（Create）	新しいグループを作成します。
	更新（Update）	既存のグループを更新します。
	削除（Delete）	既存のグループを削除します。
	権限の設定（Set Permissions）	既存のグループに権限を設定します。
	デフォルト グループの設定（Set Default Group）	デフォルト グループを定義します。
IP ゾーン（IP zones）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	作成（Create）	新しい IP ゾーンを作成します。
	更新（Update）	既存の IP ゾーンを編集します。
	削除（Delete）	既存の IP ゾーンを削除します。
ISDN ゾーン（ISDN zones）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	作成（Create）	新しい ISDN ゾーンを作成します。
	更新（Update）	既存の ISDN ゾーンを編集します。
	削除（Delete）	既存の ISDN ゾーンを削除します。

表 166 [管理ツール（Administrative Tools）] メニューに関連する権限（続き）

ページ/機能	権限	説明
課金コード（Billing Codes）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	作成（Create）	新しい課金コードを作成します。
	更新（Update）	既存の課金コードを編集します。
	削除（Delete）	既存の課金コードを削除します。
	システムに設定（Set on System）	システムに既存の課金コードを設定します。
	インポート（Import）	課金コードのインポートにアクセスします。
活動状況（Activity Status）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
	削除（Delete）	イベント ログを削除します。
TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
TMS チケット（TMS Tickets）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。
プロビジョニングの拡張機能の設定	*読み取り/更新（Read/Update）*	ページにアクセスし、設定を編集します。
プロビジョニング拡張機能の診断（Provisioning Extension Diagnostics）	*読み取り/更新（Read/Update）*	ページにアクセスし、設定を編集します。
監査ログ（Audit Log）	*読み取り（Read）*	ページにアクセスします。

Active Directory グループの追加（Adding Active Directory groups）

独自の Cisco TMS グループを作成する代わりに、Active Directory から既存のグループを追加できます。
Active Directory グループの使用を始めるには、次の手順を実行します。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] に移動します。
2. [Active Directory] セクションで、[AD グループの許可（Allow AD groups）] を [はい（Yes）] に設定します。

   [AD からインポート（Import from AD）] および [AD からグループを更新（Update Groups From AD）] ボタンが、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] に表示されます。

グループを Active Directory から追加するには、次の手順を実行します。

1. [AD からインポートする（Import from AD）] をクリックします。
2. グループの名前（または名前の一部）を入力します。
3. [検索（Search）] をクリックします。
4. 追加するグループの横にあるチェックボックスを選択します。
5. [選択したグループをインポート（Import selected）] をクリックします。
6. 追加した AD グループは、Cisco TMS グループに追加された後、選択されて表示されます。

Active Directory グループを Cisco TMS に追加したとき、最初はメンバーが存在しません。これらのグループのメンバーシップは、次の場合に更新されます。

- ユーザがログインした場合。
  Cisco TMS にサインインした AD ユーザのみが Active Directory グループのメンバーとして表示されます。Active Directory グループには、Cisco TMS をまだ使用していないメンバーがいる場合があります。
- [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [ユーザ（Users）] で [AD から更新（Update From AD）] または [AD からユーザを更新（Update Users From AD）] をクリックした場合。
- グループ ページの [AD からグループを更新（Update Groups From AD）] をクリックした場合。
  これは、Cisco TMS のすべてのユーザに対する AD グループ メンバーシップを更新します。

Cisco TMS 内から Active Directory グループのメンバーシップを管理することはできません。

ユーザ（Users）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [ユーザ（Users）]

[ユーザ（Users）] ページでは、連絡先情報、ユーザ環境設定、およびユーザの権限レベルを制御するグループ メンバーシップを管理できます。

- ユーザは手動で作成するか、Active Directory からインポートすることができます。Cisco TMS はまた、Cisco TMS サーバ上の任意のローカル ユーザ アカウントを自動的に認証します。
- AD 同期を有効にして自動同期を設定するには、[管理ツール（Administrative tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [Active Directory] に移動します。「ネットワーク設定（222 ページ）」を参照してください。

Active Directory 同期

ユーザが初めて Cisco TMS にログオンすると、[ユーザ名（Username）] パラメータが Active Directory から取得されます。Cisco TMS は、電子メール アドレスや姓名などのユーザ情報も取得します。情報を入手できない場合はユーザ情報、およびユーザ設定を入力するためのポップアップ ウィンドウが表示されます。Windows にログイン中に [ユーザ名（Username）] は変更できません。

AD との同期では、新規ユーザと更新情報が取得され、AD から削除された Cisco TMS のユーザはすべて削除されます。AD ルックアップが有効になっている場合は、次の手動同期用のボタンを使用できます。

- ユーザ詳細ページの [AD から更新（Update from AD）] を使用すると、選択したユーザに関する更新情報を Active Directory から取得できます。
- [ユーザ（Users）] ページの [すべてのユーザを AD と同期（Synchronize all user with AD）] を使用すると、手動による完全な同期を開始できます。

新規ユーザの追加またはユーザ詳細の変更

手動で新規ユーザを追加するか、既存のユーザの詳細を更新するには、次の手順を実行します。

1. [新規（New）] をクリックするか、リストの既存のユーザをクリックします。

2. ユーザ情報を入力します。Active Directory ルックアップが有効になっていて、AD でユーザが見つかった場合は、一部のフィールドが読み取り専用になります。

表 167　ユーザ設定

フィールド	説明
Windows ユーザ名（Windows username）	ユーザの Windows ユーザ名。 このフィールドは必須です。
名	ユーザの名。 このフィールドは必須です。
姓	ユーザの姓。 このフィールドは必須です。
電子メール アドレス（Email Address）	会議予約とイベント通知の電子メールの送信先。形式は `handle@example.com` である必要があります。 このフィールドは必須です。
言語（Language）	この設定は次の項目を制御します。 – このユーザがいずれかの Cisco TMS ページの左下にあるユーザ名をクリックしたときに使用可能な [ユーザ設定（User Settings）] ポップアップ ウィンドウに表示される言語。 Cisco TMS Web インターフェイスの残りの部分は、インストール時に選択した言語か、その言語が使用できない場合は英語（US）で表示されます。 – 時刻形式と週の最初の日を含むユーザのロケール。 たとえば、英語（US）、英語（UK）、および英語（AU）では同じ文字列が使用されますが、日付と時刻の形式が異なります。
オフィスの電話番号（Office Telephone）	ユーザのオフィスの電話番号。
携帯電話（Mobile Telephone）	ユーザの携帯電話の番号。
プライマリ システム（Primary System）	ユーザの優先ビデオ システム。
WebEx ユーザ名（WebEx Username）	ユーザの WebEx ユーザ名。[WebEx ユーザ名を Active Directory から取得（Get WebEx Username from Active Directory）] が有効になっている場合、ここで入力したユーザ名は、次にユーザのデータを AD から同期するときに上書きされます。AD ユーザ名の取得の詳細については、「WebEx 設定（239 ページ）」を参照してください。
WebEx パスワード	ユーザの WebEx パスワード。CMR ハイブリッドでシングル サインオンが有効になっている場合、ここで入力したパスワードはすべて無視されます。
[WebEx サイト（WebEx Site）]	ユーザが CMR ハイブリッド会議に使用する WebEx サイト。

表 167　ユーザ設定（続き）

フィールド	説明
タイム ゾーン	ユーザに正しい時刻および日付情報を提供するために、ユーザのタイム ゾーンを設定 します。次の場合は、自分のタイム ゾーンがユーザに表示されます。 – 新しい会議の予約。 – 既存の会議の一覧表示。 異なるタイム ゾーンに対して作成された予約の詳細を編集または表示しているときは、会議のタイム ゾーンが表示され、このことがユーザに通知されます。
IP ゾーン（IP Zone）	Cisco TMS エンドポイントが会議に参加していないときに、ネットワーク リソースを識別するために使用されます。ユーザの IP ゾーンがネットワーク リソースを含んでいない場合、この設定はネットワーク リソースのあるユーザに最も近いゾーンに設定する必要があることに注意してください。

3. 必要なすべての情報の提供が完了したら、[保存（Save）] をクリックします。

ユーザの削除

1. 削除するユーザのチェックボックスをオンにします。
2. [削除（Delete）] ボタンをクリックします。

デフォルト グループ

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [デフォルト グループ（Default Groups）]

[デフォルト グループ（Default Groups）] ページでは、新しいユーザが初めて Cisco TMS にログインしたときに自動的に割り当てられるグループを定義できます。

デフォルトでは、すべてのユーザが [ユーザ（Users）] グループのメンバーになります。追加グループへのメンバーシップは、グループの横にあるチェックボックスを選択して [保存（Save）] をクリックすると設定できます。

Cisco TMS では、AD グループのメンバーシップを無効にできません。したがって、AD グループを Cisco TMS のデフォルト グループとして設定することはできません。

デフォルトのシステム権限

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [デフォルトのシステム権限（Default System Permissions）]

このページでは、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] で、Cisco TMS の各グループのシステムに対するデフォルトのシステム権限を定義します。

注：[デフォルトのシステム権限（Default System Permissions）] に加えた変更は、設定を変更*後*に追加されたシステムにのみ影響します。[ナビゲータ（Navigator）] の既存のシステムでは、元の権限設定が保持されます。

次の表に、Cisco TMS のユーザ グループごとにシステムのデフォルトとして設定できる権限を示します。

表 168　グループに対して設定できるデフォルトのシステム権限

権限	説明
読み取り（Read）	グループ メンバーは、設定を表示できます。
予約（Book）	グループ メンバーは会議を予約できます。
設定の編集（Edit Settings）	グループ メンバーは、設定を編集できます。
コールの管理	グループ メンバーは、最近追加されたシステムとのコール設定を管理できます。
権限の設定（Set Permissions）	グループ メンバーは、最近追加されたシステムの権限を変更できます。

システムを追加、移動、またはコピーする場合、フォルダのレベルで指定する権限は、「デフォルトのシステム権限（259 ページ）」にあるグループのシステム権限設定とマージされます。

これらのページの権限は異なって表示されますが、次の表に示すようにマッピングします。

表 169　フォルダおよびシステム権限のマッピング

フォルダ権限	デフォルトのシステム権限
読み取り（Read）	読み取り（Read）、予約（Book）
編集（Edit）	読み取り（Read）、予約（Book）、設定の編集（Edit Settings）、通話の管理（Manage Calls）
権限の設定（Set Permissions）	—

これらのデフォルトを上書きする設定をフォルダまたはシステムに対して行う場合は、[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] に移動し、[フォルダおよびシステム権限（Folder and System Permissions）] ボタンをクリックします。「フォルダおよびシステム権限（128 ページ）」を参照してください。

ロケーション（Locations）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）]

ここで、必要なプレフィックスとエリア コード、使用するプロトコル、およびどのコールが可能であるかを Cisco TMS が認識できるように ISDN および IP のゾーンを定義します。

詳細については、「ゾーンのしくみ（38 ページ）」を参照してください。

ISDN ゾーン

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）]

このページで、既存の ISDN のゾーンのリストが表示され、新しいゾーンを作成できます。

- リストの各ゾーンの上にマウス ポインタを移動し、[表示（View）]、[編集（Edit）] または [システムに設定（Set on Systems）] のオプションがあるドロップダウン メニューにアクセスします。
- 新しい ISDN ゾーンを作成するには、[新規（New）] をクリックします。

設定

ISDN のゾーンを Cisco TMS で作成または編集するときは、次のフィールドが使用できます。

表 170　ISDN ゾーンの設定

セクションとフィールド	説明
一般	
ISDN ゾーン名（ISDN Zone Name）	ISDN ゾーンの名前。
国/地域（Country/Region）	このゾーンが位置する国。これにより Cisco TMS は正しい国番号と国際ダイヤル プレフィックスを選択できるようになります。
市外局番（Area Code）	この ISDN ゾーンが位置する市外局番。これにより Cisco TMS は正しい市外局番ルールを選択できるようになります。
回線（Line）	
外線にアクセスして市内電話をかける場合にダイヤル（To access an outside line for local calls, dial）	この ISDN ゾーンの外線を取得するために必要なプレフィックス。
外線にアクセスして長距離電話をかける場合にダイヤル（To access an outside line for long distance calls, dial）	この ISDN ゾーンの長距離電話の外線を取得するために必要なプレフィックス。

表 170　ISDN ゾーンの設定（続き）

セクションとフィールド	説明
内部通話（Internal Calls）	
内部 ISDN 通話に使用するための桁数（Number of digits to use for internal ISDN calls）	ゾーンのシステム間での内部ダイヤルに使用される桁数。番号の最初の桁は、この ISDN ゾーンのシステム間でダイヤルするときに番号から削除されます。

市外局番のルール

ISDN のゾーンを表示または編集する場合は、[市外局番のルール（Area code rules）] をクリックすると、米国の市外局番のルールを追加および編集できるページが表示されます。

市外局番の規則を作成または編集するときは、次のフィールドを使用できます。

表 171　市外局番ルールの設定

フィールド	説明
この市外局番から以下の市外局番へダイヤルする場合（When dialing from this area code to the following area code）	このルールを適用する必要がある市外局番を指定します。たとえば、555 をダイヤルするたびにルールを適用する場合は、このフィールドに [555] と指定します。
次のプレフィックスを指定（With the following prefixes）	プレフィックスは、基本番号の最初の 3 桁です。上のフィールドの市外局番に発信されたすべてのコールにルールを適用する場合は空白のままにします。
市外局番を含む（Include Area Code）	コールに上で指定した市外局番を含むルールにする場合は、これをオンにします。米国では、10 桁ダイヤルをイネーブルにするためにチェックします。
ダイヤルの前に次をダイヤル（Before dialing, also dial）	この市外局番ルールにより作成されたダイヤル文字列の前に（上記の最初の 2 個のフィールドで指定された市外局番とプレフィックスの前に）含める文字列をここに入力します。
外部回線のためのストリップ桁（Strip digits for zone's local outside line access）	ダイヤルする番号から外部回線プレフィックス（[管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [ISDN ゾーン（ISDN Zones）] > [回線（Line）] セクションで設定）を削除するにはオンにします。

IP ゾーン

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [ロケーション（Locations）] > [IP ゾーン（IP Zones）]

このページで、既存の IP のゾーンのリストが表示され、新しいゾーンを作成できます。

- リストの各ゾーンの上にマウス ポインタを移動し、[表示（View）]、[編集（Edit）] または [システムに設定（Set on Systems）] のオプションがあるドロップダウン メニューにアクセスします。
- 新しい IP ゾーンを作成するには、[新規（New）] をクリックします。

IP のゾーンを作成または編集するときは、次の設定を使用できます。これらの設定によって、ゲートウェイを使用するためにダイヤルするプレフィックスを指定します。ゲートウェイを直接指定する代わりにプレフィックスを指定すると、負荷分散ゲートウェイや、Cisco TMS でサポートされていないゲートウェイを使用できる柔軟性が得られます。

表 172　IP ゾーンの設定

セクションおよびフィールド	説明
IP ゾーン（IP Zone）	
名前（Name）	IP のゾーン名を設定します。
ゲートウェイ リソース プール（Gateway Resource Pool）	

表 172　ISDN ゾーンの設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
ISDN ゾーン（ISDN Zone）	次のゲートウェイ プレフィックスがいずれの ISDN のゾーンを使用するか指定します。この設定が指定されていない場合はゲートウェイ リソース プールが正しく機能しないことに注意してください。
URI ドメイン名（URI Domain Name）	Cisco TMS は、この設定が入力された 2 つの場所の間で、URI ダイヤルを常に使用し、このページの下部で定義された IP/ISDN プリファレンスを無視します。
ゲートウェイ自動プレフィックス（Gateway Auto Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンからビデオ ISDN 番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ゲートウェイ電話接続のプレフィックス（Gateway Telephone Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンからオーディオ ISDN 番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ゲートウェイ 3G 接続のプレフィックス（Gateway 3G Prefix）	ゲートウェイを使用してこの IP ゾーンから 3G 携帯電話番号をダイヤルするために必要なプレフィックス。
ISDN ダイヤルイン番号（Dial-in ISDN Number）	これらの番号は、Cisco TMS が通話のルーティングを行う場合に +15551231234*99999 のような TCS-4 番号を生成するために使用します。 ■ PSTN から IP ゾーンへ。 ■ 3G ネットワークから IP ゾーンへ。 設定が保存されると、これらの番号は、両方とも認定番号として示されます。
3G 用 ISDN ダイヤルイン番号（Dial-in ISDN Number for 3G）	
IP-ISDN-IP を許可（Allow IP-ISDN-IP）	IP-ISDN-IP 通話を許可し、2 台の異なるゲートウェイで実行するにはチェックをオンにします。詳細については、「IP-ISDN-IP コール（39 ページ）」を参照してください。
これらの IP ゾーンに対して IP 通話より ISDN を優先（Prefer ISDN over IP calls to these IP Zones）	以下の IP ゾーンのリスト。 ■ ISDN が IP よりも優先される。 ■ IP が ISDN よりも優先される。 リストは、IP ゾーン間の通話をスケジュールする場合に使用されます。リスト間でゾーンを移動するには、項目を選択し、矢印ボタンをクリックします。
これらの IP ゾーンに対して ISDN より IP 通話を優先（Prefer IP calls over ISDN to these IP zones）	

課金コード（Billing Codes）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [課金コード（Billing Codes）]

これらのページでは、課金コードを作成および管理し、システムに設定します。

課金コードの管理

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [課金コード（Billing Codes）] > [課金コードの管理（Manage Billing Codes）]

課金コードは、Cisco TelePresence MXP システムのみでサポートされます。

このページで課金コードを作成、編集、削除し、システムに設定できます。課金コードを使用して、次のことができます。

- 正しい課金コードを持つユーザだけが特定のシステムからコールを発信できるようにする。
- コールが発信されたときに入力される課金コードに基づいて、システムの使用状況をモニタする。このモニタリングは、コストを分散するときに役立ちます。

課金コードを使用する方法は 2 通りあります。

- コール発信する前に課金コードをシステムに入力することを要求する。
- システムで発信を試みるときに課金コードが要求しますが、課金コードが入力されない場合でも発信を続行する。

課金コードが使用されている場合は、会議のコール詳細レコード（CDR）に課金コードが含まれます。詳細については、「課金コードの統計（216 ページ）」を参照してください。

システムがコールを受信する場合、課金コードを入力する必要はありません。

新しい課金コードの作成

新しい課金コードを作成するには、次の手順を実行します。

1. [新規（New）] をクリックします。
2. 新しい課金コードの名前および説明を入力します。

   ; と = は使用できません。
3. 終了するには、[保存（Save）] をクリックします。または、保存する前にさらに課金コードを作成するには、[新規追加（Add New）] をクリックします。

課金コードの適用

システムの課金コードを設定するには:

1. [システムに設定（Set On Systems）] をクリックしてから、課金コードを設定するシステムまたはフォルダを選択します。
2. 選択したシステムに課金コードを使用する方法を選択します。
   a. [発信する前に課金コードを要求する（コードがチェックされる）（Require billing code before making calls (codes are checked)）]：正しい課金コードを入力しないと発信できません。
   b. [発信する前に課金コードを求める（コードはチェックされない）（Ask for billing code before making calls (codes are not checked)）]：正しい課金コードの入力は省略可能であり、発信するために課金コードは必要ではありません。
3. 変更を保存するには、[OK] をクリックします。

課金コードのディセーブル化

1 つ以上のシステムで課金コードの使用を無効にするには、次の手順を実行します。

1. 前述の手順と同じ方法でシステムを選択します。
2. [課金コードの使用をオフにする（Turn off billing code use）] を選択します。
3. 変更を保存するには、[OK] をクリックします。

ファイルからの課金コードのインポート

手作業で追加する代わりに、ファイルから課金コードをインポートすることもできます。

[課金コードの管理（Manage Billing Codes）] ページで、次のようにします。

1. [インポート（Import）] をクリックします。
2. ローカル マシンのファイルを参照します。
3. [アップロード（Upload）] をクリックします。

有効なファイル形式は **.txt** であり、ファイルの各行に課金コードが含まれている必要があることに注意してください。オプションとして、次の例のようにカンマとそれに続けて説明を追加できます。

```
101, 課金コード 1 の説明
102, 課金コード 2 の説明
103, 課金コード 3 の説明
```

課金コードの活動状況

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [課金コード（Billing Codes）] > [課金コードの活動状況（Billing Codes Activity Status）]

課金コードは、Cisco TelePresence MXP システムのみでサポートされます。

このページで Cisco TMS でのシステムの課金コード アップデートの進捗をモニタできます。

進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

  下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

診断

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [診断（Diagnostics）]

これらのページで、TMS チケットを表示し、会議および Cisco TMSPE 用の診断ツールを取得します。

TMS チケット（TMS Tickets）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [診断（Diagnostics）] > [TMS チケット（TMS Tickets）]

このページは、開いているすべての Cisco TMS チケットを示します。チケット フラグの情報、警告、およびエラー メッセージ。このページに表示されるチケットを定義するには、「**チケット エラー レベルの管理（245 ページ）**」を参照してください。

表 173　各チケットに対して実行できるアクション

操作	説明
承認（Acknowledge）	これは、チケットを承認し、それ以上オープン エラーとしてチケットが表示されないようにします。チケットを承認するときに、チケットにコメントを追加できます。情報のチケットは承認された時点で削除されます。
削除（Delete）	これは永続的にチケットを Cisco TMS から削除します。

プロビジョニング拡張機能の診断（Provisioning Extension Diagnostics）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [診断（Diagnostics）] > [Provisioning Extension の診断（Provisioning Extension Diagnostics）]

Cisco TMSPE をインストールして有効にすると、定期的に診断が自動実行されます。管理者による設定は不要です。手動で診断ヘルス チェックを開始することもできます。

テストは、次について実行されます。

- Cisco VCS と Cisco TMS 間の接続。
- サービス間の同期。
- サービス間の接続。
- アラームおよびイベントの表示と Cisco TMS へのチケットとしてのディスパッチ。

診断を手動で実行するには、[ヘルス チェックを実行（Run Health Check）] をクリックします。このボタンは、Cisco TMSPE のすべてのモジュールの診断を開始します。[システム ステータス（System Status）] リストとすべてのアクティブな Cisco VCS のリストが更新されます。

アラーム

ここでは、Cisco TMSPE で発生したアラームのリストを表示します。各アラームの詳細については、右側の [詳細（Details）] ボタンをクリックします。

Cisco TMSPE 診断によって生成されたすべてのアラームおよび警告によって、Cisco TMS にチケットが生成されます。

システム ステータス（System Status）

この表では、カラー サークルは、どのシステムでどの診断を実行するかを示します。カラー サークルがないことはテストが適用されないことを示します。

サークルには次のものがあります。

- 緑：ステータスは OK です。
- オレンジ：診断タスクはまだ開始されていません。
- 赤：システムに警告または重大なエラーがあります。
- グレー：診断タスクがアイドル状態か無効です。
- 青：診断タスクが進行中です。

診断は、次のシステム上で動作します。

- ユーザ リポジトリ
- デバイス リポジトリ
- ユーザ リポジトリからインポートされたユーザ設定
- 電話帳
- FindMe（使用している場合）
- 診断
- CMR（Collaboration Meeting Room）

VCS 通信

ここでは、それぞれの Cisco VCS とクラスタ名の情報を表示します。

[最後のコール時刻（Last Call Time）] は、Cisco VCS と Cisco TMS の間で行われた最後の通信の日時です。

会議の診断（Conference Diagnostics）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [診断（Diagnostics）] > [会議の診断（Conference Diagnostics）]

このページでは、管理者が既存の会議の問題を特定し、修正できます。

診断を実行するタイミング

このタスクは大量のリソースを消費するため、通常の営業時間外に実行することを推奨します。将来の会議の数に応じて、タスクの実行に時間がかかることがあります。

診断はいつでも使用できますが、特に次のような導入の変更を行った後に役に立ちます。

- ダイヤル プラン：
  - H.323 だったエンドポイントを SIP に移動した場合。
  - ブリッジで数値の範囲を変更した場合。
- インフラストラクチャ：
  - 会議ブリッジを TelePresence Conductor の後ろに移動した場合。
  - MCU を TelePresence Server と入れ替えた場合。
  - Cisco VCS から Unified CM ベースの導入環境に移行した場合。

  診断ツールは、今後 7 日間の間にスケジュールされている会議に対してのみ実行されることに注意してください。

診断のしくみ

[診断の実行（Run Diagnostics）] をクリックすると、Cisco TMS は将来に予定されているすべての会議について以下を確認します。

- すべての参加者がデータベースに存在し、予約可能であること。
- ルートが有効であること（すべての参加者がルーティング可能であること。詳細については「ルーティングの概要（31 ページ）」を参照）。

問題が見つかると、会議の診断ステータスは [報告済み（Reported）] に設定されます。

[活動状況（Activity Status）] ページでタスクの進行状況を表示するか、[更新（Refresh）] をクリックしてページを更新します。診断タスクは SchedulerService により実行され、非同期で実行されます。

会議の自動修正

[自動修正（Autocorrect）] をクリックすると、Cisco TMS では選択した会議の自動修正が試行されます。

シナリオ	自動修正の結果
会議ルートが無効になっている。	会議は再ルーティングされ、会議が最初に予約されたときに手動で選択された内容は無視されます。 結果は次のようになります。 ■ 会議のダイヤルイン番号が新規作成される。 ■ 手動で設定した内容が削除される。
一連の定例会議に修正が必要となる。	すべての会議が再ルーティングされ、例外はすべて削除されます。
自動修正後 1 人の参加者が残るか、誰も残らない。	アクションはありません。これらの会議のステータスは、[自動修正失敗（Autocorrection Failed）] と表示されます。
参加者が Cisco TMS データベースから削除されたか、他の理由でルーティングできなくなっている。	参加者は会議から削除されます。
会議の問題を解決できない。	[ステータス（Status）]には [自動修正失敗（Autocorrection Failed）] と表示され、会議を手動で編集する必要があります。

診断中および診断後に、[更新（Refresh）] をクリックして会議のステータスを更新できます。

[診断の実行（Run Diagnostics）] をクリックして診断のステータスが [修正済み（Fixed）] の会議をリストから削除します。

活動状況（Activity Status）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [活動状況（Activity Status）]

このページには、Cisco TMS に登録されているすべてのシステムのイベントに関する情報が含まれます。進行中およびこれからのスケジュールされたイベントが自動的に表示されます。

- [開始日（Start Date）] フィールドと [終了日（End Date）] フィールドを変更して過去のイベントを検索し、[検索（Search）] をクリックします。
- 現在ログインしているユーザがスケジュールしたイベントだけを表示するには、[自分の会議のみ表示（Show only mine）] をオンにします。

下のリストにこれを適用するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

- 詳細なアクティビティ ログを表示するには、いずれかのイベントのリンクされた説明をクリックします。
- スケジュールされたイベントをキャンセルするには、そのイベントを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

更新する場合にクリック

開いている間、アクティビティのステータス ページは自動的に更新されないことに注意してください。ステータスの表示を更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

分析拡張機能

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [分析拡張機能（Analytics Extension）]

[分析拡張機能（Analytics Extension）] のメニュー項目および Web ページは、Cisco TelePresence Management Suite の分析拡張機能（Cisco TMSAE）のライセンスが追加されている場合にのみ表示されます。

Cisco TMSAE は、Cisco TelePresence Management Suite（Cisco TMS）のオンライン分析処理（OLAP）システムで、ビデオネットワークに高度なレポート機能を提供します。これはビジネス インテリジェンス（BI）アプリケーション、カスタム ビルト アプリケーションおよび OLAP キューブに接続できるその他のアプリケーションと統合されます。最もよく使用されるクライアントは、Microsoft Excel です。

Cisco TMSAE は、3 つの要素で構成されています。

- 既存の Cisco TMS サーバにインストールされるアプリケーション ソフトウェア。
- 既存の Microsoft SQL Server にインストールされるデータ ウェアハウス データベース。
- データへのアクセスに使用されるクライアント。

Cisco TMSAE のインストール、管理、および使用の詳細については、製品マニュアルを参照してください。

TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）]

このページでは、サーバ情報が表示され、Cisco TMS およびデータベース サーバの一般的な管理とハウスキーピング処理のためのツールが提供されます。

ページ上のすべてのデータを更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。

サーバ時刻の不一致の特定

[データベース サーバの日付と時刻の設定（Database Server Date and Time Settings）] セクションには、Cisco TMS サーバとデータベース サーバの日時、および両サーバ間の不一致が表示されます。

このような不一致が見つかった場合、時刻が正しくないほうのサーバの Windows の [日付と時刻] 設定で不一致を訂正する必要があります。

診断ファイルのダウンロード

診断 zip ファイルを作成してダウンロードするには、[診断ファイルのダウンロード（Download Diagnostics Files）] をクリックします。この診断ファイルは、シスコ テクニカル サポートに送信してトラブルシューティングに役立てることができます。

作成した zip ファイルには、最新の Cisco TMS ログ ファイル、インストールされている場合は、Cisco TelePresence Management Suite の分析拡張機能と Cisco TelePresence Management Suite のプロビジョニング拡張機能のログ ファイル、Cisco TMS の構成設定の XML ファイル、および Windows イベント ログで検出された Cisco TMS 関連エントリが含まれます。

空きディスク領域の表示

データベース サーバの各パーティションの空きディスク領域を表示するには、SQL サーバで OLE Automation Procedures オプションを有効にする必要があります。SQL Server 2012 および 2008 インスタンスの場合、OLE Automation Procedures はデフォルトで無効になっています。

このオプションを有効にするには、SQL Server で次の SQL ステートメントを実行します。

```
sp_configure 'show advanced options', 1;
GO
RECONFIGURE;
GO
sp_configure 'Ole Automation Procedures', 1;
GO
RECONFIGURE;
GO
```

[TMS サーバのディスク領域（TMS Server Disk Space）] セクションには、Web サーバ上の各パーティションの空きディスク領域が表示されます。

sa 以外のアカウントを使用して tmsng データベースに接続する場合、そのアカウントには「sysadmin」のサーバ ロールが必要です。

データベース ファイルとサイズの表示および管理

[データベース ファイルとサイズの情報（Database Files and Size Info）] セクションには、データベース名、データベースに関するサーバとパス情報、各データベースの現在のサイズと最大サイズ、およびデータベースに格納されているデータといった概要が表示されます。

データベースの管理は、Microsoft SQL Server Management Studio Express などの外部ツールを使用して行う必要があります。

データベース メンテナンス計画の設定方法については、「*Cisco TMS Installation and Upgrade Guide*」を参照してください。

古いデータとログの消去

[データベース テーブル プランの旧データの消去（Purge Old Data in Database Tables Plan）] セクションには、Cisco TMS における、ログで使用されるデータベース テーブルの情報とキャッシュの情報が表示されます。

[ログ消去計画（Purge Log Plan）] セクションには、Web サーバ上のログ ファイルに関する情報が表示されます。すべての Cisco TMS デバッグ ログの詳細については、「ログの概要（280 ページ）」を参照してください。

この概要には、各ログ ファイルまたはデータベース テーブルの現在のエントリ数とエントリが自動的に消去されるまでのエントリ保持日数が表示されます。

エントリの消去設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. 目的のエントリの [編集（Edit）] リンクをクリックします。
2. [有効（Enabled）] をオンにして自動クリーンアップを開始します。オフのままにした場合、ログは消去されません。
3. データが消去されるまでの [データを保持する日数（Number of Days to Keep Data）] を設定します。
4. [更新（Update）] をクリックして設定を保存します。

データベーステーブルプランの旧データの消去

表 174　影響を受けるデータベース テーブル

データベース テーブル	説明
エンドポイント/MCU 通話ログ（Endpoint/ MCU Call Log）	エンドポイント/MCU を使用した会議のコール詳細レコード。[レポート（Reporting）] > [詳しい通話記録（Call Detail Record）] > [すべてのエンドポイントと MCU（All Endpoints and MCUs）] に表示されます。
ゲートウェイ/ゲートキーパーの通話ログ（Gateway/ Gatekeeper Call Log）	ゲートウェイ/ゲートキーパーを使用した会議のコール詳細レコード。[レポート（Reporting）] > [コール詳細レコード（Call Detail Record）] > [ゲートウェイ（Gateway）]、[ゲートキーパーおよび VCS（Gatekeeper and VCS）] に表示されます。
フィードバック ログ（Feedback Log）	Cisco TMS におけるシステムのスケジューリング、エラー、暗号化ステータスなどのイベント。 このエントリの [データを保持する日数（Number of Days to Keep Data）] フィールドは、[ナビゲータ（Navigator）] の各システムの [ログ（Logs）] タブに影響します。 企業が何百ものエンドポイントを持つ場合、このログ ファイルが膨大なサイズになる可能性があるため、古いデータを定期的に消去することを推奨します。
ライブスナップショット（LiveSnapshot）	このテーブルには、Cisco TMS でモニタされた会議のスナップショットが含まれています。
スケジューラ イベント（Scheduler Events）	すべてのスケジュール済みイベント。
スケジュールされた通話（Scheduled Calls）	これらのフィールドでは、スケジュールされたコールのデータベースのエントリ数を示します。この設定はデフォルトでディセーブルになっていることに注意してください。
チケット ログ（Ticket Log）	このログには、Cisco TMS のシステムのチケットが含まれます。

TMS 冗長性

このセクションは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] > [TMS 冗長性の有効化（Enable TMS Redundancy）] が [はい（Yes）] に設定されている場合にのみ表示されます。

表 175　冗長性設定で使用できるセクション

セクション	説明
プローブ URL（Probe URL）	ノードのステータスをモニタするために、ネットワーク ロード バランサ（NLB）がプローブするように設定される必要がある URL。
サーバ ステータス（Server Status）	このセクションには次の情報が表示されます。 ■ 各ノードのステータス。 ■ タイムスタンプ通知が最後に記録された時刻。 ■ ノード ステータスがアクティブからパッシブに、またはパッシブからアクティブに最後に変更された時刻。
フェールオーバー アクティビティ ログ（Failover Activity Log）	このテーブルには、ノードが [アクティブ（Active）] または [終了（Retired）] になったかどうか、またその日時とその理由が表示されます。 ■ [手動（Manual）：管理者が [手動フェールオーバーの強制（Force Manual Failover）] をクリックして手動でフェールオーバーを強制しました。 ■ [自動（Automatic）]：アクティブ ノードまたはパッシブ ノードが、アクティブ ノードのサービスが応答不能または無効になったことを検出しました。 過去のデータをすべてテーブルからクリアするには、[リストのクリア（Clear Lists）] をクリックします。 フェールオーバーを強制するには、[手動フェールオーバーの強制（Force Manual Failover）] クリックします。

TMS サービス状態（TMS Services Status）

[TMS サービス状態（TMS Services status）] セクションには、Cisco TMS データベースに対して実行されているすべての Cisco TMS サービスに関する情報と冗長展開のプローブ URL のステータスが表示されます。Windows サービスの詳細については、「Windows サービス（20 ページ）」を参照してください。

もう使用されていないサーバ名の下に表示されているサービスなど、無効なデータをリストから削除するには、[リストのクリア（Clear Lists）] をクリックします。

冗長展開

冗長展開では、各ノードのサービスが [ステータス（Status）] 付きで表示されます。

- アクティブ ノードのサービスの場合は [サービスは実行中（Service Running）] です。
- パッシブ ノードのサービスの場合は [サービスはスタンバイ状態（Service on Standby）] です。

このテーブルでは、TMSProbeURL ステータスはサービスとして表示されます。このステータスはノードごとに一度だけ表示されます。[サービスは実行中（Service Running）] として表示されない場合、ネットワーク ロード バランサのプローブに問題が発生している可能性があります。詳細については、お使いの Cisco TMS のバージョンに対応する Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレード ガイド [英語] を参照してください。

監査ログ（Audit Log）

Cisco TMS では、[管理ツール（Administrative Tools）] > [監査ログ（Audit Log）]

[監査ログ（Audit Log）] は、Cisco TMS でオブジェクトに加えられた変更を示します。

ログにリストされている操作または変更:

- 作成（Create）
- 更新（Update）
- 削除（Delete）

変更情報を確認できる [オブジェクト タイプ（Object Types）] は次のとおりです。

- フォルダ（Folders）
- グループ（Groups）
- システム（Systems）
- システム バックアップ（System Backups）
- TMS 設定（TMS Settings）
- ユーザ（Users）
- ログ消去計画（Purge Log Plan）
- 電話帳（Phone Book）

監査ログの設定はすべて [TMS ツール（TMS Tools）] で行います。監査を有効にするか、監査ログ データを表示および消去するには、[TMS ツール（TMS Tools）] > [セキュリティ設定（Security Settings）] > [高度なセキュリティ設定（Advanced Security Settings）] > [監査（Auditing）] に移動します。

表 176　監査ログの列

カラム	説明
日付および時刻（Date and Time）	変更が行われた日付と時刻。
ユーザ名（Username）	変更を行ったユーザのユーザ名。
オブジェクト オペレーション（Object Operation）	オブジェクトの変更のタイプ。上記の動作タイプを表示できます。
オブジェクト カテゴリ（Object Category）	変更を実行したオブジェクトのタイプ。上記のオブジェクト タイプを表示できます。
オブジェクト名（Object Name）	変更が行われたシステムの名前。このフィールドは、フリー テキスト検索に使用できます。
属性名（Attribute Name）	変更された属性の名前。
新しい値（New Value）	[属性名（Attribute Name）] の現在の値（該当する場合）です。
サービス名（Service Name）	サービス（TMSWeb、TMSWebPublic やその他のサービス）の名前。
元のホスト アドレス（Origin Host-Address）	変更が行われたホスト マシンの IP アドレス。サービス ユーザが変更を行った場合は、このフィールドは空白です。 このフィールドは、冗長展開では表示されません。

監査ログをフィルタリングするには、次を指定します。

- 開始時間と終了時間（Start Time and End Time）
- ユーザ タイプ（User Type）
- ユーザ名（User Name）
- オブジェクト名（Object Name）
- オブジェクト タイプ（Object Type）
- **元のホスト アドレス（Origin Host-Address）**
- 操作名（Operation Name）

ユーザ グループ単位で監査ログへのアクセスを設定できます。

1. [管理ツール（Administrative Tools）] > [ユーザ管理（User Administration）] > [グループ（Groups）] に移動します。
2. グループのドロップダウン メニューで、[権限の設定（Set permissions）] をクリックします。
3. [管理ツール（Administrative Tools）] で、[監査ログ（Audit Log）] チェックボックスをオンにします。

監査ログのサイズを制限するために、監査ログ データをデータベースから削除する頻度を指定できます。

1. [TMS ツール（TMS Tools）] > [セキュリティ（Security）] > [高度なセキュリティ（Advanced Security）] に移動します。
2. [監査（Auditing）] で、[データベースの古い監査ログ データを消去（Purge Old Audit Log Data in Database）] をオンにします。
3. [データを保持する日数（Number of Days to Keep Data）] を編集します。
4. [保存（Save）] をクリックします。

Cisco TMS ツール

Cisco TMS ツールは、Cisco TMS の一部としてインストールされる管理者用プログラムで、Cisco TMS サーバで [スタート（Start）] > [プログラム（Programs）] > [Cisco TelePresence Management Suite] > [TMS ツール（TMS Tools）] で実行されます。設定変更、Cisco TMS 導入のセキュリティ レベルの変更、およびトラブルシューティング ツールの実行ができます。

Cisco TMS ツールで行った変更によって、Cisco TMS アプリケーションの一部へのアクセスが制限されたり、場合によってはアプリケーションが完全に機能しなくなったりすることがあります。

Cisco TMS ツールによる設定の変更は、経験豊富な Windows および Cisco TMS 管理者が実行する必要があります。

設定 274
セキュリティ設定 276
ユーティリティ 280
診断ツール 281

設定（Configuration）

データベース接続の設定

ここで、Cisco TMS または Cisco TelePresence Management Suite プロビジョニング拡張機能（TMSPE）SQL データベースの場所、および Cisco TMS が接続に使用するクレデンシャルを指定します。

Cisco TMS データベース接続

Windows 認証および Cisco TMS データベースの前提条件

[Windows 認証（Windows Authentication）] を使用する場合は、Cisco TMS データベースの設定を編集する前に、次のアカウントにデータベースへの *db_owner* 権限があることを確認してください。

- Cisco TMS サーバへのログインに使用するアカウント。
- TMS サービスがログインに使用するアカウント。
- IIS AppPool アカウント。

Cisco TMS ツールで [Windows 認証（Windows Authentication）] を選択する前に、Cisco TMS が SQL データベースに対して Windows 認証を使用するための次の手順を完了します。

1. 新しい Active Directory サービス アカウント（たとえば tms-databaseservice）を作成します。
2. SQL Server で、tms-databaseservice の新しいログインを作成します。
3. SQL Server で、tmsng データベースの新しいユーザを作成します。
   a. このユーザと tms-databaseservice ログインを関連付けます。
   b. このユーザに *db_owner* 権限を割り当てます。
4. SQL Server で、Cisco TMS の IIS アプリケーション プールを実行するユーザ アカウント用の新しいログインを作成します。デフォルトのアカウントは IIS APPPOOL\TMSNet40AppPool です。

   Cisco TMS の IIS アプリケーション プールが実行されるユーザ アカウントは、TMS log-web ファイルを開いて確認できます。最初のエントリには、Cisco TMS バージョン番号とその後のカッコで囲まれたユーザ アカウントが含まれます。

5. SQL Server で、tmsng データベースの新しいユーザを作成します。
   a. このユーザと上記のステップ 4 で作成したログインを関連付けます。
   b. このユーザに *db_owner* 権限を割り当てます。
6. 6 本の TMS サービスをすべて tms-databaseservice としてログインするように変更し、再起動します。
7. IIS を再起動します。

Windows 認証だけを使用するように、SQL サーバの SQL Server 認証をディセーブルにできます。

注：ディセーブルにすることを選択した場合は、Cisco TMS をアップグレードする前に、SQL サーバの SQL 認証を再度イネーブルにして、Cisco TMS ツールで認証を SQL に戻す必要があります。

データベースの設定（Database Settings）

表 177　Cisco TMS ツールのデータベース設定

フィールド	説明
データベースサーバ\インスタンス（Database Server\Instance）	このフィールドは、現在 Cisco TMS が使用しているデータベース サーバおよびインスタンスを示します。Cisco TMS アプリケーションが異なるサーバまたはインスタンスを指す場合は、この設定を変更します。
データベース名（Database Name）	Cisco TMS データベース名のデフォルトは **tmsng** です。データベース名が SQL で変更された場合、これを変更する必要がありますが、アップグレードできるのは名前が tmsng の TMS データベースだけであるため、データベース名を変更することは推奨しません。名前が tmsng でないデータベースに対して試行されたアップグレードは失敗します。 注：このフィールドのデータベース名を変更しても、SQL のデータベースの名前は変更されません。このデータベース名を SQL のデータベース名と異なるものに変更すると、Cisco TMS がこのデータベースとの接続を失い、完全に動作しなくなります。

認証

Windows 認証（Windows Authentication）

Windows 認証はローカル SQL サーバ/データベース アカウントの代わりに集中管理されたアカウントを使用することで、データベースのセキュリティおよび管理を改善します。

[Cisco TMS データベースの接続設定（Cisco TMS Database Connection Settings）] を [Windows 認証（Windows Authentication）] に変更し、[保存（Save）] をクリックすると、Cisco TMS ツールにより、サービスを実行中のアカウントと IIS アプリケーション プール アカウントが Windows 認証を使用してデータベースに接続できることが確認されます。

データベース アクセスを必要とする Cisco TMS ツールの設定は、サーバへのログインに使用したユーザに適切な SQL サーバ アクセス権がない場合、グレーアウトされます。

SQL サーバ認証（SQL Server Authentication）

sa アカウントとパスワードは、Cisco TMS のインストール時に使用する必要があります。その後アカウントは、Cisco TMS が SQL サーバ認証を使用してデータベースにアクセスするために使用する、より低い特権のアカウントにここで変更することができます。

Cisco TMSPE データベース接続

表 178 Cisco TMSPE データベース接続設定

フィールド	説明
データベース サーバ\インスタンス（Database Server\Instance）	このフィールドは、現在 Cisco TMSPE が使用しているデータベース サーバおよびインスタンスを示します。Cisco TMSPE が異なるサーバまたはインスタンスを指す場合は、この設定を変更します。
データベース名（Database Name）	Cisco TMSPE のデータベース名（*tmspe*）です。 この値を編集することはできません。

認証

- Windows 認証は、[ユーザ名（Username）] フィールドに domain\username の形式を使用して設定できます。
- \ のないユーザ名文字列を指定すると SQL 認証が使用されます。

ディレクトリの場所

ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）

システム アップグレード用のソフトウェアの保存場所は、[ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）] を編集して指定できます。ここで指定するディレクトリはサブフォルダの \wwwTMS\ であり、TMS のサービス アカウントはその場所への書き込みアクセス権がなければなりません。システム アップグレード機能は、Cisco のシステムをアップグレードするために、この場所に保存されているソフトウェアを使用できます。

この場所のパスは、Cisco TMS アプリケーションの [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] >[全般設定（General Settings）] > [ソフトウェア ディレクトリ（Software Directory）] でも確認できます。

このフィールドが空白の場合、Cisco TMS はデフォルトの **C:\Program Files (x86)\TANDBERG\TMS\wwwtms\Public\Data\SystemSoftware** を使用します。

Cisco TMS の以前のバージョンからアップグレードする場合、以前のバージョンで使用されたパスは変更されません。

セキュリティ設定

暗号化キー（Encryption Key）

セキュリティを強化するために、データベースに保存されているすべてのクレデンシャルが暗号化されます。Cisco TMS のインストール中に、暗号キーを生成するか、提供するかを尋ねられます。

[キー（Key）] フィールドには、Cisco TMS がデータベース内のデータを復号するために使用するキーが表示されます。

注意：**このキーを削除または変更した場合、**Cisco TMS **は、会議の開始、システムの管理、システムからのフィードバック データの取得、電子メールの送信に、これらのクレデンシャルを使用できなくなります。**

[暗号化キーの不一致を検出するためのデータベース スキャン（Scan Db for Encryption Key Mismatch）]（279 ページ）ツールを実行すると、現在の暗号化キーで復号できないすべてのクレデンシャルを識別し、これらすべてのクレデンシャルをブランクか、そのシステムのデフォルトのユーザ名とパスワード（Cisco TMS が認識する場合）に設定できます。

TLS クライアント証明書

Cisco TMS は、システムへの発信接続を開始するときに、そのアイデンティティを確認するために TLS 証明書を提供できます。

ここには、サーバの信頼ストアで現在使用可能な証明書のリストが表示されます。先に説明したように、このリストから必要な証明書を選択して使用できます。

ここに証明書が表示されない場合は、Cisco TMS ツールを実行するために使用しているアカウントに、証明書の秘密キーへの読み取りアクセス権があることを確認します。

また、Cisco TMS サービスがログインに使用するすべてのアカウントに、証明書の秘密キーへの読み取りアクセス権があることを確認する必要があります。

Cisco TMS ツールで自己署名証明書を追加するには、次の手順を実行します。

1. [開始(start)] メニューから **mmc.exe** を開きます。
2. [ファイル(File)] > [スナップインの追加/削除(Add/Remove snap-in)] を選択します。[スナップインの追加または削除(Add or remove snap-in)] ダイアログが表示されます。
3. [使用可能なスナップイン:(Available snap-ins:)] から [証明書(Certificates)] を選択します。
4. [追加(Add)] をクリックします。[証明書スナップイン(Certificate snap-in)] ダイアログが表示されます。
5. [証明書スナップイン(Certificate snap-in)] ダイアログで、[自分のユーザ アカウント(My User Account)] を選択します。
6. [終了(Finish)] をクリックします。
7. ステップ 3、4、および 5 を繰り返し、[コンピュータ アカウント(Computer Account)] を選択します。
8. [次へ(Next)] をクリックします。[コンピュータを選択(Select Computer)] ダイアログが表示されます。
9. [終了(Finish)] をクリックします。
10. [スナップインの追加または削除(Add or remove snap-in)] ダイアログで、[OK] をクリックします。
11. mmc.exe で、[コンソール ルート(Console Root)] > [証明書(ローカル コンピュータ)(Certificates(Local Computer))] > [個人データ(Personal)] > [証明書(Certificates)] を展開して、新しく追加された自己署名証明書を探します。
12. 目的の証明書を右クリックし、[すべてのタスク(All Tasks)] > [秘密キーの管理(Manage Private Keys)] を選択します。選択した証明書の秘密キーに対する権限を設定するためのダイアログが表示されます。
13. [追加(Add)] をクリックします。[ユーザ、コンピュータ、サービス アカウント、またはグループを選択(Select Users, Computers, Service Accounts, or Groups)] ウィンドウが表示されます。
14. [選択するオブジェクト名を入力(例):(Enter the object name to select (examples):)] の下のテキスト ボックスに「NETWORK SERVICE」と入力し、[名前の確認(Check Names)] をクリックします。アカウントのクレデンシャルを入力するダイアログボックスが表示されます。
15. デフォルトのクレデンシャルである [ユーザ名(username)]: *administrator* と [パスワード(password)]: *sat4lab* を入力します。
16. [OK] をクリックします。
17. [ユーザ、コンピュータ、サービス アカウント、またはグループを選択(Select Users, Computers, Service Accounts, or Groups)] ダイアログで [OK] をクリックします。[ネットワーク サービスの列を許可(Allow column for Network Service)] で、読み取り権限とフル コントロール権限にチェックが入っていることを確認します。
18. ステップ 11、12、および 13 を繰り返します。[選択するオブジェクト名を入力(例):(Enter the object name to select (examples):)] の下のテキスト ボックスに「SERVICE」と入力します。
19. [名前の確認(Check Names)] > [OK] をクリックします。
20. 証明書権限ダイアログで、[適用(Apply)] > [OK] をクリックします。

新しく追加された自己署名証明書が [TMS ツール(TMS Tools)] > [セキュリティ設定(Security Settings)] > [TLS 証明書(TLS Certificates)] に表示されます。

証明書の管理の詳細については、『*Microsoft Technet: Manage Certificates*』を参照してください。

拡張セキュリティ設定

これらの設定を変更すると、Cisco TMS は削減された機能で、セキュリティの高いモードで動作するようにできます。

- これらの設定の変更は、必ず Cisco TMS 管理者が行う必要があります。
- これらの設定を誤って適用すると、Cisco TMS が完全に停止することがあります。

表 179 Cisco TMS ツールの高度なセキュリティ設定

セクションおよびフィールド	説明
オプション機能コントロール(Optional Features Control)	

表 179　Cisco TMS ツールの高度なセキュリティ設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
プロビジョニングのディセーブル化（Disable Provisioning）	■ Cisco TMS アプリケーションから [システム（Systems）] > [プロビジョニング（Provisioning）] メニューオプションを削除します。 ■ TMS プロビジョニング拡張機能サービスの実行が停止します。 ■ [管理ツール（Administrative Tools）] > [設定（Configuration）] > [全般設定（General Settings）] > [プロビジョニング モード（Provisioning Mode）] オプションがグレー表示になり、ここからプロビジョニングをアクティブ化できなくなります。
SNMP のディセーブル化（Disable SNMP）	■ Cisco TMS アプリケーションの SNMP 通信を無効にします。 ■ [管理ツール（Administrative tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] の SNMP フィールドがすべてグレー表示になります。選択を解除すると、前の値が復元されます。
監査（Auditing）	
監査の有効化（Enable Auditing）	オンにすると、Cisco TMS は Cisco TMS の設定、システム、フォルダ、ユーザおよびグループに対するすべての更新、作成、および削除操作をログに記録します。 このログは、[管理ツール（Administrative Tools）] > [監査ログ（Audit Log）]（269 ページ）にあります。
データベースの古い監査ログデータを消去（Purge Old Audit Log Data in Database）	データベースの監査ログ エントリの数とエントリが自動的に消去されるまでのエントリの保持日数が表示されます。 オンにすると、[データを保持する日数（Number of Days to Keep Data）] を編集できるようになります。
トランスポート層セキュリティのオプション（Transport Layer Security Options）	

表 179　Cisco TMS ツールの高度なセキュリティ設定（続き）

セクションおよびフィールド	説明
通信のセキュリティ（Communication Security）	すべての Cisco TMS 接続の通信に要求されるセキュリティ レベルを設定できます。 ■ [中（Medium）]：Cisco TMS は、通信に HTTPS または TLS 1.0、TLS 1.1、TLS 1.2 を優先的に使用しますが、使用できない場合は HTTP を使用します。前回の通信でシステムに対して使用したプロトコルを記憶して、同じプロトコルを使い続けます。Telnet、SNMPv2 などの安全でないプロトコルも使用されます。 ■ [中 - 高（Medium-High）]：Cisco TMS は、接続に SSL を使用して通信します。SSL には HTTPS と SSH が含まれます。TLS 1.2、TLS 1.1 もサポートされます。 ■ [高（High）]：Cisco TMS は、接続に SSL のみを使用して通信し、有効な署名付き証明書の有無を通信時に確認します。また、検証済みの適切な証明書がある TLS 1.2 のみサポートされます。 次の電話帳の種類は、[中 - 高（Medium-High）] および [高（High）] のセキュリティ モードではサポートされていないことに注意してください。 ■ *ファイル ベースの電話帳* ■ *H.350 ディレクトリ* ■ *H.350 ユーザ ディレクトリ* 選択した設定に関係なく、エンドポイントは HTTP を使用して Cisco TMS に引き続き到達できます。ただし、IIS を設定してこの HTTP の使用をブロックすることもできます。IIS の設定の詳細については、『*Cisco TMS Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。 新規インストールとアップグレードでは、デフォルトのセキュリティ レベルが [中（Medium）] に設定されます。アップグレードの際に [証明書の妥当性を確認（Validate Certificates）] が有効になっている場合は、使用環境に最も適したオプションを決める必要があります。 高度なセキュリティ モードでデバイスを追加するには、FQDN を使用する必要があることに注意してください。
証明書失効チェックのイネーブル化（Enable Certificate Revocation Check）	Windows の組み込みの失効チェック メカニズムを使用して、Cisco TMS が通信するすべてのシステムの証明書の有効性をチェックします。
バナー（Banners）	
Web ページ、電子メール、およびドキュメントのバナー（Banners on Web Pages, emails and Documents）	以下にバナーを追加します。 ■ Cisco TMS アプリケーションの Web サイト。 ■ Cisco TMS からエクスポートされた Microsoft Excel ドキュメント。 ■ Cisco TMS/Cisco TMSXE の電子メール テンプレート。
トップ バナー（Top Banner）	トップ バナーに表示するテキストを入力します。
ボトム バナー（Bottom Banner）	ボトム バナーに表示するテキストを入力します。
バナー カラー（Banner Color）	トップ バナーとボトム バナーのテキストに追加する色を入力します。[カラー プレビュー（Color Preview）] ペインで、入力した色のプレビューを確認できます。 色の名前か HTML カラー コードを入力する必要があります。

ユーティリティ

ユーザ ドメインの変更

Cisco TMS サーバがメンバで Windows ドメインの名前が変わった場合、または Cisco TMS サーバがドメインに存在せず、サーバのホスト名が変更された場合、ここで Cisco TMS に変更を認識させることができます。

行った変更は、Cisco TMS のユーザ名にのみ適用され、ドメイン自体のユーザ アカウントには適用されません。

電話帳の生成

[システム（Systems）] > [ナビゲータ（Navigator）] のフォルダ構造に基づいて、フォルダとそれに対応する電話帳ソースから電話帳を生成できます。

注意：Cisco TMS **の電話帳ソースから電話帳を作成することを推奨します。「電話帳の作成と管理（196 ページ）」を参照してください。**

1. Cisco TMS サーバの Cisco TMS ツールを開きます。
2. [ユーティリティ（Utilities）] メニューから、[電話帳の生成（Generate Phone Book）] を選択します。
3. 電話帳の名前を入力します。
4. [OK] をクリックします。

電話帳およびソースを生成するバックグラウンド ジョブがスケジュールされます。

電話帳は、Cisco TMS の [電話帳（Phone Books）] > [電話帳の管理（Manage Phone Books）] に表示されます。

上記の手順を複数回実行しても、前に作成された電話帳またはソースは上書きされません。重複する一連の電話帳とソースが生成されるため、生成された不要な電話帳とソースは手動で 1 つずつ削除する必要があります。

重複キーの解決

Cisco TMS 14.4 および 14.4.1 で発生する外部プライマリ キーの重複の問題の影響を受けるお客様は、このツールを使用して外部プライマリ キーが重複している定例会議を特定し、正しい会議を選択することができます（この問題自体の詳細については、Cisco TelePresence Management Suite ソフトウェア リリース ノート（14.4.2）[英語] を参照してください）。

このツールは、14.4.2 以降にアップグレーした後に、「外部プライマリ キーが重複している会議が見つかりました」という重大なチケットが Cisco TMS に表示される場合にのみ使用してください。

このツールにアクセスすると、影響を受けるすべての会議がページにロードされます。同じ外部プライマリ キーを持つ会議が 1 つのグループにまとめられ、タイトル、所有者、反復パターン、および [Cisco TMS] > [予約（Booking）] > [会議の一覧（List Conferences）] で会議または定例会議を開くためのリンクが表示されます。

Cisco TMS ではグループに 1 つの会議しか存在できないため、各会議グループから正しい会議を選択します。[選択（SELECT）] をクリックすると、グループ内の残りの会議が削除されます。

どれが正しい会議か明らかでない場合は、会議に参加するシステムの Exchange リソース カレンダーを確認してください。リソース カレンダーの大部分またはすべてが、重複する会議の 1 つと一致する場合、おそらくそれが適切な会議です。

それでも正しい会議を特定できない場合は、会議の所有者に問い合わせてください。

選択または削除された会議のリストを表示するには、[ログの表示（VIEW LOG）] をクリックします。このログ（**log-tmstools-duplication-resolution.txt**）は、tmsdebug logs フォルダの [診断ファイルのダウンロード（Download Diagnostic Files）] ダウンロード バンドルに格納されています。

診断ツール

SNMP 接続確認ツール

特定のレガシー システムを Cisco TMS に追加するときは、SNMP が使用されます。Cisco TMS にシステムを追加できない場合は、このツールを使用して、Cisco TMS が SNMP を使用してシステムにアクセスできるかどうかを判断できます。

- [IP アドレス（IP Address）]：チェックするシステムの IP アドレス。
- [SNMP 読み取りコミュニティ名（SNMP Read Community Name）]：[Cisco TMS] > [管理ツール（Administrative tools）] > [設定（Configuration）] > [ネットワーク設定（Network Settings）] > [一般的なネットワーク設定（General Network Settings）] > [SNMP コミュニティ名（SNMP Community Name）] で設定されたコミュニティ名で、システム自体に設定されたコミュニティ名に対応します。
- [SNMP タイムアウト（ミリ秒）（SNMP Timeout（ms））]：Cisco TMS が SNMP 経由によるシステムへの接続試行を中止するまでの秒数。

暗号化キーの不一致を検出するためのデータベース スキャン

- [スキャン（Scan）]：SQL データベースをスキャンして、変更された暗号キーの影響を受ける暗号化されたすべてのクレデンシャルのリストを取得します（参照）。
- [クリーンアップ（Cleanup）]：スキャンで見つかったすべてのデータをそのシステムのデフォルトのクレデンシャルに設定するか、値を完全に削除します。
- [キャンセル（Cancel）]：実行中のスキャンを停止します。

Cisco TMS チケットは暗号キーが変更された場合に生成されます。チケットはクリーンアップで削除されます。

電話帳の送信元および WebEx のクレデンシャルは、クリーンアップでリセットされないことに注意してください。

トラブルシューティング

この章では、Cisco TMS の各種コンポーネントのトラブルシューティングを行う方法について説明します。

拡張製品のトラブルシューティングの手順については、各拡張機能のマニュアルで確認できます。

ログの使用 282
Web サイトのシナリオ 287
システムのシナリオ 289
会議シナリオ 292
Java アプレットのシナリオ 292
電話帳のシナリオ 294
レポートのシナリオ 295
原因コード 298

ログの使用

すべての Cisco TMS コンポーネントとサービスには、ロギング機能が含まれます。このセクションでは、ログの入手先、使用可能なログ、ログ レベルの変更方法、およびログの読み取りについて説明します。

ログ ファイルのダウンロード

1. 管理ツール（Administrative Tools）] > [TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）] に移動します。
2. [診断ファイルのダウンロード（Download Diagnostic Files）] をクリックします。

使用可能なログ ファイルを含むアーカイブは、クライアント コンピュータにダウンロードされます。デフォルトまたはトラブルシューティング用に十分に詳細なレベルで、すべてのログが有効になるわけではありません。手順については、「ログ レベルの変更（284 ページ）」を参照してください。

サーバ上のログの場所

サーバでログに直接アクセスすることもできます。デフォルト ログの場所は次のとおりです。

Program Files (x86)\TANDBERG\TMS\data\Logs.

Install と **TMSDebug** の 2 つのログ フォルダがあります。

ログの場所の変更

環境変数 `TMSLOGFILES` は Cisco TMS インストーラによって設定されます。

- ログの場所を変更するには、この変数を使用して変更することを強く推奨します。
- ログの場所を Cisco TMS の Web サイトの内部に*しない*ように注意してください。

ログの概要

すべての Cisco TMS ログには **.txt** 拡張子が付きます。

インストール

表 180　Cisco TMS インストーラによって作成されるログ

ログ名	説明
Install_log	ソフトウェアがサーバに最初にインストールされた後、以降のすべてのインストール、アンインストール、およびアップグレードのレコードを保持します。
Databaselog	アップグレード時に適用されたデータベース スキーマ パッチのレコードを保持します。パッチの適用に失敗すると、ログにはどのパッチに失敗したかの詳細が示され、スタック トレースが含まれます。
TMSInstallDllFilesInfo	このサーバで行われたインストール/アップグレードごとに 1 個のログ。

TMSDebug

次の表に、Cisco TMS のさまざまなモジュールによって作成されるすべてのログの詳細とデフォルト ログ レベルを示します。すべての設定ファイル パスは **C:\Program Files (x86)\TANDBERG\TMS** から派生します。

表 181　Cisco TMS のログと設定ファイルおよびデフォルト ログ レベル

ログ名	説明	レベル	設定ファイル
log-api	構成用の REST API のアクティビティをログに記録します。	WARN	\wwwTMS\api\Web.CONFIG
log-etl	Bridge Utilization レポートのデータを収集する ETL ジョブのアクティビティをログに記録します。 設定不可	INFO	
log-lcdpanel	LCD パネルのログ。Cisco TelePresence Management Server アプライアンスのみ。 設定不可		
log-liveservice	TMSLiveService（20 ページ）のレコードを保持します。	WARN	\Services\TMSLiveService.exe.CONFIG
log-livesignals	LiveService の追加ロギング。シスコのサポートから要求された場合のみアクティブにします。 アクティブにするには、[SignalProcessingLog] を [INFO] に設定します。	WARN	\Services\TMSLiveService.exe.CONFIG
log-plcmdir	TMSPLCMDirectoryService（20 ページ）のアクティビティをログに記録します。	WARN	\Services\TMSPLCMDirectoryService.exe.CONFIG
log-schedulerservice	TMSSchedulerService（20 ページ）のアクティビティをログに記録します。	WARN	\Services\TMSSchedulerService.exe.CONFIG

表 181　Cisco TMS のログと設定ファイルおよびデフォルト ログ レベル（続き）

ログ名	説明	レベル	設定ファイル
log-scheduling-liveservice	LiveService ルーティング決定のレコードを保持します。 アクティブにするには、[SchedulingLogger] を [INFO] または [DEBUG] に設定します。	オフ	\Services\TMSLiveService.exe.CONFIG
log-scheduling-schedulerservice	SchedulerService ルーティング決定のレコードを保持します。 アクティブにするには、[SchedulingLogger] を [INFO] または [DEBUG] に設定します。	オフ	\Services\TMSSchedulerService.exe.CONFIG
log-scheduling-web-external	Cisco TMSBA ルーティング決定のレコードを保持します。 アクティブにするには、[SchedulingLogger] を [INFO] または [DEBUG] に設定します。	オフ	\wwwTMS\external\Web.config
log-scheduling-web-tms	Cisco TMS Web インターフェイスを使用して作成される予約のルーティング決定のレコードを保持します。 アクティブにするには、[SchedulingLogger] を [INFO] または [DEBUG] に設定します。	オフ	\wwwTMS\Web.config
log-systemapi-web-tms	ユーザが Cisco TMS から開始した手動の操作をログに記録します。	オフ	\wwwTMS\Web.CONFIG
log-systemapi-web-public-tms	CDR などの制御対象システムからのフィードバックをログに記録します。 イネーブルにするには: 着信コミュニケーションをログに記録するには [FeedbackLogger] を [DEBUG] に設定します。	オフ	\wwwTMS\public\Web.CONFIG
log-systemapi-web-external	このログは、Cisco TMS の内部 API によってのみ使用されます。	オフ	\wwwTMS\external\Web.CONFIG

表 181　Cisco TMS のログと設定ファイルおよびデフォルト ログ レベル（続き）

ログ名	説明	レベル	設定ファイル
log-systemapi-databasescannerservice	これらのログは、サービスによって開始された発信コミュニケーションを記録します。 イネーブルにするには: ■ 発信コミュニケーションをログに記録するには [SystemAPILogger] を [DEBUG] に設定します。	オフ	\services\TMSDatabaseScannerService.exe.CONFIG
log-systemapi-liveservice		オフ	\services\TMSLiveService.exe.CONFIG
log-systemapi-schedulerservice		オフ	\services\TMSSchedulerService.exe.CONFIG
log-systemapi-SNMPservice		オフ	\services\TMSSNMPService.exe.CONFIG
log-TMSAgentDiagnostics	このログは現在使用されていません。		
log-tmsagentproxy	Cisco TMSPE IIS プロキシのアクティビティをログに記録します。	WARN	\wwwProvisioning\Web.config
log-TMSDatabaseScanner	TMSDatabaseScannerService（20 ページ）のアクティビティをログに記録します。	WARN	\Services\TMSDatabaseScannerService.exe.CONFIG
log-TMSServerDiagnosticsService	TMSServerDiagnosticsService（20 ページ）のアクティビティをログに記録します。	WARN	\Services\TMSServerDiagnosticsService.exe.CONFIG
log-TMSSNMPservice	TMSSnmpService（21 ページ）のアクティビティをログに記録します。	WARN	\Services\TMSSSNMPService.exe.CONFIG
log-tmstools-duplication-resolution	Resolve Duplicate Keys ツールのアクティビティをログに記録します。どの会議が保持されてどの会議が削除されたのかがログに記録されます。	INFO	\TMSTools\TMSTools.exe.CONFIG
log-web	すべての Web インターフェイスのアクティビティをログに記録します。	WARN	\wwwTMS\Web.CONFIG
log-web-cdm	CTS エンドポイントからのフィードバックのエラーがログに記録されます。	WARN	\cdm\Web.CONFIG
log-webex-web-tms	Cisco Collaboration Meeting Rooms Hybrid のアクティビティをログに記録します。	オフ	\wwwTMS\Web.CONFIG
log-web-external	Cisco TMSBA など、パスワード保護された API を使用するアクティビティをログに記録します。	WARN	\wwwTMS\external\Web.CONFIG
log-web-public	電話帳やフィードバックなど、パブリック API を使用するすべてのアクティビティをログに記録します。	WARN	\wwwTMS\public\Web.CONFIG
log-xml	フィードバックの解析エラーをログに記録します。	WARN	\wwwTMS\public\Web.config
phonebook-stats.txt	エンドポイントからのすべての社内ディレクトリ照会をログに記録します。	WARN	\wwwTMS\public\Web.config

ログレベルの変更

各ログ ファイルで利用可能なログ レベルは 4 つあります。デフォルト値と、関連する設定ファイルの場所は、上記の表に記載されています。

選択可能な値は次のとおりです。

- OFF：コンポーネントのロギングを無効にします。
- WARN：警告とエラーのみログに記録します。
- INFO：WARN と同じ内容に加えて、追加の重大ではないログ エントリを含みます。
- DEBUG：このログ レベルは非常に詳細な出力が表示されるため、シスコのサポート担当者から指示された場合にのみアクティブにしてください。デバッグ ロギングは通常、高度なトラブルシューティングのシナリオで使用されるだけで、トラブルシューティング セッションが終了したらすぐに無効にされます。

ログ レベルを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「ログの概要（280 ページ）」でログに対して記載されている該当する設定ファイルを見つけます。
2. これに対する変更を行う前に設定ファイルのバックアップ コピーを作成します。
3. 管理者として、テキスト エディタを開きます。
4. 設定ファイルをテキスト エディタで開きます。
5. ファイル内で `<log4net>` 要素、`<root>` 要素、および `<level>` 要素を見つけます。
6. 目的の値を持つ要素を更新します。たとえば、`<level value="WARN"/>` から `<level value="DEBUG"/>` に変更します。
7. 「ログの概要（280 ページ）」に示されているその他の必要な要素を見つけて変更します。
8. ファイルを保存して、閉じます。
   - サービスに関連するすべてのログの場合、変更を有効にするには、関連する Windows サービスを再起動する必要があります。
   - すべての IIS ベースのログの場合、新しいログ レベルはただちに有効になります。

ログ レベルを上げるとログのサイズが大幅に増えるため、デバッグ後にログ レベルを初期値に戻すことを強く推奨します。

戻す手順は上記と同じです。

ログの読み取り

コンポーネントが起動するたびに、コンポーネントが使用する Cisco TMS のバージョンとユーザ アカウントがログに記録されます。

ログ エントリ例：

```
2013-06-19 20:14:29,108 [6] WARN Tandberg.TMS.Framework.AccessControl.AclService - Access denied to:
SystemRead
```

```
2013-06-20 14:53:04,503 [75] ERROR ASP.global_asax - System.Web.Services.Protocols.SoapException:
Unspecified Error
at Tandberg.TMS.External.SoapExceptionThrower.Throw(ExceptionContext exceptionContext)
       at Tandberg.TMS.External.SoapExceptionThrower.Throw(Exception e, String actor)
at Tandberg.TMS.Global.Application_AuthenticateRequest(Object sender, EventArgs e)
at System.Web.HttpApplication.SyncEventExecutionStep.System.Web.HttpApplication.IExecutionStep.Execute()
at System.Web.HttpApplication.ExecuteStep(IExecutionStep step, Boolean& completedSynchronously)
```

最初のログ エントリは、**log-web** ファイルの内容です。WARN（警告）としてログが記録され、アクセス権を持っていないページへのユーザによるアクセスが試行されたことを示します。Cisco TMS のアクセス コントロール リスト機能によって試行が拒否され、対応するログ エントリが作成されました。一般に、WARN ログ エントリは重大ではなく、データや機能の喪失が発生することはありません。

2 番目のログ エントリは、**log-web-external** ファイルの内容です。これは ERROR としてログが記録され、スタック トレース全体が表示されます。一般に、スタック トレースが続く ERROR がデータまたは機能が失われたことを示しています。この特別なケースでは、ERROR の根本原因は、Cisco TMSBA クライアントが新しい予約を作成しようとしたが、提示された会議オブジェクトに構文エラーが発生したことです。そのため、Cisco TMS は予約を廃棄し、ERROR をログに記録して、クライアントが有効な会議オブジェクトを使用して保存操作を再試行しない場合は、会議が失われます。

IIS ログ

Cisco TMS は Web サーバとして Windows サーバの Internet Information Services（IIS）を使用します。IIS ログは、特定タイプの Cisco TMS 問題をトラブルシューティングする場合に便利です。以下に例を示します。

- CDR データが欠落している。
- 断続的な電話帳の問題。
- Cisco TMS Web インターフェイスのロードが非常に遅い。

デフォルトの IIS のインストールでは、ログは **C:\inetpub\logs\LogFiles** フォルダにあります。IIS ログ エントリを Cisco TMS ログ エントリと相関させる場合、IIS ログ エントリが UTC 内にあることに注意してください。

IIS ログの設定をサポートするには、Microsoft TechNet の次の記事を参照してください。

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc732079(v=ws.10).aspx [英語]

IIS ログの消去

IIS ログが Cisco TMS のログ消去の計画の一部ではないことに注意してください。独自の消去計画を設定するか、手動でこれらのログを定期的に削除することを推奨します。

Web サイトのシナリオ

ここでは、Web サイトとしての Cisco TMS に関連するトラブルシューティングのシナリオについて説明します。

Cisco TMS がロードされない

Cisco TMS がロードされない場合は、関連するネットワーク、Web サーバ、またはデータベースに問題がある可能性があります。考えられる Web サーバとデータベースの問題に対するトラブルシューティングの手順を以下に示します。

基本的な手順

Web サーバ

- IIS が動作していることを確認します。
- デフォルトの Web ページ **http://<tms_server_name>** にアクセスできるかどうかを確認します。
- **c:\Program Files\TANDBERG\TMS\wwwTMS\Data\Logs\tmsdebug\log-web.txt** にあるログを参照してください。

データベース

- データベース スキャナ ログに、SQL サーバが使用できないことを示しているスタック トレースがないか確認してください。
- データベース サーバの [サービス（Services）] パネルに進みます。
  - SQL サーバが稼働していることを確認します。
  - リモート サーバで名前付きインスタンスを実行する場合は、SQL Server Browser サービスも実行していることを確認します。
  - トラブルシューティング手段として、これらのサービスを再起動することもできます。
- Cisco TMS がデータベースに接続するために使用する情報が正しいことを確認します。これには、「Cisco TMS ツール（272 ページ）」を使用することを推奨します。

高度な手順

Web サーバ

- 「インターネット インフォメーション サービス Web サーバとアプリケーション（19 ページ）」で説明されている仮想ディレクトリが次のとおりであることを確認します。
  - Cisco TMS サーバに存在している。
  - サーバの有効なディレクトリを指している。
- 権限設定が前述のリストに照らして正しいことを確認します。
- IIS で .NET 拡張機能の実行が許可されることを確認します。

データベース

データベースに対して osql スクリプトを実行し、データを返すかどうかを確認します。このスクリプトは Cisco TMS 内のデータベース システムの数を返します。SQL の設定によっては、Cisco TMS サーバ自体から次のコマンドの 1 つを実行します。

1. `osql -E -d tmsng -Q "select count(*) from objsystem"`
2. `osql -E -S .\SQLTMS -d tmsng -Q "select count(*) from objsystem"`

Web サーバの症状

- Cisco エンドポイントの社内ディレクトリが機能しません。
- エンドポイントの統計情報レポートは空です。

Web アプリケーションへの自動ログオンが機能しない

統合認証を使用した自動ログオンでは、Windows へのログオンに使用するユーザ名とパスワードを Cisco TMS へのログオンにも使用するために、Web ブラウザ、URL、およびネットワーク互換性が必要です。

ブラウザ

Internet Explorer

自動ログオンは Windows の Internet Explorer でサポートされます。ユーザ名とパスワードを求められる場合は、ゾーンのセキュリティ設定の認証設定を確認してください。

1. [インターネット オプション（Internet Options）] > セキュリティ（Security）] に移動します。
2. [Custom level...] をクリックします。
3. [User Authentication] > [ログオン] までスクロールダウンします。
4. [Automatic logon with current user name and password] をオンにします。

Cisco TMS サーバをより信頼できるセキュリティ ゾーンに追加することもできます。

Firefox

Mozilla Firefox では、デフォルトでは自動ログオンはサポートされませんが、自動ログオンをサポートするように設定することができます。

1. [URL] フィールドに「**`about:config`**」と入力します。
2. [Filter] フィールドに「**`ntlm`**」と入力します。
3. [network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris] をダブルクリックまたは右クリックして設定を変更します。

4. Cisco TMS を実行しているサーバが属しているドメインを入力します。ドメインを追加する場合は、コンマを使用し、空白文字なしで各ドメインを区切ります。
5. [OK] をクリックします。
   変更がただちに適用されます。

URL

自動ログオンを機能させるには、Cisco TMS サーバの適切な内部完全修飾ドメイン名（FQDN）にマッピングされている URL を使用して Web アプリケーションにアクセスする必要があります。

サーバの IP アドレス、または内部 FQDN ではなく IP アドレスにマッピングされている DNS 名を使用して自動ログオンすることはできません。

次の表の例では、URL：`http://tms2.example.org/tms` を使用するユーザは自動的にログオンします。

URL：`http://10.0.200.50/tms` を使用するユーザは認証クレデンシャルを入力する必要があります。

`http://tms.example.org/tms` を使用するユーザは認証クレデンシャルを入力する必要があります。これは、アドレスがマシンの Active Directory FQDN 名ではなく IP アドレスに直接マッピングされているためです。

	URL	マッピング先	自動ログオン
サーバ名： `tms2.example.org`	`http://tms2.example.org/tms`	適用対象外	[はい（Yes）]
IP アドレス `10.0.200.50`	`http://10.0.200.50/tms`	適用対象外	[いいえ（No）]
DNS A レコード： `tms.example.org`	`http://tms.example.org/tms`	`10.0.200.50`	[いいえ（No）]

ネットワーク

Web プロキシを含むネットワークでは、Kerberos または NTLM 認証方法が壊れる可能性があります。これは統合認証が使用できないことを意味します。これは、統合認証が Web プロキシを経由する必要がない内部ネットワーク向けに設計されているためです。このような状況では、Web ブラウザと Web サーバが次の使用可能な認証方法をネゴシエートします。

システムのシナリオ

この項では、Cisco TMS を使用するシステムで発生する可能性のある問題について説明します。

新しいシステムが自動で検出されない

ネットワークの新しいシステムで自動的に検出されない場合は、次の手順を試してください。

基本的な手順

- Cisco TMS 以外の SNMP ツールがサーバ上で動作していないことを確認します。
- システムの管理アドレス（インフラストラクチャ システムの場合はフィードバック レシーバ）が **http://<FQDNofTMS>/tms/public/feedback/code.aspx** に設定されていることを確認します。HTTPS を使用するようにアドレスが設定されている場合、これは、Cisco TMS IIS でイネーブルにされている必要があります。
- 症状またはエラー メッセージのログはサーバ上の **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-TMSSNMPservice.txt** で確認します。
- TMSSnmpService を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSSnmpService（21 ページ）」を参照してください。

古いシステム情報およびステータス

Cisco TMS のシステム情報およびシステム ステータスが最新ではなく、応答していないシステムのステータスが引き続き [通話中(In Call)] または [アイドル(Idle)] 状態の場合は、次の手順を試してください。

基本的な手順

- 症状またはエラー メッセージのログは、サーバの **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-TMSDatabaseScanner.txt** で確認します。
- TMSDatabaseScanner を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSDatabaseScannerService(20 ページ)」を参照してください。

開始されないスケジュールされたイベント

スケジュールされたイベントが起動しない場合は、次の手順を試してください。

基本的な手順

- 症状またはエラー メッセージのログは、サーバの **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-schedulerservice.txt** で確認します。
- TMSSchedulerService を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSSchedulerService(20 ページ)」を参照してください。

システム アップグレードが失敗する

「100 % イベントは失敗しました(100% Event failed)」というメッセージが表示されてアップグレードが失敗する

[システムのアップグレードの活動状況(System Upgrade Activity Status)] に「100 % イベントは失敗しました(100% Event failed)」というエラーが表示されて、スケジュールされたアップグレード タスクが失敗する場合は、[説明(Description)] フィールドをクリックして具体的なエラー メッセージを確認します。

リモート サーバに接続できない

エラー:「The event failed to complete.Details: hostAddress: 10.1.2.3, description: GetDocument Failed.URL: https://10.1.2.3/getxml?location=/Configuration/, base exception: Unable to connect to the remote server(イベントを完了できませんでした。詳細:hostAddress: 10.1.2.3、説明:GetDocument が失敗しました。URL: https://10.1.2.3/getxml?location=/Configuration/、基本例外:リモート サーバに接続できません)」

基本的な手順

このエラー メッセージは、Cisco TMS がアップグレードを開始するためにエンドポイントに接続できなかったことを示します。

- Cisco TMS ツールの [通信のセキュリティ(Communication Security)] が [中(Medium)] に設定されている場合は、エンドポイントで HTTP または HTTPS が有効になっている必要があります。Cisco TMS ツールの [通信のセキュリティ(Communication Security)] が [中 - 高(Medium-High)] または [高(High)] に設定されている場合は、エンドポイントで HTTPS が有効になっている必要があります。
- これらのサービスを有効にするには、エンドポイントを再起動して、Cisco TMS に変更内容を反映させる必要がある場合があります。

ソフトウェア ディレクトリにアクセスできない

「The event failed to complete.Details: Software Directory not accessible via IIS/HTTP.(イベントを完了できませんでした。詳細:IIS/HTTP でソフトウェア ディレクトリにアクセスできません。)」

基本的な手順

このエラー メッセージは、エンドポイントのプロビジョニングに使用するソフトウェア アップグレード URL を Cisco TMS が作成できなかったことを示します。

1. [ソフトウェア ディレクトリ(Software Directory)]([TMS ツール(TMS Tools)] で設定可能)が **C:\Program Files (x86)\TANDBERG\TMS\wwwTMS** のサブフォルダになっていることを確認します。
2. IIS と SchedulerService を再起動します。

アップグレードが「25 % 実行中(25% Executing)」の状態でハングする

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアまたは TC ソフトウェア バージョン 6.0 以上を実行しているエンドポイントは、アップグレード プロセスに関するフィードバックを Cisco TMS に提供することができるため、Cisco TMS の [システムのアップグレードの活動状況(System Upgrade Activity Status)] に正確なステータスが表示されるようになります。

スケジュールされたアップグレード タスクが「25 % 実行中(25% Executing)」の状態でハングする場合は、Cisco TMS によるプロビジョニングに使用された URL からエンドポイントが新しいソフトウェア パッケージを取得できないことを示します。

基本的な手順

Web ブラウザを使用して、**http://ip.address.of.endpoint/status.xml** に移動します。以下を確認します。

- <Provisioning> 要素内に <URL> 要素があり、Cisco TMS サーバを指す URL が表示されている。
- 表示されている URL に Web ブラウザを使用してアクセスできる。

この URL は、[管理ツール(Administrative Tools)] > [ネットワーク設定(Network Settings)] > [社内 LAN のシステムの詳細ネットワーク設定(Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN)] のいずれかのアドレスをベースとして使用して、[管理ツール(Administrative Tools)] > [全般設定(General Settings)] > [ソフトウェア ディレクトリ(Software directory)] で定義されているフォルダを追加して作成されます。

アップグレードが「60 % 実行中(60% Executing)」の状態でハングする

アップグレード タスクが「60 % 実行中(60% Executing)」から先に進まない場合は、エンドポイントが Cisco TMS からダウンロードしたソフトウェア パッケージをインストールしようとしているか、現在インストールしています。Cisco TMS では、エンドポイントが Cisco TMS にアップグレードの成功または失敗を知らせるイベントを送信するまで、アップグレード タスクは「60 % 実行中(60% Executing)」のままになります。

基本的な手順

次の点を確認します。

- エンドポイントのフィードバック URL と管理アドレスが Cisco TMS を指している。[システム(Systems)] > [ナビゲータ(Navigator)] でエンドポイントに対して [強制的に更新(Force Refresh)] を実行すると、これらのいずれかまたは両方が間違っている場合にチケットが作成されます。
- ソフトウェア アップグレードが進行中、中断、完了のいずれかの状態である。ソフトウェア アップグレードの結果を確認する方法については、エンドポイントのマニュアルを参照してください。

チケットが引き上げられない

空きディスク スペースが 10 % 未満の場合、またはデータベースが最大サイズの 90 % より大きい場合、チケットが引き上げられなければ、次の手順を試してください。

基本的な手順

- 症状またはエラー メッセージのログは、サーバの **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-TMSServerDiagnosticsService.txt** で確認します。
- TMSServerDiagnosticsService を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSServerDiagnosticsService(20 ページ)」を参照してください。

会議シナリオ

この項では、Cisco TMS 会議で発生する可能性のある問題について説明します。

コールが開始されない

会議制御センターへのログインがほとんど空の場合、「作成済」という 1 行だけが含まれている場合、または会議に関連したいくつかの変更が存在するが、会議の起動に関連した変更がない場合は、次の手順を試してください。

基本的な手順

- 症状またはエラー メッセージのログは、サーバの **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-liveservice.txt** で確認します。
- TMSLiveService を再起動します。この Windows サービスの詳細については、「TMSLiveService（20 ページ）」を参照してください。

高度な手順

Wireshark を使用して、Cisco TMS が、コールに関与するすべてのシステムにコマンドを送信していることを確認します。

Java アプレットのシナリオ

会議制御センターと**グラフィカル モニタ**は、ダイナミック情報を表示するために Java アプレットを使用します。この項では、Java アプレットを含む可能なトラブルシューティング シナリオとそれらを解決する方法について説明します。

ユーザ名とパスワードのプロンプトが再表示され続ける

Java アプレットは、Cisco TMS サーバが、ユーザがログインしているドメインの一部でない（またはそのドメインによって信頼されていない）場合は、ユーザが自身を認証するように要求します。

基本的な手順

各セッションのプロンプトが表示されたら、ユーザ名とパスワードを挿入します。

高度な手順

Cisco TMS サーバをドメインに含めます。

アプレットがロードされない

Java ランタイム環境がコンピュータにインストールされていない可能性があり、コンピュータがインターネットに直接アクセスして、JRE を自動的にダウンロードすることができません。

アプレットがインストールされていても、ロードされていないと、プロキシ サーバが原因で、Java アプレットが Cisco TMS サーバから必要なデータを取得できない場合があります。Java コンソールを開くには、システムトレイの Java アイコンを右クリックし、[コンソールを開く（Open Console）] を選択します。「未知の送信元」を示すエラー メッセージが表示されます。この問題を解決するには、次の点を 1 つ以上試してください。

基本的な手順

- Java がインストールされていない場合は、http://www.java.com/ にアクセスし、Java をダウンロードしてインストールします。
- サーバの IP アドレスを使用して Cisco TMS にアクセスしている場合は、Cisco TMS サーバのホスト名で再試行します。
- ブラウザのプロキシ設定を使用するのではなく、直接接続を使用するには、Java コントロール パネルを使用して Java クライアントを設定します。

高度な手順

Cisco TMS サーバからクライアントへのこの種のトラフィックを許可するようにプロキシ サーバを設定する必要がある場合もあります。

アプレットのロードが遅いか、ロードが不完全である

アプレットのロードは通常、ページの開始から 5 秒以内に終了します。非常に長いロード時間が発生した場合は、次の点を試してください。

基本的な手順

- Java のキャッシュをオフにし、既存の一時ファイルを削除する。
  a. **Java コントロール パネル**を開きます。
  b. [全般（General）] タブをクリックします。
  c. [設定（Settings）] をクリックして、[アプレットを表示（View Applets）] をクリックします。
  d. 左下隅の [キャッシングを有効にする（Enable Caching）] を選択解除します。
  e. [OK] をクリックします。
  f. [ファイルの削除（Delete Files）] をクリックします。
  g. すべてのチェックボックスをオンにします。
  h. [OK] をクリックします。
  i. [OK] をクリックします。
  j. [OK] をクリックします。
- Internet Explorer から古い、または重複する Java クライアントを削除します。
  a. Internet Explorer メニューで [ツール（Tools）] をクリックします。
  b. [プログラム（Programs）] タブをクリックします。
  c. [アドオンの管理（Manage Add-ons）] をクリックします。
  d. すべての古い、または重複する Java プラグインを無効にします。
- Google Desktop を削除します。Google Desktop が Java プラグインに大幅に競合して、Java アプレットのロード時間を増加する問題が見られます。他のデスクトップ検索エンジンは、同じ症状を表示しませんでした。
- Java JRE バージョン 6 アップデート 15 以降を使用している場合は、グラフィック モニタを予期したとおりに機能させるために、Java コントロール パネルで [詳細設定（Advanced）] の下の [次世代 Java プラグインを有効にする…（Enable the next generation Java plug-in…）] の選択を解除する必要があります。

Mozilla Firefox が Java プラグインをブロックする

Mozilla Firefox バージョン 17.0 以降では、**会議制御センター**を開くたびに Java プラグインをアクティブにするようプロンプトが表示されます。次の手順に従って、Java プラグインを完全にアクティブ化します。

Mozilla Firefox で：

1. [Open menu] アイコンをクリックします。
2. [Add-ons] をクリックします。
3. 左側のパネルの [Plugins] タブを選択します。
4. プラグイン リストから **Java(TM) プラットフォーム SE** バージョン 8 以降を選択します。
5. ドロップダウン リストをクリックし、[Always Activate] オプションを選択します。

モニタの高速ロード

Cisco TMS がアップグレードされると、[会議制御センター（Conference Control Center）] および [グラフィカル モニタ（Graphical Monitor）] のロードが遅くなることがあります。これは、Java アプレット キャッシュに古いバージョンの .jar ファイルがあることによって発生します。

問題を解決するためには、次の手順を実行します。

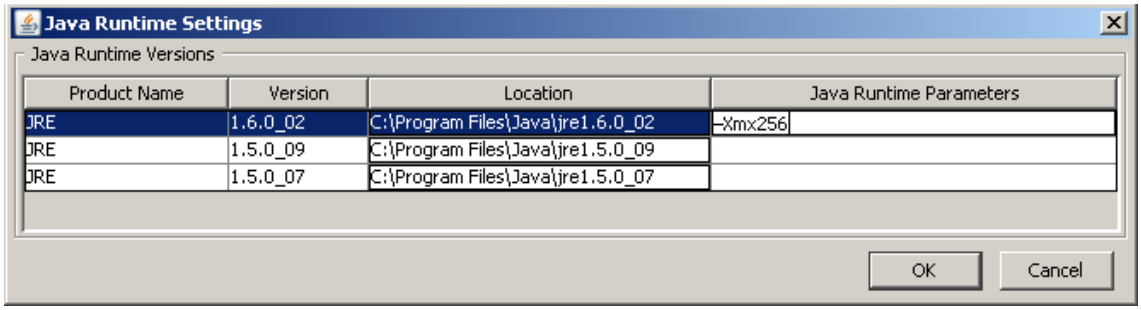
1. Java コントロール パネルを（コンピュータのコントロール パネルで）開きます
2. [全般（General）] タブをクリックします。
3. [表示...（View...）] ボタンをクリックします。
4. [インターネット一時ファイル（Temporary Internet Files）] に移動します。
5. 拡張子が .jar のファイルを削除します。

メモリ不足

Cisco TMS のインストール内のシステム数および進行中の会議の数によっては、[会議制御センター（Conference Control Center）] または [グラフィカル モニター（Graphical Monitor）] に関連するメモリの問題が発生することがあります。これは、64 MB のメモリを使用できるのは、デフォルトとしての Java アプレットだけであるためです。メモリ不足の例外に関する問題がある場合、アプレットが「ハング」するか、非常に遅く見える、または Internet Explorer の [ツール（Tools）] メニューにある [Sun の Java コンソール（Sun Java Console）] で **OutOfMemory** 例外のトレースが検出されることがあります。この問題を回避するには、アプレットが使用できるメモリの最大容量を増やすことができます。

メモリの最大容量の増加

コンピュータのコントロール パネルで [Java コントロール パネル（Java Control Panel）] を開き、[Java] タブをクリックし、[Java アプレットのランタイム設定（Java Applet Runtime Settings）] で [表示…（View…）] をクリックします。[Java ランタイム設定（Java Runtime Settings）] は、現在マシンにインストールされているランタイム バージョンを示します。最新の「バージョン」を検索し、[Java ランタイム パラメータ（Java Runtime Parameters）] ボックスに **-Xmx256** を追加します（次のスクリーンショットを参照してください）。これにより、アプレットがデフォルト値の 64 MB から最大値の 256 MB まで使用できるようにメモリの最大容量が増加します。値は、適切と判断した任意の容量に変更することができます。



電話帳のシナリオ

ここでは、Cisco TMS 電話帳がクライアント側と Cisco TMS の両方に存在する可能性があるときのトラブルシューティングのシナリオについて説明します。

電話帳（社内ディレクトリ）のエラー

表 182　社内ディレクトリの問題によってエンドポイントに表示される可能性があるエラー

メッセージ	説明または推奨ソリューション
要求がタイムアウトになり、応答がありません（Request timed out, no response）	Cisco TMS サーバが使用中です。再試行してください。
警告: 取得されないディレクトリのデータ: 404（Warning: directory data not retrieved: 404）	■ エンドポイントが、Cisco TMS サーバとは別の Web サーバの IP アドレスで設定されています。 ■ エンドポイントの社内ディレクトリ パスが間違っています。

表 182　社内ディレクトリの問題によってエンドポイントに表示される可能性があるエラー（続き）

警告: 取得されないディレクトリのデータ: 401（Warning: directory data not retrieved: 401）	■ Cisco TMS サーバの「Public」仮想ディレクトリは、匿名アクセスを許可するように設定されていません。 ■ この場合の最も一般的な問題は、匿名アクセスが設定されているが、使用するアカウントがグループ ポリシーによって上書きされていることです。デフォルトの IUSR ユーザはゲスト アカウントの一部であるため、通常、グループ ポリシーがこのアカウントをディセーブルにします。
Cisco TMS: 電話帳はこのシステムで設定されていません（Cisco TMS: No phonebook(s) set on this system）	■ Cisco TMS にこのシステムの電話帳が設定されていません。Cisco TMS の電話帳に登録するためにエンドポイントを設定します。 ■ エンドポイントで NAT を使用すると、Cisco TMS がシステムを認識せず、電話帳を取得できなくなることがあります。
要求がタイムアウトになり、応答がありません（Request timed out, no response）	エンドポイントは非既存の Web サーバの IP アドレスで設定されています。
サーバに接続されていません（No contact with server）	IIS は、破損したメッセージが受信される状態または再起動しています。

Polycom エンドポイントが電話帳を取得しない

Polycom エンドポイントが電話帳のデータを受信していない場合、次の手順を試してください。

基本的な手順

- 電話帳のエラーの詳細については、「電話帳とソースの活動状況（210 ページ）」を参照してください。
- 症状またはエラー メッセージのログは、サーバの **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-plcmdir.txt** で確認します。
- TMSPLCMDirectoryService を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSPLCMDirectoryService（20 ページ）」を参照してください。
- エンドポイントで必要なポートが Cisco TMS サーバで開いていることを確認します。詳細については、*Cisco TMS 製品サポート* [英語] を参照してください。

レポートのシナリオ

このセクションでは、Cisco TMS のレポート機能に関連するトラブルシューティング シナリオについて説明します。

ブリッジの使用状況レポート

データの不整合

過去のデータの不整合

過去にブリッジを容量の異なるブリッジに交換した場合（HD からフル HD への変更など）、またはブリッジを設定し直した場合は、過去のデータが不正確になり、100 % を超える使用率が報告される場合があります。

ブリッジをパージしても、過去のブリッジ使用率データは削除されません。TelePresence Conductor によって管理されるブリッジに移行した場合も同じです。

ETL ジョブが失敗すると、TMS チケットが生成されます。[TMS サーバ メンテナンス（TMS Server Maintenance）] の [診断ファイルのダウンロード（Download Diagnostic Files）] zip にある ETL ログを確認してください。

再接続されたブリッジ コール

一部のシナリオでは、マルチポイント会議の参加者がブリッジへの接続を失って再接続した場合、新しい接続でブリッジの別のポートが使用されることがあります。最初のポートがまだ解放されていない場合、参加者は 2 つのポートを占有できます。その結果、ブリッジは誤解を招く参加者数を Cisco TMS に報告します。

ポート使用率の不正確さ

ポートの可用性によっては、会議中に参加者の接続がダウングレード（ビデオから音声へ）またはアップグレード（音声からビデオへ）する可能性があります。

会議中のある時点でビデオ ポートを使用していた参加者は、会議の終了時にビデオ参加者として報告されます。つまり、ブリッジの使用可能なポート数よりも多いビデオ参加者が会議に参加していたと報告される可能性があります。

このレポートは、マネージド ブリッジによって提供される実際のコール データに基づいており、元々スケジュールされていたポート数は考慮しません。

シスコ コラボレーション エンドポイント ソフトウェア、TE、および TC ソフトウェアが稼働するエンドポイントから CDR なし

基本的な手順

以下を確認します。

- エンドポイントは、Cisco TMS でサポートされるソフトウェアのバージョンに設定されています。
- エンド ポイントに正しい管理アドレスが設定されています。
- Cisco TMS サーバの IIS に、/tms/public に対応した匿名認証があります。また、Active Directory グループ ポリシーで IUSR アカウントが制限されません。

高度な手順

Cisco TMS サーバの Wireshark のトレースをキャプチャし、エンドポイントの IP アドレスでそのプリフィルタ処理を行います。正常に Cisco エンドポイントから CDR を得るには、次のイベントのシーケンスを表示する必要があります

1. エンドポイントは、コール中であることを **/tms/public/feedback** に送信します。エンドポイントは、コールの進行中の間、Cisco TMS に継続的にフィードバックを送信します。
2. コールが終了すると、エンドポイントが、**/tms/public/feedback** へのコール項目を送信します。TC 5.1.1 のソフトウェアを実行する Cisco TelePresence SX20 からのコール項目の例:

```
<Call item="175">
      <CallId item="1">48</CallId>
      <Protocol item="1">H323</Protocol>
      <Direction item="1">Incoming</Direction>
      <CallType item="1">Video</CallType>
      <RemoteNumber item="1">h323:1234</RemoteNumber>
      <CallbackNumber item="1">h323:example@example.com</CallbackNumber>
      <DisplayName item="1">example@example.com </DisplayName>
      <CallRate item="1">1920</CallRate>
      <DisconnectCause item="1">Undefined reason</DisconnectCause>
      <DisconnectCauseCode item="1">21</DisconnectCauseCode>
      <DisconnectCauseOrigin item="1">Q850</DisconnectCauseOrigin>
      <StartTime item="1">2012/05/30 14:45:23</StartTime>
      <Duration item="1">11</Duration>
      <Encryption item="1">Aes-128</Encryption>
      <BookingId item="1"></BookingId>
</Call>
```

3. Cisco TMS はコール項目を解析および処理し、そこから CDR を作成します。ほとんどの値は Cisco TMS に送信されたコール項目から逐語的に取得されます。原因コードなど、一部の値は、ITU-T の標準に従っていない場合、Cisco TMS によって破棄され、「不明」に設定されることがあります。

Cisco TelePresence Server から CDR なし

基本的な手順

以下を確認します。

1. TelePresence Server が、Cisco TMS でサポートされるソフトウェアのバージョンを実行しています。
2. Cisco TMS IIS に、**/tms/public** に対応した匿名認証があります。また、Active Directory グループ ポリシーで IUSR アカウントが制限されません。

Cisco TelePresence MCU から CDR なし

基本的な手順

CDR の非同期処理をサポートするソフトウェア バージョン 4.3 以降を実行していることを確認してください。

Polycom エンドポイントから CDR なし

基本的な手順

以下を確認します。

- Polycom エンドポイントは、Cisco TMS でサポートされるソフトウェアのバージョンに設定されています。
- Polycom エンドポイントに正しい管理アドレスが設定されています。
- Cisco TMS サーバのオペレーティング システムに MSXML 4.0 または MSXML 6.0 がインストール済みです。
- Cisco TMS サーバの IIS に、**/pwx** に対応した匿名認証があります。また、Active Directory グループ ポリシーで IUSR アカウントが制限されません。

高度な手順

Cisco TMS サーバの Wireshark のトレースをキャプチャし、エンドポイントの IP アドレスでそのプリフィルタ処理を行います。正常に Polycom から CDR を得るには、次のイベントのシーケンスを表示する必要があります。

1. コールが設定されている場合、エンドポイントは、Cisco TMS がコールのモニタリングを開始するように、Cisco TMS サーバの **/pwx/nx_status.asp** へステータスを送信します。
2. コールが終了すると、エンドポイントは「type=disconnected」を含んだステータスを送信します。**/pwx** に送信されるステータス メッセージの例:

   ```
   id=sa_sabre&event=sa_cxn_state&serial=1234567890123456&conf_id=14948&cxn_
   id=1&direction=incoming&display_name=endpoint@example.com&number=123456&rate=512&cxn_
   type=h323&type=disconnected&hangup_type=local&cause_code=16&rollover_cod
   ```

3. Cisco TMS は、その後、エンドポイントから **/localcdr.csv** ファイルを取得します。.csv ファイルが Cisco TMS によって解析され、処理され、Polycom から受信したデータに基づいて独自の CDR が作成されます。

一部のデータは Polycom エンドポイントから受け取ることができないため、*不明*として報告されることに注意してください。

ロード バランサが HTTP 接続でフィードバックを受信する場合、使用しない Polycom のフィードバックを手動でフィルタ処理することができます。HTTPS 接続では、コンテンツが暗号化されるため、HTTP コンテンツをフィルタ処理することはできません。Polycom デバイスから送信されたフィードバックの HTTP コンテンツに id=sa_sabre&event=sa_exchangeSrvr_state または id=sa_sabre&event=sa_sip_state が含まれている場合にブロックするように HTTP コンテンツ フィルタを設定できます。この機能を使用できるかどうかと、その設定方法は、ネットワーク ロード バランサによって決まります。

Cisco TMS バージョン 13.0 ～ 14.5 を使用している場合、Polycom CDR 設定ファイルは、C:\Program Files (x86)\TANDBERG\TMS\pwx に格納されています。Cisco TMS バージョン 14.6 以降の場合、設定ファイルは、C:\Program Files (x86)\TANDBERG\TMS\wwwTMS\public\pwx に格納されています。

レガシー TANDBERG システムの統計情報なし

Cisco TMS でレガシー システムの統計情報が表示されない場合は、次の手順を試してください。

基本的な手順

- Cisco TMS 以外の SNMP ツールがサーバ上で動作していないことを確認します。
- システムの管理アドレス（インフラストラクチャ システムの場合はフィードバック レシーバ）が **http://<FQDNofTMS>/tms/public/feedback/code.aspx** に設定されていることを確認します。HTTPS を使用するようにアドレスが設定されている場合、これは、Cisco TMS IIS でイネーブルにされている必要があります。
- 症状またはエラー メッセージのログはサーバ上の **C:\Program Files\TANDBERG\TMS\data\Logs\TMSDebug\log-TMSSNMPservice.txt** で確認します。
- TMSSnmpService を再起動します。この Windows サービスに関する詳細については、「TMSSnmpService（21 ページ）」を参照してください。

高度な手順

Wireshark を使用して、Cisco TMS がシステムから SNMP データを受信中であることを確認します。

原因（Cause）コード

表 183　ITU-T 標準に基づく原因コード

コード	説明
0	シスコ固有。ITU-T 標準に含まれていません。
1	この原因は、番号は有効な形式であるが、現在割り当てられていないため、発信側ユーザが要求した宛先に到達できないことを示します。
2	この原因は、この原因を送信した装置が、認識していない特定の中継ネットワークを介したコールのルーティング要求を受け取ったことを示します。この原因を送信している機器は、その中継ネットワークが存在しないか、その特定の中継ネットワークが存在していても、この原因を送信している機器に対して機能していないため、中継ネットワークを認識していません。
3	この原因は、コールがルーティングされたネットワークが、目的の宛先に対してサービスを提供していないために、この着信側にアクセスできないことを示します。この原因は、ネットワーク特有の基準でサポートされています。
5	この原因は、着信者番号にトランク プレフィックスが誤って包含されていることを示します。この番号は、顧客宅内装置によってネットワークに送信される着信番号から削除されると見なされます。
6	この原因は、最後に指定されたチャネルでは、このコールで使用するための送信側が受け入れられないことを示します。
7	この原因は、ユーザに対して着信コールがあり、その着信コールが、同様のコールのためにそのユーザに対してすでに確立されているチャネルに接続されていることを示します（たとえば、パケットモード x.25 仮想コール）。
8	この原因は、コールが優先されることを示します。
9	この原因は、コールが優先され、回路が優先交換で再利用されるために予約されていることを示します。

表 183　ITU-T 標準に基づく原因コード（続き）

16	この原因は、コールに関与しているいずれかのユーザがコールのクリアを要求したために、コールがクリアされたことを示します。
17	この原因は、着信側ユーザが別のコールを受け入れることができないと示された場合に使用されます。この原因は、着信側のユーザまたはネットワークで生成されることがあります。使用の機器にコールとの互換性があることに注意してください。
18	この原因は、着信側が割り当てられた所定の時間内にアラートまたは接続通知でコール確立メッセージに応答しない場合に使用されます（時間 T303 または T310 の期限切れによる Q.931 で）。
19	この原因は、ユーザが所定の時間内にアラート通知を提供したが、接続通知を提供しなかった場合に使用されます。**注**：この原因は、必ずしも顧客宅内機器によって生成されるのではなく、内部ネットワーク タイマーにより生成されることがあります。
20	この原因値は、モバイル ステーションがログオフした場合、モバイル ステーションで無線接続が取得されなかった場合、または個人通信ユーザが一時的にどのユーザ ネットワーク インターフェイスでもアドレス指定できない場合に使用されます。
21	この原因は、この原因を送信した装置が、ビジーまたは非対応ではないため、コールを受け入れられるにもかかわらず、この原因を送信した装置が、このコールの受け入れを拒否していることを示します。この原因はネットワークにより生成されることもあり、この場合、このコールが補足サービスの制約により消去されたことを示します。診断フィールドには、補足サービスの追加情報や却下の理由が含まれている場合があります。
22	この原因は、発信側によって指定された着番号が、現在では割り当てられていない場合に、着信側に返されます。新しい着信者番号が、オプションで診断フィールドに含まれている場合があります。ネットワークでこの原因がサポートされていない場合は、原因番号 1（未割り当て）が代わりに使用されます。
26	この原因は、ユーザに対して着信コールがなかったことを示します。
27	この原因は、宛先へのインターフェイスが正常に機能していないため、その宛先に到達できないことを示します。シグナリング メッセージは、ハードウェア障害が原因で配信できませんでした。
28	この原因は、着番号が有効な形式ではないか、不完全であるために、この着信側にアクセスできないことを示します。
29	この原因は、ユーザが要求したファシリティがネットワークによって提供されない場合に返されます。
30	この原因は、STATUS メッセージが生成された理由が STATUS ENQUIRY の受信の前である場合、STATUS メッセージに含まれます。
31	この原因は、通常のクラスのその他の原因が適用されない場合にだけ、通常のイベントを報告するために使用されます。
34	この原因は、現在、コールを処理するために利用できる適切な回路/チャネルがないことを示します。**注**：このコールを受信した場合、データ レートを 64 K から 56 K に落とすなど、他のデータ サービスを試してください。
35	この原因は、コールが次の使用可能なデバイスによってサービスのキューに入ったことを示します。
38	この原因は、ネットワークが正常に動作していないことと、この状態が比較的長い時間続くことが予測されるということを示します。直後に試行されるコールは、おそらく正常に接続しません。
39	この原因は、確立された固定フレーム モードの接続が（たとえば、装置またはセクションの障害が原因で）アウトオブサービスであることを示すために、STATUS メッセージに含まれます（Annex A/Q.933 を参照してください）。
40	この原因は、確立された固定フレーム モードの接続が動作可能で、ユーザ情報を伝送できることを示すために、STATUS メッセージに含まれます（Annex A/Q.933 を参照してください）。
41	この原因は、ネットワークが正常に動作していないことと、この状態は長く続かないことが予測されるということを示します。直後に試行されるコールは、おそらく正常に接続します。

表 183　ITU-T 標準に基づく原因コード（続き）

42	この原因は、この原因を生成した装置の切り替えによってトラフィックが増大することを示します。
43	この原因は、診断に示すように、ネットワークがアクセス情報、低レイヤ互換性、高レイヤ互換性、またはサブアドレスを配信できなかったことを示します。
44	この原因は、要求エンティティによって指定された回路またはチャネルが、インターフェイスの他の側で提供できない場合に返されます。
46	この原因は、優先できる回線がない、または着信側ユーザが同じかより高い優先レベルのコールでビジー状態であることを示します。
47	この原因は、リソース使用不可クラスの他の原因が適用されない場合にのみ、リソース使用不可イベントをレポートするために使用されます。
49	この原因は、要求された QoS が提供できないことを報告するために使用されます（遅延はサポートできません）。
50	この原因は、要求された補足サービスがユーザの過失のために提供できなかったことを示します。この原因コードは、誤ったスイッチ タイプに設定されている CPE によって、よく発生します。
52	この原因は、ネットワークによって提供されるコール スクリーニングのため、発信側ユーザがコールを許可されないことを示します。
53	この原因は、発信側は発信 CUG コールの CUG メンバですが、この CUG メンバに対して発信コールが許可されていないことを示します。
54	この原因は、SETUP メッセージで配布されたコールを着信側ユーザが受け入れないことを示します。
55	この原因は、発信側は着信 CUG コールの CUG メンバですが、この CUG メンバに対して着信コールが許可されていないことを示します。
57	この原因は、装置によって実装されているが、このユーザが使用を許可されていないベアラ機能をユーザが要求したことを示します。
58	この原因は、ユーザがベアラ機能を要求したことを示します。ベアラ機能は、この原因を生成した装置によって実装されますが、この時点では利用できません。
62	この原因は、指定された発信アクセス情報と加入者クラスの不整合を示します。
63	この原因は、利用できないクラスのサービスまたはオプションのその他の原因が適用されない場合にだけ、サービスまたはオプションを利用できないというイベントを報告するために使用されます。
65	この原因は、この原因を送信した装置が、要求されたベアラ機能をサポートしていないことを示します。
66	この原因は、この原因を送信した装置が、要求されたチャネル タイプをサポートしていないことを示します。
69	この原因は、この原因を送信した装置が、要求された補足サービスをサポートしていないことを示します。
70	この原因は、機器が制限なしのベアラ サービスを要求したが、原因を送信した機器は、要求されたベアラ機能の制限バージョンだけをサポートしていることを示します。
79	この原因は、このクラスのその他の原因が適用されない場合にだけ、実装されていないサービス r オプションを報告するために使用されます。
81	この原因は、この原因を送信した装置が、現在ユーザネットワーク インターフェイスで使用されていないコール参照を持つメッセージを受信したことを示します。
82	この原因は、この原因を送信した装置が、コール用のインターフェイス上でアクティブになっていないチャネルを使用するという要求を受け取ったことを示します。たとえば、チャネル 1 ～ 12 にだけ加入しているユーザが、いずれかの側によってチャネル 13 ～ 23 を要求されると、この原因が生成されます。

表 183　ITU-T 標準に基づく原因コード（続き）

83	この原因は、現在、一時停止中のコールで使用されているコール ID とは異なるコール ID でコールの復帰が試行されたことを示します。
84	この原因は、ネットワークがコール復帰要求を受け取ったことを示します。コール復帰要求には、現在インターフェイスのドメイン内に一時停止されている（復帰可能な）コールが存在することを示していないコール ID 情報要素が含まれています。
85	この原因は、ネットワークが、現在インターフェイスのドメイン内に一時停止されている（復帰可能な）コールが存在することを示していないコール ID 情報要素を含むコール復帰要求を受け取ったことを示します。
86	この原因は、ネットワークがコール復帰要求を受け取ったことを示します。要求には、一時停止中のコールがあったが、一時停止中に（ネットワーク タイムアウトまたはリモート ユーザによって）コールがクリアされたことを示すコール ID 情報要素が含まれています。
87	この原因は、着信 CUG コールの着信側ユーザが指定された CUG のメンバではないか、または発信側ユーザが CUG の加入者にコールする通常の加入者であることを示します。
88	この原因は、この原因を送信した装置が、対応できない低レイヤ互換性、高レイヤ互換性、または他の互換性属性（たとえば、データ レート）があるコールを確立する要求を受け取ったことを示します。
90	この原因は、指定された CUG が存在しないことを示します。
94	この原因は、Annex C/Q.931 で定義されているように、不正な形式の中継ネットワーク ID を受信したことを示します。
95	この原因は、無効なクラスの他の原因が適用されない場合にだけ、無効なメッセージ イベントを報告するために使用されます。
96	この原因は、この原因を送信した装置が、メッセージを処理するために必要な情報要素が欠落しているメッセージを受信したことを示します。
97	この原因は、この原因を送信した装置が、定義されていないメッセージであるか、定義されているものの、この原因を送信した装置で実装されていないために認識されないメッセージ タイプのメッセージを受信したことを示します。
98	この原因は、この原因を送信した装置が、手順でこのコールの状態で受信できるメッセージであることが示されていないメッセージを受信したか、または互換性のないコールの状態を示す STATUS メッセージを受信したことを示します。
99	この原因は、この原因を送信した装置が、認識されない情報要素/パラメータが含まれるメッセージを受信したことを示します。これは、情報要素/パラメータが定義されていないか、または定義されているものの、この原因を送信した装置によって実装されないためです。この原因は、情報要素またはパラメータが破棄されたことを示します。ただし、原因を送信した装置でメッセージを処理するために、情報要素がメッセージに存在する必要はありません。
100	この原因は、この原因を送信した装置が情報要素を受け取り、実装したものの、その情報要素内の 1 つ以上のフィールドが、この原因を送信した装置で実装されない方法でコード化されていることを示します。
101	この原因は、このコールの状態との互換性がないメッセージを受信したことを示します。
102	この原因は、Q.931 エラー処理手順に関連付けられたタイマーの期限切れにより、手順が開始されたことを示します。
103	この原因は、この原因を送信した装置が、パラメータが定義されていないか、定義されているがこの原因を送信した装置で実装されていないため、認識されないパラメータを含むメッセージを受信したことを示します。
110	この原因は、この原因を送信した装置が、認識されないパラメータを含む着信メッセージを廃棄したことを示します。

表 183　ITU-T 標準に基づく原因コード（続き）

111	この原因は、プロトコル エラー クラスのその他の原因が適用されない場合にだけ、プロトコル エラーを報告するために使用されます。
127	この原因は、アクションの原因を提供しないインターネットワーキングがあったことを示します。送信されるメッセージの正確な原因は不明です。
128	この原因は、着信側ユーザが別のコールを受け入れることができないと示された場合に使用されます。
129	この原因は、この原因を送信した装置が、ビジーまたは非対応ではないため、コールを受け入れられるにもかかわらず、この原因を送信した装置が、このコールの受け入れを拒否していることを示します。
130	この原因は、番号は有効な形式であるが、現在割り当てられていないため、発信側ユーザが要求した宛先に到達できないことを示します。
131	この原因は、不明な理由によって、宛先にアクセスできないことを示します。
132	この原因は、一般的なエラーによって、宛先にアクセスできないことを示します。
133	この原因は、ゲートキーパーがコールを拒否したことを示します。
134	この原因は、ゲートキーパーが番号を検出できなかったことを示します。
135	この原因は、ゲートキーパーがコールをタイムアウトにしたことを示します。
136	この原因は、ゲートキーパーが非アクティブであることを示します。
255	シスコ固有。ITU-T 標準に含まれていません。
1000 番台	TC コードと TE コードのマッピングに使用されます。Cisco TMS はエンドポイントから送信された番号に 1000 を加えます。標準の原因コードの場合、これは上記の原因コードの番号に対応します。

アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco TelePresence Management Suite の Voluntary Product Accessibility Template（VPAT）は、以下で入手可能です。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence

アクセシビリティの詳細については、以下を参照してください。

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校（UCB）により、UNIX オペレーティング システムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト（www.cisco.com/go/offices）をご覧ください。

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/web/JP/trademark_statement.html でご確認いただけます。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)